

The Glossary of Prosthodontic Terms 4th ed.

# 歯科補綴学 専門用語集

第4版

2015

公益社団法人

日本補綴歯科学会 編

Japan  
Prosthodontic  
Society



医歯薬出版株式会社

This book was originally published in Japanese  
under the title of :

**SHIKAHOTETUGAKU SENMON- YUGOSYU**  
(The Glossary of Prosthodontic Terms)

Editor :

Japan Prosthodontic Society

© 2001 1st ed.

© 2015 4th ed.

**ISHIYAKU PUBLISHERS, INC.**

7-10, Honkomagome 1 chome, Bunkyo-ku,  
Tokyo 113-8612, Japan

## 歯科補綴学専門用語集

### 目次

「歯科補綴学専門用語集 第4版」の発刊に寄せて	— ii
第4版 序	— iv
「歯科補綴学専門用語集 第3版」の発刊に寄せて	— vi
第3版 序	— viii
歯科補綴学専門用語集の第2版の発刊に寄せて	— x
改訂版 序	— xii
歯科補綴学専門用語集の発刊に寄せて(初版)	— xiv
序(初版)	— xv
執筆者一覧	— xviii
凡例	— xx
歯科補綴学専門用語	— 1
同義語一覧	— 114
日本語索引	— 127
外国語索引	— 162
人名索引	— 176

## 「歯科補綴学専門用語集 第4版」の発刊に寄せて

歯科補綴学専門用語集は2001年に第1版が刊行され、その後2004年に第2版、2009年に第3版が発刊されました。それぞれの版の序文に述べられているように、歯科補綴学専門用語集の刊行は日本補綴歯科学会に置かれた歴代の用語検討委員会が中心となって進められてきました。今回の第4版の出版にあっても、これまでと同様に第3版の刊行後すぐに用語検討委員会において改訂に向けて準備が進められました。すなわち、2009-2010年期には佐々木啓一理事長・魚島勝美用語検討委員会委員長のもので、2011-2012年期には古谷野潔理事長・二川浩樹用語検討委員会委員長のもので改訂作業が進められ、さらに2013-2014年期には佐藤亨用語検討委員会委員長を中心に精力的に改訂作業が推し進められ、その強力なリーダーシップの下でついに改訂作業が完了し、6年ぶりようやく第4版の刊行を迎えることができました。まずは、佐藤委員長ならびに用語検討委員会の諸先生方に満腔の謝意を表したいと思います。

私が公益社団法人日本補綴歯科学会理事長を拝命するにあたりまして佐藤亨用語検討委員会委員長に依頼したことは、高齢者に対する歯科補綴に関する用語の充実を図ることおよび年々進む国際化に対応するため用語の英語表記をできるだけThe Glossary of Prosthodontic Terms Eighth Edition (GPT-8)と整合させることの2点でした。超高齢社会となった我が国では今後ますます高齢者や全身疾患をもつ者の増加が見込まれることから、この領域に関連した歯科補綴学用語を新たに加えるとともに英語表記は常にGPT-8に掲載されている用語とその定義を参考に修正を加えていただきました。

学術用語は、その学問分野の発展に欠かせないツールとなるものであり、専門用語集の果たす役割はきわめて大きいと言えます。さらに歯科領域における専門用語集は、我が国における歯学教育の根幹をなす歯科医学教授要綱、歯学教育モデル・コア・カリキュラムおよび歯科医師国家試験出題基準の3つで使用される学術用語のソースとなる役割も担っています。私も今期の用語検討委員会にはほぼ出席させていただき、その責任の重さを双肩に感じながら改訂作業を微力ながらお手伝いさせていただいたことを大変にうれしく思います。

用語はまさに生き物であり、時代の変化とともに使用される学術用語も変わっていくことが予想されます。したがって、専門用語集の編纂には終わりはありません。この第4版の発行の後も引き続き用語検討委員会において第5版

の作成に向けて活動を開始していただかなければなりません。会員諸氏におかれましては、本専門用語集をさらに利用価値の高いものにするために引き続きご意見を頂戴できれば幸いと存じます。

最後に、歯科補綴学専門用語集第4版の完成に向けてご尽力いただいた3代にわたる用語検討委員会諸氏にもう一度厚く感謝を申し上げて結びとさせていただきます。

2015年1月  
公益社団法人日本補綴歯科学会  
理事長 矢谷博文

## 第4版序

歯科補綴学専門用語集第3版1刷は2009年3月に発行、2013年2月には5刷が発行され、当該学術分野に不可欠な専門用語集として利用されてきました。

矢谷博文理事長の「出版に寄せて」にもありますとおり第3版1刷発刊後、魚島勝美委員長（2009-2010年度）、二川浩樹委員長（2011-2012年度）のもと改訂作業が進められ、2013年度に発足しました本委員会において第4版を発刊する運びとなりました。

今回の改訂作業の原則は第2版、第3版と同じですが、あわせて矢谷理事長からの「高齢者への歯科補綴学治療に関する用語の充実を図る」、「英語表記をできるだけ The Glossary of Prosthodontic Terms Eight Edition (GPT-8) に整合させる」というご指示のもと、第4版の改訂作業を行いました。

本委員会で実施した主な改訂編集作業は以下の通りです。

### 1) 第3版の照査

「解説用語は簡潔かつ的確に体言止めで表記」「歯科補綴専門医レベルまでの専門用語の解説」を基本原則として、用語とその解説の確認修正を行いました。併せて第3版における表現、関連用語との整合性等について再検討を行いました。

また英語表記をできるだけ The Glossary of Prosthodontic Terms Eight Edition (GPT-8) と整合させました。

### 2) 新規採用用語の追加

前委員会から引き継いだ新規採用用語案の確認と協議を行い、これらについて本学会代議員に対してパブリックコメントを求め、新規採用用語および解説文を作成しました。また、既記載用語との統一性、整合性を取るべく、既記載用語の見直しを行いました。

### 3) 同義語、索引の整理

同義語、索引に新規採用用語を含めるとともに、それらの確認、修正を行いました。

上記の作業は委員長・委員の交代を経つつ6年間の長きにわたり引き継がれて行われて参りました。歴代の委員長であります魚島勝美先生、二川浩樹先生と、そのもつて作業にあたられた委員の御努力に報いることができましたことを嬉しく存じますとともに、感謝申し上げます。また、精力的に編集作業に取り組んでくださいました本委員会の委員各位と、絶えず御指導いただきました矢谷博文理事長に深く御礼申し上げます。

また今回の改訂作業に際して、多くの会員の皆様の御協力を賜り、また、沢山の御意見・御指摘を頂戴しました。ここに、深甚なる感謝を申し上げます。

最後に発刊にあたり多大な便宜を図っていただいた医歯薬出版株式会社関係各位に厚く御礼申し上げます。

2015年1月

公益社団法人日本補綴歯科学会  
用語検討委員長 佐藤 亨 記

公益社団法人日本補綴歯科学会 用語検討委員会

2013年度～2014年度委員

委員長 佐藤 亨

副委員長 越野 寿

委員 萩原 芳幸

佐藤 利英

田上 直美

幹事 野本俊太郎

2011年度～2012年度委員

委員長 二川浩樹

副委員長 岡崎定司

委員 隅田由香

萩原芳幸

松山美和

幹事 玉本光弘

2009年度～2010年度委員

委員長 魚島勝美

副委員長 前田芳信

委員 小出 馨

塩山 司

谷口 尚

幹事 富塚 健

## 「歯科補綴学専門用語集 第3版」の発刊に寄せて

ここに、われわれの社団法人日本補綴歯科学会による標記書籍が上梓されました。先ずは、多大なご尽力をいただきました谷口 尚・用語検討委員会委員長をはじめとする委員会委員の諸先生へ感謝を申し上げます。

本学会における用語の整理は1980年代の半ばに開始されました。そして1997年4月、小林義典・会長、田中貴信・用語検討委員会委員長のもとで「歯科補綴学専門用語集」の発刊へ向けての作業が開始されました。当時の200名を超える評議員に対するアンケート調査を踏まえて、2001年2月に田中久敏・会長、田中貴信・委員長（2期連続担当）のもとで、医歯薬出版株式会社から「第1版」が発行されました。これは、数千語の中から歯科補綴学の専門用語として使用される719語を厳選し、専門学会として明確な解説を加えた140頁からなる書籍でした。その後、2003年2月に川添亮彬・会長、井上 宏・委員長のもとで、101語を収録した小冊子「歯科補綴学専門用語集一疾患・病名・検査編」が発行され、2004年10月に大山喬史・理事長、田中貴信・委員長のもとで、新しい用語を追加した944語とその解説文を収録した「第2版」が発行され、今日に至っております。

2001年の「第1版」の出版以来、「歯科補綴学専門用語集」は歯科医学教授要綱、歯科医師国家試験出題基準、歯学教育モデル・コア・カリキュラム：教育内容ガイドライン、共用試験CBT問題・同OSCE課題などで公的に使用されております。最近、医歯薬出版株式会社から相次いで5つの歯科専門学会から専門用語集が発刊されましたが、その意図、内容、体裁などの多くの点で、われわれの補綴歯科学会がその先鞭を付けたといえます。

「第1版」にも記載されている通り、言葉は生き物です。学術用語であっても時代とともに変化すべきものであり、たゆまぬ見直しが必要です。そこで、2007年4月に小生が理事長を拝命するにあたり、用語検討委員会に対して「第2版」の改訂への着手をお願いいたしました。そして2年間にわたるご苦勞をいただき、ここに「第3版」の発刊に至った次第です。

「第3版」では、インプラントならびに顎顔面補綴学関連用語などが新たに追加され、1,005語が収録され、その各々に解説が記載されております。「同義語として認める用語」も若干増えて121語となりました。また日本語および外国語索引数が3,400語を超えております。改めて歯科補綴学の奥の深さと補綴歯科治療の守備範囲の広さを痛感いたします。



本書の発刊と時をほぼ同じくして、「Journal of Prosthodontic Research」と「日本補綴歯科学会誌」が従来からの和文誌（補綴誌）と英文誌（Prosthodont Res Pract）に変わりました。両機関誌は学会の最新の学術的知識と技術についての情報を公開し、それらを共有する重要な役割を担うこととなります。これらの中で使用される用語を統一する意味で、本用語集は不可欠な資料の一つになるはずです。また、本書が歯科界のみばかりではなく、さらに広い諸分野で利用されることを期待します。

2009年2月  
社団法人日本補綴歯科学会  
理事長 平井敏博

## 第3版序

私たちの学会が発行してきた歯科補綴学専門用語集は、第1版および第2版とも、田中貴信・委員長のもとで、一貫した方針のもとにさまざまな修正がなされ、さらに充実したものとなっております。

専門用語は当該学術分野の進歩・発展を促すために必要な情報交換のツールとして不可欠であります。そのため、学術分野の専門用語集は当該分野ならびに関連分野の進歩・発展に追従して、可能な限り早期に見直し、修正がなされなくてはなりません。

今回、平井敏博・理事長から歯科補綴学関連の用語について、教育・診療・研究・国民生活を包含する観点から全体的に見直し、関連分野との整合性を踏まえて整理・統合・発展させるよう命じられました。特に、今期用語検討委員会においては、「歯科補綴学専門用語集 第3版」の発刊を軸に活動することとなり、第1版、第2版での経緯を十分反映させ、ここに第3版の発刊となりました。今回の改定で実施しました編集内容は以下の通りです。

### 1) 第1版、第2版の照査

必要に応じて第1版を含め、第2版における誤植、不適切な表現、関連用語との整合性、凡例との整合性などに関して再検討を行い、会員ならびに社員からの指摘、要請を踏まえ、可及的に用語の掲載順序および文言の修正、ならびに削除を行いました。

### 2) 新規用語の追加

記載用語は解説文付き用語と解説文のない同義語から構成されています。第2版では、解説文付き用語848語、同義語96語の計944語が記載されましたが、第3版では、解説文付き用語884語、同義語121語の計1005語を掲載しました。

同義語に関しては、今回の新規追加に伴い追加されたものと、会員の要請により使用が望ましくない用語から復帰させたものがあります。

### 3) 「補綴物」関連用語

第2版では、「補綴物」関連用語を解説文付き用語、「補綴装置」関連用語を同義語としましたが、第3版では、「補綴装置」関連用語を解説文付き用語、

「補綴物」関連用語を同義語としました。

#### 4) 索引の整理

- (1) 同義語に解説文付き用語番号を付与しました。
- (2) 付録番号をすべて反映させました。
- (3) 人名索引を別途設けました。

最近、学術分野の専門用語集が相次いで発刊されており、類似した体裁のもので、その内容は相違する点が散見されます。本用語集が、関連する他の学術分野の専門用語集の動向と協調しながら、機会あるごとに修正・充実され、歯科医学の進歩に多大な貢献をすることを願いつつ、委員一同、今回の改定作業に際して、ご指摘、ご意見、ご要請などさまざまなご協力いただきました会員の皆様に心から感謝申し上げます。また、発刊にあたり多大なる便宜を図っていただきました医歯薬出版株式会社関係各位に厚く御礼を申し上げます。

2009年2月

日本補綴歯科学会用語検討委員会（2007年度～2008年度委員）

委員長 谷口 尚

副委員長 尾関雅彦

委員 久保吉廣

永井栄一

依田正信

幹事 隅田由香

## 歯科補綴学専門用語集の第2版の発刊に寄せて

先ずは、『第2版 歯科補綴学専門用語集』の発刊に際して多大なご尽力を頂きました田中貴信用語検討委員会委員長はじめ委員の先生方に心よりお礼を申し上げます。

本用語集の編纂が企画されましたのはかなり前と伺っておりますが、具体的に始動したのは小林義典元日本補綴歯科学会会長時代で、その作業は次代田中久敏日本補綴歯科学会会長に引き継がれ、ようやく2001年「歯科補綴学専門用語集」として上梓されるに至りました。この背後には、その二代の会長に任せ、当該委員会委員長として率先励行の労を執られ、奮迅の努力をされた田中貴信先生の強いリーダーシップと委員会委員の努力があったことを忘れることはできません。それまでは、本来共用されているべき専門用語に同義語、同意語が多々あり、必ずしも共通の理解・了解が得られなく混沌としていた時期が続いていたと言えましょう。そのような状況の中で、田中貴信用語検討委員会が勇気と決断をもって初版本を発刊したところであります。この刻苦に補綴学会員として心より敬意を表するものであります。風聞ではあります、その初版本がきっかけで他の学会でも専門用語集の編纂に踏み切ったと伺いました。もしそうだとしたら、大変うれしい話です。

その後、川添堯彬前日本補綴歯科学会会長時代、井上 宏用語検討委員会により、見直し検討がなされてきました。最近では、こうして整理・精査された専門用語も日本補綴歯科学会機関誌、学術大会において、立派に共通語として市民権を得てきたように思います。

2003年、わたくしが日本補綴歯科学会会長を仰せつかるにあたり、再度田中貴信先生に用語検討委員会委員長をお願いし、改訂版としての第2版の発刊に向けて、井上 宏前委員会の検討事項を踏まえたところで、引き続き見直し検討をお願いしたところであります。そしてこの度、井上 宏前委員会、田中貴信現委員会の活発な委員会活動と粉骨砕身のご努力により、ここに改訂版としての第2版が出版される運びになりました。殊に、専門用語の統一の至難さもさることながら、時の流れとともに変遷を辿るのが常なるが故に難しい専門用語の統一・選択とその解釈付け、これには委員会の並々ならぬ刻苦勉勵の賜物と心より敬意を表したいと思います。歯科医学の主流でもある歯科補綴学会がいち早くこの編纂を手がけたこと、また生きた専門用語を厳選・網羅し、かつ平易に詳解がほどこされた歯科補綴学専門用語集を、ここに手に出来たことは

日本補綴歯科学会会員としてこのうえもない喜びであり，また誇りであります。長きに渡り，誠心誠意ご尽力頂いた用語検討委員会の委員長，委員の先生方に心より感謝申し上げます。

おわりに，この歯科補綴学専門用語集がたゆみなく見直し・検討がなされ，時に応じ日本補綴学会の研究結果も追補され，歯科界で活躍する関係者に広く日常的に活用されることを期待して止みません。

平成 16 年 9 月

日本補綴歯科学会  
会長 大山喬史

## 改訂版 序

初版の歯科補綴学専門用語集は平成13年2月に刊行されたが、日本補綴歯科学会会員はもちろん、多くの臨床家からも比較的高い評価を得てきた。また、専門用語に限定して専門学会として責任ある解説も加えられた実用性の高い用語集として、他の専門学会からも注目され、その中の幾つかの学会では、現在それぞれ本書に準じた用語集の編纂が企画されていると聞く。

しかし初版本では、編集時間の制約から、日本補綴歯科学会の保有する用語資料の一部の検討・掲載を断念せざるを得なかった経緯があり、また、前期中語委員会から内部資料として報告された、疾患・病名・検査・診察・経過観察などに関する用語の整理も必要であった。もちろん、多くの利用者から指摘された沢山の疑問箇所の蓄積もあった。

大山喬史会長から本用語集の再検討を命ぜられた今期の用語検討委員会においては、上記の懸案事項の処理を主眼とした編集作業を行った。その具体的内容は以下の通りである。

### 1) 初版本の照査

従来用語集に関して、単純ミス、不適切な表現、関連用語との整合性、などに関して全面的な再検討を行い、可及的に語句の修正を行った。また、会員から寄せられた各所の疑義に関しても十分な検討を行った結果、大幅な修正を行った用語は52語となった。

### 2) 追加

下記の資料について委員会で審議の結果、新規採用として126語を選択し、それらの解説文に関しては、委員自身で分担執筆した。

- (1) 歯科補綴学用語集資料(坂東永一委員長、平成9年発行)の「古語、新語、固有名詞等」の239語
- (2) 歯科補綴学専門用語集(井上 宏委員長、平成14年発行)、I疾患・病名・検査編の229語、II診察・検査・経過観察編の101語
- (3) 評議員のアンケートとして、追加希望;14名からの114語、修正希望;15名からの71語

### 3) 英語表記の確認

初版本の用語も含め、英語表記の全面的チェックを行ったが、これに関しては、当時海外に留学中の、沢山の若手会員の協力を仰いだ。

### 4) 索引の整理

従来 of 日本補綴歯科学会としての用語資料のすべてに関する検討が修了したため、本書に採用した以外の用語は、すべて索引から除去した。

本用語集が今後も機会あるごとに修正・充実され、歯科医学の進歩に多大な貢献をすることを願いつつ、委員一同、今回の編集作業に関してさまざまなご協力をいただいた関係者に、心から感謝申し上げます。

平成 16 年 9 月

日本補綴歯科学会用語検討委員会（平成 15 年度～平成 16 年度委員）

委員長 田中貴信  
副委員長 三浦宏之  
委員 清野和夫 豊田 實  
長岡英一 坂東永一  
幹事 金澤 毅

## 歯科補綴学専門用語集の発刊に寄せて（初版）

この度、日本補綴歯科学会は用語検討委員会を中心として、歯科補綴学ならびに関連用語について整理を行い、共通の土俵で補綴学を考えることのできる用語集を出版する運びとなりました。

数千語に及ぶ補綴学用語から厳選し、専門用語として用いられるものを明確に解説を加えた編集業務の影には、十数年に及ぶ用語検討委員会ならびに関係各位の幾多の労力が秘められております。

言葉は現実社会の鏡でもあり、文化、教養を高めるためのツールでもあります。同様に、補綴学の発展には用語の整合性が必須であり、それが達成された時に専門性が発揮されることになると信じます。補綴用語も新しい言葉が生まれるまでには多くの研究と医療の長い歴史があり、おいそれと整えることは至難の業です。特に訳語に至っては全能の指揮官の息のかかった用語を変更しようとしても、なかなかうまく変えることができず、一見あきらめムードさえ感じる場面もありました。また、用語の中には未消化どころか、噛み（いや失礼咬み）砕かれていないまま医療現場に浸透したものもあり、地球規模（Globalization）の学术交流の叫ばれる今日に至っても、感覚的に統一見解を得るのが難しいのが現状です。したがって、未だ多くの整合性の不十分な箇所も多くみられるものと推察されます。

今回、簡にして要を得た日本語をモットーに手際良く整理することができたのも偏に用語検討委員会委員長田中貴信教授のリーダーシップのもとで、委員会各位のご努力により達成されたものと敬意を表します。

今後の発展に向けて学会員諸氏の御批判と御指導を賜れば幸いと存じます。

最後になりますが、本学会員ならびに委員会諸氏の御援助と御努力に対し、厚く御礼申し上げます。

平成 13 年 2 月

日本補綴歯科学会  
会長 田中久敏



## 序 (初版)

日本補綴歯科学会において、歯科補綴学専門用語の検討は発会当初より随時試みられてきたであろうが、現在のような用語検討委員会が組織され、総合的な用語の整理が始まったのは、昭和59年の三谷春保委員長下の第一期用語検討委員会としての活動が端緒である。それ以降に限っても、本件に関しては実に長期間、幾多の先人の多大なエネルギーが注がれてきたことになる。

これらの委員会のご努力の結晶として選別された膨大な数の歯科補綴関係用語は、山下敦委員長により「中間報告」として、また、それを引き継いだ坂東永一委員長により「用語集資料」として、それぞれ会員に提示された。それらの経緯と我々を取り巻く昨今の社会環境を考慮して、本委員会は、今こそ専門学会としての責任の下に編纂され、実用性も備えた「専門用語集」が必要であると考え、新用語集としての具体的内容について検討してきた。この機会に、あるいは性急に、またあるいは強引に、我々なりに具体的な一つの形を提示して、今後はそれを骨子として本学会の用語集を順次充実させてゆくことが最良であろうと判断したものである。特に今回は、これまでのように単なる学会の内輪の資料に留めず、日本補綴歯科学会の公式見解として、広く世に公表することとした。幸い医歯薬出版様のご協力も得て、一般書籍として立派な体裁で刊行できたことは、委員一同にとっても望外の喜びである。

本書が末永く諸兄の座右に置かれ、日々ご活用戴けることを心から願うものである。

本用語集出版に関して、本用語検討委員会における編纂作業の大筋は以下の通りである。

### 1) 用語の整理

一般的に用語集の類はその語彙数を誇る傾向がある。あたかも、それがその専門分野のレベルの高さを表示するが如き評価をする者もある。しかし、たとえば我々が専門的な意味を有しない用語をどのように整理しようとも無意味である。また、用語は所詮符号であり、コミュニケーションの手段に過ぎない。国文学者でもない我々にとっては、用語そのものに意味があるのではなく、それをを用いて何を伝えるかが重要である。さらに、複雑怪奇な専門用語は学術活動にとってマイナスでこそあれ、その益するところは少ない。今我々に必要なものは、高度な学術情報を誤解なく伝達できる、簡便な専門用語である。

このような基本理念に基づいて、本委員会の最初の作業は、関係用語の分類に主眼を置いた。先ず、たとえ我々の臨床・研究現場で頻用される用語であっても、特別な解説を必要とせず、誰にでも正しく理解されるはずの用語は、一般用語として専門用語のリストから削除した。次に、解剖用語、保存・矯正用語などは、それぞれの専門学会の責任において管理されるべきものとして、歯科補綴専門用語からは除いた。さらに、多くの材料関係の用語もまた、歯科理工学会などの判断に委ねるべきであると判断した。

要するに、本用語集での掲載用語は、日本補綴歯科学会として責任を持てるもの、あるいは責任を負うべきものに限定した、と言うことである。結果として、本用語集には主項目として719語を採用したが、当学会にとっては現時点が未だ専門用語の整理期であることを考慮して、過去の本学会用語集に掲載された約3,000語の用語についても、そのすべてを索引欄に掲載した。

## 2) 同義語の整理

たとえば文学の世界では、微妙な季節の移ろいの様相などを多様に表現することが評価される。また、同じ表現の繰り返しは退屈であると批判される。しかし、自然科学の分野では、そのようなデリケートな表現はむしろ有害である。我々にとっては事象をただ端的にかつ正しく表現することが、必要かつ十分であると考ええる。

従来認められてきた歯科補綴用語の中には、10種に近い同義語を有するものも散見された。これは教える側、学ぶ側のいずれにとっても無駄でしかなく、学術大会の場においても混乱の原因となる。しかし、個々の用語にはそれぞれ大きく重い背景もあるため、それらの取捨選択は容易でないことは自明であり、過去の委員会においてもそこが作業上の大きな関門であった。

今回はこの積年の問題点を、評議員によるアンケート調査という方法で処理したが、今後若干の問題を残す可能性も否定できない。しかし、関係者によってそれが建設的かつ前向きに評価され、我々の意図を正しく理解していただけるなら、比較的多数の専門家の支持を得た用語が、それぞれ最も正当な用語として、時の経過とともに自然に定着するものと確信している。

なお、同義語のアンケート調査結果については、付録として改めて巻末にその一覧表を提示した。

## 3) 解説文の充実

専門用語を選択しても、それぞれの意味合いについて専門家同士の合意が得られていなければ、それをを用いた情報交換において誤解が生ずることになる。

また、この種の用語集を誰がどのような場合に利用するかを考えた場合、単に用語を羅列しただけのものでは、その実用性が極めて低いことも認めざるを得ない。そこで、本用語集においては、すべての用語に関して現在最も妥当と思われる定義、あるいはその臨床的意義などに関する解説文を付与した。英語表記に関しても、幾多の表現の中から、最も妥当と思われるものを選出した。これらはいずれも、特に学生や若い臨床家にとって有用なものとなろう。

なお、その意味合いに諸説があるものについては、解説文に項目番号を付けて併記した。

古くから言われるように、言葉は生き物であり、基本的に日々変化する可能性を含んでいる。すなわち、いかなる用語集も辞書・辞典も、まさに発行のその日から、内容の見直しを迫られる宿命を負うことになる。用語検討委員会の作業に終わりはない。とは申せ、当面この用語集の価値が広く認識され、今後の編集委員会などにおける用語規制に関する基盤となり、いずれはより公的な教授要綱や国家試験の出題基準に関する基本資料ともなることを願っている。

今回は時間の制約上、日本補綴歯科学会用語検討委員会報告書（歯科補綴学用語集資料：平成9年度発行）の中の、古語、新語、固有名詞の項は検討対象から割愛せざるをえなかった。これらについては、今後の委員会による継続的かつ詳細な検討に基づいて、順次整理されることを期待する。

最後に委員一同、これまで用語検討にご尽力された歴代の委員会各位のご努力に深甚なる敬意を払うとともに、今般本用語集の出版という事業を高く評価され、終始多大なご協力とご鞭撻を賜った小林義典前会長、田中久敏現会長を始めとする日本補綴歯科学会の理事各位、アンケート調査や原稿執筆にご協力いただいた評議員各位、および、多忙の中鋭意ご尽力いただいた医歯薬出版(株)の担当諸氏に、衷心より感謝申し上げる次第である。

平成 13 年 2 月

日本補綴歯科学会用語検討委員会 平成9年度～平成12年度委員（2期）

委員長 田中貴信

委員 甘利光治 木村幸平 小林喜平

清野和夫 寺田善博 平井敏博

細井紀雄 安田 登 山縣健佑

幹事 金澤 毅

【執筆者一覧】（五十音順：所属は執筆時）

赤川安正	（広島大学歯学部）	岸 正孝	（東京歯科大学）
熱田 充	（長崎大学歯学部）	木村幸平	（東北大学歯学部）
天野秀雄	（明海大学歯学部）	草刈 玄	（新潟大学歯学部）
甘利光治	（松本歯科大学）	久保吉廣	（徳島大学病院・歯科）
五十嵐順正	（松本歯科大学）	窪木拓男	（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）
五十嵐孝義	（日本大学歯学部）		
石上友彦	（日本大学歯学部）	河野正司	（新潟大学歯学部）
石橋寛二	（岩手医科大学歯学部）	越野 寿	（北海道医療大学歯学部）
市川哲雄	（徳島大学歯学部）	腰原 好	（東京歯科大学）
伊藤 裕	（愛知学院大学歯学部）	古谷野 潔	（九州大学歯学部）
井上 宏	（大阪歯科大学）	小林喜平	（日本大学松戸歯学部）
内田康也	（九州歯科大学）	小林義典	（日本歯科大学歯学部）
大川周治	（明海大学歯学部）	小正 裕	（大阪歯科大学）
大山喬史	（東京医科歯科大学歯学部）	小宮山彌太郎	（東京都）
		坂口邦彦	（北海道医療大学歯学部）
大畑 昇	（北海道大学歯学部）	櫻井 薫	（東京歯科大学）
尾関雅彦	（昭和大学歯学部）	佐藤隆志	（岡山大学歯学部）
小野高裕	（新潟大学大学院医歯学総合研究科）	佐藤 亮	（東京歯科大学）
		佐藤博信	（福岡歯科大学）
鹿沼晶夫	（東北大学歯学部）	佐藤裕二	（昭和大学歯学部）
金子一芳	（東京都）	芝 燁彦	（昭和大学歯学部）
川口豊造	（愛知学院大学歯学部）	清野和夫	（奥羽大学歯学部）
川崎貴生	（北海道大学歯学部）	田中久敏	（岩手医科大学歯学部）
川添堯彬	（大阪歯科大学）	田中貴信	（愛知学院大学歯学部）
河野文昭	（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）	谷口 尚	（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）
		津賀一弘	（広島大学大学院医歯薬保健学研究院）
川和忠治	（昭和大学歯学部）		

寺田善博	(九州大学歯学部)	保母須弥也	(東京都)
豊田 實	(神奈川歯科大学)	松村英雄	(日本大学歯学部)
永井栄一	(日本大学歯学部)	松元 誠	(東京医科歯科大学歯学部)
中尾勝彦	(広島県)	三浦宏之	(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)
長岡英一	(鹿児島大学歯学部)	村山 長	(広島大学大学院医歯薬保健学研究院)
長澤 亨	(朝日大学歯学部)	守川雅男	(九州歯科大学)
中野雅徳	(徳島大学歯学部)	森田修己	(日本歯科大学新潟歯学部)
野首孝祠	(大阪大学歯学部)	森戸光彦	(歯科医療情報推進機構)
長谷川成男	(東京医科歯科大学歯学部)	森谷良彦	(日本大学歯学部)
畑 好昭	(日本歯科大学新潟歯学部)	安田 登	(東京都)
服部正巳	(愛知学院大学歯学部)	矢谷博文	(大阪大学大学院歯学研究科)
羽生哲也	(福岡歯科大学)	山縣健佑	(昭和大学歯学部)
馬場一美	(昭和大学歯学部)	山下 敦	(岡山大学歯学部)
坂東永一	(徳島大学歯学部)	横塚繁雄	(日本歯科大学歯学部)
平井敏博	(北海道医療大学歯学部)	依田正信	(東北大学大学院歯学研究科)
福島俊士	(鶴見大学歯学部)	渡辺 誠	(東北大学歯学部)
藤井輝久	(朝日大学歯学部)		
藤井弘之	(長崎大学歯学部)		
藤田忠寛	(神奈川歯科大学)		
古屋良一	(昭和大学歯学部)		
細井紀雄	(鶴見大学歯学部)		
細川隆司	(九州歯科大学)		

## 【凡 例】

1. 専門用語には、五十音順に用語番号を付けて実用性を高めた。
2. 使用漢字は基本的に最も一般的に使用されている平易なものを採用した。  
すなわち、鑑⇒ろう，蝨⇒ろう，嚙む⇒かむ，齧蝕⇒う蝕  
ただし、【鑑】，【蝨】，【嚙】，【齧】に関しては、仮名書きにすると文中で判別しにくい場合に限って、漢字書きを認めるという意味で、ろう（鑑）付け、ろう（蝨）義歯、か（嚙）み切る、う（齧）蝕歯、のとき表示とした。
3. 初版において採用した略字【頸】，【弯】に関しては、会員の希望により、本来の表記に変更した。すなわち、歯頸部⇒歯頸部，弯曲⇒彎曲，とした。
4. 【定義】と【解説文】とは混在するが、今回は敢えてその区分の表示は割愛した。
5. 複数の意味合いを持つ用語、あるいは現時点で定義が確定していない用語に関しては、
  - 1)
  - 2)
  - ・
  - ・として、解説項目を併記する体裁をとった。
6. 解説は原則として体言止めとし、表現の簡明を図った。
7. 索引には頁に代えて用語番号を付けた。
8. 英語表記に関しては、他の表現を否定するものではないが、現在最も一般的と思われるものに限定して掲載した。  
基本的には、THE GLOSSARY OF PROSTHODONTIC TERMS : *J Prosthodont Dent*, **94 (1)** : 10-92, 2005. に準じた。その他に関しては、可及的に native speaker のチェックを受けた。
9. 専門用語に採用されていなくとも、解説文中で使用された歯科用語はすべて索引に掲載し、専門用語の用語番号を付与することで検索を容易とした。
10. 機器の部分の名称、各種の術式、形態や材料に基づく補綴装置の名称などは、関連用語として可及的に解説文中に記載し、索引に加え、用語番号を付記した。

11. 付録としての同義語一覧は、評議員を対象としたアンケート調査の結果を忠実に示した。結果として、関係する用語間の整合性に欠けるものも存在するが、これについては、引き続き、今後の検討課題とした。

例：線鉤， 鋳造鉤 ⇔ クラスプ

鋳造冠 ⇔ クラウン

ろう（蠟）義歯 ⇔ ワックスパターン

切歯指導釘・板 ⇔ アンテリアガイダンス

12. 【同義語】には、索引において、選定用語の用語番号もアンダーラインをつけて付記した。
13. 索引において、付録番号をすべての関連用語に付記した。





## あ

## 1 アーライン

## Ah-line

口蓋の可動部と不動部との境界線，“アー(Ah)”と発音すると，口蓋帆張筋に続き口蓋帆挙筋が収縮するために軟口蓋は挙上する．発音を中止すると，これらは元に戻るが，アーラインはこの運動時における可動部の最前方を示していることから，上顎の義歯床後縁を設定するための基準として利用される．

## 2 RPI クラスプ あーるぴーあーいー

## RPI clasp

近心レスト，隣接面板，Iバーの3部分から構成される支台装置．3者が互いに拮抗的に働き，支持・把持・維持機能を発揮する．遊離端義歯の垂直方向の動きに対する考え方の違いに基づいて提唱された，Kratochvil型とKrol型の2種類がある．

## 3 RPA クラスプ あーるぴーえーいー

## RPA clasp

RPI クラスプのIバーに代えて，エーカークラスプ型の鉤腕を組み合わせた支台装置．

支台歯付近のRPIクラスプにおけるIバーの走る粘膜部において，小帯の付着部が高い，あるいは顎堤粘膜のアンダーカット域の位置が高い場合に用いる．ニアゾーンでは，維持腕の上縁をサバイラインに一致させ，その下のアンダーカットはブロックアウトして，アームを支台歯に接触させない，これは床の回転，沈下に際して支台歯に力を伝達させないためである．

## 4 I. R. V. あいあーるぶい

closure of the interdental space  
(C. I. S.)

## Interdentalraumverschluss (独語)

テレスコープクラウンの一種類で鼓形空隙を閉塞した可撤性の装置．内冠と外冠で鼓形空隙をなくして，食物残渣の停滞を防いで清掃しやすい形状に設計された装置で，Gaerny (1969) より発表された．

## 5 アイヒナーの分類 いーぶるい

## Eichner classification

歯列の欠損形態の分類法の1つ．上下顎の咬合状態を重視して表示したもので，左右の小白歯部および大白歯部の4ブロックの咬合支持域に分けて，それぞれに安定した咬合関係が存在するか否かによって3型に分類したものの．

すなわち，4支持域すべてに咬合接触を有するもの〔A型〕，4支持域中の一部の支持域のみに咬合接触を有するもの〔B型〕，すべての支持域に咬合接触が無いもの〔C型〕で，いずれの型も類型を含む．Eichner (1955) により提唱された．

## 6 アクセホール

## access hole

インプラント (フィクスチャー) やアバットメントに補綴上部構造 (クラウン，ブリッジ，アタッチメント) がスクリューで固定される場合に，連結スクリューを挿入するために補綴上部構造に形成された穴．前歯部では審美性を考慮して舌側面に，また臼歯部では力学的観点から咬合面の中心窩に位置することが望ましい．

**7 アタッチメント****attachment**

可撤性義歯に使用される支台装置の1つ。メールとフィメールとから構成され、一方は支台歯に固着され、他方は義歯に組み込まれる。この両者が互いに嵌合することにより、維持・支持・把持力が発揮される。

歯冠内アタッチメント、歯冠外アタッチメント、根面アタッチメント、バーアタッチメントなどに分類される。

**8 アダムスクラスプ****Adams clasp**

1本のワイヤーを屈曲して製作するアローヘッドクラスプを改良した頬側隣接面のアンダーカットを利用するクラスプ。Adams (1950) により考案された。頬側の近心と遠心の隣接面歯頸部のアンダーカット部に入る半円形状の屈曲部、近心と遠心で垂直に立ち上がった縦走部、咬合面部で水平に屈曲した隣接面(鼓形空隙)横断部、これに続く口蓋側の鉤脚部、近心と遠心の頬側半円形状屈曲部を連絡する頬側横走部により構成。頬側や舌側にアンダーカットのない歯に有効で、小児のスピーチエイドの支台装置として有用である。

**9 圧印金冠 あついでんきんかん****metal crown with swaged cusp**

(同義語) モリソクラウン

帯環金属冠の一種で、咬合面は22Kの金板をメロットメタルなどの易溶合金製の模型(陰陽型)の間に挟み、プレス(圧印)して作り、帯環とろう(鑲)付けして完成させたクラウン。

咬合面を圧印して作るので薄くなり、咬耗により破損、穿孔しやすいため、帯環は22Kの金板を用いて作り、咬合面は

24Kの金板を圧印し、内面に金ろう(鑲)を流して充実させた嚙面充実金冠(ピースクラウン)や咬合面を鑄造し、帯環とろう(鑲)付けした嚙面鑄造冠が考案された。鑄造冠の登場でいずれも過去のものとなった。

**10 圧印床 あついでんしょう****swaged plate**

金属板を陽型上で槌打、または陰型との間でプレスにより圧接成形された義歯床。金合金、ステンレス鋼合金、チタン合金などの金属が用いられる。

**11 圧負担能力 あついでんたんのうりよく****stress-bearing ability**

- 1) 機能時に受ける力や緊張、圧力に抵抗する力。
- 2) 支台歯や粘膜における咬合圧負担域での、義歯を支持する力。

**12 後ろろ(鑲)付け法 あとーぶーほう****post ceramic soldering method**

陶材焼付冠の固定性連結部の製作法の1つで、陶材を金属冠に焼き付けた後に行うろう(鑲)付け。

**13 アバットメント****abutment**

インプラント体に連結するコンポーネント。上部構造のための支台となる部分。

**14 アバットメントアナログ****abutment analogue (analog)**

→「インプラントアナログ」参照

**15 アバットメントスクリュー****abutment screw**

インプラント体とアバットメントを直接連結するためのネジ。

**16 アブフラクション****abfraction**

歯に加わった外力により、外力が作用した部位から離れた部位に生ずるエナメ

ル質や象牙質の欠損, Grippo (1991) によるラテン語の ab (=away) と fractio (=breaking) からの造語である。

**17 アベックス [ゴシックアーチの apex [of gothic arch tracing]**

ゴシックアーチの頂点. 左右の側方下顎限界運動路が交わる点。

**18 アメリカ式埋没法** — しきまいぼつほう

**American flasking technique**

人工歯, 支台装置, 連結子の全てをフラスク上部に固定するろう (蠟) 義歯のフラスク埋没法, レジン填入は容易であるが, 支台歯部の石膏を歯頸部で切断することから, 義歯床粘膜面に対して支台装置や連結子などが浮き上る危険があることが欠点とされる。

**19 アメリカ・フランス併用式埋没法** — へいようしきまいぼつほう

**American-French flasking technique**

人工歯をフラスク上部に, 支台装置や連結子は下部に固定するろう (蠟) 義歯のフラスク埋没法. レジン填入が容易で, 支台装置や連結子の義歯床粘膜面に対する浮き上りの危険もない. 人工歯の浮き上りには重合後の削合で対応可能であるとし, 現在最も一般的なフラスク埋没法である。

**20 アルコン型咬合器** — がたこうごうき  
**arcon articulator**

上弓に顎路指導部をもち, 下弓に顎頭球 (コンダイル) を備えた構造の咬合器. アルコンは articulator と condyle を縮めた造語。

**21 アルジネート印象** — いんししょう  
**alginate impression, irreversible**

**hydrocolloid impression**

アルギン酸ナトリウムあるいはカリウムを主成分とする不可逆性ハイドロコロイド印象材による印象. 粉末には水を, ペーストには石膏を加えて練和すると, 流動性のあるゾルから弾性をもつゲルに変化する。

**22 アルミナスポーセレン**  
**aluminous porcelain**

酸化アルミニウム (アルミナ) の微細粒子をガラスで結合させた, あるいはガラス中に分散させた複合組成の陶材. アルミナの添加量が増すにつれて曲げ強さは増大するが, 例えば 50% 添加で長石-石英系陶材の 2 倍以上の強度となる。

**23 アルミナスポーセレンジャケットクラウン**  
**aluminous porcelain jacket crown**

長石-石英系陶材に 40~60% の酸化アルミニウム (アルミナ) を含有させたコア陶材の上に歯冠色陶材を築盛・焼成したジャケットクラウン. アルミナス陶材は長石-石英系陶材に比べ強度が 1.5~2 倍で, 急激な温度変化にも強い. デンティン用陶材には 10~15% の酸化アルミニウムが添加されているが, 透明度が減少するため, エナメル用陶材中には結晶度の小さい酸化アルミニウムが少量だけ (5%) 添加されている。

**24 鞍状型ポンティック** あんじょうがた  
**saddle type pontic**

基底面が鞍状に顎堤を覆っている形態のポンティック. その中で, 特に欠損部顎堤の吸収が著しい場合に適用され, 人工歯の基底面に床をつけた形態のものを, 有床型ポンティックと呼ぶ. 可撤性のポンティックにすることが多い。

**25 安静空隙** あんせいくうげき  
**interocclusal rest space (free way space)**

下顎安静位における上下顎の歯列間距離。その値は正常者において前歯部で2~3mmである。咬合高径決定の目安になる。

**26 アンダーカット**  
**undercut**

1) 義歯の着脱方向に対して、歯や顎堤などの最大豊隆部よりも下方の陥凹した部分。模型の歯や顎堤に描記されたサバイラインに囲まれた領域をアンダーカット域 (undercut area, infrabulge area), その他の領域を非アンダーカット域 (non-undercut area, suprabulge area) という。  
 2) 歯冠補綴装置の適合性を悪化させる支台歯軸面の陥凹。

**27 アンダーカットゲージ**  
**undercut gauge**

サバイヤーの付属品の1つで、水平的なアンダーカット量を計測するジグ。通常、0.25mm, 0.50mm, 0.75mmの3種が用いられる。

**28 アンテの法則** —ほうそく  
**Ante's Law**

固定性ブリッジにおいて、支台歯の歯根表面積の総和は補綴される欠損歯のそれと同等以上でなければならないとする概念。Ante (1926) により提唱された。

**29 アンテリアガイダンス**  
**anterior guidance**

〔同義語〕 前方誘導 (指導)

下顎滑走運動時における歯の指導要素。後方の顎関節による指導要素 (ポステリアガイダンス) に対する前方指導要素の意。

**30 アンテリアーハイパーファンクシオンシンドローム** → 「コンビネーションシンドローム」 参照

**31 アンテリアリファレンスポインター**  
**anterior reference pointer**

フェイスボウトランスファーの際に、その先端を前方基準点 (アンテリアリファレンスポイント) に一致させるためのフェイスボウの一部品。

→ 「フェイスボウ」, 「前方基準点」 参照

**32 電法** あんぼう

**compress, cold pack, hot pack**

身体の一部を布などでおおって寒冷あるいは温熱刺激を与える治療法。冷電法と温電法がある。冷電法は、寒冷刺激により皮膚温の低下、血管収縮により消炎、鎮痛効果をもたらすため種々の急性炎症とくに打撲などの初期の外傷性炎症に適応がある。温電法は、患部を温め血管を拡張させ、循環改善により亜急性あるいは慢性病変による疼痛の軽減を意図する。筋緊張弛緩による効果も期待される。

い

**33 移行義歯** いこうぎし  
**transitional denture**

比較的早期に、抜歯とそれに伴う義歯の修理や新製が予測された場合、その間の機能と形態とを確保するために使用される義歯。旧義歯に増歯などの改修を施して使用することもある。

**34 維持** いじ  
**retention**

〔同義語〕 保持

補綴装置に加わる離脱力に抵抗する作用。

**35 維持格子** いじこうし

**retentive latticework**

小連結子の一種で大連結子と義歯床を連結する装置。フレームワークの義歯床に入る部分が格子状に製作されることがあることから維持格子と呼ばれているが、実際の臨床ではスケルトン型、メッシュ型など種々の形態がある。

**36 維持歯** → 「支台歯」参照

**37 維持装置** → 「支台装置」参照

**38 異常習癖** いじょうしゅうへき

**parafunctional habits**

習慣性の非機能的動作。顎口腔領域にみられる異常習癖には、ブラキシズム(クレンチング、グライインディング、タッピング)、異常嚥下、咬唇、咬舌、弄指、弄舌、吸引などがある。

**39 維持力** いじりよく

**retentive force**

補綴装置に加わる離脱力に抵抗し、それを装着された位置に保つ力。すなわち、装着された補綴装置を離脱させるのに必要な力。歯冠補綴装置の場合には保持力ともいう。

**40 維持腕** いじわん

**retentive arm**

部分床義歯を維持する目的で設計された鉤腕。通常、鉤尖がその役割を果たす。  
→ 「拮抗腕」参照

**41 一次固定** いちじこてい

**primary splinting**

連結した固定性補綴装置の装着により、支台歯相互の連結固定効果を発現させる方法。

**42 一塊鑄造法** → 「ワンピースキャスト法」参照

**43 インサイザルピン** → 「切歯指導板」参照

**44 インサイザルテーブル** → 「切歯指導板」参照

**45 印象** いんしょう

**impression**

歯、顎堤、顔面などの形態を再現するために採得された対象物の陰型。

**46 印象圧** いんしょうあつ

**impression pressure**

印象採得を行うときに対象に加わる圧力。その大小により積極的に圧を加える加圧印象と可及的に圧を加えない無圧印象とに分類される。

**47 印象域** いんしょういき

**impression area**

印象に記録すべき範囲。

**48 印象採得** いんしょうさいとく

**impression taking**

歯、顎堤、顔面などの形態を再現するためにその陰型を製作する一連の操作。

**49 印象用コーピング** いんしょうよう

—

**impression coping**

口腔内のインプラント体の位置を印象採得し、作業用模型に転記する目的で用いられるコンポーネント。オープントレー法とクローズドトレー法のそれぞれに対応するコーピングが用意されている。

**50 印象用トレー** いんしょうよう—

**impression tray**

印象材を選び、保持するための器具。通常、柄部、体部、辺縁部からなる。材質には金属やプラスチックなどがあり、既製トレーと自家製トレーとがある。

**51 インターオクルーザルレコード**

**interocclusal record**

上下顎歯列または顎堤間の相互的位置関係の記録。

**52 インターナルコネクション**

**internal connection**

顎骨内のインプラント（フィクスチャー）とアバットメントや補綴上部構造（クラウン、ブリッジ、アタッチメント）との連結部分において、インプラントが凹に、支台装置や補綴上部構造が凸になっている連結様式。これとは逆に、インプラントが凸に、支台装置や補綴上部構造が凹になっている連結様式を、エクスターナルコネクションという。

**53 インフラバルジクラスプ**→「歯肉型クラスプ」参照

**54 インプラント**

**implant**

生体の欠損部を補填するために、生体材料あるいは非生体材料を移植または栽植する形成術、またはそれらの移植体、栽植物の総称。主要なもの1つに口腔インプラント（dental implant）がある。

**55 インプラントアナログ**

**implant analogue (analogue)**

〔同義語〕インプラントレプリカ

口腔内のインプラントやアバットメントの複製。一般にステンレスなどの金属でできており、インプラントの補綴上部構造を作製するための作業用模型を作る際に必要となる。

**56 インプラント義歯** — ぎし

**implant prosthesis**

義歯床負担域の軟組織の下、すなわち顎骨表面あるいはその内部に設置された人工的構造物から支持・把持・維持力を得る義歯。インプラント上部構造と支台部との連結方法には、固定式、患者可撤式、術者可撤式の3種類がある。

**57 インプラント周囲炎** — しゅういえん

**peri-implantitis**

インプラント周囲組織（骨、歯肉）に生じた炎症。過重負荷に加えて、歯周病菌など弱毒性口腔常在菌による感染が原因となることが多く、進行するとインプラント（フィクスチャー）と周囲骨組織との骨結合が喪失して、インプラントの脱落に及ぶ。とくに、炎症病変がインプラント周囲の歯肉粘膜に局限しているものを、インプラント周囲粘膜炎（peri-implant mucositis）という。

**58 インプラント体** — たい

**implant body**

オッセオインテグレートッドインプラントにおいて顎骨内に埋入され、骨組織と結合を図る部分。スクリュータイプとシリンダータイプの一部の製品に用いられている用語であり、下部構造の総称ではない。

**59 インプラント体支持** — たいしじ

**Implant-supported**

〔同義語〕顎骨支持

機能時にインプラント上部構造に加わる力をインプラント体周囲骨で負担するという概念。

**60 インプラント体・粘膜支持** — たい・ねんまくしじ

**Implant and tissue-supported, Implant-assisted and tissue-supported**

〔同義語〕顎骨・粘膜支持

機能時に補綴装置（オーバーデンチャー）に加わる力をインプラント体周囲骨と粘膜の両者に負担させる概念。インプラントオーバーデンチャーにおける負担様式。

61 インプラントレプリカ→「インプラントアナログ」参照

## う

62 ウィルソンの彎曲 — わんきょく  
curve of Wilson

〔同義語〕側方咬合彎曲，側方歯牙彎曲，側方歯列彎曲，lateral occlusal curve

天然歯列を前頭面に投影したときに観察できる咬合平面の側方的な彎曲。上顎白歯の歯軸が頰側に傾斜し，下顎白歯の歯軸が舌側に傾斜しているため，咬合平面に対して，上顎白歯の舌側咬頭は頰側咬頭より低位に，下顎白歯の舌側咬頭は頰側咬頭より低位になる。この結果，咬合平面は下方に凸な彎曲を描く。

63 ウォッシュインプレッションテクニック  
wash impression technique

- 1) 有床義歯の印象採得において，微圧のもとで印象材をゆきわたらせ，印象圧による顎堤粘膜の変形をできるだけ小さく，細部の精密な形態を再現する方法。
- 2) クラウンブリッジ支台歯の連合印象採得において，概形印象内面に流れの良い印象材を盛り上げて細部の精密な形態を再現する方法。

→「連合印象」参照

64 運動論的顎頭点 うんどうろんてきかとうてん  
kinematic condylar point

側方運動を含むあらゆる顎運動を行ったとき，下顎頭の運動路が最も収斂する点。下顎運動に対しては両側の下顎頭の中央部付近に求まり，相補下顎運動に対しては相補運動論的顎頭点 (complementary kinematic condylar point) が両側の関

節結節の中央付近に求まる。

## え

65 永久固定 えいきゅうこてい  
permanent splinting

動揺歯をインレーやクラウンなどで恒久的に連結，固定することにより，各種機能時に加わる圧を複数歯に分散し，その安定を図ることを目的とした処置。固着式固定法と可撤式固定法とがある。

66 エーカースクラスプ  
Akers clasp

レスト付き二腕鉤に相当する鑄造鉤。欠損側に設置された咬合面レストと2本の鉤腕からなり，強固な支持・把持・維持が確保できる。Akers (1925) により考案された代表的な環状鉤。

67 S字状隆起 えすじじょうりゅうき  
S-curve

上顎義歯の歯肉形成時に前歯部口蓋側に付与される，矢状断面形態がS字状の隆起。呼気流を整え構音機能の回復などを目的とする。

68 エステティックライン  
esthetic line

側貌の審美的基準となる鼻尖とオトガイを結んだ線。鼻，口唇，オトガイのバランスを示し，バランスの良い側貌は，この線に近接した下唇の後方に上唇が位置し，口唇がこの線より突出すると審美不良になるといわれているが，その位置関係には人種差がみられる。義歯患者では人工歯の切縁部の前後の位置に影響され，義歯によるリップサポート回復程度の評価に用いることができる。

69 S発音位 えすはつおんい  
“s” position

[s] 音を発音するときの顎位。[s] 発音時には下顎が前下方に移動し、下顎中切歯切縁が上顎中切歯切縁の 1~2mm 内側に位置する。発音中に上下顎の歯が互いに最も接近する顎位（最小発音空隙；closest speaking space）として、前歯部人工歯の位置の決定や排列後の位置の判定に利用される。

**70 SPA 要素** えすぴーえーようそ

**SPA factor**

前歯部の人工歯を選択するとき、審美的な観点から参考にすべきとされる3つの要素。SPA は、患者の性別 (sex)、性格 (personality)、年齢 (age) の頭文字を表す。Frush と Fisher (1956) によって提唱された。

**71 エピテーゼ**

**facial prosthesis**

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で生じた顔表面を含む実質欠損を非観血的に、あるいは手術との併用により補填修復し、その形態的・審美的改善とともに、発語などの失われた機能の回復を図るために用いる人工物。独語 Epithese に由来。

**72 FGP テクニック** えふじーピーー

**functionally generated path technique (FGP technique)**

〔同義語〕 機能的運動路法

下顎の機能運動に調和した咬合面形態を備えた補綴装置を製作するため、対合歯の機能運動経路を口腔内で直接ワックスに印記させたものに石膏を注入した機能的模型と、解剖学的な対合歯模型の2種類によってワックスアップを行う術式。

**73 エマーゼンスプロファイル**

**emergence profile**

天然歯、歯冠補綴装置、インプラントのアバットメントおよび上部構造物の歯肉溝内から歯冠部歯頸部側 1/3 付近までのカントゥアや立ち上がり角度などの形態。

**74 MMA 系レジンセメント** えむえむえーけいー

**MMA-based luting agent**

メチルメタクリレート (MMA) のモノマーを液剤の主成分、ポリマーを粉末の主成分とする装着材料。成分中に接着機能性モノマーを含む。

**75 MPD 症候群** えむぴーでいしょうこうぐん

**myofascial pain dysfunction syndrome (MPD syndrome)**

咀嚼筋の機能異常により引き起こされる、顎関節、咀嚼筋および関連組織の疼痛や機能障害を主症状とする症候群。顎関節症の1つの病態。

**76 L\*a\*b\*表色系** えるすたーえーすたーびーすたーひょうしょくけい

**Commission Internationale de l'Eclairage 1976 (L\*, a\*, b\*) color space (CIELAB)**

国際照明委員会 (Commission Internationale de l' Eclairage, 略称 CIE) が 1976 年に推奨した 3次元の近似的な均等色空間。CIE では、これらを CIE (1976) L\* a\* b\* 色空間と呼ぶ。

**77 エルブレヒトクラスプ**

**Elbrecht clasp**

〔同義語〕 T 字クラスプ

欠損の反対側隣接面から鉤体が発し、頬・舌側面を鉤腕が走行して欠損側隣接面に鉤尖が終わり、レストは鉤体から咬合面の中央溝を通って欠損側に向かい、そのまま鉤脚となる形態の環状鉤。



Elbrecht (1961) により考案された。

**78 嚥下位** えんげい

**swallowing position**

嚥下動作の第 1 相における顎位。通常、正常有歯顎者では嚥下時に咬頭嵌合位付近で咬合接触する。このことから無歯顎者の垂直的、水平的顎位の設定に利用される。

**79 嚥下障害** えんげしょうがい

**swallowing disorder, dysphagia**

摂食・嚥下障害とほぼ同義。口腔期以降の障害を示すこともある。多くは反射性嚥下障害をいう。口腔期、咽頭期、食道期における器質障害によるものと、嚥下に関わる末梢神経（舌咽神経、迷走神経、三叉神経、顔面神経）および中枢神経（延髄、網様体、大脳皮質）の障害によるものがある。

→「摂食・嚥下障害」参照

**80 嚥下造影検査** えんげぞうえいけんさ

**videofluorography (VF)**

摂食・嚥下障害の診断のため、嚥下造影剤とエックス線透視装置を用いて、口腔、咽頭、食道内での食塊の動きを観察することによって嚥下機能を評価する検査。嚥下運動は一連の早い動きなので、ビデオに記録して評価され、現在、誤嚥の有無の検査法として最も有効な方法であるが、誤嚥と窒息の危険性に注意が必要である。

**81 嚥下透視検査** → 「嚥下造影検査」参照

**82 嚥下内視鏡検査** えんげないしきょうけんさ

**VE, videoendoscopic evaluation of swallowing, videoendoscopic examination of swallowing**

摂食・嚥下障害を診断するため、鼻咽腔内視鏡を用いて行う検査法。目的は形態異常、誤嚥、喉頭侵入、咽頭残留などを動的画像で診断することである。本検査法の利点はシステムが安価で小さく、患者への被曝もないことからベッドサイドで可能であることである。しかし、欠点として咀嚼時の評価ができない、嚥下の瞬間が確認できないという問題がある。

**83 嚥下法** えんげほう

**swallowing method [of vertical relation]**

無歯顎患者あるいは残存歯による咬合支持の欠如した患者や咬頭嵌合位が顎頭安定位と一致していない患者などに対して、嚥下位を利用して顎間関係を決定する咬合採得法の 1 つ。垂直的ならびに水平的顎間関係の決定に応用されるが、前者においては、低位咬合になりやすいため、軽く嚥下させるのが良いとされる。

**84 嚥下補助装置** えんげほじょうち

**prosthetic appliance for swallowing disorder**

先天的あるいは後天的な形態や機能の異常による嚥下障害に対する治療目的で使用される補綴装置。

→「バルブ型鼻咽腔補綴装置」「舌接触補助床」参照

**85 延長ブリッジ** えんちょうー

**cantilever (extention) fixed partial denture, cantilever (extention) bridge**

〔同義語〕遊離端ブリッジ

ポンティックの近遠心側の 1 側のみに支台装置をもつブリッジ。片持ち梁構造のため、ポンティックに加わる咬合力に対する支台歯の負担は通常の両端支持の

ブリッジより大きくなる。

**86 延長腕鉤** えんちょうわんこう

**extended arm clasp**

二腕鉤の類・舌側鉤腕を支台歯の隣接歯まで延長したクラスプ。支台歯に有効なアンダーカット域が存在しない場合や側方力を2歯に分散する目的などで適用されるが、実際の臨床での使用頻度は低い。

**87 円板整位** えんばんせいゐ

**disc repositioning**

前方転位などのように、偏位していた関節円板が、スプリント療法や外科的処置によって正常な位置に戻された状態。

**88 円板転位** えんばんてんゐ

**disc derangement**

関節円板が下顎頭、下顎窩、あるいは関節結節に対して異常な位置関係にある状態。

**89 円板復位** えんばんふゐ

**disc reduction**

前方転位などのように、位置が正常でない関節円板が、開口時に正常な位置に戻ること。

## お

**90 OSAS 治療用口腔内装置** おーさす

ちりょうようこうくうないそうち

**mandibular advancement splint**

主に軽度あるいはCPAP使用が困難な場合のOSASに用いる歯科の治療器具。オーラルアプライアンスの1つに分類される。睡眠時に着用して、下顎を前進させた状態を固定することにより、上気道の閉塞を防ぐ。

→「睡眠時無呼吸症候群(SAS)」、「経鼻の持続陽圧呼吸療法(CPAP療法)」参

照

**91 オーバージェット**

**horizontal overlap, overjet**

〔同義語〕水平被蓋

咬頭嵌合位で上顎前歯の切縁と上顎白歯の類側咬頭が下顎歯に対して水平的に被蓋している関係。通常は上顎中切歯切縁から下顎中切歯唇面までの水平的距離で表し、上顎が前方に位置する場合をプラス(+), 反対のものをマイナス(-)と表示する。

**92 オーバーデンチャー**

**overdenture, overlay prosthesis**

〔同義語〕残根上義歯

歯根あるいはインプラントを被覆する形態の可撤性義歯。

口蓋裂症例などの低位歯、開咬、鋏状咬合などでは、稀に天然歯冠をそのまま被覆することもあるが、通常は少数残存歯症例などでは、歯冠部を切除した根面に、根面板、根面アタッチメント、磁性アタッチメントなどを適用した後に本形態の義歯を設計する。後者の場合、負担能力に劣る残存歯の歯冠歯根比の改善、抜歯による顎堤吸収の防止、歯根膜感覚の活用などを期待した補綴装置である。

**93 オーバーバイト**

**overbite, vertical overlap**

〔同義語〕垂直被蓋

咬頭嵌合位で上顎前歯の切縁と上顎白歯の類側咬頭が下顎歯に対して垂直的に被蓋している関係。通常は上顎中切歯切縁と下顎中切歯切縁との垂直的距離で表し、上顎の切縁が下方に位置する場合をプラス(+), 反対のものをマイナス(-)と表示する。

**94 オーラルディスクネジア**

**oral dyskinesia**

支配神経あるいは筋肉の障害により下顎、舌、口唇などに出現する反射性、情動性の不随意運動。咬合異常や口腔内の疼痛、違和感などの末梢入力 of 異常が誘因や増悪因子となることがある。

## 95 オーラルリハビリテーション

### oral rehabilitation

〔同義語〕咬合再構成, occlusal reconstruction

1) ナソロジー学派が提唱した一連の臨床術式の総称であり、蝶番軸に基づいて咬合位を定め、臼歯離開咬合か犬歯誘導咬合を追及する治療法。

2) 比較的多数歯の関与する咬合異常に基づいた顎口腔系の障害に対して、歯列全体に固定性補綴装置を適用することで咬合を再構築し、顎口腔系の形態・機能・審美性の回復を図る方法。

## 96 Oリングアタッチメント おー

### O-ring attachment

ゴム製で断面が円形のOリングをフィメールとし、このフィメールを受け入れるように形成された半円形の頸部を有するスナップ状のメールを組み合わせた根面アタッチメント。オーバーデンチャーの支台装置として応用される。ゴムリングが劣化するため、頻繁に交換する必要がある。

## 97 オールセラミッククラウン

### all ceramic crown

高強度のファインセラミックス単体あるいはフレームとレイヤリングセラミックスで前装された全部被覆冠。シリカ系、ジルコニア系あるいはアルミナ系セラミックスをCAD/CAM技法、プレス成型、築盛法あるいは削り加工で加工する。

## 98 オールセラミックブリッジ

### all ceramic fixed partial denture

高強度のファインセラミックス単体あるいはフレームとレイヤリングセラミックスで前装されたブリッジ。シリカ系、ジルコニア系あるいはアルミナ系セラミックスをCAD/CAM技法、プレス成型あるいは築盛法で加工する。

## 99 オクルーザルスプリント

### occlusal splint

〔同義語〕バイトスプリント, bite splint

暫間的に歯列の咬合面を被覆し、咬合の改善や診断に用いられる可撤性の口腔内装置。スタビライゼーションスプリント (stabilization splint), リラクゼーションスプリント (relaxation splint), リポジショニングスプリント (repositioning splint) などがある。

## 100 オクルーザルランプ

### occlusal ramp

〔同義語〕パラタルランプ, palatal ramp

外科処置などにより下顎偏位が生じた場合、咬頭嵌合位を保持するために上顎義歯や口蓋板に付与された咬合面の機能を担うテーブル様の構造物。通常、人工歯や残存歯の口蓋側に付与されるのでパラタルランプ (palatal ramp) ともいう。

## 101 オッセオインテグレーション

### osseointegration

骨組織とインプラント体との界面に炎症所見が認められず、かつ、骨のリモデリングを妨げずに良好な接触関係が維持される状態。骨組織とインプラント界面の光学顕微鏡像において、界面に軟組織が介在せず、直接接触していることが必要条件とされる。

## 102 オッセオインテグレートッドインプラント

### osseointegrated implant

〔同義語〕骨結合型インプラント

インプラントの1つで、その下部構造が骨組織に密着した結合状態を呈し、インプラント体に加わった力を直接骨に伝達する様式のもの。

**103 オッセオインテグレートドブリッジ** → 「ボンアンカードブリッジ」

参照

**104 オトガイ唇溝** — しんこう  
**mentolabial sulcus**

下唇とオトガイ部との境界の皮膚を横走る弓形の浅い溝。老人様顔貌の評価、咬合高径の評価、下顎義歯の前歯部人工歯排列位置、義歯床翼の豊隆などの指標となる。

**105 オベイト型ポンティック** — がた  
—  
**ovate pontic**

外科的な補綴前処置により形成した顎堤粘膜の凹みに球面状の基底面が入り込み接触する形態のポンティック。審美性を重視した形態であるが、ブリッジ装着までの期間プロビジョナルブリッジで凹みを圧迫して維持しておく必要があり、基底面の清掃にも注意が必要など生体親和性の点で問題も残されている。

**106 オルタードキャスト法** — ほう  
**altered cast technique**

義歯の機能時における床と粘膜との適合を図るため、解剖学的印象により製作した模型の欠損部のみを機能印象による模型に置き換える方法。

**107 オルトンクラウン**  
**Orton crown**

歯型の全周に適合させた純金製のマトリックスの歯頸部に、22K金板で幅の狭い帯環をろう（鐳）付けし、歯冠形態をワックスアップ後、鑄造して製作する全部被覆冠。金属の鑄造収縮をマトリック

ス箔使用により防ぐために考案された。ガス抜きがうまくないと鑄造が困難であり、鑄造冠の登場で過去のものとなった。

## か

**108 加圧印象** かあついんしょう  
**pressure impression**

有床義歯の機能時の状態を想定し、顎堤粘膜を加圧下で採得する印象。咬合圧印象、ダイナミック印象などがある。

**109 外冠** がいかん  
**outer cap, outer crown**

テレスコープクラウンの一部であり、可撤性補綴装置に設置される金属冠。内冠との接触面に生じる摩擦力あるいはくさび効果は可撤性義歯の維持力として効果的に働く。また、外冠によって歯冠外形を再現する。

**110 概形印象** がいけいんしょう  
**preliminary impression**

歯および欠損部顎堤などの口腔内諸組織を予備的に採得する印象。この印象から研究用模型を製作し、咬合関係の診査、床縁の位置の判定、義歯の仮設計、個人トレーの製作などを行う。

**111 開口障害** かいこうしょうがい  
**limitation of mouth opening, limited mouth opening**

顎口腔系組織・器官が一過性あるいは持続的に障害を受け、開口運動に制限が生じた病態。一般的に最大開口量の測定によって診断されるが、顎関節の障害によるものと、筋などの軟組織の異常によるものがある。

**112 外斜線** がいしゃせん  
**external oblique ridge**

下顎骨筋突起前縁から下方へ走り、白

後三角の頬側を通り、下顎体の臼歯部外面に移行する骨の隆線、内斜線とともに臼歯部義歯床縁の位置を設定する際に解剖学的指標として用いられる。

**113 外傷性咬合** がいしょうせいこうごう  
**traumatic occlusion**

- 1) 顎口腔系に損傷を引き起こす咬合。
- 2) 歯周組織に損傷を引き起こす咬合。

**114 外側バー** がいそくー  
**external bar**

残存歯部の口腔前庭に設置される大連結子。前歯部に用いられるものを唇側バー (labial bar)、臼歯部に用いられるものを頬側バー (buccal bar) という。

**115 改訂水飲みテスト** かいていみずのー  
**modified water swallowing test (MWST)**

摂食・嚥下障害をスクリーニングする検査法の一方法。水飲みテストの原法は、30 ml の水を口に含んでもらい、嚥下の回数やむせの有無を観察する方法である。しかし飲水量が多く重症例に用いることが困難であることから、変法され3 ml の冷水を使って評価するよう改訂された。口腔底に冷水を注ぎ嚥下を指示し評価する方法。簡便さと安全性から有用性が高い検査法である。

**116 ガイドグループ**  
**guiding groove, orientation groove**

支台歯形成の始めに、歯質の切削量を規定するために設けられる溝。

**117 ガイドプレーン**  
**guiding plane**

(同義語) 誘導面

支台歯側面に義歯の着脱方向と平行に形成された平面。隣接面板やクラスプなどとの組み合わせで、義歯と支台歯の間隙を少なくし、支台歯の保護と義歯の動

揺を規制する機能を発揮する。

**118 解剖学的印象** かがいぼうがくてきいんしょう

**anatomic impression**

顎口腔諸組織の解剖学的形態をできるだけ静的な状態で採得する印象。特に、軟組織部では無圧印象と同義語として用いられる。

**119 解剖学的咬合器** かがいぼうがくてきこうごうき

**anatomical articulator**

(同義語) 顎路型咬合器, condylar path articulator

関節部の構造が生体の顎関節に類似している咬合器の総称。顎路の再現を重視し、咬合器の運動を顎路を主体として行わせようとするもの。

**120 解剖学的歯冠** かがいぼうがくてきしはん

**anatomic crown**

天然歯のセメント-エナメル境から切縁あるいは咬合面までの部分。

→「臨床的歯冠」参照

**121 解剖学的人工歯** かがいぼうがくてきじんこうし

**anatomic artificial teeth, anatomic teeth**

第一大臼歯の咬頭傾斜角が30°以上の人工歯。咀嚼能率の向上、咬合面による義歯の咬頭嵌合位への誘導機能、天然歯に近い審美性などの利点があるが、偏心位での咬合調整に時間がかかるなどの欠点がある。

**122 過蓋咬合** かがいこうごう

**deep bite**

咬頭嵌合位における上顎前歯が下顎前歯唇面の1/4~1/3以上を被覆する咬合状態。上下顎歯列弓の垂直的咬合関係の

異常の1つ。

**123 下顎安静位** かがくあんせいい  
**physiologic rest position**

上体を起こして安静にしているときの顎位。通常、咬頭嵌合位の2~3 mm 下方の位置とされる。

**124 下顎安静位利用法** かがくあんせい  
いりようほう  
**maxillomandibular registration  
using physiologic rest position**

下顎安静位を利用して咬合高径を決定する咬合採得法。上下顎の皮膚上に設定した標点間の距離を計測し、下顎安静時のものから平均的な安静空隙量(2~3 mm)を減じた値となる顎位を中心咬合位とするもの。

**125 下顎位** かがくい  
**mandibular position**

上顎を基準とした場合の顎位。数学的には互いに独立な6個のパラメータで完全に定義できる。このパラメータは直交座標系で例を示すと、座標値(x, y, z)と各軸の周りの回転( $\theta_x$ ,  $\theta_y$ ,  $\theta_z$ )となる。

**126 下顎運動** かがくうんどう  
**mandibular movement**

上顎を基準として見た場合の顎運動。

**127 下顎運動記録** かがくうんどうきろく  
**mandibular movement record**

1) 生理学的な研究,あるいは顎口腔機能の診断や咬合器の調節などの臨床的な目的で行われる下顎の運動に関する記録。解剖学的方法,写真法,映画法,描記法,電気的測定法などがある。

2) 下顎運動の軌跡。

**128 下顎運動障害** かがくうんどうしょう  
がい  
**disorders of mandibular**

**movement**

下顎運動が滑らかに行われぬ、あるいは下顎運動が制限された病態。

**129 下顎運動分析記録装置** かがくうん  
どうぶんせききろくそうち  
**mandibular movement analyzing  
device**

下顎運動の記録,分析を目的とする種々の測定解析装置の総称。主要な商品として、MKG, シロナソグラフ, MM-JI・E, トライメット, ナソヘキサグラフなどがある。

**130 下顎運動要素** かがくうんどうようそ  
**elements of mandibular movement**

3次元的な下顎運動を3点で表示するための6要素。これには方向,距離,経路の彎曲が含まれている。運動方向は基準平面に対する実角で,また,運動距離は投影距離または実距離で表示される。運動経路の彎曲は,運動方向を示す直線に対する経路の彎曲の深さによって表示されることもある。

**131 下顎限界運動** [路] かがくげんかい  
うんどう [ろ]  
**mandibular border movement  
[path]**

骨,顎関節,歯,筋肉,靭帯などにより規制された3次元的な下顎の限界での運動(路)。切歯点の限界運動路を表示したポッセルトの図形が有名である。また,ある定められた垂直的顎位における水平面上では,前方・後方・側方の下顎限界運動路が描記される。特に,後方・側方下顎限界運動路を描記したものはゴシックアーチと呼ばれる。

**132 下顎後退位** かがくこうたいい  
**mandibular retruded position**

咬頭嵌合位に相当する顎位より後方に

位置するすべての顎位。

**133 下顎後退咬合位**→「下顎後退接触位」

参照

**134 下顎後退接触位** かがくこうたいせつしよくい

**retruded contact position**

〔同義語〕下顎後退咬合位

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を後方へ滑走させたときのすべての咬合位。

**135 下顎最後退位** かがくさいこうたいい

**posterior border position of mandible**

下顎後退位の中で最も後方に位置する顎位。Posselt (1962) が用いた用語で、関節窩を構成する靭帯の緊張により決定される下顎のとりうる最後方位で、ゴシックアーチの頂点に一致する。

**136 下顎最後退咬合位**→「下顎最後退接触位」参照

**137 下顎最後退接触位** かがくさいこうたいせつしよくい

**most retruded contact position**

〔同義語〕下顎最後退咬合位

下顎頭が下顎窩内で最も後方に位置する状態での咬合位。

**138 下顎前方保持装置** かがくぜんぼうほじそうち

**anterior mandibular positioner [or positioning device], mandibular advancement device, tongue retaining device**

閉塞型睡眠時無呼吸症候群やいびきの治療に用いられる口腔内装置。下顎前方整位タイプと舌位矯正タイプに分けられ、下顎あるいは舌を前方に位置付けることで上気道を拡張する。

**139 下顎頭** かがくとう

**mandibular condyle**

〔同義語〕顎頭

下顎枝の後方の長楕円形の突起。下顎頭とともに関節突起を構成する。顎関節の関節頭として働く。

**140 下顎頭位** かがくとうい

**condylar position**

〔同義語〕顎頭位

下顎窩に対する下顎頭の位置関係。

**141 下顎隆起** かがくりゅうき

**torus mandibularis**

下顎骨の臼歯部舌側面、特に第二小臼歯部に好発する、骨質の局所的過剰発育によって生ずる骨隆起。通常は無症状であるが、有床義歯の適用時には床外形の設定に障害となることが多い。

**142 下弓 [咬合器の]** かきゅう [こうごうきー]

**lower bow [of articulator]**

咬合器の下部構造で下顎模型を装着する金属製の体部。

**143 顎位** がくい

**mandibular position, jaw position**

上顎と下顎との相対的な位置関係。上顎を基準とした場合を下顎位、逆に下顎を基準とした場合を相補下顎位と呼び、その両者を総称したもの。

**144 顎運動** がくうんどう

**mandibular movement, jaw movement**

上顎と下顎の相対的な運動を、上顎を基準としたとき下顎運動、逆に下顎を基準としたとき相補下顎運動と呼び、その両者を総称したもの。

**145 顎運動検査** がくうんどうけんさ

**examination of mandibular movement, examination of jaw move-**

**ment**

下顎の運動記録から、上下顎の顎間関係や咬合器調節のための運動要素の情報を得たり、顎口腔機能状態の診断を行うための検査。上顎を基準にとり下顎の運動を検査する下顎運動検査と、下顎を基準にとり上顎の相対的な運動を検査する相補下顎運動検査とがある。描記法に加え、最近では各種センサーを用いた電気的検査法も普及してきている。

**146 顎間関係** がくかんかんけい

**maxillomandibular relationship**

上顎に対する下顎の、または下顎に対する上顎の空間的位置関係、上下顎間の水平・垂直方向のすべての位置関係を含む。

**147 顎間関係記録**→「顎間記録」参照

**148 顎間距離** がくかんきより

**vertical dimension**

下顎がある特定の位置にあるとき、上顎と下顎に設定した2点間の距離。上下顎が中心咬合位で咬合しているときの顎間距離を咬合高径という。

**149 顎間記録** がくかんきろく

**maxillomandibular relationship**

**record**

〔同義語〕顎間関係記録

上下顎間の垂直的・水平的位置関係の記録。

**150 顎関節エックス線撮影** がくかんせつせんさつえい

**temporomandibular joint**

**radiography**

顎関節部の骨形態や顎関節隙を検査するためのエックス線撮影。顎関節疾患の診断や治療効果、および顎関節造影法との併用による関節円板の形態異常や機能異常の検査に用いられる。

**151 顎関節雑音** がくかんせつざつおん

**temporomandibular joint noise**

顎運動に伴って顎関節部に生ずる異常音。顎関節症の主症状の1つで、初発症状として高頻度に出現する。

その音質はクリッキング（弾撥音）とクレピテーション（捻髪音、摩擦音）とに大別される。

**152 顎関節疾患** がくかんせつしっかん

**temporomandibular joint disease**

顎関節部の病変で、その病態あるいは原因により、1. 発育異常、2. 外傷、3. 炎症、4. 退行性関節疾患あるいは変形性関節症、5. 腫瘍および腫瘍類似疾患、6. 全身性疾患に関連した顎関節異常、7. 顎関節強直症、8. 顎関節症の8つに分類される。

**153 顎関節症** がくかんせつしょう

**temporomandibular disorders**

顎関節や咀嚼筋の疼痛、関節雑音、開口障害ないし顎運動異常を主要症状とする慢性疾患群の総括的診断名。その病態には咀嚼筋障害、関節包・靭帯障害、関節円板障害、変形性関節症などが含まれる。

→「顎機能障害」参照

**154 顎関節痛** がくかんせつつう

**temporomandibular arthralgia**

顎関節部あるいはその周囲の疼痛。関節痛は関節内部の円板、滑膜、関節包などの障害によっても生ずるが、関節周囲の組織、例えば筋、筋膜、腱、靭帯などの障害によっても起こる。

**155 顎関節内障** がくかんせつないしょう

**internal derangement of**

**temporomandibular joint**

顎関節症の病態の1つ。関節円板の位置や形態異常によって引き起こされる顎



関節の機能障害。

**156 顎顔面補綴** がくがんめんほてつ

**maxillofacial prosthetics**

腫瘍，外傷，炎症，先天奇形などが原因で，顎骨とその周囲組織に生じた欠損に対し，非観血的に，あるいは手術との併用により人工物で補填・修復し，失われた機能と形態の回復を図ること。その処置部位により，顎補綴と顔面補綴とに大別される。

**157 顎顔面補綴装置** がくがんめんほてつそうち

**maxillofacial prosthesis**

〔同義語〕顎顔面補綴物

腫瘍，外傷，炎症，先天奇形などが原因で，顎骨とその周囲組織に生じた欠損に対し，非観血的に，あるいは手術との併用により，顎口腔系の失われた機能と形態の回復を図る目的で用いられる人工物。その適用部位により，顎補綴装置（口腔内補綴装置；intraoral prosthesis）と顔面補綴装置（口腔外補綴装置；extraoral prosthesis）とに大別される。

**158 顎顔面補綴物**→「顎顔面補綴装置」参照

**159 顎義歯** がくぎし

**denture for defected jaw**

腫瘍，外傷，炎症，先天奇形などによる顎骨，または口腔軟組織の欠損に適用され，欠損部の補填・閉塞を図るとともに，人工歯を備え，義歯に準ずる形態と機能を有する補綴装置。

**160 顎機能障害** がくきのうしょうがい

**temporomandibular disorders**

顎関節雑音，顎関節や咀嚼筋の疼痛，顎運動障害を主徴とする症候群。ときには顎口腔領域にとどまらず全身の身体や，精神心理面に種々の障害をもたらす。

日本顎関節学会は顎関節症を正式な名称として採用しているが，この顎機能障害の用語は，咀嚼筋症状だけで顎関節に症状を認めない症例を含む本症候群の疾患名として適切であるという主張に基づいている。

→「顎関節症」参照

**161 顎欠損** がくけつそん

**jaw defect**

腫瘍摘出や先天奇形などによる顎骨の部分あるいは全部の欠損。これにより顔面の審美性の障害を含む多様かつ重篤な口腔機能障害が引き起こされる。特に上顎では口腔と鼻腔の病的交通による飲食物や空気の漏洩，下顎では残存セグメントの三次元的変位による咬合の崩壊などが代表的なものであり，いずれも顎補綴処置の対象となる。

**162 顎口腔系** がくこうくうけい

**stomatognathic system**

摂食，咀嚼，嚥下および発音に関係する組織と器官の共同体。

**163 顎骨支持**→「インプラント体支持」参照

**164 顎舌骨筋線** がくぜつこつきんせん

**mylohyoid ridge**

下顎体の内面を，後方より前下方に斜走し，顎舌骨筋が付着する隆線。下顎有床義歯の臼歯部における舌側床縁は，この隆線を越えた位置に設定するのが妥当とされる。ただし，当該部の粘膜面にはリリーフが必要である。

**165 顎堤** がくてい

**residual ridge**

歯の喪失によって生じる骨吸収の後，残留した歯槽骨あるいは顎骨と顎堤粘膜によって形成される堤状の高まり。無歯顎の場合にはその形態から顎堤弓

(residual ridge arch, alveolar arch) と呼ばれる。

**166 顎堤吸収** がくていきゆうしゅう

**residual ridge resorption**

歯槽骨の吸収によって起こる欠損部顎堤の形態の変化。顎堤は義歯を支持する役割を担うが、顎堤の形態や顎堤粘膜の被圧変位量などは義歯の維持と安定に大きく関与する。

**167 顎堤粘膜** がくていねんまく

**residual mucous membrane**

顎堤を被覆する粘膜。上皮は厚く、角化しており、薄い粘膜下組織によって骨と結合している。義歯に加わる咬合力を支持するのに適した組織構造を有している。

**168 顎補綴** がくほてつ

**prosthetics for defected jaw**

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などによって生じた顎骨とその周囲組織の欠損に対し、非観血的に、あるいは手術との併用により人工物で補填・修復し、顎口腔の失われた機能と形態の回復を図ること。

**169 顎補綴装置** がくほてつそうち

**prosthesis and/or appliance for defected jaw**

〔同義語〕顎補綴物

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で、顎骨とその周囲組織に生じた欠損に対し、非観血的に、あるいは手術との併用により、顎口腔の失われた機能と形態の回復を図ることに用いられる人工物。

**170 顎補綴物**→「顎補綴装置」参照

**171 カスタムアバットメント**

**custom made abutment**

既製アバットメントに対し、より歯冠形態やエマージェンスプロファイルを考

慮したフリーデザインのアバットメント。以前は UCLA 型アバットメントにワックスアップをして金合金で鋳接して作製したが、近年では、チタンあるいはジルコニアを素材として CAD/CAM により製作されることが多い。

**172 仮想咬合平面** かそうこうごうへいめん

**tentative occlusal plane**

最終義歯の咬合平面の基準となる、咬合堤上に表現される平面。

**173 型ごと埋没法** かた—まいぼつほう

**die investing method**

母模型から複製された耐火模型上でワックスアップし、ワックスパターンを模型からはずさず、そのまま同一埋没材で埋没して鋳造体を製作する方法。使用埋没材には、石膏系やリン酸塩系などがあるが、一般的に通常の埋没材より結合材の量を多くして、強度を与えている。

**174 仮着** かちやく

**temporary cementation**

プロビジョナルクラウンなども含めた歯冠補綴装置を支台歯に一時的に装着すること。最終補綴装置の場合には、その状態で暫時患者に使用させ、審美性や咬合機能の回復程度および装着感などを観察し、問題点があれば改善し、異常がなければ耐久性の高い材料を用いて合着する。

**175 滑走運動** かっそううんどう

**mandibular translation**

咬合接触を保持した状態で行う前方、後方、または側方への顎運動。それぞれ、前方滑走運動、後方滑走運動、側方滑走運動と呼ばれ、咬合の診査や咬合様式の確認に利用される。特に側方滑走運動は咀嚼運動と密接な関係にあることから、

各種の顎運動の中で最も重要視され、この方向、距離および彎曲は咬合器の設計や咬合器での顎運動の再現あるいは合理的な咬合面形態の付与や咬合調整における最大の診査対象となっている。

**176 可撤歯型式模型**→「歯型可撤式模型」参照

**177 可撤性義歯** かつせいぎし  
**removable denture**

患者あるいは術者が任意に着脱可能な義歯。有床義歯、可撤性ブリッジなどがある。

**178 可撤性ブリッジ** かつせい—  
**removable bridge**

患者あるいは術者によって、装置の一部が着脱可能なブリッジ。支台歯の平行性が十分でないときや、有床型や鞍状型ポンティックなどの非自淨型ポンティックを適用した場合に設計される。

**179 可撤性補綴装置** かつせいほてつそうち  
**removable prosthesis**

〔同義語〕可撤性補綴物

補綴装置のうち、全部床義歯、部分床義歯、可撤性ブリッジなど、患者あるいは術者による着脱が可能な装置。

**180 可撤性補綴物**→「可撤性補綴装置」参照

**181 可撤性連結** かつせいれんけつ  
**removable connection**

装置の一部が、随時着脱しうる構造をもつ連結様式。

**182 顎頭**→「下顎頭」参照

**183 顎頭安定位** かつあんでいいい  
**stabilized condylar position**

下顎頭が下顎窩の中で緊張なく安定する位置（大石忠雄 1967）。正常歯列者の咬頭嵌合位では下顎頭は顎頭安定位にあ

る。

**184 顎頭位**→「下顎頭位」参照

**185 顎頭間距離** かつどうかんきより  
**intercondylar distance**

顎頭間軸上にある左右の顎頭点間の距離。臨床では、皮膚上の顎頭点をフェイスボウにより計測している。したがって真の顎頭間距離は、これより片側で平均約12mm差し引いた距離とされる。Bonwill (1859)は顎頭間距離を4インチ(約10cm)とし、ボンウィル三角の一辺として補綴学的に意義づけ、咬合器に応用した。

**186 顎頭間軸** かつどうかんじく  
**intercondylar axis**

左右の顎頭点を結んだ仮想軸。

**187 顎頭球** かつうきゅう  
**condylar ball**

生体の下顎頭に相当する咬合器の球状の部分。咬合器の上弓あるいは下弓に取りつけられ、顎路指導板に対して回転あるいは滑走し、咬合器の開閉運動、矢状および側方運動を規制する。

**188 可動性補綴装置**→「半固定性補綴装置」参照

**189 可動性補綴物**→「半固定性補綴装置」参照

**190 顎頭点** かつどうてん  
**condylar point**

顎運動の原点として利用される下顎頭を代表する基準点。一般に、下顎頭の平均的な形態に基づいて皮膚上に求められた平均的顎頭点、あるいは終末蝶番軸上の蝶番点もしくは全運動軸上の全運動軸点で使用される。

**191 可動粘膜** かつどうねんまく  
**unattached mucous membrane**

咀嚼、発音、嚥下などの機能時に、筋肉の動きに伴って移動、変形する粘膜。

**192 下部構造 (体) [インプラントの]**

かぶこうぞう (たい)

**substructure [of implant prosthesis]**

インプラント体のこと。それに連結されたアバットメントを含めて呼ぶこともある。

→「上部構造 (体)」、「中間構造 (体)」

参照

**193 ガム模型→「人工歯肉付模型」参照****194 カラーレスマージン****collarless margin**

辺縁部のコーピングを除去し、前装材料によって直接被覆して審美性の向上を図ったマージン。

**195 顎路 かる****condylar path**

顎運動時に下顎頭が示す運動経路。特に滑走運動時の運動経路をいう。一般に下顎頭を代表する顎頭点の運動軌跡として表す。切歯路とともに顎運動の重要な要素であり、種々の顎運動に対応してさまざまな経路をとるが、その限界運動路を矢状面、水平面、前頭面に投影して矢状顎路と側方顎路とに区別して、咬合器の顎路調節などに利用する。

**196 顎路型咬合器→「解剖学的咬合器」**

参照

**197 顎路指導板 かるしどうばん****condylar guidance**

咬合器の関節部で顎頭球を一定方向に誘導し、一般的に矢状顎路傾斜角および側方顎路角を規制する部分。その機構からボックス型とスロット型とに分類される。

**198 顎路調節機構 かるちようせつきこう****adjustable posterior guidance**

調節性咬合器における顎路を再現する

ための調節機構。顎路指導部を調節することにより、各個人の矢状および側方顎路が設定できる。

**199 冠→「クラウン」参照****200 緩圧型アタッチメント かんあつがた****stress-breaking attachment**

義歯に機能圧が加わった場合に、アタッチメントを介して支台歯に伝達される力が過大となるのを防止する目的で、緩圧機構が付与されているアタッチメントの総称。緩圧方法には蝶番、スプリング、スペース付与の3種類がある。

**201 緩圧型維持装置→「緩圧型支台装置」**

参照

**202 緩圧型支台装置 かんあつがたしだいそうち****stress-breaking retainer**

〔同義語〕緩圧型維持装置

義歯に加わる機能圧を制御して、支台歯の負担を軽減する構造と作用をもつ支台装置。

**203 緩圧装置 かんあつそうち****stress breaker**

支台歯などに伝達される咬合力の一部、または大部分を軽減し、それらの力の方向を他の支持装置や咬合圧負担域へ変更する装置、あるいはシステム。支台装置自体が緩圧作用を有するもの(緩圧型支台装置)と連結子に緩圧作用をもたせるもの(スプリットバーなど)がある。

**204 眼窩下点 がんかかてん****infraorbital point**

眼窩骨縁の最下点と定義される眼点 (orbitale; 眼窩点) に相当する皮膚上の計測点。前方を直視させたときの瞳孔の直下で、眼窩下縁と交わる点を触診によって求める。フェイスボウトランスファー

時の前方基準点の1つとして用いられる。

**205 感覚障害** かんかくしょうがい  
**dysesthesia, paresthesia,**  
**sensory disturbance**

〔同義語〕 感覚異常, 知覚異常

感覚障害は主に, 体性感覚の障害を示す状態あるいはそれを表す病名。体性感覚は触覚, 温度感覚, 痛覚の皮膚感覚と筋や腱, 関節などに起こる深部感覚からなる。口腔内には鬱状態のときの過剰感覚, セネストパチーにおける錯感覚ないし妄想に似た異常感覚が起こることがある。知覚異常ともいわれ, 舌痛症にみられる。

**206 嵌合効力** かんごうこうりょく  
**interlocking force**

修復物の合着材として用いられる泥状のセメントが, 窩壁や修復物の粗造面の微細な凹凸の中にはいり込んで硬化し, その面にそったすべりを阻止する力。リン酸亜鉛セメントの場合では, 修復物における維持力の主体をなす。

**207 緩衝腔** かんしょうくう  
**relief area**

義歯床下粘膜に過度の圧力が加わらないように, リリーフを目的として義歯床粘膜面と顎堤粘膜との間に作られる空隙。臨床的には, 作業用模型上で緩衝部に絆創膏, 金属箔などを貼付する方法, あるいは完成した義歯床粘膜面の当該部位を削除する方法などがある。

**208 環状鉤** かんじょうこう  
**circumferential clasp**

鉤腕が支台歯の歯冠をとりまく形態のクラスプの総称。鉤腕, 鉤体, 鉤脚から構成される。鉤腕の数に基づいた, 単純鉤, 二腕鉤などの分類, その形態から, ヘアピンクラスプ, リングクラスプ, 双子鉤, 延長腕鉤, 連続鉤などの分類, あ

るいは, 考案者の名に因んで, エーカークラスプ, ジャクソンクリプクラスプなどの多様な分類がある。

**209 間接維持装置** → 「間接支台装置」参照

**210 間接支台装置** かんせつしだいそうち  
**indirect retainer**

〔同義語〕 間接維持装置

部分床義歯の支台装置の1つ。欠損部から離れた歯に設定され, 主に支台歯間線を軸とした義歯の回転に抵抗するものをいう。

**211 完全自浄型ポンティック** かんぜんじじょうがたー

**hygienic pontic**

自浄性, 清掃性に基づくポンティック形態の1つ。最も自浄性に優れた形態とされ, 離底型ポンティックがこれに相当する。

**212 寒天アルジネート連合印象** かんてんーれんごういんしょう

**agar alginate combined impression**

シリンジ用寒天印象材を支台歯に注入し, その上からトレーに盛ったアルジネート印象材で印象する連合印象の1つ。

**213 寒天印象** かんてんいんしょう

**agar impression, reversible hydrocolloid impression**

寒天印象材による印象。コンディショナーで加熱して印象材をゾル状にしておき, シリンジを用いて印象材を支台歯と歯列に注入し, 冷却用チューブの付いた専用のトレーにトレー用印象材を盛ってその上に被せた後, 水冷して採得する印象。

**214 カントウア** [歯の] ー[はー]

**contour** [of tooth]

歯冠の軸面形態。特に頬・舌側の豊隆形態を指すことが多いが, 本来は歯冠形

態の外形を意味する。適正なカントウア (normal contour) より豊隆が大きなものをおーバーカントウア (over contour)、逆に、豊隆が不足しているものをアンダーカントウア (under contour) という。

### 215 カンペル平面 —へいめん

#### Camper's plane

水平基準面の1つであり、左右側いずれかの鼻翼下縁と両側の耳珠上縁によって形成される平面。なお、側貌エックス線写真などの骨組織上では、鼻棘点 (前鼻棘底尖端部) と外耳道の中央を通る平面をいう。この平面は正常有歯顎者の咬合平面とほぼ平行であることから、咬合床に付与する仮想咬合平面の決定に利用される。なお、左右側いずれかの鼻翼下縁と耳珠上縁とを結ぶ線は鼻聴道線 (カンペル線, ala-tragus line) と呼ばれる。

### 216 顔面印象 がんめんいんしょう

#### facial impression

顔面補綴装置 (エピテーゼ) 製作のために採得された対象物の陰型。その採得方法は通常、アルジネート印象材 (顔面表面側) と石膏 (代替トレー) の積層印象法などにより行われる。印象材と石膏の保持にはガーゼやポリウレタンシートなどが用いられる。印象時、患者の鼻あるいは口には呼吸用チューブが装着される。

### 217 顔面インプラント がんめん—

#### facial implant

顔面補綴装置 (エピテーゼ) の維持源のために頭蓋顔面骨に植立される生体材料あるいは非生体材料を移植または嵌植する形成術、またはそれらの移植体、嵌植体の総称。

### 218 顔面欠損 がんめんけつそん

#### facial defect

腫瘍摘出や外傷に後遺する顔面部の欠損。審美的障害はもちろんであるが、開口部が存在する場合には、鼻腔や口腔の慢性的乾燥、構音障害、流涎などの機能障害も発現する。皮膚移植などの外科的再建手術が望ましいが、症例によってはエピテーゼが適用される。

### 219 顔面補綴 がんめんほてつ

#### facial prosthetics

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で生じた顔表面を含む実質欠損を非観血的に、あるいは手術との併用により人工物で補填・修復し、その形態的審美的改善とともに、発語などの失われた機能の回復を図ること。この補綴装置をエピテーゼと称する。

## き

### 220 キーアンドキーウェイ

#### key and keyway

主として半固定性ブリッジに用いるスライド型連結装置の1つ。一般に支台歯の隣接面歯冠内にレール状に設けられたキーウェイ (フィメール) と、これと嵌合するようにポンティック部に設けられたキー (メール) から構成される。

### 221 キーパー

#### keeper

磁石の保磁子。磁性ステンレス鋼などを材料とした板状の形態を有する歯科用磁性アタッチメントの構成要素の1つであり、磁石構造体に吸着して閉磁路を構成する。

### 222 キール

#### keel

フレンジテクニックにおいて人工歯排列位置と義歯床研磨面の形態を決定する

際に、咬合の支持とワックスの保持を目的として基礎床の臼歯部に設けられた柱。舌や頬粘膜など、義歯周囲組織の生理的な運動を阻害しないように、ニュートラルゾーン内に設置される。

→「フレンジテクニク」参照

### 223 義顎 ギガク

#### template for defected jaw

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などによる顎骨または口腔軟組織の欠損に適用され、人工歯を備えず、欠損部の補填、閉塞などを目的とした補綴装置。

### 224 義歯 ギシ

#### denture

歯およびその周囲組織の喪失に対して、製作・装着される人工装置。残存歯に固着される固定性義歯と患者や術者が任意に着脱できる可撤性義歯とがある。その他にも目的、材料、形態などに基づいて多様に分類される。

### 225 義歯安定剤 ギシあんていざい

#### denture stabilizer

維持、安定の不良な義歯の改善を目的として使用する材料。粘着力の増強を図るための水溶性の粉状材料、適合不良の間隙を補填して辺縁封鎖の向上を図る不溶性のペーストやシート状の材料などがある。

### 226 義歯床 ギししょう

#### denture base

義歯の構成要素の1つで、欠損部顎堤や口蓋部を覆い、人工歯が排列される部分。咬合力を顎堤に伝達し、全部床義歯では維持にも働く。金属やレジンが使用され、それぞれ金属床 (metal base) と、アクリリックレジンや射出成形レジンが用いられるレジン床 (resin base) とがある。

### 227 義歯床下粘膜 ギししょうかねんまく

#### basal seat mucosa

義歯床によって覆われた粘膜。義歯の支持・維持に関与する。

### 228 義歯床下粘膜異常 ギししょうかねんまくいじょう

#### abnormality of basal seat mucosa

〔同義語〕義歯性口腔粘膜症

義歯装着に起因した義歯床下粘膜の組織的、形態的異常。咬合力が負荷されることにより義歯床下粘膜が機械的刺激を受け、粘膜に発赤、び爛・潰瘍、腫脹などが生じる場合や、義歯床が沈下して粘膜に圧痕が形成される場合がある。

### 229 義歯床研磨面 ギししょうけんまめん

#### polished surface of denture

義歯床の唇・頬側面、舌側面、および人工歯の咬合面を除いた側面を含む義歯床外表面。口腔内の可動粘膜が接触し、その機能圧が加わる。そのため義歯の安定性や使用感に影響を及ぼす。

### 230 義歯床後縁 ギししょうこうえん

#### posterior denture border

義歯の後方の床縁。上顎の全部床義歯では一般にアーラインに一致させ、下顎ではレトロモラーパッドの前方部 (線維部) を越え、後方部 (腺部) 上に設定するのがよいとされる。

### 231 義歯床支持域→「義歯床負担域」参照

### 232 義歯床粘膜面 ギししょうねんまくめん

#### basal surface of denture, impression surface of denture

顎堤や口蓋の粘膜に接触する義歯床の表面。印象により外形が決定され、義歯の支持・維持・安定に関与する。

**233 義歯床負担域** ぎししょうふたんいき  
denture-bearing area, denture  
foundation area

〔同義語〕 義歯床支持域

義歯に加わる咬合圧を負担する義歯床下支持組織の領域。顎堤粘膜の厚さ、被圧縮度、骨面の状況により圧負担能力が異なるため、印象時の圧調整や義歯床粘膜面のリリースなどが必要な部位もある。

**234 義歯性潰瘍** ぎしせいかいよう  
denture ulcer

義歯による圧迫や摩擦などの機械的刺激のため、口腔粘膜組織の循環障害や上皮剝離によって生ずる炎症を伴う有痛性の潰瘍で義歯床下粘膜異常の一症状。

**235 義歯性口腔粘膜症**→「義歯床下粘膜異常」参照

**236 義歯性口内炎** ぎしせいこうないえん  
denture stomatitis

義歯床下粘膜異常の中の *Candida albicans* の感染などで生じる非特異的炎症。以前は義歯による外傷（機械的刺激）が主因と考えられたが、今日では、機械的刺激が原因と考えられる局所的炎症は除外されている。

**237 義歯性線維症** ぎしせいせんいしょう  
denture fibrosis,  
epulis fissuratum

義歯床の機械的慢性刺激による粘膜の炎症反応性の増生物。かつては義歯性線維腫（denture fibroma）の名称も用いられてきたが、真の腫瘍ではないため、最近では義歯性線維症と呼ばれるようになった。上顎歯肉唇移行部に好発するが、口蓋や下顎にも生ずることがある。

病理組織学的に毛細血管や細胞成分の多い肉芽型、線維化が進んで細い線維組織が密に排列した線維型、それらの中間

型に分類されている。肉芽型は義歯の適正化により消退する可能性があるが、線維型は消退しないため、必要に応じて外科的に切除する。

**238 義歯洗浄剤** ぎしせんじょうざい  
denture cleanser

酸化剤や酵素によって、義歯の汚れやデンチャープラークを化学的に清掃し、義歯床内に入り込んだ微生物を除菌する化学製剤。

**239 基礎床** きそしょう  
record base

咬合床の一部で、咬合堤を支える仮の義歯床。

**240 拮抗作用〔義歯の〕** きっこうさよう  
〔ぎし—〕  
reciprocation

〔同義語〕 対向作用

部分床義歯の支台歯において、鉤腕などの特定の部分で発生した力を、他の部分によって相殺させること。

**241 拮抗腕** きっこうわん  
reciprocal arm

〔同義語〕 把持腕

二腕鉤で、一方の維持腕により支台歯に加わる側方力に対抗するための鉤腕。維持腕の維持力を適切に発揮させるとともに、義歯の着脱時あるいは機能時に支台歯に加わる側方力を相殺する。

**242 機能印象** きのういんしょう  
functional impression

義歯の機能時に義歯床下粘膜に咬合圧をできるだけ均等に負担させるために、被圧変位量に応じた力で加圧し、さらに顎堤周囲可動組織の動的状態をも記録することを目的とした印象。

**243 機能咬頭** きのうこうとう  
functional cusp



咀嚼運動中に対合歯の咬合面窩あるいは辺縁隆線部にか(嚙)み込み、食物を咬断・粉碎・臼磨する咬頭。

**244 機能性嚙下障害** きのうせいえんげしょうがい

**functional dysphagia**

(同義語) 動的嚙下障害, 運動障害性嚙下障害

嚙下器官(舌, 咽頭, 舌骨上・下筋群, 食道など)に器質的欠損がない状態で正常な嚙下運動が遂行できない状態。脳卒中や神経・筋疾患によるものが代表的である。

**245 機能的運動路法**→「FGP テクニク」参照

**246 機能的人工歯** きのうてきじんこうし **functional artificial tooth**

第一大臼歯の咬頭傾斜角が20°の人工歯。解剖学的形態から著しく逸脱せず、咀嚼能率も比較的優れていながら、側方分力が過大とならないように設計された人工歯。

**247 機能的正常咬合** きのうてきせいじょうこうごう

**normal functioning occlusion**

解剖学的に正常でなくても、機能的には異常が認められない咬合。

**248 機能的不正咬合** きのうてきふせいじょうごう

**functional malocclusion**

解剖学的所見とは関係なく、何らかの機能異常が認められる咬合。

**249 基本的下顎運動** きほんてきかがくう んどう

**fundamental mandibular movement**

咀嚼, 発音, 嚙下などに伴う顎運動や, ブラキシズムなどの異常習癖による顎運

動とは別に, 下顎の運動機能を評価するために被検運動として用いられる顎運動。前方・後方・側方・閉開口運動がある。

**250 キャスタブルセラミックス** **castable ceramics**

高温で流動化し鑄造可能となる非結晶質のガラスセラミック材料。鑄造後, セラミングによって結晶化して強度を増す。前歯部のジャケットクラウンとして用いる場合には, 材料自体が単色のため, 表面着色剤を用いたり, 従来型のポーセレンを焼き付けて審美性の向上を図る。

**251 キャストサポート** **cast support**

フェイスボウトランスファーの操作中に, 上顎模型や固定用の石膏の重量によってフェイスボウがたわまないようにバイトフォークの下面を支える装置。

**252 キャップクラスプ** **cap clasp**

臼歯咬合面の全面を覆う形態の支台装置。支持能力に優れ, 支台歯の二次固定効果が期待できる。キャップの辺縁を歯冠頬舌面の最大豊隆より0.1mmのアンダーカットに設置して維持を求める。

**253 CAD/CAM アバットメント** きやど/きやむー

**CAD/CAM abutment**

コンピュータ支援による設計と製作を行ったアバットメント。形状や歯肉縁下部の立ち上がり, フィニッシュラインなどをコンピュータ上で設計(CAD)し, そのデータを専用の加工装置に伝達し, チタン, ジルコニア, アルミナ製のアバットメントを切削加工によって製作(CAM)する。

→「カスタムアバットメント」参照

**254 CAD/CAM クラウン** きやどきやむ

**CAD/CAM crown**

コンピュータによる補綴装置の設計 (computer-aided design: CAD) と切削加工装置 (computer-aided manufacturing: CAM) とにより製作されたクラウン。鋳造操作によらないため、物理的特性の優れた、均一かつ高品質な補綴装置を製作できる。陶材、チタンなど、任意の材料を利用することが可能となる。

**255 臼後三角** きゅうごさんかく

**retromolar triangle**

下顎骨の最後方大臼歯のすぐ後方に位置し、頂点を後方に底辺を前方に向けた小さな三角形の骨面。

→「レトロモラーパッド」参照

**256 臼歯離開咬合** きゅうしりかいこうごう

**disocclusion**

〔同義語〕 ディスクルージョン

下顎偏心運動中、下顎をガイドしている前歯以外の対向している臼歯に離開が認められる咬合様式。即時離開咬合 (immediate disocclusion) と遅延離開咬合 (delayed disocclusion) とがある。

**257 頬棚** きょうだな

**buccal shelf**

下顎骨の大臼歯部の頬側に位置し、外斜線と歯槽斜面とに囲まれた平坦な部位。骨組織は緻密であり、咬合平面に対してほぼ平行の面であるので、垂直的咬合力の方向に直交しており、義歯床負担域として有効な部位である。

**258 頬粘膜圧痕** きょうねんまくあつこん

**pressure mark on cheek mucosa**

臼歯部咬合平面相当部の頬粘膜にみられる歯列の圧痕。不適切な咬合関係やク

レンチングによって生じるといわれている。

**259 局部床義歯** → 「部分床義歯」参照

**260 局部床義歯補綴学** → 「部分床義歯補綴学」参照

**261 筋圧維持** きんあつじ

**muscular retention**

口唇・頬・舌などの筋圧を義歯床の維持に積極的に利用すること。

**262 筋圧形成** きんあつけいせい

**border molding, muscle trimming**

〔同義語〕 筋形成, 辺縁形成

有床義歯において、機能時の頬・口唇・舌の動きに調和した義歯床縁形態を得るために、それらの動的な状態を、モデリングコンパウンドなどを用いて記録する印象操作。

**263 近遠心鉤** → 「隣接面鉤」参照

**264 筋形成** → 「筋圧形成」参照

**265 筋触診法** きんしょくしんぼう

**muscle palpating method**

1) 顎口腔系の診査の1つとして、また、顎顔面部や頭頸部に疼痛や違和感を訴える患者におけるその部位と痛みの程度を確認することを目的として、筋を触診する方法。Krogh-Poulsenの方法(1968)が有名である。

2) 咬合採得において、咬筋あるいは側頭筋の緊張状態を触診によって判定し、水平的顎位を決定する方法。この場合には、「筋把握法」が同義語となり、咬筋前縁部を利用する咬筋触診法(咬筋把握法; Gysi)、側頭筋前部を利用する側頭筋触診法(側頭筋把握法; Green)とがある。

**266 金属アレルギー** きんぞく—

**metal allergy**

主にIV型アレルギー(遅延型アレルギー)の典型的な反応として発現する金

属に対するアレルギー。金属元素がイオン化し、生体の蛋白質と結合することによって、抗原となる。症状は金属が接触した部分に発現する接触性皮膚炎と遠隔の皮膚に発現する全身性接触皮膚炎とがあるが、口腔外での発現は口腔内に比べ約10倍の頻度がある。感作性の強い金属の種類はHg, Ni, Cr, Co, Sn, Pdなどである。

**267 金属冠** きんぞくかん  
**metal crown**

う(齲)蝕やその他の原因で歯冠が広範囲に崩壊した場合、歯冠を金属で被覆し、形態と機能の回復とともに、う(齲)蝕の再発を防止する歯冠補綴装置。製作法は現在鑄造法が一般的であるが、古くは板金加工法があり、近年では焼結法や切削加工法(CAD/CAM)なども応用されている。

**268 金属歯** きんぞくし  
**metal occlusal surface, metal tooth**

咬合面の一部(metal occlusal surface)または全体(metal tooth)を金属で製作した床用人工歯。上下の顎堤間距離が小さく、既製人工歯が使用しにくい場合や微妙な咬合面形態の追及、あるいはレジン歯と陶歯との中間の適度な耐摩耗性を求める場合などに、鑄造して製作した自家製の金属歯が白歯に使用されることがある。また、特殊な理論に基づいて作られている既製の金属歯も用いられる。

**269 金属床** きんぞくしょう  
**metal base**

義歯床粘膜面の一部、あるいは全部を形づくる義歯床の金属部分。鑄造床(cast plate)および圧印床(swaged plate)がある。

**270 金属床義歯** きんぞくしょうぎし  
**metal base denture, metal plate denture**

主要な構成要素に金属を使用して、強度、装着感、設計の自由度などを高めた義歯。

**271 筋電図検査** きんでんずけんさ  
**electromyographic examination**

筋が収縮するときに発生する活動電位を針電極や表面電極を用いて記録した筋電図による検査。歯科補綴領域では、顎口腔機能評価や補綴装置の評価に用いられることが多い。

**272 筋肉位【下顎の】** きんにくい【かがく—】  
**muscular position [of mandible]**

咀嚼筋群が協調活動した状態で、下顎安静位から閉口することによって得られる咬合位。Brill (1959)によって提唱された。



**273 屈曲バー** くつきよく—  
**wrought bar**

既製のバー用線を屈曲して製作される大連結子。

**274 グラインディング**  
**grinding**

ブラキシズムの1つ。空口状態で上下顎の歯を強く接触させながら無意識に側方あるいは前後方向に顎を動かし、強くこすり合わせる運動。

**275 クラウン**  
**crown**

〔同義語〕冠  
練成充填物、インレー以外の歯冠補綴装置の総称。修復の程度により、全部被

覆冠，部分被覆冠などの被覆冠と，ポストクラウンとに大別される。

## 276 クラウンブリッジ補綴学 — ほてつがく

### crown and bridge prosthodontics

歯科補綴学の一分科で，歯冠部の形態異常や実質欠損，あるいは歯の欠損に対し，クラウンやブリッジで修復・整形し，口腔の形態，および機能と外観を回復するとともに，顎口腔系の健康維持を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

## 277 クラスプ

### clasp

〔同義語〕 鉤

部分床義歯の支台装置の1つ。その一部をなす鉤腕が支台歯に全面あるいは一部で接触することによって，義歯における維持・支持・把持の役割をはたす。製作法により鑄造鉤と線鉤，また形態により環状鉤とパークラスプとに大別される。

## 278 グラフィック法【下顎運動の】 —

ほう [かがくうんどう —]

### graphic record

弾筆を応用した口外描記法によって，下顎運動を記録・測定する方法。

## 279 クリステンセン現象 — げんしょう

### Christensen's phenomenon

無歯顎患者に上下顎の咬合堤を平坦にした咬合床を装着して下顎の滑走運動を行かせたときに，咬合堤間にくさび状の空隙が生じる現象。前方滑走運動時に後方に開いたくさび状の空隙が生じる矢状クリステンセン現象と，側方滑走運動時に平衡側に開いたくさび状の空隙が生ずる側方クリステンセン現象とがある。Christensen (1905) により提唱された。

## 280 クリックング

### clicking

関節節板の移動によって発生するとされる顎関節雑音の一種。明瞭な短い音で，「カクン」，「ポキポキ」，「バキバキ」などと表現される。弾撥音ともいわれる。

## 281 グループファンクション

### group function

下顎の前方滑走運動時には前歯が接触して臼歯部を離開させ，側方滑走運動時には作業側の複数の歯が接触し，平衡側では咬合接触のない咬合様式。有歯顎者に望ましい咬合様式の1つとされている。

## 282 グレージング

### glazing

陶材表面の製作時の仕上げとして，焼成してつやを出すこと。低溶融のうわぐすりを陶材削成面に塗布，焼成して光沢を出す方法と，陶材を高温で焼成して陶材自体を溶融させ，自己グレージング効果を出す方法とがある。

## 283 クレピタス→「クレピテーション」

参照

## 284 クレピテーション

### crepitation

〔同義語〕 クレピタス，crepitus

不明瞭な長い音の顎関節雑音。「ギシギシ」，「ザラザラ」，「ジャリジャリ」などと表現される。捻髪音，摩擦音ともいわれる。

## 285 クレンチング

### clenching

上下顎の歯の強いか（噛）みしめ。感情的，精神的ストレス，あるいは肉体的ストレス，緊急事態における緊張動作時，全身運動時に発現する。ブラキシズム時にも発現することがある。

## け

**286** 継続歯→「ポストクラウン」参照

**287** 経鼻的持続陽圧呼吸療法 (CPAP 療法) けいびてきじそくようあつこきゅうりょうほう (しーピーえーびーりょうほう)

**Continuous Positive Airway Pressure**

OSAS の経鼻的治療法。主に中等度～重度の OSAS に対して適用する。鼻マスクから圧力を加えた空気を送り込むことによって、気道の閉塞を取りのぞく。

→「睡眠時無呼吸症候群 (SAS)」, 「OSAS 治療用口腔内装置」参照

**288** 欠損歯列 けっそんしれつ  
**partially edentulous arch**

歯の欠損がある歯列。

**289** ケネディーの分類 ーぶんるい  
**Kennedy classification**

部分的な歯の欠損を有する歯列の分類法の 1 つ。4 型に分類され、両側性遊離端欠損〔Ⅰ級〕, 片側性遊離端欠損〔Ⅱ級〕, 片側性中間欠損〔Ⅲ級〕, 前歯中間欠損〔Ⅳ級〕。Ⅳ級以外は類型をもつ。Kennedy (1923, 1925, 1928) により提唱された。

**290** ケネディーバー  
**Kennedy bar**

鉤腕が前歯の基底結節上を波状に走行する連続鉤, もしくは大連結子の 1 つで、義歯の安定, 間接維持, 残存歯の固定などに役立つ。通常リンガルバーと併用されるため, 2 本をあわせてダブルリンガルバーとも呼ばれる。Kennedy (1928) により提唱された。

**291** 研究用模型 けんきゅうようもけい  
**diagnostic cast, study cast**

〔同義語〕 スタディモデル

顎口腔系の診査, 診断, 治療方針の決定の資料として, あるいは治療記録として準備される上下顎石膏模型。

**292** 犬歯臼後隆起線→「パウンドライン」参照

**293** 犬歯誘導咬合 けんしゅうどうこうごう

**cuspid protected articulation (occlusion)**

下顎の側方滑走運動時, 作業側犬歯の咬合接触によって下顎を誘導し, 臼歯部は離開する咬合様式。

## こ

**294** 鉤→「クラスプ」参照

**295** 構音 こうおん  
**speech, articulation**

構音器官を操作することによって, 母音や子音を出す行動。

→「発声」参照

**296** 構音検査 こうおんけんさ  
**articulation test**

〔同義語〕 調音検査

構音機能が何らかの原因で障害されたときに行う検査。構音 (調音) 運動に関与する器官を構音器官と呼び, 構音機能は可動性の舌, 口唇, 軟口蓋などの構音体と, 非可動性の硬口蓋や歯などの構音点との関係で営まれるが, 補綴領域ではパルトグラフィーによる検査や語音明瞭度検査などが行われている。

**297** 構音障害 こうおんしょうがい  
**disorders of articulation, dysarthria**

〔同義語〕 発語障害, speech disorders

特定の語音が正しく発音されず習慣的に誤って発音する障害。子音の省略, 異常な喉頭摩擦音などへの置換, 不必要な音の添加および歪みなどがみられる。口蓋裂, 口蓋麻痺, 顎骨欠損などによる器質的構音障害と, 構音のメカニズムの習得過程における誤った学習や構音発達の遅延などによる機能的構音障害とがある。また, 構音運動をコントロールする神経系が障害された場合は麻痺性構音障害 (dysarthria) が生じる。話し言葉の障害によりコミュニケーションに不都合を生じている状態にある言語障害 (communication disorders) の1つ。

**298 鉤外形線** こうがいけいせん

**outline of clasp**

支台装置の製作の際に, あらかじめ描記されたサベラインを基準として, クラスプの種類と目的とする維持力ならびに把持力に基づいて, 模型上に描記するクラスプの輪郭を示す設計線。

**299 口蓋後縁封鎖** こうがいこうえんふうさ

**posterior palatal seal**

辺縁封鎖の1つで, 上顎全部床義歯の床後縁を封鎖すること。これにより維持力が増強される。積極的な封鎖法としてポストダムがある。

**300 口蓋床** こうがいしょう

**palatal plate**

口蓋の先天的, 後天的欠損や口腔機能不全に対して口蓋部を被覆する合成樹脂あるいは金属製の床装置。

**301 口外描記法** こうがいびょうきほう

**extraoral tracing method**

描記板と描記針で構成される下顎運動記録装置が口腔の外に設置された直視下

で行うことができる下顎運動計測法, ギシックアーチ描記法とグラフィック法 (パントグラフ法) とがある。

**302 口蓋補綴** こうがいほてつ

**palatal prosthetics**

腫瘍, 外傷, 炎症, 先天奇形などが原因で, 口蓋部に生じた欠損, 形態異常, 機能不全などを非観血的に, あるいは手術との併用により人工物で修復し, 損なわれた形態と機能の回復・改善を図ること。

**303 口蓋隆起** こうがいりゅうき

**palatal torus, palatine torus, torus palatinus**

口蓋正中部に発現する限局性の骨隆起。通常は無症状であるが, 大型のものでは構音障害を来すため外科的切除が必要となることがある。被覆粘膜が薄いため, 義歯床で被覆する場合には緩衝腔を設定する。

**304 光学印象** こうがくいんしょう

**optical impression**

〔同義語〕 デジタルインプレッション

直接対象物に触れずに光学的に物体の三次元的な形状を計測し, データ化する印象方法。

**305 口角線** こうかくせん

**cuspid line**

口を軽く開けた時の左右口角の位置を示す線。左右2線間を上顎6前歯の幅径に一致するといわれ, 人工歯排列時の参考となる。

**306 鉤間線** → 「支台歯間線」参照

**307 鉤脚** こうきやく

**clasp tang**

クラスプを義歯床と連結, 固定するクラスプの一部分。

**308 口腔インプラント こうくうー****dental implant**

〔同義語〕デンタルインプラント

欠損部顎堤に埋入された人工歯根や粘膜下に設置されたフレームと、これに連結される上部構造を含めた補綴装置の総称。

**309 口腔前庭 こうくうぜんてい****oral vestibule**

上・下唇と頬および上下顎歯列弓との間に挟まれた空間。口唇および頬粘膜と顎堤粘膜との移行部は前庭円蓋で区分され、口裂により外界と交通している。口唇と歯槽粘膜との移行部には上唇小帯、下唇小帯があり、頬粘膜には耳下腺導管の開口する耳下腺乳頭が存在する。無歯顎においては義歯床で口腔前庭を満たすことにより辺縁封鎖をはかるとともに、口唇・頬の豊隆程度を決定づける。

**310 口腔底 こうくうてい****floor of mouth, floor of oral cavity, mouth floor**

舌と下顎骨内面の舌下粘膜部から構成される口腔の下壁。舌下粘膜部は顎舌骨筋の上方を覆い、粘膜上皮は薄く可動性であり、舌の自由運動をもたらす。舌下面の正中線上で舌との間に舌小帯があり、その両側には舌下腺の導管が開口する。口腔底と顎堤舌側との移行部に沿って舌側溝があり、義歯の舌側床縁の位置と形態を決定づける。

**311 鉤肩 こうけん****clasp shoulder**

環状鉤における鉤体と鉤腕との移行部。鉤体とともに支台歯を把持する働きをする。

**312 咬交 こうこう****articulation**

機能時における上下顎歯の静的ならばに動的な咬合面間の接触関係。全部床義歯における平衡咬合の考え方から派生した用語であり、偏心運動時に上下顎歯が咬合小面で接触しながら滑走することを意味していた。しかし、現在では、「咬合」で代用されるようになった。

**313 咬合 こうこう****articulation, occlusion**

- 1) 下顎が閉じる行為あるいは過程、または閉じている状態。
- 2) 上顎あるいは下顎の天然歯や補綴装置の切縁あるいは咬合面間における接触関係。

**314 咬合圧 こうこうあつ****biting pressure, occlusal pressure**

咬合時に天然歯あるいは人工歯の咬合面部に発現する単位面積あたりの力。

**315 咬合圧印象 こうこうあついんしょう****bite pressure impression**

機能印象の1つで、咬合床またはろう(蝸)義歯をトレーとして用いて、患者自身の咬合力によって義歯床下粘膜を加圧した状態で採得する印象。

**316 咬合圧負担域 こうこうあつふたんいき****stress-bearing region, stress supporting region**

- 1) 機能時の咬合力を支える、歯、歯根膜、顎堤などの口腔組織。
- 2) 義歯に加わる機能圧を負担する口腔組織。有床義歯の義歯床部に関しては、特に義歯床負担域と呼ぶ。

**317 咬合位 こうこうい****occlusal position**

天然歯や人工歯における上下顎の歯が接触した状態での、上顎に対する下顎の位置関係。下顎の限界運動範囲内におけ

る上下顎の歯が接触した状態での、すべての下顎の位置が含まれる。

**318 咬合異常** こうごういじょう  
**malocclusion**

上下顎の歯の静的・動的な位置関係が正常でなくなった状態、対向関係の異常、咬合位の異常、咬合接触の異常、顎運動の異常、咬合を構成する要素の異常などを包含する。

**319 咬合違和感症候群** こうごういわか  
んしょうこうぐん  
**Occlusal discomfort syndrome**

広義には、明らかな咬合の不調和が認められる場合、また明らかな咬合の不調和が認められない場合(いわゆる特発性)も含めた咬合の違和感を訴える包括的病態。狭義には、咬合とは無関係に特発的に発症する咬合の違和感を訴える状態。

なお 2003 年に Clark と Simmons は “occlusal dysesthesia” という用語を提唱しており、「歯髄疾患、歯周疾患、咀嚼筋ならびに顎関節疾患のいずれもが認められず、臨床的に咬合異常が認められないにもかかわらず 6 ヶ月以上持続する咬頭嵌合位での不快感」に該当する病態と定義している。

**320 咬合印象** こうごういんしょう  
**bite impression**

咬合印象用トレー (バイトトレー) を用いるか、シリコンゴム印象材のパテとインジェクションにより支台歯と対合歯およびその咬合関係を同時に採得する印象。

**321 咬合円錐** → 「冠冠円錐」参照

**322 咬合音** こうごうおん  
**occlusal sound**

上下顎の歯の衝突・滑走により発生する顎口腔系諸組織の振動音。通常、頬骨部

において聴診器などにより聴取するが、咬合接触部に異常がなければ清音、早期接触などの異常があれば濁音となる。

**323 咬合音検査** こうごうおんけんさ  
**occlusal sound test**

咬合音を電氣的に両側の眼窩下部あるいは頬骨弓部などに設置したマイクロフォンや加速度ピックアップで検出、表示することによる咬合状態の検査。聴診法、電氣的記録法がある。聴診法では早期接触が判定できることからステレオ聴診器 (Watt, 1967) が用いられる。咬合状態が正常で安定している場合、短く、高く、澄んだ音が検出され、咬合干渉などにより咬合状態が不安定な場合には、長く、低く、濁った音が検出される。

**324 咬合音分析装置** こうごうおんぶんせ  
きそうち  
**occlusal sound analyzer**

タッピング時に上下顎歯列の衝突・滑走により発生した咬合音を頬骨部で電氣的に検出し、その波形 (持続時間、周波数、立ち上がりの時間的ずれなど) を記録・分析する機器。早期接触などを診断する。

**325 咬合学** こうごうがく  
**science of occlusion**

歯科医学の一分野で、咬合を中心とする顎・口腔の総合的な機能系の正常像、異常像、加齢的变化などを身体の他の領域との関連も含めて、形態的、機能的に研究し、口腔諸器官の異常や疾患の予防、診断、治療・再建、審美的回復などへの応用を目的とする学問。

**326 咬合滑面板** こうごうかつめんばん  
**guide flange**

下顎骨離断後、下顎偏位を防止する目的で、咬合時に上顎臼歯頬側面あるいは臼歯部に設置されたガイド板に誘導さ



れ、下顎を咬頭嵌合位に導くように下顎臼歯の頬側に付与される偏位防止板、ガイド板を含めて咬合滑面板と呼ぶこともある。

### 327 咬合関係 こうごうかんけい

#### occlusal relationship

上下顎の解剖的対向関係、顎関節の構造と下顎の生理学的運動メカニズムに基づいて生じる歯と歯あるいは人工歯、または歯列相互間の、静的・動的な咬合面あるいは切縁部の位置関係。

### 328 咬合干渉 こうごうかんしょう

#### occlusal interference

正常な顎運動を妨げるような咬合接触、早期接触や咬頭干渉を包括する。

### 329 咬合器 こうごうき

#### articulator

頭蓋に対する顎と歯の相対的位置関係および各種顎位や顎運動を生体外に再現し、顎機能の診断、あるいは形態的・機能的に生体に調和した補綴装置の製作に利用される歯科用機器。頭蓋の前下部を機械的に模倣したもので、上弓と下弓の2部分から構成されるが、機能的には顎路調節機構である関節部、切歯路調節機構の切歯指導部、模型を装着する体部から成る。

形態および機能的にさまざまに分類されるが、調節機能に基づいて顎路型咬合器、非顎路型咬合器に大別するのが最も一般的である。前者はさらに、平均値咬合器、半調節性咬合器、全調節性咬合器の3群に分類される。なお調節性咬合器は、顎路指導要素の位置の違いにより、アルコン型咬合器とコンダイラー型咬合器の2つに分類され、顎路指導要素の構造の違いにより、スロット型とボックス型の2つに分類される。

### 330 咬合器再装着 こうごうきさいそう ちゃく

#### remounting on articulator

咬合器上で製作された補綴装置の咬合接触関係を改善するために、補綴装置を含めた下顎の模型をチェックバイトを介して再度咬合器に装着すること。咬合器に対する上顎模型の位置付けが必要な場合は、スプリットキャスト、テンチのコア、フェイスボウなどを用いる。

### 331 咬合器装着 こうごうきそうちゃく

#### mounting on articulator

咬合の診査、診断や治療計画の立案、および間接法による補綴装置の製作過程において、模型を咬合器に固定すること。先ず上顎模型を頭蓋に対する平均値的位置、あるいはフェイスボウを用いて固有の位置として咬合器上弓に固定する。次いで下顎模型を咬頭嵌合位などでの顎間記録を介して咬合器下弓に固定する。

### 332 咬合挙上 こうごうきよじょう

#### bite raising, vertical dimension increase

咬合高径を高める処置。歯の咬耗や喪失によって、咬頭嵌合位における本来の咬合高径が低下して、醜形を呈したり、顎関節に異常がある場合などに行われる。

### 333 咬合記録 こうごうきろく

#### interocclusal record

咬合に関するあらゆる記録。顎位や顎運動に関連して用いられることが多い。

### 334 咬合検査 こうごうけんさ

#### occlusal examination

被験者がどのような咬合を有しているかを判定する検査。咬合紙やワックス、シリコン検査材、引き抜き試験用箔、咬合検査機器などを用いて咬頭嵌合位や偏心位における静的あるいは動的咬合接

触状態を判定する。

**335 咬合高径 こうごうこうけい**

**occlusal vertical dimension**

咬合採得や咬合位の評価などに関連して、歯や顔面に設定される種々の計測点間距離で表した、中心咬合位での上下顎間の垂直的距離。

**336 咬合高径測定法 こうごうこうけいそくていほう**

**measuring method of occlusal vertical dimension**

顔面形態を計測して得られた種々の計測点間距離に関する基準値や、安静時や発音時などにとる平均的な顎位を基準として咬合高径を測定する方法。

**337 咬合再構成→「オーラルリハビリテーション」参照**

**338 咬合採得 こうごうさいとく**

**maxillomandibular registration**

補綴装置の製作や咬合診断などにおいて、上下顎の歯列模型、あるいは顎堤模型をそれぞれの目的に応じた顎位で咬合器に装着するために、種々の材料や機器を用いて上下顎の顎間関係を記録すること。

**339 咬合紙 こうごうし**

**articulating paper**

歯や補綴装置の咬合接触状態を診査するために用いる色素を固着させた薄紙、短冊形、馬蹄形、全歯列型などがある。一般に用いられている咬合紙の厚みは約30 $\mu$ mで、これにより約10 $\mu$ mの高さの差が判定できる。シリコンゴム印象材を用いる方法と比較して簡便であるが、咬合接触部位の細密な判定は難しい。

**340 咬合支持 こうごうしじ**

**occlusal support**

上下顎の歯が咬合接触することにより

咬頭嵌合位を保持する作用。

**341 咬合支持域 こうごうしじいき**

**occlusal-supporting area**

咬頭嵌合位を保持するための左右側小臼歯部、大臼歯部における咬合接触部分。

**342 咬合斜面板 こうごうしゃめんばん**

**guidance ramp**

下顎骨離断後の下顎偏位を防止する目的で、咬合時に下顎を咬頭嵌合位に導くように上顎補綴装置の口蓋側に付与される偏位防止板。

**343 咬合床 こうごうしょう**

**record base with occlusion rim**

欠損歯列において、顎間関係の記録や人工歯排列の指標とする装置。基礎床と咬合堤から構成される。

**344 咬合小面 こうごうしょうめん**

**occlusal facet**

1) 顎口腔系機能によって生じた臼歯部咬合面、上顎前歯舌面、下顎前歯切縁に見られる摩耗面。

2) フルバランストオクルージョンを付与する目的で、人工歯の咬合面に形成する各種滑走運動に調和した斜面。Gysi (1929) が軸学説をもとに提唱した(咬合小面学説)。

**345 咬合性外傷 こうごうせいがいしょう**

**occlusal trauma**

1) 歯周組織の適応能や修復能を越える咬合力によって生じる歯周組織の損傷。  
2) 咬合力によって生じた顎口腔系の障害。

**346 咬合接触 こうごうせつしょく**

**occlusal contact**

閉口時に生ずる対合する歯の接触。

**347 咬合調整 こうごうちょうせい**

**occlusal adjustment, occlusal equilibration**

天然歯あるいは人工歯の早期接触や咬頭干渉となる部位を選択的に削合し、均等な咬合接触と調和のとれた咬合関係を確保して、咬合力を複数の歯に均等に分散すること。

### 348 咬合堤 こうごうてい

**occlusion rim, record rim**

〔同義語〕ろう（蠟）堤, wax rim

顎間関係の記録と人工歯を排列する目的で、基礎床上に設置されるアーチ状のワックスの突起。

### 349 咬合病 こうごうびょう

**occlusal disease**

早期接触などの咬合の不調和に起因する顎口腔機能異常によりもたらされる種々の病態の総称 (Guichet, 1966)。

一般的に複数の症状を有する点において症候群であり、いわゆる顎関節症を含むが、精神的ストレスも関与している。症状としては、ブラキシズムとそれに伴う過度の咬耗、筋の疼痛や疲労感、顎関節雑音や疼痛、開閉口などの下顎運動障害、肩こりや頭痛、情緒不安定などがある。

### 350 咬合分析 こうごうぶんせき

**occlusal analysis**

1) 歯やそれに関連する組織に対する咬合の影響を特に考慮した顎口腔系の系統的診査。

2) 咬合器に装着された模型の咬合関係を評価するための咬合の診査。Lauritzen が著書「Atlas of Occlusal Analysis」(1974)の中で、Dentatus 咬合器を使用し、咬合関係の異常に由来する機能障害を有する症例に対して、咬合機能の分析を行う一連の術式について記載した。

### 351 咬合平衡 こうごうへいこう

**occlusal balance**

全部床義歯において、側方滑走運動時では作業側と平衡側の白歯の、前方滑走運動時では前歯と白歯の接触が保たれ、義歯が前後、左右的な偏心位でも安定している状態。

### 352 咬合平面 こうごうへいめん

**occlusal plane, plane of occlusion**

下顎左右中切歯の近心隅角間の中点(切歯点)と下顎左右側第二大臼歯の遠心頬側咬頭頂を含む平面として規定される基準面。

### 353 咬合平面設定板 こうごうへいめん

せっていばん

**occlusal plane guide**

咬合採得時に仮想咬合平面を設定するための用具。上顎咬合床の咬合面にあてて、カンペル平面との関係を検討するのに用いられる。

### 354 咬合平面板 こうごうへいめんばん

**occlusal plane table**

咬合平面を基準として上顎模型を咬合器に装着するために用いられる平均値咬合器の付属品。

### 355 咬合平面分析板 こうごうへいめんぶん

んせきばん

**occlusal plane analyzer**

Monson (1920) の球面説に基づく下顎の切縁、咬頭の位置付け、ならびに咬合彎曲の分析に使われる直径 8 インチの球面をもつ彎曲板。

### 356 咬合面間距離 こうごうめんかんきょ

り

**interocclusal distance**

ある特定の顎位で生じる上下顎咬合面間の距離。下顎安静位の咬合面間距離は、安静空隙とも呼ばれる。

**357 咬合面再形成〔義歯の〕** こうごうめんさいけいせい [ぎしー]

**occlusal reconstruction of denture**

義歯の人工歯咬合面を再構成することによって、顎口腔系の形態、機能、審美性の回復を図ること。

**358 咬合様式** こうごうようしき

**occlusal scheme**

咬頭嵌合位および偏心位における咬合接触の状態。

**359 咬合力** こうごうりょく

**occlusal force**

顎口腔系器官、組織の働きにより、上下顎の歯あるいは人工歯咬合面間に発現する力。

**360 咬合力検査** こうごうりょくけんさ

**occlusal force test**

顎機能、歯の負担能力等の評価として、個々の歯あるいは歯列全体の咬合面部に加わる荷重量を計測して判定する機能検査。

専用の咬合力計を用いて、最大荷重を計測する最大咬合力が一般的であるが、義歯などに特殊なトランスデューサーを組み込んで計測する咀嚼力などがある。最近では、T スキャン、プレスケールなどの歯列全体の咬合力分布を分析する方法もある。

**361 咬合力測定法** こうごうりょくそくていほう

**maxillomandibular registration by measuring maximal occlusal force**

無歯顎症例の咬合採得において、最大咬合力に基づいて垂直的顎位を決定する方法。

Boos(1940)は、Gnathodynamometer(咬合力測定装置、別称 Boos の Bimeter)を

用いて、最大咬合力を発揮する顎位(最大筋力点)を求め、この位置から、換算表に従って最大咬合力の大きさに比例して、所定の高径を減じて咬合高径とすることを提唱した。

**362 咬合彎曲** こうごうわんきよく

**occlusal curvature**

天然歯列の咬合面が連続して作る彎曲。ウィルソンの彎曲、スピーの彎曲、モンソンカーブなどがある。人工歯列の場合は調節彎曲とよばれ、用語としては両者は区別される。

**363 咬座印象** こうざいんしょう

**bite-seating impression**

矢崎正方(1955)が提唱した印象法であり、義歯製作途中に生じる歪みを最終段階において修正することを主目的として、人工歯排列や削合も終了したろう(蠟)義歯をトレーとして少量の流動性の優れた印象材を盛り、咬合させて採得する印象。上下顎を別々に採得したほうが望ましいとされる。

**364 交叉咬合** こうさこうごう

**cross bite, reverse articulation**

咬頭嵌合位において、側方歯群の反対咬合により、上下顎の歯列弓が水平的に交叉している不正咬合。

**365 交叉咬合排列** こうさこうごうはいれつ

**arrangement of reverse articulation**

通常の臼歯部被蓋とは逆に、上顎臼歯の頬側咬頭を下顎臼歯の中心窩に嵌合させる人工歯排列法。

上顎顎堤弓が下顎顎堤弓より小さく、仮想咬合平面に対する臼歯部(第一大臼歯部)の歯槽頂間線角度が80度以下の場合に、義歯床の力学的安定性を高める

目的で行う。上下顎左右側の人工歯を入れ替えて排列するギージー法 (Gygi 法), あるいはミュラー法 (Müller 法) が一般的に用いられている。

**366 交叉咬合用人工歯** こうさこうごうようじんこうし

**cross bite artificial tooth**

上下顎とも頬舌径を狭くし、上顎が1咬頭に設計されている交叉咬合排列専用の人工歯。頬側では下顎の咬頭が上顎の咬頭を被蓋する。

**367 鉤歯**→「支台歯」参照

**368 硬質レジン**→「コンポジットレジン」参照

**369 硬質レジン歯** こうしつーし  
**composite resin tooth**

従来のアクリリックレジン人工歯に比較して、硬さ、耐摩耗性に優れたレジン歯。反面、耐衝撃性や義歯床との結合性は劣る。

**370 硬質レジンジャケットクラウン**→「レジンジャケットクラウン」参照

**371 咬傷** こうしょう  
**bite wound**

1) ヒトまたは動物の歯により生体もしくは死体に残された傷。一般的には挫創や切創に類似した特徴を呈する。その形状の精査は法歯学上重要であり、主体の個人識別に役立つ。

2) 舌、頬および口唇を咬むことによって生じる傷。頬を咬むことを咬頬 (cheek bite)、舌を咬むことを咬舌 (tongue bite) といい、歯列不正や人工歯排列の欠陥により生じやすい。義歯によるものは、咬合高径が低すぎる場合、人工白歯の排列が頬側に寄りすぎる場合、上下顎人工白歯のオーバージェットが小さすぎる場合などに生じ、咬舌は下顎人工白歯列が舌

側に寄りすぎ舌房が狭い場合や咬合平面が舌背より低い場合などに生じる。

**372 口唇接合線** こうしんせつごうせん  
**low lip line**

〔同義語〕口唇閉鎖線

下顎の安静状態で上口唇と下口唇とが軽く接触してできる線。上顎咬合床の仮想咬合平面および前歯人工歯の上下的排列位置の基準とする。

**373 口唇閉鎖線**→「口唇接合線」参照

**374 鉤尖** こうせん  
**clasp tip**

鉤腕の先端部分。維持腕においては支台歯のアンダーカット域に設置され、維持機能を果たす。

**375 鉤体** こうたい  
**clasp body**

環状鉤における鉤脚と鉤腕の中間部分。鉤肩とともに把持機能を果たす。

**376 後退運動 [下顎の]** こうたいうんどう [かがくー]

**retrusive movement [of mandible]**

下顎の後方への運動。通常、咬頭嵌合位から下顎後退接触位まで接触滑走することをいう。

**377 合着** ごうちゃく  
**cementation**

インレー、クラウン、ブリッジなどの修復物を窩洞や支台歯にセメントを用いて恒久的に装着する操作。リン酸亜鉛セメントの場合の保持機構は、主に嵌合効力に依存する。歯や金属に対する接着性のあるセメントを利用する場合もある。

**378 合着用セメント** ごうちゃくようー  
**luting agent, luting cement**

〔同義語〕装着材料  
→「合着」参照

**379 後堤法** こうていほう

**post damming**

義歯床の口蓋後縁封鎖を図るために、ポストダムを付与すること。

**380 咬頭嵌合** こうとうかんごう

**intercusation**

咬頭が対合する歯の窩や隆線に嵌合している状態。

**381 咬頭嵌合位** こうとうかんごうい

**intercuspal position**

上下顎の歯列が最も多くの部位で接触し、安定した状態にあるときの顎位。

**382 咬頭干涉** こうとうかんしょう

**cuspal interference**

咬合干涉の1つで、下顎の基本運動や機能運動に際して、運動経路を妨げる咬頭の接触またはその現象。

**383 咬頭傾斜角** こうとうけいしゃかく

**cuspal angle**

歯軸に直交する直線と各咬頭斜面とがなす角度。近遠心的および頬舌的な傾斜角がある。

**384 咬頭展開角** こうとうてんかいかく

**angle between buccal and lingual internal cusp slope**

頬側咬頭の内斜面と舌側咬頭の内斜面とがなす角度。

**385 口内描記法** こうないびようきほう

**intraoral tracing method**

描記板と描記針で構成される下顎運動記録装置が口腔内に設置された下顎運動記録法。装置が比較的簡便であり、ゴシックアーチ描記法が一般的であるが、特殊なチューイン法もある。

**386 硬軟口蓋境界部** こうなんこうがいきょうかいぶ

**junction of hard and soft palate**

硬口蓋と軟口蓋の境界部。上顎の義歯

床後縁設定の基準となる。臨床的には、視診や触診、口蓋小窩やアラインを参考にしてその位置を確認する。

**387 コーヌス角** ーかく

**cone angle, Konuswinkel** (独語)

コーヌステレスコープ (Konuskronen Teleskop; cone crown telescope) の内冠の軸面を延長してできる仮想円錐角度の1/2の角度。発案者の Körber は、6度で設定したときに最も適切な維持力が得られるとしている。

**388 コーヌステレスコープクラウン**

**cone crown telescope,**

**Konuskronen Teleskop** (独語)

Körber, K. H. (1969) によって開発された支台装置の一種で、テーパーを有する円錐台型の内冠とそれに適合する外冠とからなるステレスコープクラウン。いわゆるリジッドサポートを代表する支台装置である。維持力は内・外冠の接触による摩擦力あるいはくさび効果と外冠の金属弾性によるが、内冠軸面のコーヌス角によって調節可能である。

**389 コーピング印象**→「ピックアップ印象」参照

**390 後方基準点** こうほうきじゅんてん

**posterior reference points**

前方基準点とともに、水平基準面を設定するための顔面上の点(平均的顎頭点、蝶番点)。

**391 後方咬合小面** こうほうこうごうしょうめん

**retrusion facet**

Gysi の軸学説および咬合小面学説に従って、フルバランストオクルージョンを付与する目的で人工歯咬合面に形成する咬合小面の1つ。作業側の側方滑走運動と後方運動時に接触する面であり、下

顎臼歯では頬舌側咬頭の後方の斜面上、上顎臼歯では前方の斜面上に付与する。

### 392 咬耗 こうもう

#### attrition

上下顎歯の咬合接触により生ずるエナメル質や象牙質の摩耗。咀嚼機能による歯面の咬耗は、加齢変化として生理的にもみられるが、進行速度が速く、象牙質の広範な露出や歯冠長の短縮および咬合高径の低下を招くような高度なものを咬耗症という。個人識別や年齢推定、ブラキシズムや顎関節症などの診断の手がかりとなる。

### 393 高齢化社会 こうれいかしゃかい

#### aging society

高齢化率（65歳以上の人口が総人口に占める割合）が7%以上14%未満の社会。

→「高齢社会」、「超高齢社会」参照

### 394 高齢社会 こうれいしゃかい

#### aged society

高齢化率（65歳以上の人口が総人口に占める割合）が14%以上21%未満の社会。

→「高齢化社会」、「超高齢社会」参照

### 395 鉤腕 こうわん

#### clasp arm

環状鉤においては鉤体に続く鉤尖までの部分。機能により維持腕と拮抗腕とに分類される。またサベイレインを境に非アンダーカットを走行する鉤腕部分を上腕、アンダーカットを走行する部分を下腕と呼び、主に上腕はクラスプの支持と把持、下腕は維持の機能を果たす。

パークラスプにおいては大連結子あるいは義歯床縁から鉤尖までを指すが、形態により横走アームと垂直アームの部分に分けられる。

### 396 語音明瞭度検査 ごおんめいりょうどけんさ

#### articulation test in pronunciation

被検者の発音を複数の検者が聴取し、その結果を集計して被検者が発音した語数に対する正しく聴取しえた語数の百分率として表す方法。

### 397 鼓形空隙 こけいくうげき

#### embrasure

歯と歯の隣接面接触点を中心に、上下のあるいは頬舌的に形成される空間。その形が鼓に似ていることに因んだ名称。

### 398 ゴシックアーチ描記法 —びょうきほう

#### gothic arch tracing method

顎運動の記録法の1つで、定められた咬合高径における下顎の左右の後方・側方限界運動の軌跡を描記させ、その描記図（ゴシックアーチ）をもとに水平的顎位の決定や診断を行う方法。本法には、口内描記法と口外描記法とがあり、描記装置（ゴシックアーチトレーサー）には、口内描記装置と口外描記装置とがある。

なお、「ゴシックアーチ」の語源は、描記図がゴシック風建築のアーチと類似の形状を呈していることから、Gysiにより命名された。

### 399 個歯トレー こしー

#### individual tray for abutment impression

支台歯の精密印象採得に使用される小型の印象用トレー。銅板を応用したもの（銅板バンドトレー）、常温重合レジンを用いたもの（レジントレー）、両者を併用したもの（併用トレー）などがある。

### 400 個人トレー こじん—

#### individual tray

各個人の歯列や顎堤の形状に合わせて個別に製作された印象用トレー。一般的には、研究用模型上で常温重合レジンにより製作される。

**401 固着式模型**→「歯型固着式模型」参照

**402 骨結合型インプラント**→「オッセオインテグレートッドインプラント」参照

**403 骨膜下インプラント** こつまかくー  
**subperiosteal implant**

下部構造が骨膜と骨面との間に設置されるインプラント。骨面上に密着するように設置されるフレーム、フレームを補助するストラップと呼ばれるフレームの延長部、ならびにフレームから口腔内に露出する支台部から構成される。

**404 固定性ブリッジ** こていせいー  
**fixed bridge**

支台装置とポンティックとが固定性に連結され、支台歯にセメント合着されたブリッジ。

**405 固定性補綴装置** こていせいほてつ  
そうち

**fixed prosthesis**

〔同義語〕固定性補綴物

1) クラウンやブリッジなど、任意にはずせない補綴装置。

2) 支台歯と固定性連結を有する補綴装置。「半固定性補綴装置」や「可撤性補綴装置」の対語として用いられる名称。

**406 固定性補綴物**→「固定性補綴装置」参照

**407 固定性連結** こていせいれんけつ  
**fixed connection, rigid**

**connection**

ろう（鑲）付け法、溶接法、ワンピースキャスト法などにより、支台装置とポンティックとが固着される連結。

**408 コノメータ**

**Konometer** (商品名)

コーヌステレスコープ (Konuskronen Teleskop; cone crown telescope)の内冠製作時に、内冠軸面のコーヌス角の測定および内冠軸面の形成を行う器具。

**409 4/5冠** こぶんのよんかん

**four fifth crown**

白歯歯冠の5面のうち、頬側面を残して、両隣接面、舌側面、咬合面の4面を被覆する部分被覆冠の1つ。主にブリッジの支台装置として用いられるが、単冠や動揺歯の固定装置にも応用される。通常、有髄白歯に応用される。

**410 ゴム床** ーしょう

**valcanized rubber denture base**

加硫ゴム（蒸和ゴム）を材料とする義歯床。1850年代にアメリカで発明され、1880年代にデンタルガムとして輸入されはじめ、急速に広まり、第二次世界大戦終戦の頃まで利用されていた。材料的には、4種類（暗褐色、淡紅色および白色、黒色、金属粉混和）のシート状の製品が市販され、前歯部には淡紅色、臼歯部には暗褐色を使用した。アクリル樹脂の登場で過去のものとなった。

**411 固有口腔** こゆうこうくう

**oral cavity proper**

上下顎の歯列と歯槽部の前方部と左右側方部の内面により囲まれた内腔。上壁は口蓋、下壁は舌と舌下粘膜からなり、後方は舌根と口蓋舌弓、口蓋咽頭弓および軟口蓋後縁に囲まれ、口峽を介して咽頭に通じている。唾液により常に湿潤状態にあり、食物摂取および呼吸路の一部としての役割を担っている。義歯装着により固有口腔の容積が減少すると舌運動が妨げられ、咀嚼・発音機能に影響が及ぶ。



**412 コルベン状形態 [床縁の]** — じょうけいたい [しょうえん—]

**Kolbenähnlich Form** (独語)

辺縁封鎖による義歯の維持の強化や床下への食片の侵入防止などを目的として付与される義歯床縁部の断面形態。原義はドイツ語の Kolben (棍棒) であり、丸く、厚くなっている形態に因む。

**413 コンダイラー型咬合器** — がたこうこうき

**condylar articulator**

上弓に顆頭球 (コンダイル) をもち、下弓に顆路指導部を備えた構造の咬合器。

**414 コンタクトゲージ**

**Contact Gauge** (商品名)

歯間離開度を臨床的に測定するための器具。厚さ、50 $\mu$ m, 110 $\mu$ m, 150 $\mu$ m にて設定されたスチール板で構成される。  
→「歯間離開度」参照

**415 コンタクトポイント**

**interproximal (proximal) contact, occlusal contact**

〔同義語〕 接触点

- 1) 隣接歯と接触する歯あるいは補綴装置の隣接面の接触部位。
- 2) 歯あるいは補綴装置が対合歯と接触する咬合接触部位。

**416 コンビネーションクラスプ**

**combination clasp**

鑄造鉤と線鉤あるいは環状鉤とパークラスプなど、形態または材質の異なった鉤腕を組み合わせたクラスプの総称。

ワイヤーキャストコンビネーションクラスプ、ローチエーカーズコンビネーションなどがある。

**417 コンビネーションシンドローム**

**combination syndrome**

〔同義語〕 アンテリアーハイパーファン

クションシンドローム, anterior hyperfunction syndrome

Kelly (1972) の提案した用語で、上顎無歯顎、下顎両側性遊離端欠損患者において特徴的に見られる症候群。基本的な症状として上顎前歯部顎堤の骨喪失、上顎結節の下方への過形成、硬口蓋部の乳頭様増殖、下顎前歯の挺出および部分床義歯の義歯床下の骨喪失などがある。関連症状として、上顎前歯部のフラビীগムと歯肉頬移行部の線維症、下顎前歯の歯周組織変化、咬合平面の後方傾斜および下顎の前上方偏位がみられる。

**418 コンポジットレジン**

**composite resin**

多官能性メタクリレートを基材に用い、無機質フィラーなどを大量に添加したレジン。主に照射射によって重合される。補綴領域では、前装冠、ジャケットクラウン、既製人工歯などに使用される。

**419 根面アタッチメント** こんめん—  
**stud attachment**

根面に適用されるアタッチメント。オーバーデンチャーとの組み合わせで用いられ、緩圧型 (可動性) と非緩圧型 (固定性) とがあり、着力点が低くかつ歯根の中央にあるため、骨植不良歯にも有利とされる。ロサーマンエンセントリックロジン、シリンドリアルアンカー、シーカーアキシアルアタッチメント、Oリングアタッチメント、磁性アタッチメントなどがある。

**420 根面形成** こんめんけいせい  
**preparation of root**

根面板や根面アタッチメントなどを適用するための支台歯形成法。

**421 根面形態** こんめんけいたい  
**form of root surface**

ポストクラウンや根面板のための支台歯の根面の形態。根面を唇側で歯肉縁下0.5~0.8 mm, 舌側で歯肉縁上1 mmになるように2面に形成し, 舌側には歯肉縁下0.5~0.8 mm までハーフバンドを形成する平斜面形態や, 平面形態, 単斜面形態, 両斜面形態, 凸面形態, 凹面形態などがある。

**422 根面板** こんめんばん

**coping**

- 1) ポストクラウンにおける支台歯根面を覆う金属板の部分。
- 2) 支台歯の根面を覆う金属板の総称, 歯質の保護, 二次う(齲)蝕の防止, 咬合力による歯根破折の防止, 支台装置の連結などに用いられる。

さ

**423 最終印象**→「精密印象」参照

**424 最終義歯** さいしゅうぎし

**definitive denture**

補綴診療計画にもとづき, 暫間義歯による治療などを経て最後に製作される義歯。

**425 最終補綴装置** さいしゅうほてつそうち

**definitive prosthesis**

長期間使用するために計画・設計された補綴装置の総称。

**426 最前方咬合位** さいぜんぼうこうごうい

**most anterior (occlusal) position, most protrusive occlusal position**

上下顎の歯を接触させた状態で, 下顎を最も前方に突き出した顎位。切歯点部で咬頭嵌合位の前方約7~10 mmで, このとき下顎頭は関節結節最下端付近まで

前進している。

**427 最側方咬合位** さいそくほうこうごうい

**most lateral occlusal position**

上下顎の歯を接触させた状態で, 下顎を最も側方に変位させた顎位。切歯点部で咬頭嵌合位の側方約8~12 mmで, 下顎頭の運動が正常な場合には側方咬合位は左右対称性を示す。

**428 最大開口位** さいだいかいこうい

**maximal opening position**

開口時において上下顎の離開度が最大となる顎位。

**429 最大開口量** さいだいかいこうりょう

**maximal mouth opening**

最大開口位における上下顎の中切歯切縁間距離あるいは顎頂間距離。正常有歯顎者の平均値は50 mm程度であり, 40 mm以下は開口障害といわれている(Solberg, 1976)。

**430 最大咬合力** さいだいこうごうりょく

**maximal occlusal force**

力いっぱいのか(噛)みしめ時などに, 顎口腔系器官・組織の働きにより, 上下顎の歯あるいは人工歯咬合面に発現する力の最大値。一般に歯根膜の耐圧能によって決まるが, 顎口腔機能評価の指標の1つとして用いられる。

**431 最大豊隆線** さいだいほうりゅうせん

**circumferential line**

特定の方向から見た歯の最大円周を示す線。サベイヤーで設定された支台歯歯軸における最大豊隆線をサベラインという。

**432 最大豊隆部** さいだいほうりゅうぶ

**maximum convexity**

特定の方向から見た歯冠の唇・頬・舌側歯面における豊隆の最も大きい部位。

**433 彩度** さいど**chroma**

色の三属性の1つ。色の鮮明さ、濃さの感覚的尺度、無彩色を0とした各色相に共通な間隔尺度としている。ある色相に白色光を混合していくと次第にその色相が薄められていくが、これを彩度が低くなるという。

→「マンセル表色系」参照

**434 サイドシフト****side shift**

側方滑走運動時に、平衡側下顎頭の水平面内運動路で観察される内方（正中方向）への動き。平衡側下顎頭の下顎側方運動時に、ほぼ直線的に前内方に移動する progressive side shift と、運動の初期において内方へのずれや移動が大きく生ずる immediate side shift とがある。Guichet (1970) は、運動初期の4 mm間の側方顆路に見られるサイドシフトの様相を漸進型 (progressive type)、直後型 (immediate type)、早期型 (early type)、分散型 (distributed type)、混合型 (progressive and distributed type) の5型に分類した。

**435 作業側** さぎょうそく**working side**

咀嚼運動時または側方滑走運動時における下顎の外側方への移動側。

**436 作業側側方顆路** さぎょうそくそくほ

## うかる

**lateral condylar path on****working side**

側方滑走運動時における作業側下顎頭の運動経路。わずかに外方に移動するが、水平面内の運動は特にベネット運動 (Bennett's movement) と呼ばれる。このとき作業側顆頭の運動方向が水平面において

前頭面とのなす角で示されるものを作業側側方顆路角、作業側顆頭運動経路が前頭面において水平面との角度を作業側側方顆路傾斜 (度) という。

**437 作業用模型** さぎょうようもけい**working cast**

補綴装置の製作に使用する模型。

**438 削合【人工歯の】** さくごう [じんこうしー]**occlusal reshaping [of artificial teeth]**

義歯に用いる既製人工歯の咬合面形態や咬頭傾斜角を各個人の下顎運動要素に合致させ、咬頭嵌合位での均等な咬合接触と偏心位での咬合平衡を得るために人工歯の咬合面や切縁を削除、調整すること。

**439 サブストラクチャー****substructure**

インプラントを構成する要素のうち、支台となるインプラント体とそこに連結されるアバットメントを指す。

**440 サベイヤー****surveyor**

水平台、支柱、水平アーム、スピンドル、模型台から構成され、義歯の設計や技工操作に用いられる平行測定装置。主に部分床義歯の設計において、模型上で支台歯どうしやそれと関連する周囲組織の相対的な位置および形態を検討し、義歯の着脱方向の決定、サベイラインの記入、アンダーカット量の測定、鉤尖の位置の決定などを行うために使用するが、ブリッジ製作時における支台歯間の平行性の確認や複数のアタッチメントを平行に設置する場合などにも利用される。

専用付属品として、アナライジングロッド [測定杆] (analyzing rod)、カーボ

ンマーカー [炭素棒] (carbon marker), 補強鞘 (carbon sheath), アンダーカットゲージ (undercut gauge), ワックスアップ用ヘラ (wax trimmer), テーパーツール (taper tool), カuttingナイフ (cutting knife) がある。

#### 441 サベイライン survey line

義歯の着脱方向に基づいて、残存歯の最大豊隆部ならびに軟組織の最大突出部を連ねて表示した模型上の線。サベイヤーを用いて描記されることに因んだ名称。

#### 442 サベイング surveying

サベイヤーを用いる一連の技工操作。

#### 443 酸化亜鉛ユーージノール印象 さんか あえん—いんしょう zinc oxide eugenol impression

酸化亜鉛ユーージノール印象材による印象。通常、顎堤に大きなアンダーカットのない無歯顎の印象に用いられる。また、部分床義歯製作においては、オルタードキャスト法の中で粘膜面印象に用いることもある。

#### 444 酸化膜 さんかまく oxide film

金属あるいは合金の成分元素が酸素と結合し、表層に薄膜として形成された酸化物層。高温での加熱、鋳造操作などにより形成される。金属の種類によっては室温においても表層に酸化膜を生ずる。

#### 445 暫間義歯 さんかんぎし interim denture, provisional denture, temporary denture

最終義歯 (本義歯) を装着するまでの間、外観、機能などの義歯の目的を達成させるために、ある一定期間使用する義

歯。暫間義歯には、診断用義歯、治療用義歯、即時義歯、移行義歯などがある。

#### 446 暫間固定 さんかんこてい temporary splinting

歯周疾患や外傷などによって生じた歯の動揺を一定期間隣在歯に連結・固定することにより各種機能圧を複数歯に分散し、その病状の改善を図ることを目的とした処置。その処置方法としては、接着性レジン、金属線とレジン、ファイバーリボンとレジンを併用した結紮法などがある。

#### 447 暫間被覆冠→「プロビジョナルクラウン」参照

#### 448 暫間補綴装置 さんかんほてつそうち interim prosthesis

〔同義語〕暫間補綴物

最終的な補綴処置が施されるまでの間、審美性、咀嚼、発音、咬合機能の保持ならびに回復、または診断や治療の補助的手段として、比較的短期間の使用を前提とした補綴装置。プロビジョナルクラウン (provisional crown)、プロビジョナルブリッジ (provisional bridge)、暫間義歯 (interim denture) などがある。

#### 449 暫間補綴物→「暫間補綴装置」参照

#### 450 残根上義歯→「オーバーデンチャー」参照

し

#### 451 シェードガイド shade guide

人工歯、前装用材料、充填用材料、床用レジン、あるいは人工皮膚などの色調見本。

#### 452 シェードセレクション→「色調選択」参照

**453 自家製アタッチメント** しかせい**laboratory fabricational attachment**

各個人の歯の大きさや歯槽形態など症例に応じて自由に製作するアタッチメント。一部分がプラスチックパターンなどで半既製品化されているものもあるが、鋳造や平行切削器（パラレロメーター）によるミリングによって製作する。チャネルショルダーピン、テレスコープクラウン、I. R. V. などがある。

**454 歯科補綴学** しかほつづく**prosthetic dentistry, prosthodontics**

臨床歯科医学の一分野で、歯・口腔・顎・その関連組織の先天性欠如・後天的欠損・喪失や異常を人工装置を用いて修復し、喪失した形態、または障害された機能を回復するとともに、継発疾病の予防を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

**455 歯冠円錐** しかんえんすい**occlusal cone**

〔同義語〕咬合円錐

歯冠を歯軸方向の最大豊隆線で分割し、咬合面側の歯面に近似した直線を母線として仮定した円錐。義歯着脱方向における支台歯では非アンダーカット域となる。この部をスーパバルジエリア（suprabulge area）ともいう。

**456 歯冠外アタッチメント** しかんがい**extracoronal attachment**

アタッチメントの固定部のすべて、または一部が歯冠の外側に設置されているアタッチメントの総称。歯質削除量が少ない利点はあるが、支点が支台歯の外側

にあるため、支台歯を傾斜、回転させたり、不潔域を生じたりすることもある。緩圧（可動性）型と非緩圧（固定性）型アタッチメントがある。ミニダルボ、シーカーアタッチメント、ASC52 ビバル、などがある。

**457 歯冠型クラスプ** しかんがた**suprabulge clasp**

〔同義語〕スーパバルジクラスプ

鉤腕が支台歯の咬合面側から最大豊隆部を越えて維持領域に到達するクラスプの総称。

**458 歯冠軸** しかんじく**tooth crown axis**

歯冠の長径軸で中央部を通る仮想軸。歯冠軸の設定法には諸説あるが、その代表的なものは、唇（頬）舌方向から見て最大豊隆部の中点と歯頸幅径の中点とを結ぶ直線、さらに、近遠心方向から見て切縁（白歯部は最大豊隆部の中点）と歯頸厚径の中点とを結ぶ直線を想定し、この両者を含む仮想的な直線とする方法である。

**459 歯冠歯根比** しかんしこんひ**crown-root ratio**

正放線投影法によるエックス線写真上で、歯槽骨頂から歯冠方向への長さや歯根方向への長さとの比率。支台歯の圧負担能力の評価基準の1つ。

**460 歯冠修復物**→「歯冠補綴装置」参照**461 歯冠色材料** しかんしよくざいりょう**tooth-colored material**

歯の色に近い色を再現できる材料。大多数のレジン、コンポジットレジン、長石系陶材、ジルコニア系セラミックス、アルミナ系セラミックス、2ケイ酸リチウムガラスなどがある。

**462 歯冠内アタッチメント** しかんない

**intracoronary attachment**

アタッチメントの固定部が歯冠形態内に設置されたアタッチメントの総称。歯質削除量が多い欠点はあるが、支台歯の回転中心がアタッチメントの中心に近い。そのため、咬合圧などの機能圧を歯の長軸方向へ伝達しやすい利点がある。そのため、連結強度の大きい非緩圧型（固定性）アタッチメントが適用されることが多い。スターンG/L、ネイシェイズ、マッカラムTアタッチメントなどがある。

**463 歯冠補綴装置** しかんほつそうち

**crown restoration**

〔同義語〕歯冠修復物、歯冠補綴物

歯冠部硬組織の先天的あるいは後天的原因により生じた欠損ならびに審美的障害に対して、形態・機能・審美性を回復する目的で応用される修復物の総称。

**464 歯冠補綴物**→「歯冠補綴装置」参照

**465 歯間離開度** しかんりかいど

**interdental separation**

隣接歯間の接触強さを表す数値。草刈玄（1965）は、歯間部に30 $\mu\text{m}$ から300 $\mu\text{m}$ の厚さの異なるスチール板を指頭圧で挿入した時、挿入し得る最大の厚さを歯間離開度と名付けた。成年の正常歯列では上顎臼歯部で約90 $\mu\text{m}$ 、下顎臼歯部で約70 $\mu\text{m}$ であり、この値が150 $\mu\text{m}$ を超えると急激に食片圧入が起こり易くなる。臨床的には、コンタクトゲージを用いて測定する。

**466 歯間離開度検査** しかんりかいどげんさ

**examination of interdental separation**

歯冠修復を行う場合や歯周疾患の検査

のためにコンタクトゲージやデンタルフロスを咬合面方向から垂直に歯間に挿入し、隣接歯間の接触点の強さを調べる検査。歯間離開度が150 $\mu\text{m}$ を超えると食片圧入が起こる頻度が高くなる。

**467 色相** しきそう

**hue**

色の三属性の1つ。赤、黄、緑、青、紫などで表される色感覚の属性、およびそれを尺度化したもの。赤R、黄Y、緑G、青B、紫Pの主色相およびその中間色相をそれぞれ10区分した色相環により表す。

→「マンセル表色系」参照

**468 色調選択** しきちょうせんたく

**shade selection**

〔同義語〕シェードセレクション

個々の患者の歯や軟組織などに合わせて補綴装置の色調を選択または決めること。通常はそれぞれ専用のシェードガイドを用いる。

**469 軸眼窩平面** じくがんかへいめん

**axis orbital plane**

水平基準面の1つで、蝶番軸と左右側いずれかの眼窩下点を含む平面。この平面を用いて模型を咬合器へ装着した場合には、終末蝶番運動が再現できる。さらに、XPr機構（咬合器上で最後方の下顎頭位の他に、それよりも前方の下顎頭位を固定できる機構）を有する咬合器では、咬頭嵌合位と下顎後退接触位の両方を再現できる。

**470 軸面** じくめん

**axial surface**

歯の長軸に平行、あるいはそれに近い方向の歯面。

**471 軸面傾斜角**→「テーパー」参照

**472 軸面形成** じくめんけいせい

**axial reduction for tooth**

**preparation**

クラウンやブリッジの支台歯の長軸に平行、あるいはそれに近い方向での支台歯形成。広義には補綴装置軸面の形成加工も含む。軸面の垂直の高さやテーパは、装着される歯冠補綴装置の抵抗性と維持（保持）力やセメント合着時の浮き上がりなどに影響を与える。

**473 歯型** しけい**die**

形成した支台歯形態を再現した模型。

**474 歯型可撤式模型** しけいかてつきもけい**working cast with removable die**

〔同義語〕可撤歯型式模型

クラウン、ブリッジ製作時に使用する可撤式模型の1つで、ワックスアップを正確かつ簡易に行うため、歯型を歯列模型中に組み込み、必要に応じて可撤式歯型（removable die）を抜き差しできるように考案された作業用模型。歯型の根部にテーパを付与したり、既製のダウエルピンを利用する。

**475 歯型固着式模型** しけいこちゃくしきもけい**solid working cast**

〔同義語〕固着式模型、単一式模型

歯型と歯列模型が一体となっている作業用模型の1つ。歯型と歯列模型との位置関係が狂うことはないが、隣接面やマージン部のワックスアップ作業が困難であるため、精密な補綴装置の製作には、別途に副歯型が必要となる。一般的には個歯トレー、個人トレー、プロビジョナルクラウンなどの製作に用いられる。

**476 歯頸部辺縁形態** しけいぶへんえんけい**cervical margin form**

歯冠修復における、支台歯歯頸部の辺縁と修復物辺縁の断面形態。基本的な形態として、6種類（フェザーエッジ型、ナイフエッジ型、シャンファー型、ベベル型、ショルダー型、ベベルドショルダー型）がある。また、そのうちのフェザーエッジ型、ナイフエッジ型をショルダーレス型ともいう。

**477 歯根円錐**→「歯肉円錐」参照**478 歯根膜支持**→「歯根膜負担」参照**479 歯根膜支持義歯**→「歯根膜負担義歯」参照**480 歯根膜粘膜支持**→「歯根膜粘膜負担」参照**481 歯根膜粘膜支持義歯**→「歯根膜粘膜負担義歯」参照**482 歯根膜粘膜負担** しこんまくねんまくふたん**tooth and tissue-support**

〔同義語〕歯根膜粘膜支持

機能時に補綴装置に加わる力を歯根膜と顎堤粘膜の両者に負担させる概念。

**483 歯根膜粘膜負担義歯** しこんまくねんまくふたんぎし**tooth and tissue-supported denture**

〔同義語〕歯根膜粘膜支持義歯

機能時に発現する力を歯根膜と顎堤粘膜の両者に負担させる義歯。

**484 歯根膜負担** しこんまくふたん**tooth-support**

〔同義語〕歯根膜支持

機能時に補綴装置に加わる力を歯根膜のみに負担させる概念。

**485 歯根膜負担義歯** しこんまくふたんぎし**tooth-supported denture**

〔同義語〕歯根膜支持義歯

機能時に発現する力を歯根膜のみに負担させる義歯。

**486 支持 しじ**

**support**

咬合力によって生ずる歯あるいは補綴装置の沈下に抵抗する作用。

**487 歯軸 しじく**

**tooth axis**

歯の長径軸。藤田恒太郎(1949)が歯の計測の基準として提唱した、唇(頬)舌方向、近遠心方向いずれからみても歯の中央部を縦に貫く直線。なお、歯頸部の上下、すなわち、歯の中央部を重視し、根尖部の彎曲は考慮しないとしている。

**488 支持咬頭 しじこうとう**

**supporting cusp**

対合歯の咬合面窩あるいは辺縁隆線部に咬合し、咬頭嵌合位を保持する咬頭。

**489 支持粘膜 しじねんまく**

**supporting tissue**

機能時に義歯床に加わる力を負担する顎堤粘膜や口蓋粘膜。

**490 支持能力 しじのうりよく**

**supporting ability**

咬合力によって生ずる歯あるいは補綴装置の沈下に抵抗する能力。

**491 磁石構造体 しじやくこうぞうたい**

**magnetic assembly**

磁性アタッチメントの構成要素の1つ。内蔵された永久磁石と磁性材料のヨークとで磁路を形成して磁気力を発揮する。その構造によってキャップ型、サンドイッチ型などに分類される。

**492 歯周補綴 しじゅうほてつ**

**periodontal prosthesis**

1) 歯根膜粘膜負担義歯を製作する際、支台歯ならびに残存歯の歯周組織保全を重視し、清掃性や機能時に生じる応力の

配分を特に考慮して行う補綴処置。Amsterdam (1974)によって提唱された概念。

2) 高度に進行した歯周疾患に対する補綴処置。

**493 矢状顆路 しじょうかろ**

**sagittal condylar path**

矢状面に投影した顆路。特に矢状面に投影した前方滑走運動時の顆路を矢状前方顆路、側方滑走運動時の平衡側下顎頭の顆路を矢状側方顆路という。

**494 矢状顆路傾斜角(度) しじょうかろ**

けいしやく(ど)

**inclination of sagittal condylar path**

矢状面に投影した顆路が水平基準面となす傾斜角度。特に前方滑走運動時の矢状顆路傾斜角を矢状前方顆路傾斜角、側方滑走運動時のそれを矢状側方顆路傾斜角という。

注)「~角」はどのような角度を表す場合にも用いられるが、「~傾斜」は基準水平面に対する角度を表す場合のみに用いられる。また、矢状顆路傾斜と矢状顆路傾斜角は同義語で用法としてどちらも誤りとは言えないが、定量的に角度を表す場合には角をつけて傾斜角とすることが望ましい。

**495 矢状切歯路 しじょうせつしる**

**sagittal incisal path**

矢状面に投影した切歯路。特に矢状面に投影した前方滑走運動時の切歯路をいう。

**496 矢状切歯路傾斜角(度) しじょう**

せつしるけいしやく(ど)

**inclination of sagittal incisal path**

矢状面に投影した切歯路が水平基準面となす傾斜角度。特に矢状面に投影した前方滑走運動時の切歯路が水平基準面と



なす角度をいう。

→「矢状顎路傾斜角」参照

**497 矢状面** しじょうめん

**sagittal plane**

正中面に平行で、生体を左右部分に分割するすべての仮想平面。

**498 自助具** じじょぐ

**self-help device**

何らかの機能障害を持つ者に対し、その機能を補うか代償することにより日常生活動作(ADL)や社会生活行為(ASL)などを容易にし、自立を助けるための道具。動作の目的、障害の性質・程度などによって分類できる。補綴歯科分野では義歯用ブラシの把柄を持ちやすく太くすることなどがあてはまる。

**499 磁性アタッチメント** じせい—

**magnetic attachment**

磁石構造体とキーパーとから構成され、両者の磁氣的吸着力を利用した補綴装置の支台装置。

**500 歯槽頂** しそうちよう

**residual ridge crest**

歯の喪失による歯槽突起の骨改造によって鞍状に変化した顎堤の頂上。

**501 歯槽頂間線** しそうちようかんせん

**interalveolar crest line,  
interalveolar ridge line**

中心咬合位で相対する上下顎歯槽頂を上下方向に結んだ直線で、臼歯部顎堤の前頭面内における対向関係を表示する線。通常、無歯顎補綴における人工歯排列において、義歯の維持・安定を確保するための頬舌の排列位置を決定するために用いられる。具体的には、人工歯の上顎第一大臼歯の舌側咬頭内斜面および下顎第一大臼歯の頬側咬頭内斜面の頬舌的中点がこの線に一致するように排列す

る。

これによって片側性咬合平衡が確保される。

**502 歯槽頂線** しそうちようせん

**alveolar ridge line**

歯槽頂を連ねた線。本来、顎堤弓に沿って彎曲を描いているが、人工歯排列のための基準線などとしては直線で表す。

**503 支台** しだい

**abutment**

補綴装置を維持(保持)・支持・把持するための歯やインプラント。

**504 支台歯** しだいし

**abutment tooth**

〔同義語〕維持歯、鉤歯

補綴装置を維持(保持)・支持・把持する歯。

**505 支台歯間線** しだいしかんせん

**fulcrum line**

〔同義語〕鉤間線

1) 部分床義歯が咀嚼力などの外圧により主にレストを支点として回転を生じることを仮想した回転軸。部分床義歯の設計において、力学的安定性の目安とされる。

2) ブリッジが咀嚼力などの外圧により各支台歯を支点として回転を生じることを仮想した回転軸。ブリッジの設計において、力学的安定性の目安の1つとされる。特に、歯列のカーブにまたがる曲線的なブリッジでは、左右の第一支台歯を結ぶ線を中心としてブリッジを転覆させる力が働くので、テコとして作用する部分の長さ以上の支台歯数を反対方向へ延長増加させる必要があるとした Sadrin の法則(1913)がある。

**506 支台歯形成** しだいしけいせい

**preparation for abutment tooth**

支台歯形態を得るために、切削器具を用いて歯を切削形成すること。

**507 支台歯形態** しだいしけいたい

**abutment tooth form**

補綴装置を装着あるいは維持・支持する目的で支台歯に付与される形態。

**508 支台装置** しだいそうち

**retainer**

〔同義語〕維持装置

可撤性および固定性補綴装置を支台歯に連結するための装置。

**509 支台築造** しだいちくそう

**abutment build up, foundation restoration**

歯冠の一部分または大部分が欠損し、そのままでは被覆冠のための適正な支台歯形態が得られない場合に、人工材料によって欠損歯質を補い、支台歯形態を整えること。欠損歯質の状況により、以下から選択される。

①成形充填材による築造：セメント築造、レジン築造、アマルガム築造。②既製ピン、既製の金属ポスト、ファイバーポストと成形充填材を併用する築造。③金属による築造：鋳造による築造（鋳造ポストとコア部を一塊で鋳造）、既製ピンや既製ポストと鋳造体を併用する築造など。なお、鋳造操作によって製作された築造体をメタルコア（metal core）と呼ぶことがある。

**510 自動削合** じどうさくごう

**milling in**

選択削合によりほぼ調整された全部床義歯の咬合面形態を、全体的に同時にスムーズに仕上げるために行う削合法。カーボラダグムグリセリン泥を下顎歯の咬合面に均一にのせた後に咬合せ、咬合器の上弓を軽く押さえながら側方滑走

運動と前方滑走運動を行い、この操作を切歯指導釘が指導板上をスムーズに滑走するまで繰り返す。

**511 歯肉圧排** しにくあっぱい

**gingival retraction**

歯肉縁下における支台歯形成、印象採得、合着操作などを行う場合に、それぞれの作業を容易にすることや歯肉に損傷を与えないために、該当する部位の歯肉を一時的に歯面から排除すること。機械的、薬物的、両者の併用および電気メスを用いた方法がある。

**512 歯肉円錐** しにくえんすい

**gingival cone**

〔同義語〕歯根円錐

歯冠を歯軸方向の最大豊隆線で分割し、歯肉側の歯面に近似した直線を母線と仮定した円錐。義歯着脱方向における支台歯ではアンダーカット域となり、クラスプの維持に関与する。この部分をインフラバルジエリア（infrabulge area）ともいう。

**513 歯肉型クラスプ** しにくがた

**infrabulge clasp**

〔同義語〕インフラバルジクラスプ

鉤腕が支台歯の歯肉側からアンダーカット域に到達するクラスプの総称。代表的なものにローチクラスプやIパークラスプがある。

**514 歯肉頬移行部** しにくきょういこうぶ

**mucobuccal fold**

白歯部口腔前庭で可動粘膜である頬粘膜が不動粘膜である歯肉粘膜へ移行する部分。一般に義歯床縁部がここに設定される。

**515 歯肉形成** しにくけいせい

**festoon**

ろう（蠟）義歯の人工歯頸部から義

歯床縁に至るまでの歯肉に相当する部分、すなわち床の研磨面をワックスで形成し所要の形態に仕上げる作業。義歯床研磨面形態は咀嚼、発音、審美性および舌感に関係があるだけでなく、義歯の維持・安定にも影響する。

### 516 歯肉鉤 しにくこう

#### gingival clasp

顎堤のアンダーカットにバー状の床用レジンや軟性レジン義歯床から延長して義歯の維持を補助する装置。上下顎前歯部の唇側部、上顎結節の頬側部などに応用される。

### 517 歯肉唇移行部 しにくしんいこうぶ

#### muco labial fold

口唇部の口腔前庭で、可動粘膜である口唇粘膜が不動粘膜である歯肉粘膜へ移行する部分。歯肉頬移行部と同様に、義歯床縁の設定部位とされることが多い。

### 518 篩分法〔咀嚼能率の〕 しぶんほう〔そしゃくのうりつ—〕

#### sieving test [of masticatory efficiency]

回数を規定して咀嚼した一定重量の食品をふるいにかけて、残留した粒子の乾燥重量を測定することによって通過した重量との比率から咀嚼能力を判定する方法。

ピーナッツを用いる Manly (1950) の方法と、生米を用いる石原寿郎 (1955) の方法とが代表的である。そのほかの食品としてはニンジン、乾しぶどう、かまぼこなどが用いられる。測定は10メッシュのふるいにより行われることが多く、主として粉碎能力を測定している。

### 519 ジャクソンクリブクラスプ

#### Jackson crib clasp

1本のワイヤーをループ状に屈曲して

頬側歯頸部のアンダーカットを利用するクラスプ。Jackson (1911年)により考案された。頬側歯頸部に沿ってアンダーカット歯面に適合する横走部、近心と遠心の隣接面に垂直に屈曲した縦走部、咬合面部で水平に屈曲した隣接面横断部、これに続く鉤脚部(オリジナルは舌側金属板にろう(鑲)付け)により構成される。

### 520 ジャケットクラウン

#### jacket crown

〔同義語〕オールセラミック クラウン

レジン、陶材などの審美性に優れた修復材料のみを用いて製作された全部被覆冠。歯質削除量の多い被覆冠であり、支台歯と一体化されないと耐衝撃性に劣るが、金属色が外観にふれないため審美性の優れた歯冠補綴装置である。

### 521 シャンファー型 —がた

#### chamfer type

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の1つ。丸みを帯びた斜面形態のため、歯質との移行部は明瞭で修復物との適合性がよく、修復物辺縁の厚みも確保することが可能となり、铸造冠などの一般的な辺縁形態として応用される。また、修復物辺縁の厚みをさらに増すため、径の大きい先端に丸みをもったバー、ポイントで削った辺縁形態をヘビー(デューブ)シャンファー型(heavy chamfer type, deep chamfer type)と呼ぶ。

### 522 手圧印象 しゅあついんしょう

#### finger pressure impression

加圧印象の1つで、術者の手指圧によって義歯床下粘膜を加圧下で採得する印象。

**523 自由運動咬合器** じゅううんどうこう  
ごうき

**free joint articulator**

下顎運動の指導機構をもたず、上下顎模型に自由な可動性を与えた咬合器。咬頭嵌合位は上下顎の模型の接触のみで保持され、偏心運動は模型の咬合面だけで誘導される。

**524 習慣性開閉口運動** しゅうかんせいかい  
いへいこううんどう

**habitual opening and closing  
movement**

無理なく自然に、あるいは反射的に行われる下顎の開閉運動。通常、咬頭嵌合位にはじまり、開口後、やや異なる閉口路を経て咬頭嵌合位に終わる。

**525 習慣性咬合位** しゅうかんせいこうご  
うい

**habitual occlusal position**

習慣的な閉口運動の終末位。正常有歯顎者では咬頭嵌合位と一致するとされている。

**526 習慣性咀嚼側** しゅうかんせいそしゃ  
くそく

**habitual masticatory side**

咀嚼動作における利き側。咀嚼運動は随意運動であると共に、半無意識のうちに食塊の物理的性状の変化に対応して最適な顎運動パターンをとる反射的要素の強い運動でもある。人間の四肢においても利き手、利き足があるように、咀嚼運動においてもか（嚙）みやすい側、無意識のうちにか（嚙）む側があり、片側のみで咀嚼する人のほうが多い。習慣性咀嚼側は、歯、歯周組織、顎関節などによっても影響を受け、よりか（嚙）みやすい側で咀嚼するよう習慣づけられる一種の適応反応とも考えられる。

**527 終末蝶番位** しゅうまつちようばんい  
terminal hinge position

左右下顎頭が終末蝶番運動を行える範囲にあるときの顎頭に対する下顎の位置。

**528 終末蝶番運動** しゅうまつちようばん  
うんどう

**terminal hinge movement**

左右の下顎頭が最後方位にあるときの蝶番運動。

**529 終末蝶番軸** しゅうまつちようばんじ  
く

**terminal hinge axis**

蝶番軸の1つとして代表的なもので、下顎最後退位で蝶番運動を行うときに回転中心となる軸。

**530 終末蝶番点** しゅうまつちようばんて  
ん

**terminal hinge axis point**

下顎に存在する終末蝶番軸を延長して皮膚上に現れた点。上顎模型を咬合器にトランスファーする場合に用いられる後方基準点の1つ。

**531 床縁** しょうえん  
denture border

義歯床の粘膜面と研磨面との境界部。部位により唇側床縁、頬側床縁、口蓋床部後縁、舌側床縁に分ける。

**532 床外形線** しょうがいけいせん  
denture base outline

床縁の位置を研究用模型あるいは作業用模型上に記入した線。一般的には、筋圧形成による精密印象により得られた作業用模型では、その辺縁の最深部が床外形線となる。単なる線ではなく、幅のある領域として理解されている。

**533 上顎結節** じょうがくけつせつ  
maxillary tubercle

臨床的には、上顎最後臼歯が喪失した

後にも吸収されずに残り、他の歯槽骨部が吸収された結果として生じた上顎顎後後方に位置する膨隆部。被覆粘膜は薄く硬い。著明な場合には、リリースが、さらに義歯の着脱に支障をきたす場合などには外科的切除が必要である。また、上顎全部床義歯床はこれを完全に覆わなければならない。

なお、解剖学名としての上顎結節は、上顎骨背側（側頭下面）にある骨の粗面部をいう。

**534 上弓【咬合器の】** じょうきゅう [こうこうきー]

**upper bow [of articulator]**

咬合器の上部構造で上顎模型を装着する金属製の体部。後方部には顎路指導、顎頭間距離調節などの機構がついている。アルコン型咬合器の関節部は顎路指導部を備え、コンダイラー型咬合器では顎頭球を備えた形式である。前方部には切歯指導機構とオルビタルロケーターの着脱機構を備えている。

**535 症型分類【補綴治療における】** しょうけいぶんるい [ほてつちりょうー]  
**classification system [for prosthodontic treatment]**

歯質、歯の欠損の病態を評価し、補綴治療の難易度を分類するもの。2004年から日本補綴歯科学会での策定を開始し、現在まで、口腔の条件、身体社会的条件、口腔関連 QOL、精神医学的条件のフォームが作成されている。

治療計画、治療の到達目標などを決定するための基本となる。術者の技量や経験に左右されることなく、エビデンスの蓄積、医師間の情報交換、症例の選択、インフォームドコンセントなどにも有用である。

**536 笑線** しょうせん

**smile line**

咬合状態のまま笑ったときに、上唇を最大限に挙上した位置と下唇を最大限に下制した位置を示す線。上下顎前歯人工歯歯頸線の位置の指標となる。

→「微笑線」参照

**537 上部構造（体）【インプラントの】**

じょうぶこうぞう (たい)

**superstructure [of implant prosthesis]**

インプラントを支台とする補綴装置。オッセオインテグレートッドインプラントにおいては、アバットメント、フレーム構造、人工歯そして義歯床も含めて上部構造と呼ぶのが一般的である。骨膜下インプラントにおいては、人工歯と義歯床の部分の意味し、フレームから突出したアバットメントならびにその連結部分は中間構造体と称して区別することもある。

→「下部構造（体）」、「中間構造（体）」参照

**538 床翼** しょうよく

**denture flange**

義歯床の人工歯歯頸部から床縁にいたるまでの部分。頬側床翼、舌側床翼など、特に翼状の形態をなす部分をいう。

**539 小連結子** しょうれんけつし

**minor connector**

クラスプやレストなどを義歯床や大連結子に連結する金属部分。鉤脚やレストの脚部と同義となることが多い。

**540 初期接触** しょうきせつしよく

**initial occlusal contact**

習慣性閉口路にそって閉口するとき、最初に生じる咬合接触。

**541 食片圧入** しょくへんあつにゆう  
**food impaction, impaction of food debris**

歯間部へ食片が押し込まれること。不適切な隣接接触関係（歯間離開度，鼓形空隙の形態）や咬合関係（くさび状咬頭）などにより垂直に起こる場合と，舌や頬粘膜の圧により水平性に起こる場合がある。歯周疾患やう（齲）蝕を引き起こす可能性がある。

**542 食物粉砕度** しょくもつぶんさいど  
**degree of food pulverization**

規定回数の咀嚼により食物が粉砕される程度。咀嚼能率を評価するために用いられ，粉砕された食物の粒子の大きさを測定する方法と，食物の表面積の増加程度を計算式で求める方法がある。

**543 ショルダー型** ーがた  
**shoulder type**

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の1つ。支台歯軸面にほぼ直角に形成されるため，歯質との移行部は明瞭であるが，歯質削除量は多く，継ぎ手接合（butt joint）となるため，セメント合着時の浮き上がりが大きい。しかし，修復物辺縁の厚みを十分にとることが可能となり，前装用材料のスペースや修復物の強度を確保することができるため，ジャケットクラウンや前装冠の辺縁形態として適用される。

**544 シリコンゴム印象** ーいんしょう  
**silicone rubber impression**

縮重合型と付加重合型に分類されるシリコンゴム印象材による印象。硬化後の寸法安定性に優れているため，有歯頸から無歯頸まで，精密印象として広く用いられる。

**545 ジルコニア**  
**zirconium oxide, zirconia**  
 【同義語】酸化ジルコニウム，二酸化ジルコニウム

通常  $ZrO_2$  の構造で存在する酸化物。イットリアを添加して室温における結晶構造を安定化させた材料はイットリア部分安定化ジルコニアといい，歯冠修復および欠損補綴の構造材料として使用される。

**546 ジルコニアブロック**  
**zirconia block**

歯科用 CAD/CAM システムのミリングに用いられるブロック。完全焼結型ブロックと部分焼結（半焼結型）ブロックがある。ミリング前に完全焼結したものを完全焼結型，ミリング後に完全焼結するものを部分焼結型（半焼結型）と呼ぶ。

**547 シングルデンチャー**  
**single denture**

上下顎のいずれかが無歯頸の場合に適応される全部床義歯。対顎が①天然歯列である場合，②部分欠損はあるが固定性ブリッジで修復された歯列の場合，③部分欠損はあるが可撤性部分床義歯が装着されている場合，④全部欠損であるが全部床義歯が装着されている場合がある。（Heartwell：1974）。

**548 人工歯** じんこうし  
**artificial tooth**

天然歯の代用として用いる歯。一般的には，レジン歯と陶歯が用いられるが，特殊な場合には金属歯も用いられる。

**549 人工歯根** じんこうしこん  
**artificial tooth root**

歯が失われた部位の顎骨に植立され，補綴装置の支台として用いられる人工物。

→「口腔インプラント」参照

**550** 人工歯肉 じんこうしにく

**artificial gum**

- 1) 歯肉の退縮や欠損を人工物によって補い、審美性を修復する義歯床に類似した装置。
- 2) 支台歯と歯肉の関係を再現するために、間接法作業用模型に付与される弾力性のある疑似歯肉。

**551** 人工歯肉付模型 じんこうしにくつきもけい

**working cast with artificial gum**

〔同義語〕 ガム模型

クラウンやブリッジの製作時に応用される間接法作業用模型で、歯型周囲の歯肉に相当する部分が、弾力性を有するゴム質印象材や軟性樹脂などの人工歯肉材料で可撤性に再現された模型。

人工歯肉が付与されている状態では、カントウア、エンブレジャーの調整やクラウンのマージンと歯肉縁との位置関係の確認が正確となり、また、人工歯肉を取り外した場合には、支台歯辺縁部の形成状態、クラウン辺縁部の適合状態や前装用材料の歯頸部における築盛状態の確認が容易となる。

**552** 人工歯排列 じんこうしはいれつ  
**arrangement of artificial teeth**

義歯製作過程において、人工歯を咬合床に並べること。前歯部では、患者の性別・顔形・性格・年齢などに調和した外観と発音機能を考慮し、臼歯部では、義歯の維持・安定と咀嚼機能を考慮して排列する。上顎から排列する方法（上顎法）と下顎から排列する方法（下顎法）とがある。

**553** 靭帯位 [下顎の] じんたいい [かがく—]

**ligamentous position [of mandible]**

下顎頭が外側靭帯（側頭下顎靭帯）によって規制される顎位。中心位、終末蝶番位と同義として使われることが多い。

**554** 診断用義歯 しんだんようぎし

**diagnostic denture**

診断および治療計画の立案のために、暫間的に装着される義歯。

**555** 診断用ワックスアップ→「診断用ワックスアップ」参照

**556** 診断用ワックスアップ しんだんよう—

**diagnostic waxing up**

〔同義語〕 診断用ワックスアップ

補綴治療を行う前に、最終補綴処置によって修復されることが予想される歯列や歯肉の形態をワックスで成形すること。全顎におよぶクラウンブリッジによる咬合再構成や、インプラント治療を行う場合に多用される。

**557** 審美障害 しんぴしょうがい

**esthetic dissatisfaction, cosmetic disturbance**

歯、歯肉の色調や形態の不良、歯列の不正、歯の欠損、口腔領域と顔貌との不調和などを訴えた状態あるいはそれを表す病名。色調や形態などの客観的評価が可能なものから、患者の内的イメージと現実とのギャップによる葛藤状態から生じた精神心理学的なものまで病態はさまざまである。不良補綴装置もその原因になりうる。

## す

**558 推進現象【義歯の】** すいしんげんしょう  
う [ぎしー]

**denture propulsion**

上下顎の義歯が咬合した場合、人工歯の咬頭傾斜によって義歯が前後的（矢状推進現象；forward propulsion）あるいは左右的（側方推進現象；latero propulsion）に移動する現象、顎堤の傾斜によっても発現する。

**559 垂直的顎位** すいちよくてきがくい  
**vertical mandibular position**

上顎に対する下顎の垂直的な位置。

**560 垂直被蓋**→「オーバーバイト」参照

**561 水平基準面** すいへいきじゅんめん  
**horizontal plane of reference**

頭蓋に特定の3点を定めて決定される仮想平面。通常、1つの前方基準点と2つの後方基準点で決定されるが、前者には眼窩下点や鼻翼下縁あるいは鼻下点、また、後者には平均的顎頭点や蝶番点を用いられる。フランクフルト平面、カンペル平面、咬合平面などがある。

**562 水平的顎位** すいへいてきがくい  
**horizontal mandibular position**

上顎に対する下顎の水平的な位置。

**563 水平被蓋**→「オーバージェット」参照

**564 水平面** すいへいめん  
**horizontal plane**

- 1) 正中面と前頭面とに直交して、生体を上部と下部とに分割するすべての仮想平面。
- 2) 歯において、歯軸に直交する仮想平面。

**565 睡眠時無呼吸症候群（SAS）** すい  
みんじむこきゅうしょうこうぐん(えす  
えーえす)

**sleep apnea syndrome**

睡眠時に呼吸停止または低呼吸になる病気。閉塞性（OSAS：上気道の閉塞によるもの）、中枢性、および混合性（閉塞性と中枢性の混合型）に分類される。閉塞性のみ歯科的治療の対象となる。

→「OSAS 治療用口腔内装置」、「経鼻的持続陽圧呼吸療法（CPAP 療法）」参照

**566 スーブラパルジクラスプ**→「歯冠型  
クラスプ」参照

**567 スクリュー固定式** ーこていしき  
**screw retaining system**

歯冠補綴装置のアバットメントへの連結方法の1法。補綴装置への損傷を最小限にしなが、口腔内の状況の変化などへの対処など、必要に応じてその着脱ができる術者可撤機構の代表例とされる。しかし、複数支台を補綴装置により連結する症例では、きわめて高い適合性が得られない場合には、スクリューの緩みあるいは破折の要因となり、さらにはインプラント周囲骨に吸収をきたすことも起こり得る。

→「セメント固定式」参照

**568 スタディモデル**→「研究用模型」参照

**569 スタビライゼーションスプリント**  
**stabilization splint**

オクルーザルスプリントの1つ。均等な咬合接触を付与することで下顎の安静を得ることを目的として、上下顎歯列のいずれかの咬合面全体を被覆する全歯列型スプリント。

→「スプリント」参照



**570 ステント****stent**

1) 放射線照射治療時の小線源の保持、インプラント植立時の植立方向のガイドなどに用いられる、補助装置の総称。

→「スプリント」参照

2) 軟組織を保持・固定する装置の総称。外科処置に併用され、移植皮膚片の保持や保護に利用するもの、あるいは形成外科手術後の患部の軟組織を一定期間、定形に保つ装置などがある。

**571 ストラップ****strap**

大連結子の1つで、部分床義歯の複数の構成部分を連結する、帯状の金属部分。バーとプレートとの中間的な幅のものをいう。一般的にストラップの用語は、パラタルストラップとして、上顎義歯にのみ用いられる。

**572 スパー****spur**

部分床義歯の安定を得る目的で支台歯間線を挟んで義歯床とは反対側の歯の舌側面に設置されるレストのような形態をした補助支台装置の1つ。小連結子により義歯床または大連結子に結合され、単独では維持力を発揮しないが、義歯の動きに抵抗して義歯を安定させる点で間接支台装置でもある。前歯舌側面に設置した場合、歯の唇側移動を起こすことがある。

→「フック」参照

**573 スピーチエイド****speech aid**

〔同義語〕軟口蓋挙上装置

鼻咽腔閉鎖機能の不全による構音障害の改善を図ることを目的とした補綴装置。口蓋裂のような軟口蓋欠損部を物理

的に閉塞する鼻咽腔閉鎖型 (pharyngeal bulb type) と神経麻痺による軟口蓋部の運動障害などに適用される軟口蓋挙上型 (palatal lift type) とがある。後者は軟口蓋挙上装置 (palatal lift prosthesis; PLP) と呼ばれる。

→「バルブ型鼻咽腔補綴装置」参照

**574 スピーの彎曲** — わんきょく**curve of Spee**

下顎犬歯の尖頭と小白歯、大白歯の頰側咬頭頂を連ねた線を矢状面に投影した際に現れる円弧。ドイツの解剖学者 Spee (1890) によって発見されたため、この名がある。彼はこの円弧が下顎頭の前縁を通り、その中心は、眼窩内涙骨上縁付近にあると考えた。

**575 スプーンデンチャー****spoon denture**

主に上顎前歯少数歯欠損症例に適用されるクラスプのない暫間義歯。その外形がスプーンに似ていることに基づいた名称。

**576 スプリットキャスト****split cast**

基底部にくさび型の溝を持つ作業用模型。これにより作業用模型を咬合器から容易に取り外し、かつ正確に復位することができる。また、半調節性咬合器の頰路調節に利用できる。模型に溝を付ける代わりに、既製のスプリットマウンティングプレートが使われることがある。

**577 スプリットバー****split bar**

その長軸方向に割れ目 (スリット、スプリット) を付与して、弾力性を持たせた緩圧型の大連結子。

**578 スプリンティング****splinting**

変位した組織あるいは可動性の硬組織を一定期間、適切な位置に固定する処置。

**579 スプリント****splint**

本来は変位した組織あるいは可動性の硬組織を一定期間、適切な位置に固定する装置の総称。軟組織を対象とするステントに対応する用語。

- 1) 骨折により転位したり不安定となった部位を整復し、固定する装置。
- 2) 動揺歯の連結固定装置。
- 3) 顎関節症の治療などに用いられ、下顎を適切な位置に誘導する、いわゆるオクルーザルスプリント。

**580 スリークォータークラウン**→「3/4冠」参照**581 スリーブ****sleeve**

バーアタッチメントの構成要素の1つ。フィメールの部分、あるいはそれに付与されるさや状、またはレール状の構造物。なお、スライド型アタッチメントのフィメール部分を意味することもある。

**582 すれ違い咬合** —ちが—こうごう**non-vertical stop occlusion**

上下顎に残存歯があるにもかかわらず、咬頭嵌合位を失っている咬合（尾花甚一、1952）。上下顎の残存歯が、左右的にすれ違って存在する場合と、前後的にすれ違って存在する場合があり、それぞれ左右の臼歯群のすれ違い咬合と、前歯群と臼歯群のすれ違い咬合が典型的である。残存歯と対向する顎堤の骨吸収が大きく、咬合平面の設定が困難で、義歯の設計が難しい。

**せ****583 正中線** せいちゅうせん**median line**

生体（物）を左右に分割する中心線。

**584 正中面** せいちゅうめん**median plane**

生体（物）を縦断して左右に2等分する、正中線を含んだ仮想平面。

**585 生物学的幅径** せいぶつがくてきふくけい**biologic width**

歯肉辺縁から歯槽骨頂までの歯周組織を歯肉溝・上皮性付着・結合組織性付着の3つに分類した場合の上皮性付着と結合組織性付着を合わせた距離。一般に、歯冠補綴装置のマージンを歯肉縁下に設定する際、フィニッシュラインの位置は、生物学的幅径が遵守されなければならない。生物学的幅径を損傷する位置に歯冠補綴装置のマージンを設定すると炎症が惹起され、それは生物学的幅径が改善されない限り消退しないとされている。

**586 精密印象** せいみついでんしょう**precise impression**

〔同義語〕最終印象、final impression

補綴装置を製作する目的で採得する寸法精度や表面精度などに優れた印象。

**587 積層一回印象**→「二重同時印象」参照**588 舌圧痕** ぜつあつこん**indentation of tongue**

舌尖から舌側縁にみられる歯列の圧痕。舌習癖やクレンチングによって生じるといわれる。

**589 石膏コア** せつこう—**plaster core, plaster index**

支台歯形成や補綴装置製作時に、支台歯や人工歯の形態、排列状態、位置関係などを保存するために、それらを石膏で記録したもの。

**590 切歯指導釘** せっしどうてい  
**incisal guide pin, anterior guide pin**

咬合器上弓の最前方部に取り付け、垂直的顎間関係を保持し、切歯指導板の誘導に対応して矢状および側方切歯路を再現するためのピン。

**591 切歯指導板** せっしどうばん  
**incisal guide table**

咬合器下弓の最前方部に取り付け、切歯指導釘を誘導し、顎間距離の保持ならびに矢状および側方切歯路を再現するためのテーブル。金属製とプラスチック製とがある。

**592 切歯点** せっしてん  
**incisal point**

下顎左右側中切歯の近心隅角間の中点。咬合平面の基準点や顎運動の測定点として用いられる。

**593 摂食・嚥下** せっしょく・えんげ  
**eating and swallowing**

食物を認知してから胃に送り込むまでの一連の動作。随意運動と反射運動が複雑に組み合わせられ、多くの臓器や器官が機能して営まれる。食物を認知してから口腔内に取り込む先行期（認知期）、食物を口腔へ取込んでから咀嚼によって食塊を形成する準備期（咀嚼期）、食塊を搾送運動により咽頭へ送り込む口腔期、食塊を嚥下反射により食道へと送り込む咽頭期、食塊を蠕動運動により食道を通過して胃へと送り込む食道期の5期に分けられる。特に嚥下については、口腔期、咽頭期、食道期を指して嚥下の3期とも

いう。

「期」はそれぞれの時期に働く組織活動を基準として区別される用語であり、口腔相、咽頭相、食道相などの「相」は食塊の動きを基準として使用される。

→「摂食・嚥下障害」「嚥下障害」参照

**594 摂食・嚥下障害** せっしょく・えんげしょうがい  
**dysphagia, eating problem**

摂食・嚥下に関連する器官や神経の機能障害により食べる能力が低下した状態あるいはそれを表す病名。成人あるいは高齢者の摂食・嚥下障害は、獲得された摂食・嚥下機能が何らかの原因により失われ、減退することにより生じる。評価・検査方法には、特殊な機器を用いないスクリーニング検査と機器を用いた診断のための精密検査がある。

→「嚥下障害」参照

検査方法→「嚥下造影検査」、「嚥下内視鏡検査」、「改訂水飲みテスト」、「反復唾液嚥下テスト」参照

**595 摂食・嚥下リハビリテーション**  
 せっしょく・えんげ  
**dysphagia rehabilitation**

摂食・嚥下障害がある人を元の状態あるいは日常支障のない範囲の状態に近づける医療行為。医師、歯科医師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、栄養士、看護師、歯科衛生士、保健士などの多職種連携が必要になる。実際には、機能障害と能力低下を評価し、それぞれへの介入を行い再評価を繰り返す。

→「嚥下障害」、「摂食・嚥下」、「摂食・嚥下障害」参照

歯科的対応のための補綴装置→「嚥下補助装置」、「スピーチエイド」、「舌接触

補助床」, 「軟口蓋挙上装置」参照

**596** 接触点 せつしよくてん

**contact point, contact surface**

1) 隣接する歯が互いに点状あるいは小面状に接触している部位。正常歯列においては、上下的には前歯部で歯冠切縁から1/5~1/4, 臼歯部では歯冠咬合面から1/3の位置, また頬舌的には前歯部で中央やや舌側寄り, 臼歯部で中央からやや頬側寄りの位置に存在する。

2) 咬合時に対合する歯が互いに点状あるいは小面状に接触する部位。

**597** 切歯路 せつしろ

**incisal guidance, incisal path**

顎運動時に切歯点あるいは切歯部の前方に設定した標点を示す運動経路。特に滑走運動時の運動経路をいう。顎路とともに顎運動の重要な要素であり, 種々の顎運動に対応してさまざまな経路をとる。

**598** 切歯路調節機構 せつしろちようせつきこう

**adjustable anterior guidance**

平均値咬合器や調節性咬合器において, 切歯指導釘と切歯指導板より構成され, 切歯路を再現あるいは設定するための機構。

**599** 舌接触補助床 ぜつせつしよくほじょう

**palatal augmentation prosthesis, PAP**

義歯あるいは口蓋床の口蓋部を肥厚させ, 舌の口蓋への接触を与え, 咀嚼, 発音, 嚥下などの口腔機能改善を図るための補綴装置。PAPとも呼ばれる。

**600** 切端咬合 せつたんこうこう

**edge to edge occlusion**

咬頭嵌合位において, 上下顎の前歯が

切縁どうして接触する咬合様式。

**601** 切端咬合位 せつたんこうこうい

**edge to edge occlusal position**

前方咬合位の1つで, 上下顎中切歯の切縁と切縁とが接触する咬合位。

**602** 接着【修復物の】 せつちやく [しゅうぶくぶつ—]

**bonding [of restoration]**

修復物を接着性材料で支台歯に結合すること。従来のセメントの嵌合力を応用して結合する合着に対応する語。適切な接着性材料を用いることによって, 象牙質とエナメル質では, 樹脂含浸層とレジスタグによる微小機械的結合, 金属, セラミックス, コンポジットレジンなどでは水素結合, シラノール結合, 分子間引力などの結合力によって接着するといわれている。代表的な接着性材料として接着性レジンセメントがある。

**603** 接着ブリッジ せつちやく—

**adhesion bridge, resin-bonded prosthesis**

1~2 歯程度の欠損において, 支台歯の歯質削除を可能な限り少なくして製作された金属のフレームワークを, 接着性材料によって装着するブリッジ。支台歯の一方が通常のインレーやクラウンの場合にはコンビネーションタイプの接着ブリッジという。

**604** 接着用セメント→「接着」参照

**605** 舌面形成 ぜつめんけいせい

**preparation of lingual wall**

前歯の支台歯舌側面を支台歯形態に応じて切削形成すること。

**606** セメント固定式 —こていしき

**cement retaining system**

歯冠補綴装置のアバットメントへの連結方法の一法。セメント合着と仮着に区

分される。一般的な歯科治療の技法を流用できることから、インプラント療法においても多用されている。歯冠補綴装置の連結が確実な場合は、スクリュー固定法に比較して精度に関しては寛容で、骨縁への応力集中は少ない。反面、撤去を要する場合には、補綴装置の破壊が不可避となる（セメント合着の場合）。歯冠補綴装置の術者可撤を可能とするため、仮着セメントも用いることもある。

→「スクリュー固定式」参照

**607 セラモメタルクラウン**→「陶材焼付冠」参照

**608 全運動軸** ぜんうんどうじく  
kinematic axis

矢状面内のすべての顎運動に対応する回転軸。河野正司（1968）は、下顎の矢状面内運動に対応して、その運動範囲の上下的な幅が最小となる帯状の点が下顎頭上にあることを発見し、左右のこの点を結ぶ軸を全運動軸と名付けた。

**609 線鈎** せんこう  
wire clasp, wrought wire clasp  
〔同義語〕ワイヤークラスプ

既製の金属線を屈曲・適合して製作されたクラスプ。

**610 前後調節彎曲** ぜんごちょうせつわんきよく  
anteroposterior curving

→「調節彎曲」参照

**611 前後的歯牙彎曲**→「前後的歯列彎曲」参照

**612 前後的歯列彎曲** ぜんごてきしれつわんきよく  
anteroposterior curve,  
anteroposterior occlusal curve

〔同義語〕前後的歯牙彎曲

天然歯列を矢状面に投影したときに観

察される、咬合平面の前後的な彎曲。下顎については、特にスピーの彎曲（curve of Spee）という。

**613 前装冠** ぜんそうかん  
facing crown

審美性を重視し、鑄造、切削加工等により製作した金属冠の外観に触れる部分に歯冠色の前装用材料を適用したクラウン。陶材を用いたメタルボンドクラウンとレジンを用いたレジン前装冠とがある。

**614 栓塞子** せんそくし  
obturator prosthesis

上下顎の穿孔部あるいは欠損部を栓塞する部分。顎義歯などに設置される。

→「中空型栓塞子」「天蓋開放型栓塞子」参照

**615 選択削合** せんたくさくごう  
selective grinding

自動削合の前段階として咬合の修正、調整を行うもので、咬合紙により印記された調整部位を、ダイヤモンドポイントやカーボランダムポイントなどを用いて、部分的に削除する方法。中心咬合位、偏心咬合位において、均等な咬合接触が得られるように削合する。

**616 選択的加圧印象** せんたくてきかあついんしょう  
selective pressure impression

スペーサーの厚さや通路の数、大きさなどを変化させ、顎堤粘膜に加わる圧力をそれぞれの部位の圧負担能力に応じて調整して採得する印象。これにより、義歯の適正な粘膜負担を得ることができるとされている。

**617 剪断咬頭**→「非機能咬頭」参照

**618 全調節性咬合器** ぜんちょうせつせいこうこうき

**fully adjustable articulator**

調節性咬合器のうち、両側の矢状顎路傾斜および平衡側の側方顎路の調節機構に加え、運動量の小さい作業側の側方顎路および（作業側）側方顎路傾斜の調節機構をも備えて、それぞれの顎路を生体と同じ曲線によって再現できる咬合器、Denar SE articulator, Stuart articulator, TMJ articulator などがある。

**619 前頭面 ぜんとうめめん**  
**frontal plane**

正中線に平行で矢状面に直行し、生体を前後部分に分割するすべての平面。頭蓋の前面部がこの面とほぼ平行になることに因んだ名称。

**620 セントラルベアリングスクリュー**  
**central bearing point, central bearing screw**

口外法ゴシックアーチ描記装置、パントグラフのクラッチ、チューイン法の口腔内記録装置などの中央部に取り付けられ、支柱となるネジ。先頭部が半球状のネジであるため、高径の調節や円滑な顎運動が行える。

**621 セントラルベアリングプレート**  
**central bearing plate**

セントラルベアリングスクリューが接触、滑走する板。

**622 全部金属冠 ぜんぶぎんぞくかん**  
**complete metal crown**

金合金、金銀パラジウム合金、チタンなどの金属材料を素材とし、鋳造あるいはCAD/CAMにより製作する歯冠全体を被覆するクラウン。鋳造で製作するクラウンは全部鋳造冠という。

**623 全部床義歯 ぜんぶししょうぎし**  
**complete denture, full denture**  
(同義語) 総義歯

上顎または下顎のすべての歯を喪失した症例に対して、これを補綴する目的で適用される有床義歯。義歯に加わる咬合圧の負担様式による分類では、粘膜負担義歯に相当する。基本的に人工歯と義歯床から構成される。

**624 全部床義歯補綴学 ぜんぶししょうぎしほつつかく**

**complete denture prosthodontics**

(同義語) 総義歯補綴学

歯科補綴学の一分科で、片顎または上下両顎のすべての歯を喪失した症例に対し、全部床義歯によって修復・整形し、損なわれた口腔と関連組織の形態と機能および外観を回復させるとともに、患者の健康の維持・増進を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

**625 全部鋳造冠 ぜんぶちゅうぞうかん**  
**full cast crown**

鋳造法によって製作される全部被覆冠。適合性、形態再現性、強度に優れ、白歯部の全部被覆冠としては最も使用頻度が高い。

**626 全部被覆冠 ぜんぶひふくかん**  
**complete crown, full coverage crown, full veneer crown**

歯冠補綴装置のなかで、歯冠部を全面的に人工物で被覆するもの。金属冠、前装冠、ジャケットクラウンがある。

**627 前方位 [下顎の] ぜんぼうい [かがくー]**

**protrusive position [of mandible]**

下顎を中心位から前方に移動したときのすべての顎位。

**628 前方運動 [下顎の] ぜんぼううんど う [かがくー]**

**protrusive movement [of mandible]**

下顎の前方への運動。通常、下顎が咬頭嵌合位または下顎後退接触位から前方へ向かって接触滑走することをいう。

**629 前方基準点** ぜんぼうきじゅんてん  
**anterior reference point**

2つの後方基準点とともに、水平基準面を設定する顔面上の点。一般に眼窩下点、鼻翼下縁、鼻下点などが用いられる。

**630 前方咬合位** ぜんぼうこうごうい  
**protrusive occlusal position**

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を前方に滑走運動させたときのすべての咬合位。

**631 前方咬合小面** ぜんぼうこうごうしょうめん

**occlusal facet of protrusion**

Gysiの軸学説および咬合小面学説に従って、フルバランストオクルージョンを付与する目的で人工歯咬合面に形成する咬合小面の1つ。前方と作業側、平衡側への滑走運動で接触する面であり、上下顎前歯の切縁および下顎臼歯では頬舌側咬頭の前方の斜面に、また、上顎臼歯では後方の斜面に発現する。

**632 前方誘導(指導)** →「アンテリアガイダンス」参照

## そ

**633 早期荷重** そうきかじゅう  
**Early loading**

(同義語) 早期負荷

インプラント体埋入後、48時間から2ヵ月以内にインプラント体へ機能的な荷重を加えること。また、その荷重を指すこともある。

**634 総義歯** →「全部床義歯」参照

**635 総義歯補綴学** →「全部床義歯補綴学」

参照

**636 早期接触** そうきせつしよく

**occlusal prematurity, premature contact**

咬合干渉の1つで、閉口時に、安定した上下顎の咬合接触状態が得られる前に一部の歯だけが咬合接触する状態。

**637 装具** そうぐ

**orthotics**

けがや病気による四肢・体幹の機能障害の軽減を目的として使用する器具。疼痛、損傷、変形を生じる力や治癒の妨げになる応力を防御したり、筋力低下や麻痺、痙性がある筋肉を補助したり、変形を矯正するために用いる。けがや病気の治療を目的とする治療用装具と後遺症により失われた機能を代償する更生用装具では取り扱う制度が異なる。

**538 双子鉤** そうしこう

**double Akers clasp**

レスト付き二腕鉤を鉤体部で背中合わせに結合し、2本の支台歯に設置する形態のクラスプ。各々2個の鉤腕が辺縁隆線から咬合面側鼓形空隙にかけて設置されることからエンブレーションクラスプ(embrasure clasp)とも呼ばれる。維持力の増強と支台歯の二次固定効果があり、直接および間接支台装置として用いられる。

**639 相補下顎位** そうほかがくい

**complementary mandibular position**

下顎を基準とした場合の顎位。数学的には互いに独立な6個のパラメータで完全に定義できる。

下顎の歯のワックスアップなどにおいて、咬頭嵌合位での咬合接触の付与に引き続いて偏心位での接触状態や咬合面間

の離開量を適切に与えようとするとき、偏心位で上顎の各咬頭や溝がどの位置にあるかを立体的に考慮しなければならない。このように下顎に対する上顎の立体的位置関係を問題にするときに相補下顎位の概念が必要となる。

**640 相補下顎運動** そうほかがくうんどう  
**complementary mandibular movement**

下顎を基準としてみた場合の顎運動。下顎に描記板を設置して描記したゴシックアーチやコンダイラー型咬合器の動き、下顎咬合面に印記した FGP 記録などは、下顎に対して上顎がどのように運動するかという情報である。顎運動は 6 自由度運動であるため下顎運動と相補下顎運動は運動方向が逆になるだけという単純なものではない。例えば限界運動野が最も収斂する点は、下顎運動では下顎頭の中央部付近であるのに対し、相補下顎運動では関節結節中央付近となる。

**641 即時荷重** そくじかじゅう  
**immediate loading**

〔同義語〕即時負荷、イミディエートローディング

インプラント体埋入後 48 時間以内に、インプラント体へ機能的もしくは非機能的な荷重を加えること。また、その荷重を指すこともある。即時荷重を加えられたインプラント体がオッセオインテグレーションを獲得するためには、インプラント体の微小動揺 (micromovement) を 150 μm 以下に抑えることが必要とされている。

**642 即時義歯** そくじぎし  
**immediate denture**

抜歯前に予定部位を調整した模型上で製作し、抜歯後直ちに装着される義歯。

**643 即時暫間修復** そくじざんかんしゅうふく

**immediate provisional restoration**

〔同義語〕即時荷重、即時負荷

インプラント体を埋入直後、あるいは 48 時間以内に、インプラント体を支台とした暫間上部構造を装着する術式。最終上部構造を支持させるインプラントに即時暫間修復を行う術式が一般的であるが、即時暫間修復専用のインプラントを別に埋入し、治癒期間のみ暫間修復を行う術式も行われている。

**644 測色法〔歯冠色の〕** そくしよくほう  
 〔しかんしよくー〕

**method of color measurement [of tooth color]**

歯冠色色調選択の方法の 1 つ。シェードガイドや色見本を用い術者の目により判断する視感比色法と光電色彩計（刺激値直読方式）や分光測色計などを用いる器械測色法とがある。

**645 側方位〔下顎の〕** そくほうい [かがくー]

**lateral position [of mandible]**

下顎を中心位から右側方あるいは左側方に移動したときのすべての顎位。

**646 側方運動〔下顎の〕** そくほううんどう [かがくー]

**lateral movement [of mandible]**

下顎の側方への運動。通常、咬頭嵌合位あるいは下顎後退接触位から側方へ接触滑走することをいう。

**647 側方顆路** そくほうかる

**lateral condylar path**

水平面に投影した側方滑走運動時の顆路。作業側側方顆路と平衡側側方顆路とがある。



**648 側方顆路角** そくほうかるかく  
**angle of lateral condylar path**

〔同義語〕 ベネット角

下顎側方運動時に水平面投影した平衡側下顎頭の運動経路が正中矢状面となす角度。

**649 側貌記録** そくほうきらく  
**profile, profile record**

額、鼻背、鼻尖、上下口唇、オトガイ部などから構成される側貌の外形についての記録。有歯顎時にヒューズ線や紙型などで製作しておき、無歯顎時に咬合高径の参考にする。

**650 側方咬合位** そくほうこうごうい  
**lateral occlusal position**

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を右側方あるいは左側方へ滑走運動させたときのすべての咬合位。

**651 側方咬合彎曲**→「ウィルソンの彎曲」参照

**652 側方歯牙彎曲**→「ウィルソンの彎曲」参照

**653 側方齒列彎曲**→「ウィルソンの彎曲」参照

**654 側方切歯路** そくほうせっしる  
**lateral incisal path**

水平面に投影した側方滑走運動時の切歯路。これが作る図形はゴシックアーチと呼ばれる。

**655 側方切歯路角** そくほうせっしるかく  
**angle of lateral incisal path**

側方滑走運動時に水平面投影した切歯点あるいは切歯部の前方に設けた点の左側と右側の運動経路がなす角度。特に水平面に描記した後方側方滑走運動路がなす角度はゴシックアーチの展開角として知られる。

しかし、側方切歯路は通常左右対称ではないため、両者を合わせた展開角よりも左右それぞれの角度で表示するほうが実際的である。

**656 側方調節彎曲** そくほうちょうせつわんきょく  
**mediolateral curving**

→「調節彎曲」参照

**657 側方彎曲基準板** そくほうわんきょくきじゅんばん  
**orientation plate for compensating curve**

半径4インチの球面をもつ彎曲板。咬合平面の分析や補綴処置時に咬合彎曲を形成、付与するために用いる。これは、モンソンの球面説が顎運動のガイドとしては否定されながらも、形態学的には有歯顎の咬合彎曲を基準として考えていることによる。

**658 咀嚼** そしゃく  
**mastication**

食物摂取して粉碎し、唾液と混和し食塊を形成するまでの一連の過程。

**659 咀嚼圧** そしゃくあつ  
**masticatory pressure**

咀嚼時に、天然歯あるいは人工歯の咬合面部に発現する単位面積あたりの力。

**660 咀嚼運動** そしゃくうんどう  
**masticatory movement**

咀嚼時の顎運動。食物摂取に際して、嚥下の前に食物をかみ切る（咬断）、かみくだく（粉碎）、すりつぶす（臼磨）などの動作が含まれる。

**661 咀嚼運動路** そしゃくうんどうろ  
**masticatory movement path**

咀嚼時の顎運動経路。同一個人における同一食品の咀嚼時にはほぼ一定した経路を示すが、その1周期が咀嚼周期であ

る。これは開口相、閉口相、咬合相からなり、切歯点は先ず作業側へやや偏位した直線的な開口（第1相）に続いて、さらに外方へ偏位し（第2相）、そこから咬頭嵌合位に向かって斜めに閉口していく経路（第3相）をとり、結果としてその経路は作業側に偏った不整紡錘型となる。

なお、直接、咬頭嵌合位に戻るのではなく、側方位で咬合接触が生じ、接触滑走（第4相）が起こるとの説や、閉口後に咬頭嵌合位からさらに反対側への接触滑走（第5相）が生ずるとの説もある。

#### 662 咀嚼機能検査 そしゃくきのうけんさ

##### test for chewing ability

咀嚼能力を計測して判定する機能検査。咀嚼試料より直接判定する方法と咀嚼に関与するほかの要素より間接的に測定する方法に大別される。直接的検査法には、咀嚼された咀嚼試料の状態を客観的数値として表す方法と、咀嚼能率判定表により摂食能力を主観的に評価する方法がある。間接的検査法は、顎運動、筋活動、咬合接触状態、そして咬合力などより咀嚼能力を評価、判定する。

#### 663 咀嚼効率→「咀嚼能率」参照

#### 664 咀嚼サイクル→「咀嚼周期」参照

#### 665 咀嚼周期 そしゃくしゅうき

##### masticating cycle

〔同義語〕咀嚼サイクル, chewing cycle

開口相、閉口相、咬合相の3相からなる一連の咀嚼運動の1周期。

#### 666 咀嚼障害 そしゃくしょうがい

##### dysmasesis, masticatory disturbance

歯数の不足、歯根膜疾患、不正咬合、齲蝕、歯肉炎、歯周炎、口内炎、咀嚼習

慣、舌の病変・実質欠損・運動障害、咀嚼筋・顎関節機能異常などにより、咀嚼の機能が減退した状態あるいはそれを表す病名。不良補綴装置もその原因になりうる。

#### 667 咀嚼側 そしゃくそく

##### masticatory side

上下顎歯列間に食物を挿入して咀嚼する側。咀嚼側は食物を咀嚼する側として規定される。

→「作業側」参照

#### 668 咀嚼能率 そしゃくのうりつ

##### masticatory efficiency

〔同義語〕咀嚼効率

咀嚼能力の一部を示す指標で、食物を規定の粉碎度に要する作業量。

#### 669 咀嚼能率測定 そしゃくのうりつそく

##### determination of masticatory efficiency

咀嚼能率を求めるための測定。規格化された咀嚼試験条件で得られる食物粉碎度を測定する。篩分法が代表的な測定法である。

#### 670 咀嚼能力 そしゃくのうりよく

##### ability of mastication

顎口腔系が食物を切断・破碎・粉碎し、唾液との混和を行いながら食塊を形成して、嚥下動作を開始するまでの一連の能力。

この能力を測定あるいは検査し、評価することを「咀嚼機能検査」、「咀嚼能力検査」という。咀嚼機能あるいは咀嚼能力を客観的に評価するための方法としては、咀嚼能率や最大咬合力、咬合接触面積の測定、咀嚼時の咀嚼筋活動や顎運動の分析、摂取可能食品の調査などがあり、咀嚼スコアとして数値で表すこともあ

る。

**671 咀嚼リズム** そしゃく—  
**masticatory rhythm**

咀嚼運動の基本的な律動。動物実験の結果では、脳幹網様体に存在するリズムジェネレータで形成されるとされる。

**672 咀嚼力** そしゃくりよく  
**masticatory force**

咀嚼時に、顎口腔系器官・組織の働きにより咬合面間に発現する力。

## た

**673 待機荷重** たいきかじゅう  
**delayed loading**

インプラント体を顎骨内に埋入してから、下顎で3ヵ月間以上、上顎で6ヵ月間以上の免荷期間 (unloaded period) を待った後に、補綴上部構造を装着して咬合負荷を加えること。

→「遅延荷重」参照

**674 対向関係【顎堤の】** たいこうかんけい  
い [がくてい—]  
**maxillomandibular residual ridge relationship**

上下顎の人工歯が咬頭嵌合する状態における上下顎の顎堤の位置関係。前頭面での対向関係と矢状面での対向関係とがあり、臼歯部人工歯の頬舌の排列位置や最後方人工臼歯の位置決定などに利用される。

**675 対咬関係**→「対合関係」参照

**676 対合関係** たいこうかんけい  
**interocclusal relation**

〔同義語〕対咬関係

咬合している、あるいは咬合すべき上下顎の歯の位置関係。健康者の天然歯列では、咬頭嵌合位において上下顎いずれ

かの臼歯部咬頭が相対する歯の辺縁隆線にか(嚙)み込み、いわゆる cusp to ridge, 1 歯対 2 歯の関係を呈する場合が多い。

一方、多数歯の歯冠修復、咬合再建を図る場合には、この cusp to ridge の関係では、機能咬頭が対合する歯間部に楔状に作用し、歯間離開、食片圧入などをもたらすため、cusp to fossa, すなわち 1 歯対 1 歯の関係にしたほうがより望ましいとされている。

**677 対向作用**→「拮抗作用」参照

**678 対合歯** たいごうし  
**antagonist, dental antagonist**

上下顎の歯が咬合したとき、その歯の咬合の対象となる歯。

**679 待時荷重**→「遅延荷重」参照

**680 ダイナミック印象** —いんしょう  
**dynamic impression**

旧義歯あるいは最終義歯をトレーの代わりとして、長時間流動性が持続する印象材を用いて患者の日常生活における機能時の粘膜の動態を採得する印象。

**681 大連結子** だいいんけつし  
**major connector**

連結子の1つで、離れた位置にある義歯床と義歯床、義歯床と間接支台装置などを連結する部分。上顎に用いられるものとして、パラタルバー、パラタルストラップおよびパラタルプレートがあり、下顎には、リングルバー、リングルプレートおよびリングルエプロンがある。

**682 ダウエルピン**  
**dowel pin**

歯型可撤式模型、分割復位式模型において歯型の着脱を容易にし、かつ正確に復位させるために歯型の根部に応用する既製のピン。

**683 唾液検査** だえきけんさ**saliva test**

唾液を試料として用いて行う検査。歯科領域では（齲）蝕原性菌、歯周病関連菌の検査を始め、唾液の分泌量（口腔内乾燥症）や緩衝能および粘性と義歯床の維持力などの検査、各種ホルモンの測定による免疫検査が行われている。

**684 タッピング****tapping**

咬合面間に食物のない状態で上下顎の歯（人工歯）を反復的にカチカチとかみ合わせること。ブラキシズムや寒冷時にも観察される。臨床的には、咬合、顎関節、筋などの診査・診断に利用される。

**685 タッピング運動** ーうんどう**tapping movement**

1) 開口量の少ない反復的な開閉口運動。臨床的には、咬頭嵌合位における早期接触をはじめとする咬合関係や顎運動経路などの診査・診断に利用される。

2) ゴシックアーチ描記板上に記録される複数の点（タッピングポイント）を記録するための下顎反復小開閉口運動。この運動の終末位はほぼ咬頭嵌合位にあるため、水平的顎間関係を記録する場合に、ゴシックアーチ描記とともに、この運動が利用される（タッピング法）。

なお、顎関節や筋に異常がある場合には、その終末位は一点には収束しないこと、さらに、運動の速度・強さ、開口量や姿勢（頭位）などの影響を受けることが明らかにされている。

**686 単一印象** たんいついんしょう**single impression**

1 種類の印象材を用いて採得する印象。  
→「連合印象」参照

**687 単一式模型**→「歯型固着式模型」参

## 照

**688 短縮歯列** たんしゅくしれつ**shortened dental arch**

Käyser AF (1981) が提唱する、少なくとも 4 つの咬合ユニット (Occlusal Unit : OU=小白歯の上下ペアが 1 OU, 大白歯の上下ペアを 2 OU として計算) を有した歯列は、臨床的に十分適応能力を有しているという Shortened Dental Arch (SDA) Concept に端を発した歯列。Käyser AF の定義では少なくとも片側の最後方咬合ユニットが小白歯のペアとなる歯列としているが、広義では上下第 2 大白歯まで (28 歯) の完全歯列から 1 つでも遊離端欠損している歯列をいい、狭義では上下第 2 小白歯以下 (20 歯以下) の歯列のこと。基本的に短縮歯列は遊離端欠損歯列であり、中間欠損歯列とは区別される。

**689 単純鉤** たんじゅんこう**single-arm clasp**

支台歯の頬・唇側面に設置された 1 つの鉤腕からなる環状鉤。

**690 単独歯型**→「単独歯型式模型」参照**691 単独歯型式模型** たんどくしけいしきもけい**single die**

〔同義語〕単独歯型

作業用模型の 1 つ。単独の歯型のみを用いる方法で、クラウンやブリッジを製作するための作業用模型としては利用価値が少ない。インレー、ピンレーなどのように、歯冠の一部形態を修復する場合で、特に咬合関係、接触関係が必要でない場合には利用可能な簡易な方法。

## ち

**692 チェックバイト****check bite**

- 1) 上下顎の顎間関係を咬合採得材で記録すること。
- 2) 咬合器の顎路調節を目的に、下顎の前方位(前方チェックバイト; protrusive check bite)あるいは側方位(側方チェックバイト; lateral check bite)における上下顎の位置関係を記録すること。

**693 チェックバイト法** — ほう**check bite method**

顎運動の測定法の1つで、ワックス、石膏、酸化亜鉛ユージノールペーストなどの記録材を上下顎歯の咬合面間や咬合床の咬合堤間で硬化させ、上下顎関係を記録し、生体の顎路の出発点とその任意の一点とを結んだ直線が各基準平面となす角を計測する方法。Christensen (1905)により開発されたといわれており、半調節性咬合器の顎路調節に用いられる。

**694 遅延荷重** ちえんかじゅう**delayed loading**

〔同義語〕遅延負荷、待時負荷、待時荷重  
インプラント体埋入後2ヵ月以上経過した後にインプラント体へ機能的な荷重を加えること。埋入直後には骨との機械的固定のみであったインプラント体が、周囲骨との結合(オッセオインテグレーション)を獲得するために必要な期間と理解される。待時荷重ともいう。また、その荷重を指すこともある。

**695 チャンネルショルダーピン****channel shoulder pin (C. S. P.)**

自家製アタッチメントの1つで、メー

(channel)、フィメールの壁に直角で樋状の辺縁をもつ支持要素としてのショルダー(shoulder)、およびフィメールからメー

**696 チューイン法** — ほう**chew-in technique**

顎運動の記録法の1つで、上下顎のいずれか一方に設置したレジンなどの記録媒体を、もう一方の顎に設置した描記針などによって彫り込んで、3次元的な顎運動経路を記録する方法。この記録をもとに咬合器の関節部に顎運動の誘導面を形成する。Luce (1911)により提唱されたものが原法である。

**697 中間義歯** ちゅうかんぎし**bounded saddle denture, tooth borne denture**

残存歯と欠損部の位置関係により分類された部分床義歯で、欠損部の近遠心の両側に残存歯が存在する欠損様式に適用されるもの。

遊離端義歯に対する用語であり、片側に欠損部が存在し、かつ欠損部の近遠心側に残存歯が存在する欠損様式に適用される片側性中間義歯(unilateral bounded saddle denture)と、両側にわたって欠損部が存在し、かつ欠損部の近遠心両側に残存歯が存在する欠損様式に適用される両側性中間義歯(bilateral bounded saddle denture)とに分類される。

**698 中間欠損** ちゅうかんけつそん**intermediary defect**

歯列の部分欠損症例において、欠損部の近遠心側のいずれにも歯が存在するもの。

**699 中間構造 (体) (インプラントの)**

ちゅうかんこうぞう (たい) (一の)

**Mesostructure**

インプラント体やアバットメントとその上部構造(クラウン, 義歯)を連結する構成要素。インプラント体上に中間構造体を固定し, その中間構造体にセメント, ホリゾンタルスクリュー, アタッチメントなどで固定性あるいは可撤性上部構造が支持または維持される。中間構造体によりインプラント体埋入方向の改善ならびに咬合面からのアクセスホールの排除が達成できるため, 歯冠や咬合面形態の作製自由度を高くすることができ, 審美的, 機能的に有利な場合がある。広義ではアバットメントとも捉えることができる。

→「下部構造 (体)」, 「上部構造 (体)」

参照

**700 中空型栓塞子** ちゅうくうがたせん

そくし

**hollow obturator**

顎義歯の軽量化のために, 中空にした栓塞子。

→「栓塞子」「天蓋開放型栓塞子」

参照

**701 中心位** ちゅうしんい**centric relation**

下顎頭が下顎窩内で以下の位置となる時の顎位。従って, 歯の接触位置とは無関係で, 任意の顎間距離で存在する。

1) 下顎頭が下顎窩内で, 関節円板の最も薄く血管のない部分に対合し, 関節結節の斜面と向き合う前上方の位置(GPT-5)。

2) 上顎に対して下顎が最後方位をとり, なおかつ下顎側方運動が可能な位置(GPT-3)。

3) 下顎頭が下顎窩内で緊張のない最後方位をとり, そこから無理なく下顎側方運動が可能な顎位 (GPT-1)。

4) 一定の垂直的位置関係において側方運動が可能な上顎に対する下顎の最後方位 (Boucher ; 1953)。

5) 下顎頭と関節円板が最中央で最上方にあるときの上下顎の関係 (Ash ; 1993)。

6) 下顎頭が下顎窩内で最上方で最後方位にあるときの顎位。

7) 下顎頭を前最上方に位置させて臨床的に決定される下顎位 (Ramfjord ; 1993)。

※GPTは Glossary of Prosthodontic Terms の略。

[なお, このように多様なニュアンスを有したものは専門用語として不適當であり, 使用を控えるべきとする意見も少なくない。しかし, 国内外において古くから多方面で用いられており, また, すべての顎位の原点として極めて重要な用語とも言えるため, 本委員会では, 適当な代替用語も未確定な現時点で, 本用語を削除することは不適當であると判断した。]

**702 中心咬合位** ちゅうしんこうごうい**centric occlusion**

1) 下顎頭の位置とは関係なく, 上下顎の咬合面が最大面積で接触, または, 咬頭嵌合したときの顎位。咬頭嵌合位と同義。一般に, 正常有歯顎者では, 下顎頭は下顎窩内で顎頭安定位にある。

2) 下顎が中心位で咬合したときの顎位。前項のごとく, 中心位の定義が不明確のため, 本項の意味も多様となる。

**703 鑄造冠** ちゅうぞうかん**cast crown**

ロストワックス法を用いた一塊鑄造によって製作されるクラウン。板金加工法

により製作される帯環金属冠に対応する語として用いられたが、適合性、形態再現性、強度に優れるため、現在では金属冠のほとんどすべてが鑄造法によって製作される。

**704 鑄造鉤** ちゅうぞうこう

cast clasp

鑄造法により製作されたクラスプ。

**705 鑄造床** ちゅうぞうしょう

cast plate

金属床の1つでロストワックス法によって製作される義歯床の金属部分。

**706 鑄造バー** ちゅうぞうー

cast bar

鑄造法により製作されたバー。

**707 チューブ陶歯** —とうし

tube tooth

人工歯の基底面から歯冠方向へ垂直に貫通する維持孔を有する陶歯。維持孔へ嵌合するように製作したピンに合着することで金属床義歯やブリッジの人工歯として使用された。

**708 調音検査**→「構音検査」参照

**709 超高齢社会** ちょうこうれいしゃかい

super-aged society

高齢化率(65歳以上の人口が総人口に占める割合)が21%以上の社会。

→「高齢化社会」,「高齢社会」参照

**710 聴診法** ちょうしんぽう

auscultation, stethoscopy

生体の各部で産生される音を聴診する検査。補綴領域では、顎関節症の関節雑音を聴診したり、歯が咬合接触するときの咬合音を骨伝導音として聴診することによって早期接触などの咬合異常を診断する方法もあり、骨伝導音を電氣的に分析する装置が開発され臨床に用いられている。摂食・嚥下リハビリテーションの

領域では嚥下障害の判定のために嚥下時に頸部で産生される音を聴診する検査が行われており、嚥下障害のスクリーニング法として有効とされている。

→「咬合音検査」参照

**711 調節性咬合器** ちょうせつせいこうごうき

adjustable articulator

解剖学的咬合器のうち、顎運動を再現する要素としての顎路および切歯路の再現機構を備え、それが特定の範囲内で可変調節できる咬合器。半調節性咬合器と全調節性咬合器とに分類される。

**712 調節彎曲** ちょうせつわんきよく

compensating curve

全部床義歯の臼歯部人工歯排列において、クリステンセン現象の発現を補償するとともに、偏心位における咬合接触により咬合平衡を保持する目的で人工歯列に付与する咬合彎曲。矢状面における前後調節彎曲と前頭面における側方調節彎曲とがある。

**713 蝶番運動** ちょうばんうんどう

hinge movement

左右の下顎頭が下顎窩内で滑走運動を伴わないで、純粋な回転のみを行う運動。一般的に下顎が後退し、開口量が0~25mmの範囲で開閉口運動を行うときに観察される。

**714 蝶番咬合器** ちょうばんこうごうき

hinge articulator

(同義語)平線咬合器, plane line articulator

上下顎フレームが単純な蝶番によって連結され、開閉運動のみを行える咬合器。咬頭嵌合位の再現だけが可能である。文献上に現われる最初の咬合器(Gariot咬合器; 1805)として知られる。

**715 蝶番軸** ちょうばんじく

**hinge axis**

左右側の下顎頭が滑走運動を伴わないで純粹に回転したときにその回転中心となる軸。

**716 蝶番点** ちょうばんてん

**hinge axis point**

下顎に存在する蝶番軸を左右の皮膚上に示した点。咬合器へのトランスファーに用いられる後方基準点の1つ。

**717 直接維持装置**→「直接支台装置」参照

**718 直接支台装置** ちよくせつだいそうち

**direct retainer**

〔同義語〕直接維持装置

部分床義歯の支台装置で、欠損部に隣接する歯に設定されるもの。

**719 治療用義歯** ちりょうようぎし

**treatment denture**

最終義歯の製作に先立ち、咬合治療、粘膜治療などを目的として装着される暫間的な義歯。

→「暫間義歯」参照

つ

**720 追跡管理**→「トレーサビリティ」参照

**721 ツインステージ咬合器** ーこうごうき

**twin-stage articulator**

2種類の歯列模型を用いたり2組の調節条件を用いて、ツインステージ(2段階)方式で操作することにより、特定の理念にもとづいた咬合様式を具現化することを目的とした咬合器。前者には Hanau Twin-Stage Occluder および Verticulator

(Jelenko) などがあり、一般に FGP テクニックに利用される。また、後者には Twin Hoby articulator (保母須弥也) などがある。

て

**722 低位咬合** ていこうごう

**infraocclusion**

- 1) 一部の歯あるいは人工歯の咬合面が正常な咬合平面まで達しないような咬合。
- 2) 咬頭嵌合位が適正な咬合高径よりも低い位置にある咬合状態。

**723 ディギャッシング**

**degassing**

メタルボンドクラウンの製作の際、陶材を築盛する前に金属面の酸化膜形成、異物除去、鑄造歪みの解放、水素ガスの除去などの目的で行う熱処理。

**724 T字クラスプ**→「エルプレヒトクラスプ」参照

**725 ディスクレーション**→「白歯離開咬合」参照

**726 ティッシュコンディショナー**

**tissue conditioner**

義歯床粘膜面に使用され、異常な形態、性状を呈する義歯床下粘膜を健康な状態に回復させるために用いられる材料。

**727 ティッシュストップ**

**tissue stop**

鉤脚やフレームワークの維持格子などの後方部分に設置され模型粘膜面と接する小突起。製作した支台装置やフレームワークを模型に復位させることを容易にし、レジン填入時にそれらの位置の移動を防止する。



**728 ティナージョイント****tinner's joint**

箔や板金の端を折り曲げ、この部分を嵌合させて作る接合。ポーセレンジャケットクラウン製作時のマトリックス箔接合部などに用いる。

**729 デイヴィスクラウン****Davis crown**

Davis, W. C. (1911) が提案したポストクラウン。基底部に維持孔を有するデイヴィス陶歯をポストにセメント合着して製作する。原法では陶歯が歯の根面と接する構造であったが、後に鋳造法が採用されて適合が向上した。歯冠部のほとんどの部分が陶材のため審美性に優れる。

**730 テーパー****taper**

〔同義語〕軸面傾斜角

対向する軸面のなす角度。歯冠補綴装置の基本的な保持力はテーパーが平行に近いほど大きい。臨床的には形成操作や適合性およびセメント合着などの観点から、長軸に対して $2^{\circ}$ ～ $5^{\circ}$ が推奨されている。

**731 適合試験 てきごうしけん****fitness test**

静的あるいは動的な状態下での補綴装置と口腔内諸組織との適合状態を診査すること。適合状態は、通常、白色のシリコンゴムやペーストなどの適合試験材 (fitness test material) の被膜厚さにより判断される。

**732 デジタルインプレッション**→「光学印象」参照**733 デュシャンジュの指数** — しすう**Duchange's index**

ブリッジの設計において、抵抗性の良否の判定を目的として Duchange (1948)

により提唱された係数。各歯の歯根表面積をもとに、各歯の咬合圧に対する支台歯の抵抗 (R : resistance) とポンティックの疲労 (F : fatigue) を係数化したものであり、これを用いてブリッジの咬合圧に対する抵抗性を算出する。なお、延長ブリッジでは補足疲労 (FS : fatigue supplement) を考慮している。

→「補足疲労」参照

**734 テレスコープクラウン****telescopic crown**

外冠と内冠とに分離できる構造をもつ二重の金属冠。両者の緊密な適合から生じる摩擦力あるいはくさび効果を利用して、部分床義歯や可撤性ブリッジなどの支台装置として応用される。その種類には内冠軸面が平行なパラレルテレスコープクラウンまたはシリンダーテレスコープクラウンと、咬合面に向かって円錐形に一定の傾斜角をもつコーヌステレスコープクラウンとがある。

**735 天蓋開放型栓塞子** てんがいはいほ  
うがたせんそくし**buccal flange obturator**

顎義歯の清掃性向上などのために、中空型栓塞子の天蓋部分を開放した構造の栓塞子。

→「栓塞子」、「中空型栓塞子」参照

**736 デンタルインプラント**→「口腔インプラント」参照**737 テンチの間隙** — かんげき**Tench's space**

全部床義歯の臼歯部人工歯排列法として、上顎法を用いる場合に、上顎の犬歯と第一小臼歯の間に設ける 1.0 mm 前後の間隙。咬合構成時の 1 歯対 2 歯の関係の排列、上下顎顎堤の矢状対向関係による調節彎曲などの調整を容易にする目的

で作られる。Tench (1925) により提唱された。

### 738 テンチのコア

#### Tench's core

〔同義語〕 テンチの歯型

重合後の義歯を正しく咬合器に再装着するために、埋没、重合前に採得される上顎人工歯列切縁・咬合面部の石膏による陰型。

### 739 テンチの歯型→「テンチのコア」参照

### 740 デンチャースペース

#### denture space

天然歯の喪失によって口腔内に生じた上下顎の顎堤間の空間。上部は上顎顎堤、硬口蓋、軟口蓋、下部は下顎顎堤、口腔底、内側部は舌、外側部は口唇および頬部の筋によって取り囲まれている。

### 741 デンチャーブラーク

#### denture plaque

義歯表面に付着するブラーク。天然歯に付着するブラークに比べて、真菌、特に *Candida albicans* の占める割合が大きい。口臭、残存歯のう（齲）蝕、歯周病、義歯性口内炎などの原因となる。要介護者や高齢者では、睡眠中に不顕性の誤嚥をたびたび起こし、唾液とともに口腔内の細菌も同時に誤嚥するため、誤嚥性肺炎を起こしやすい。口腔内の細菌を減少させ、口腔の疾病予防、健康の保持増進のためには口腔ケアが大切である。

### 742 転覆試験 てんぷくしけん

#### tilting test

咬合採得時やろう（蠟）義歯試適時に咬頭嵌合位で咬合せた状態で、上下顎の咬合堤やろう（蠟）義歯人工歯咬合面の間にスパチュラなどを挿入して床の動揺程度を観察して、顎間関係の設定の適

否を判定する方法。

### 743 テンプレート

#### template

- 1) 補綴装置製作時に、咬合平面や咬合彎曲を設定するための定規となる平面板、あるいは曲面板。
- 2) 即時義歯装着時に、抜歯後の顎堤形態と製作されている義歯の粘膜面形態との適合性を確認するために用いられる透明なプレート。欠損部を予測して形成した作業用模型上で製作し、抜歯後にこれを用いて、加圧部を整形する。

### 744 テンポラリーアバットメント

#### temporary abutment

〔同義語〕 テンポラリーシリンダー

インプラントの術者可撤性暫間補綴装置作製に用いられるパーツ。インプラント体もしくはアバットメントに連結し、その周囲に即時重合レジンを用いて歯冠形態を回復する。

### 745 テンポラリークラウン→「プロビジョナルクラウン」参照

### 746 テンポラリーシリンダー→「テンポラリーアバットメント」参照

と

### 747 瞳孔線 どうこうせん

#### pupillary line

顔面を正面からみて、遠方を直視した時の左右瞳孔の midpoint を結んだ直線。咬合平面と平行であるため、義歯製作時の仮想咬合平面をこれと平行に設定する。

### 748 等高点 どうこうてん

#### isometric point

〔同義語〕 トライポッドマーク

サバイヤー上であらかじめ設定した模型の3次元的な位置関係を再現するため

に、アナライジングロッドに垂直な一平面内で模型に記入された記号や線、通常3標点を描記する。

**749 陶材築盛法** とうざいちくせいほう

**porcelain build up**

陶材粉末と蒸留水を細い筆やスパチュラを用いてガラス練板上で混和し、所定の形態に築盛する方法。コンデンスを加え、振動により過剰の水分を表面に浮き上がらせ、陶材粉末粒子を緊密に密着させ陶材を固めながら行う。

コンデンス法には、彫刻刀の柄のギザギザで軽い振動を与える振動法、乾燥した陶材粉末をかけ、水を吸収してから、この粉末を筆で払い落とすブラッシュ法、築盛が終わったクラウンにさらに水を加え、ガーゼまたはティッシュペーパーで吸水する沈殿法、陶材の表面をスパチュラや彫刻刀の刃で圧迫しながら滑沢にするスパチュラ法、陶材表面を筆などでと水分が表面に浮き上がるのでこれを吸水して粒子を圧縮するウィップ法などがある。

**750 陶材焼付冠** とうざいやきつけかん

**porcelain fused to metal crown**

〔同義語〕陶材焼付鑄造冠、セラモメタルクラウン

鑄造、金属箔あるいはCAD/CAMにより製作したメタルコーピングに陶材を焼き付けた前装冠。単独歯冠補綴あるいはブリッジの支台装置として用いられる。

**751 陶材焼付鑄造冠**→「陶材焼付冠」参照

**752 陶歯** とうし

**porcelain tooth**

陶材で作られた人工歯。長所としては、色調・透明度とも天然歯に類似していること、耐摩耗性が高く長期間使用しても

摩耗や咬耗がほとんど起こらないこと、色調が変わらないこと、などがあげられる。欠点としては、削合や調整がやや困難であること、削合量が多くなると破折しやすくなること、床用材料との結合には工夫を要すること、咀嚼時に咬合音を発すること、などがある。

**753 陶歯前装鑄造冠** とうしぜんそう

ちゅうそうかん

**porcelain-faced cast crown**

審美性の改善を目的として鑄造冠の唇・頬側部にシェル状の陶歯をセメント合着したクラウン。メタルボンドクラウンの普及によりほとんど使用されなくなった。

**754 疼痛誘発テスト** とうつうゆうはつ

—

**symptom provoking test**

一般的には咬頭干渉部位やブラキシズムによってできたと思われる咬耗面などでか（噛）みしめを行わせ、疼痛誘発の有無を調べる検査。割り箸などを片側後方臼歯でか（噛）ませ、対側または同側の顎関節に疼痛を誘発するか、あるいは咬頭嵌合位でのか（噛）みしめ時に比べて軽減するかを調べる検査も含まれる。

**755 頭部後屈法**→「頭部後傾法」参照

**756 頭部後傾法** とうぶこうけいほう

**head tilt method [of vertical relation]**

〔同義語〕頭部後屈法

すでに垂直的顎間関係の設定された上下顎咬合床を装着させた状態で、頭部を後方に軽く傾けて下顎の前方偏位を制御しながら閉口させ、そのときの接触位を人工歯の咬頭嵌合位とする咬合採得法の1つ。

**757 DUMLの法則** どうむる—ほうそく

**DUML rule**

前方滑走運動時における干渉の削除部位を示す法則。上顎臼歯では咬頭の遠心斜面 (Distal of the Upper) を、下顎臼歯では咬頭の近心斜面 (Mesial of the Lower) を削除する。

**758 動揺度検査【歯の】** どうようどけんさ [は—]

**tooth mobility test**

歯の動揺度を測定し、歯周組織の粘弾性的性質の変化や形態的变化を類推し、歯の骨植状態を診断する検査。ピンセットや手指で歯の動揺の程度を触知する方法や歪み計による定量的な変位量の測定や、強制荷重をあたえて加速度計による周波数分析や音圧などから測定する方法がある。補綴装置の支台歯としての適否の指標に用いられる。

**759 トップダウントリートメント**

**top down treatment**

〔同義語〕補綴主導型インプラント治療  
インプラント治療において、最初に目標とする最終補綴装置の形態（最終ゴール）を定め、想定した最終補綴装置が得られるように、インプラント（フィクスチャー）の埋入位置や方向ならびに埋入本数を決めてから、インプラント埋入手術や骨造成術などを行い、インプラント補綴に移行していく治療方法。理想的な補綴上部構造を得るための治療計画を立てた後に、インプラント治療を遂行していくことから、補綴主導型インプラント治療 (restoration driven implant treatment) ともいう。

**760 トライポッドマーク**→「等高点」参照

**761 トランスファーコーピング**

**transfer coping**

〔同義語〕印象用コーピング、インプレッションコーピング、トランスファーインデックス (Transfer index)、トランスファージグ (Transfer Jig)、トランスファーキャップ (Transfer Cap)

- ①歯列印象内に歯型を正確に位置づけることを目的として用いられる常温重合レジンあるいは金属で作製されるキャップ。
- ②インプラントのオープントレー用の印象用コーピングのうち、印象材内に取り込まれるボディ部。
- ③アバットメントをインプラント体に正確な位置関係で接合するために用いるジグ。常温重合レジンあるいは金属で作製する。アバットメントポジショニングジグ (Abutment positioning jig) ともいう。  
→「ピックアップ印象」参照

**762 取り込み印象** とりこみいんしょう  
**pickup impression**

〔同義語〕ピックアップ印象  
→「ピックアップ印象」参照

**763 ドルダバー**

**Dolder U-Bar**

U字形のバーとバーの全体を被覆するサドルから構成されているバーアタッチメント。維持力はバーとサドル間の金属摩擦で発揮される。新型ではサドル上部にレジン床との保持装置が設置された。

**764 トレーサビリティ**

**traceability**

〔同義語〕追跡管理  
医薬品・農産物・食品・工業製品などの商品やその原材料・部品などを個別に記録し、生産から加工、流通、販売、廃棄までの過程を各段階で記録することで、商品から履歴情報を確認できるよう

にすること。歯科では材料や部品、技工物などに求められている。

### 765 ドンダースの空隙 —くうげき

#### space of Donders

下顎の安静時に舌背上部と硬・軟口蓋との間に見られる空隙。Donders(1875)によって補綴装置の形態との関係などその臨床的重要性が指摘された。

### 766 遁路 とんろ

#### spillway

- 1) 咬合面で粉碎された食物の排出路となる咬合面間の隙間。
- 2) 補綴装置合着時の浮き上がり防止のために付与される合着材の排出路。
- 3) レジン填入の際、余剰レジンを排出するために付与する溝。

## な

### 767 内冠 ないかん

#### coping, inner cap, inner crown

テレスコープクラウンの一部であり、支台歯に装着される金属冠。外冠との接触面に生じる摩擦力は可撤性義歯の維持力として働く。

→「テレスコープクラウン」参照

### 768 内斜線 ないしゃせん

#### internal oblique line

下顎骨筋突起前縁から下方へ走り、白後三角の舌側を通り、顎舌骨筋線へ移行する骨の隆線。なお、顎舌骨筋の付着していない部分に限定して用いられる場合や顎舌骨筋線と同義として用いられる場合もある。臨床的には、外斜線とともに、臼歯部義歯床縁部の位置を設定する場合の目安として用いられる。

### 769 ナイトガード

#### night guard

ブラキシズムによる歯周組織への障害を防止する目的で、主に就寝時に装着する歯の切端および咬合面全体を被覆するオクルーザルスプリント様の装置。本装置の装着により上下顎の歯が直接接触することを防止できる。そのため、補綴装置の保護の目的で使用されることもある。

### 770 ナイフエッジ型 —がた

#### knife edge type

ショルダーレス型のうちナイフの刃状に形成された支台歯歯頸部辺縁形態とそれに対応する修復物辺縁形態。辺縁部は、フェザーエッジ型に比べて厚い。

### 771 ナソロジー

#### gnathology

1920年代に McCollum と Stallard らによって創唱された顎口腔系のメカニズムを解剖学、生理学、病理学などを通して総合的に研究する学問。診断、治療、オーラルリハビリテーションの術式なども含まれる。

### 772 軟口蓋挙上装置 なんこうがいきよ

#### じょうそうち

#### palatal lift prosthesis, PLP

口蓋床の後方へ延長した挙上子によって軟口蓋を挙上させて鼻咽腔閉鎖をしやすくし、音声の鼻音化や構音障害の発生を防止する装置。脳梗塞の後遺障害などの神経麻痺による軟口蓋の運動不全に適用される。

## に

### 773 ニアゾーン

#### near zone

歯の欠損側に隣接した支台歯の欠損側半分領域。この部分のアンダーカット

の様相をクラスプの設計の指標とするもの。Blatterfein (1951) によって提唱された。

→「ファーゾーン」参照

**774 二次固定** にじてい

**secondary splinting**

可撤性補綴装置を介して支歯相互の連結固定効果を発現させる方法。

**775 二重同時印象** にじゅうどうじいんしょう

**double mix impression**

〔同義語〕 積層一回印象

流動性の異なる同種のゴム印象材を同時に練和して採得する連合印象。代表的なものとしてはシリコンゴム印象材のパテとライトボディタイプあるいはレギュラーボディタイプによる印象がある。

**776 二重埋没法** にじゅうまいぼつほう

**double investing method**

1) ワックスパターン埋没法の1つで、ワックスパターン周囲に筆で泥状の埋没法材を塗布し、その上から埋没法材粉末をふりかける操作を数回繰り返して球状に硬化させ、残りを同種または異種の埋没法材で二次的に埋没法する方法。この方法は大きな硬化膨張を期待できる。

2) ろう(蠟)義歯埋没法の1つで、重合後の取り出しを容易にするために、フラスク上部に石膏を注ぐ際に、人工歯部の石膏の硬化後に、残りの部分に石膏を注入する方法。

**777 二面形成** にめんけいせい

**tooth preparation in two planes**

支歯の唇側、頬側の軸面形成において、上部(切縁側・咬合面側)と下部(歯頸部側)が異なる2面をなすように形成すること。下部は維持力に、上部は構造

的強度と審美性に影響する。

**778 ニュートラルゾーン**

**neutral zone**

無歯顎の口腔内において、口腔の諸機能時に頬、唇による内方への圧と舌による外方への圧とによって全部床義歯に加わる荷重が均衡化されると想定される領域。

**779 二腕鉤** にわんこう

**two-arm clasp**

〔同義語〕 両翼鉤

2つの鉤腕からなる環状鉤。通常、臼歯部に用いられ、3面4隅角を取り囲む。

**780 認知行動療法** にんちこうどうりょうほう

**cognitive behavioral therapy**

行動療法と認知療法の総称。病気予防や健康の維持増進のために不適切な行動を望ましいものに改善する治療法。歯科においては、歯列接触癖の治療法などに応用されている。

ね

**781 ネイのクラスプ**

**Ney clasp**

Ney社によって開発されたNey Surveyor Systemの中で紹介され、金合金(NEY-ORO G-3 casting gold)を用いることを前提として設計された鋳造鉤。

レスト付き二腕鉤(#1 clasp)、T型分割腕鉤(#2 clasp)、コンビネーションクラスプ(#1-#2 combination clasp)、バックアクションクラスプ(back action clasp)、リバースバックアクションクラスプ(reverse back action clasp)、リングクラスプ(ring clasp)の6種からなる。

**782 粘膜支持**→「粘膜負担」参照

**783** 粘膜支持義歯 → 「粘膜負担義歯」 参照

**784** 粘膜負担 *ねんまくふたん tissue borne*

〔同義語〕 粘膜支持

機能時に補綴装置に加わる力の大部分あるいは全部を顎堤粘膜が負担するという概念。

**785** 粘膜負担義歯 *ねんまくふたんざし tissue borne denture*

〔同義語〕 粘膜支持義歯

機能時に発現する力を顎堤粘膜が負担する義歯。無歯顎症例、少数残存歯症例に対する有床義歯やレストの設置されていない暫間義歯などがこれに相当する。

## 〇

**786** ノンパラレルピンテクニック *non parallel pin technique*

補綴装置を健康象牙質へねじ止めする方法。ピンの方向が平行であるが必要がないため維持力は強大である。前歯部では舌面から水平方向にホリゾンタルピンを、臼歯部では咬合面へ垂直方向にバーティカルピンを使用する。

**787** ノンメタルクラスプデンチャー *non-metal clasp denture*

義歯の支台装置であるクラスプを義歯床用樹脂を用いて製作したパーシャルデンチャーのこと。2013年現在、ポリアミド系、ポリエステル系、ポリカーボネート系、アクリル系、ポリプロピレン系の樹脂が用いられている。人工歯を除く義歯全体を熱可塑性樹脂で製作するものと金属構造を併用するものがある。一般にノンクラスプデンチャー、フレキシブルデンチャーなどと呼称される義歯は、定

義上、ノンメタルクラスプデンチャーに含まれる。

## は

**788** バー *bar*

大連結子の1つで、部分床義歯の複数の構成部分を連結する棒状の金属部分。臨床的目安として、幅が8mm以下のものとされる。その適用部位によりパラタルバー (palatal bar)、リンガルバー (lingual bar)、外側バー (external bar) に分類され、また、製造法に基づいて、鋳造バー (cast bar)、屈曲バー (wrought bar) とにも分類される。

**789** バーアタッチメント *bar attachment*

離れた支台歯を連結固定するバーとこれを把持するための義歯側に設置されるスリーブからなる、緩圧型 (可動性) のバージョイントタイプ (bar joint type) と非緩圧型 (固定性) のバーユニットタイプ (bar unit type) がある。アッカーマンバーアンドクリップタイプアタッチメント、ドルダーバー、ハーダーバーアタッチメントなどがある。

**790** バー義歯 *— ざし bar denture*

- 1) 大連結子としてバーを応用した部分床義歯。
- 2) バーアタッチメントを維持・支持に用いたオーバーデンチャーの1つ。

**791** パークラスプ *bar clasp*

支台歯に近接する義歯床縁または連結子から起こり、歯槽部を支台歯に向かって横走するバー状の鉤腕をもつクラスプ

の総称。鉤腕は支台歯の頬面または舌面に向かって彎曲し、鉤尖が支台歯のアンダーカット域に適合する。鉤腕の歯面と接する部分の形態により、Iパークラスプ、Tパークラスプなどがある。

**792 ハーダーバーアタッチメント**

**Hader Plastic rider**

プラスチック製のバー、スパーサ、サドルから構成されるバーアタッチメント。バーは加熱して欠損部形態に適合するよう形態の修正が可能で鋳造して金属に置き換える。義歯完成後にプラスチックサドルを挿入する。維持力の調節は不可であるが維持力が低下した場合は簡単にサドルの交換が可能である。

**793 ハーフアンドハーフクラスプ**

**half and half clasp**

環状鉤の1つで、支台歯の近遠心側にそれぞれ独立した体部とレストを有し、一方は頬側を他方は舌側を走行する鉤腕をもつクラスプ。孤立歯が適応症とされる。

**794 ハーフクラウン**

**half crown**

前歯あるいは臼歯を問わず、歯面のほぼ1/2を覆うクラウンの総称。

**795 バイトゲージ**

**bite gauge**

咬合高径の決定に用いられ、顔面の計測基準点間距離を計測する装置の総称。Willisのバイトゲージ、坪根式バイトゲージ(坪根政治)などがある。

**796 バイトスプリント**→「オクルーザルスプリント」「スプリント」参照

**797 バイトトレイ**

**bite tray**

上下顎の歯列および顎堤の印象と咬合採得とを同時に行う咬合印象用の既製ト

レー。

**798 ハイブリッド型コンポジットレジンクラウン** ーがたー

**hybrid composite resin crown**

〔同義語〕硬質レジンジャケットクラウン  
→「レジンジャケットクラウン」参照

**799 廃用症候群** はいようしょうこうぐん  
**disuse syndrome**

〔同義語〕生活不活発病

特定の器官を長期間使用しないことによる廃用(性)萎縮が重なることで生じた機能低下の病態。口腔領域では、歯の喪失により顎骨や筋肉に廃用の影響が及ぶことがある。

**800 ハウジング**

**housing**

1) ボックス型顎路を備えた咬合器において、関節部に付いている箱形の顎路指導機構。この中に顎頭球(コンダイル)が収まる。フォッサ・ボックスとも呼ばれる。

2) 一部のアタッチメントにおけるフィメール部の別称。磁性アタッチメントでは磁石構造体の収納部分を指す。

**801 パウンドライン**

**Pound's line**

〔同義語〕犬歯臼後隆起線

下顎犬歯近心隅角とレトロモラーパッドの舌側面とを結んだ想像上の直線。下顎全部床義歯の臼歯部人工歯を排列する目安となる。下顎全部床義歯で臼歯部人工歯の舌側咬頭がパウンドラインよりも舌側に排列されると、舌房が狭くなり、舌感不良や義歯不安定などの不快事項が生じやすくなる。

**802 パサバント隆起** ーりゅううき

**Passavant's pad, Passavant's ridge**



嚥下や発声時に咽頭後壁に認められる水平の隆起。上咽頭収縮筋あるいは口蓋咽頭筋からなる輪状筋の収縮によって形成される。鼻咽腔閉鎖不全を呈する症例に見られることが多いが、その存在や形状には個人差が大きい。一時はスピーチエイドのバルブの高さの基準とされたが、最近では、鼻咽腔閉鎖運動時の最狭窄部は、そのやや上方であるとされている。

**803 鋏状咬合** はさみじょうこうごう  
**scissors bite**

すべての上顎白歯の舌側咬頭が下顎白歯の頬側に鋏状に接触し、上下顎の白歯が正常に咬頭嵌合しない咬合。

**804 把持** はじ  
**bracing**

補綴装置に加わる側方力に抵抗する作用。

**805 把持腕** → 「拮抗腕」参照

**806 発音間隙** → 「発音空隙」参照

**807 発音空隙** はつおんくうげき  
**speaking space**

〔同義語〕 発音間隙

発音時の上下顎歯列の咬合面間に生じる空隙。[s] 発音時にはこの空隙が最小となり（最小発音空隙，closest speaking space），全部床義歯の咬合高径を決定する際の基準の1つとして用いられる。

**808 発音試験** はつおんしけん  
**phonetic test**

義歯の製作過程，あるいは装着時に，人工歯の排列位置や義歯床形態が患者の構音機能に調和しているか否かを検査する方法。パラトグラムなどが用いられる。

**809 発音利用法** はつおんりようほう  
**phonetic method of measuring  
occlusal vertical dimension**

1) 咬合採得において特定音を発音したときの顎位を利用して咬合高径を決定する方法。

2) 人工歯の排列位置の決定やろう（蝸）義歯の歯肉形成などに際して，口唇や舌の構音動作を利用する方法。

**810 バックアクションクラスプ**  
**back action clasp**

舌側面に鉤体部をおき，鉤腕がそこから欠損側隣接面，辺縁隆線部を通り，頬側面のファーゾーンのアンダーカット部に鉤尖をおくクラスプ。

**811 発語障害** → 「構音障害」参照

**812 パッシブフィット**  
**passive fit**

複数のインプラントで支持されスクリューにより固定される上部構造とアバットメント，あるいは上部構造とインプラントの臨床的に理想的な適合状態を指す。上部構造がスクリューの締め付けによって変形し適合した状態を示すのではなく，あくまで，全く力を加えなくても（パッシブに）良好な適合を指す状態をいう。

**813 発声** はつせい  
**utterance**

語音ごとに喉頭から口腔および鼻腔までの声道の固有の部位を挟めたり閉鎖して，呼気を利用して音をつくる行動。  
→ 「構音」参照

**814 バットジョイント**  
**butt joint**

2つの構造物の互いの端と端とを重なることなく接合することにより形成される継ぎ目。歯冠補綴装置では，支台歯に形成されたショルダー部とそこに装着された修復物で形成される継ぎ目。また，金属床義歯においては金属部とレジン部

との接合部。

**815** 馬蹄形バー ばていけいー

**horseshoe bar**

上顎に應用される U 字形をしたパラタルバー。口蓋前方から後方に向かって馬蹄型をなして走行する。臼歯部の両側遊離端欠損症例などで口蓋隆起を避ける目的で用いられる。ホースシューバーともよばれる。

**816** ハミュラーノッチ

**hamular notch**

上顎結節と蝶形骨翼状突起内側板の翼突鉤の結合部に形成された切痕。上顎結節の後方で上顎義歯床の後縁設定の目安となる。

**817** パラタルストラップ

**palatal strap**

上顎に用いられる大連結子の 1 つで、パラタルバーを薄く、やや幅を広くした带状の金属装置。パラタルバーと比べて異物感ならびに構音障害の減少、支持機能の向上を期待して用いられる。

**818** パラタルバー

**palatal bar**

口蓋を走行するバータイプの大連結子。口蓋を左右方向に走行するものは前後的位置位置により前パラタルバー、中パラタルバー、後パラタルバーに分類される。また、口蓋を前後方向に走行するものは口蓋の側方に設置される側方パラタルバーと口蓋正中部に設置される正中パラタルバーに分類される。

**819** パラタルプレート

**palatal plate**

上顎に用いられる大連結子の 1 つで、口蓋を広範囲に被覆したもの。パラタルバーに比較して異物感が少なく、粘膜負担要素が多くなる。

**820** パラタルランプ → 「オクルーザランプ」参照

**821** パラトグラム

**palatogram**

発音時に舌が口蓋に接触する範囲を示す図。同一の言語音ではほぼ一定の形となることから口蓋における調音点を知る方法。すなわち、義歯の適切な口蓋形態の確認に用いられる。口蓋に墨や粉末を塗布して行う静的パラトグラムと電極を利用するダイナミックパラトグラムとがある。

→ 「発音試験」参照

**822** パラレルピンテクニック

**parallel pin technique**

ブリッジや連結装置の維持を平行な複数のピン（パラレルピン）とピンホールとの嵌合により求める方法。ピンホールを平行に形成するには市販の平行形成器や自作のツールを利用する。

**823** バランシングランプ [義歯の] — [ぎしー]

**balancing ramp [of denture]**

全部床義歯における非解剖学的人工歯の排列に際して、下顎第二大臼歯、あるいは下顎最後臼歯の後部に形成された斜面。前方および側方運動時に咬合の平衡を保つために、上顎の最後臼歯咬合面の遠心端部を接触・滑走させるような形態とする。前歯部と両側のバランシングランプで咬合平衡を図る咬合様式をスリーポイントバランスという。Sears (1952) により提唱された。

**824** バルクウィル角 ーかく

**Balkwill angle**

咬合平面とボンウィル三角とのなす角。

**825** バルブ型鼻咽腔補綴装置 ーがたび  
いんくうほてつそうち  
**speech bulb**

口蓋床の後方へ延長したバルブによって、鼻咽腔閉鎖機能を補助する装置。口蓋裂や手術による軟口蓋欠損部に対して適用される。

**826** 板（鋳）鉤 ばんこう  
**band clasp**

20K 金属板を適当な大きさに切ってサベイラインに沿って屈曲した板状のクラスプ。線鉤に比べて摩擦力が大きいが審美性に劣り、現在は使われていない。

**827** 半固定性ブリッジ はんこていせい  
ー

**fixed bridge with rigid and nonrigid  
connectors, movable fixed bridge,  
semifixed bridge**

支台装置とポンティックとの連結部の一方が可動性に連結されたブリッジ。

**828** 半固定性補綴装置 はんこていせい  
ほてつそうち  
**semifixed prosthesis**

〔同義語〕可動性補綴装置、可動性補綴物、半固定性補綴物

補綴装置のうち、長大なブリッジや支台歯の平行性のないブリッジなどで、その一部に可動性の連結機構を含んだ装置。

**829** 半固定性補綴物→「半固定性補綴装置」参照

**830** 半固定性連結 はんこていせいれんけつ  
つ  
**nonrigid connection, semifixed  
connection**

ブリッジの連結部の一部を固定性にし、一部にキーアンドキーウェイなどのアタッチメント類を用いて、連結装置の

一部に可動性をもたせた連結。支台歯の平行性の確保が困難な場合に適用されることが多い。

**831** 半自浄型ポンティック はんじじょう  
がたー  
**semihygienic pontic**

自浄性、清掃性に基づくポンティック形態の1つ。基底面の一部が顎堤粘膜に接触した後、徐々に粘膜から離れていく形態で、完全自浄型に比べれば自浄性・清掃性にやや劣るが、審美性・発音機能は優れる。偏側型、リッジラップ型、楕円型、船底型などがこれに相当する。

**832** 反対咬合 はんたいこうごう  
**reverse articulation**

咬頭嵌合位において、連続する3歯以上の被蓋関係が唇舌・頬舌的に正常とは逆である不正咬合。歯の位置異常によるもの（歯性）、顎位の異常によるもの（機能性）、顎骨の形態に基づくもの（骨格性）などがある。前歯部のは、下顎前突あるいは下顎近心咬合となり、臼歯部のみに発現したものは交叉咬合とも呼ばれる。ただし、いずれにおいても、1、2歯の場合には単なる転位として扱われる。

**833** 半調節性咬合器 はんちようせつせい  
こうごうき  
**semiadjustable articulator**

調節性咬合器のうち、矢状顎路と平衡側の側方顎路の調節機構を備え、通常、それぞれの顎路を直線的に再現する咬合器。Hanau H2, Whip-Mix, Dentatus 咬合器などがある。

**834** パントグラフ  
**pantograph**

下顎限界運動を3軸6面に3次的に記録する口外描記方式の下顎運動解析装置。その形態的特徴から、縮図器（パン

トグラフ)の名称がつけられた。この記録機構は、歯の接触を避けるために一点接触のクラッチにより咬合させ、それに接続された上顎フレームと下顎フレームから構成され、そのフレーム上の左右下顎頭部にそれぞれ2組、前方部に2組の描記針と描記板とを備えている。

Stuart (1955) と Denar (1970) のものが有名であり、それぞれ専用の全調節性咬合器とを組み合わせた臨床システムとなっている。生体の下顎運動を咬合器上に正確に再現し、可及的に口腔機能に調和した補綴装置の咬合面形態を得ることを意図したものである。

**835** パントグラフ法 —ほう

**pantographic recordings**

顎運動の記録法の1つで、パントグラフを用いて、下顎運動路を水平面および矢状面に記録する方法。通常この記録は全調節性咬合器の調節に用いられる。

**836** 反復唾液嚥下テスト はんぷくだえきえんげー

**repetitive saliva swallowing test (RSST)**

非侵襲的かつ簡便に誤嚥の有無をスクリーニングする方法として広く用いられている方法。食塊のない状態での強制的に嚥下を惹起させた場合、どの程度嚥下運動が遂行されるかを評価するもの。験者の指示で被験者の舌骨、中指で甲状軟骨を触知した状態で唾液嚥下を指示し、30秒間の嚥下回数を数える。甲状軟骨が中指を乗り越えた場合に1回と判定し、3回未満の場合、精査を要する。

ひ

**837** 被圧縮性 ひあつしゅくせい

**tissue displaceability**

1) 軟組織が圧迫された場合に組織が示すたわみ。または、加圧に対して生ずる組織の沈み。

2) 粘膜が加圧により圧縮され、その厚さを減じる性質。

**838** 被圧変位 ひあつへんい

**tissue displacement**

歯あるいは粘膜が加圧により変形、移動すること。

**839** 被圧変位量 ひあつへんいりょう

**amount of tissue displacement**

一定時間で、単位面積当たり一定の荷重量を加えた場合の、歯あるいは顎堤粘膜の変位量。

**840** ビーディング

**beading**

上顎の口蓋部において、義歯床や大連結子の外形に沿って作業用模型の当該部分に溝を形成する操作。義歯床縁の封鎖や舌感の向上を目的とする。模型の削除量は粘膜の被圧変位量により調節する。

**841** ヒーリングアバットメント

**healing abutment**

2回法術式を用いるインプラント治療において、第2回手術で歯肉粘膜を切開して露出させた骨内のインプラント体(フィクスチャー)に連結し、インプラント周囲の歯肉粘膜が治癒するまでの期間、暫間的に装着しておく円筒形の金属、チタンで成形されているものが多い。

**842** 鼻咽腔閉鎖機能検査 びいんくうへいさきのうけんさ

**examination of velopharyngeal**

**function**

鼻口腔閉鎖機能の診断を目的として行われる検査。咽頭部からの間接鏡検査、鼻腔からの直接ファイバースコープ検査、肺活量検査、鼻漏出気流計検査、ストローを用いたブローイングテスト、側方頭部エックス線規格写真の計測等がある。歯科補綴学分野では補綴装置の効果の判定、あるいは睡眠時無呼吸症候群の治療効果の評価・判定に用いられる。

**843 被蓋** ひがい**overlap**

上顎歯列が下顎歯列をひさし状に覆っている状態。水平的な被蓋（オーバージェット）と垂直的な被蓋（オーバーバイト）とに分けられる。健常者の理想的な咬合では、咬頭嵌合位において上顎歯列が下顎歯列を水平的にも垂直的にも覆っており、前・臼歯部の被蓋の程度は偏心運動時のアンテリアガイダンスや臼歯離開咬合、さらに臼歯部の咬頭傾斜などと密接な関わりをもつ。

**844 非解剖学的人工歯** ひかいぼうがくてきじんこうし**nonanatomic tooth**

天然歯の形態を模倣せず、機能のみを重視した機械的形態の人工臼歯の総称。無咬頭人工歯、ブレード人工歯などが含まれる。

**845 鼻下点** びかてん**subnasal point, subnasion**

皮膚上の鼻中隔最前部と上唇の皮膚表面との交点。皮膚表面上の計測点で、咬合高径の決定時に標点の1つとして用いられることが多い。

**846 鼻下点・オトガイ間距離** びかてん・—かんきより**distance between subnasal and****gnathion**

鼻下点からオトガイ部までの距離。瞳孔から口裂までの距離と等しいとして、咬合高径を決定する際の目安になる。

**847 非緩圧型アタッチメント** ひかんあつがた—**rigid attachment**

義歯に加わる機能圧を支台歯に直接伝達するアタッチメントの総称。義歯と支台歯を強固に連結するタイプである。

**848 非緩圧型維持装置** → 「非緩圧型支台装置」参照**849 非緩圧型支台装置** ひかんあつがたしだいそうち**rigid retainer**

〔同義語〕非緩圧型維持装置

支台歯と義歯を強固に連結する構造と作用をもつ支台装置。テレスコープクラウンや非緩圧型アタッチメントなどがある。

**850 非機能咬頭** ひきのこうとう**nonfunctional cusp**

〔同義語〕剪断咬頭, shearing cusp

機能咬頭に対する用語で、咀嚼運動中に対合歯の咬合面窩にか（嚙）み込まない咬頭。

**851 非作業側** → 「平衡側」参照**852 非作業側側方顎路** → 「平衡側側方顎路」参照**853 非自浄型ポンティック** ひじょうがた—**nonhygienic pontic**

自浄性、清掃性に基づくポンティック形態の1つ。基底面全体が鞍状に顎堤粘膜に接触している形態で、審美性・発音機能は最も優れるが、自浄性はまったく期待できない。鞍状型や有床型がこれに相当し、可撤性ブリッジの場合に適用さ

れる。

**854** 微笑線 びしょうせん

smiling line

微笑したときの下唇の彎曲線。上顎前歯人工歯を排列する際に切縁の彎曲位置の基準となる。

→「笑線」参照

**855** 鼻唇角 びしんかく

nasolabial angle

側貌の審美性に関与する鼻柱点、鼻下点および上唇点を結んでできる角度。義歯患者では人工歯の前後的位置・唇舌的傾斜や床翼の厚み・床縁の位置と形態に影響され、義歯によるリップサポートを回復する程度の評価に用いることができる。

**856** 鼻唇溝 びしんこう

nasolabial groove, nasolabial sulcus

鼻翼の外側縁から口角の外側縁に向かって走る顔の表面にある浅い溝。起始部が頬骨、停止部が口角部の口輪筋内にある頬骨筋が、笑った際などに口角を挙上してできる溝で、表情に応じてその形態は著しく変化する。無歯顎患者において上顎義歯による上唇の支持が無いと鼻唇溝は深くなるが、義歯に適正な豊隆を付与して年齢に応じた自然な形態を回復する必要がある。

**857** 非咀嚼側 ひそしゃくそく

nonmasticatory side

上下顎歯列間に食物を挿入して咀嚼する側（咀嚼側）の反対側。平衡側に対応する用語として扱われることもあるが、非咀嚼側は食物を咀嚼していない側として規定されるのに対し、下顎はその方向に運動して作業側となることもあるため同義語とはいえない。

**858** ピックアップ印象 ーいんしょう

pick-up impression

〔同義語〕コーピング印象、取り込み印象  
ピックアップ印象（クラウンブリッジの）

クラウンブリッジにおける歯型可撤式模型を製作するための印象採得法の1つで、歯型に適合するトランスファーコーピングを口腔内の支台歯に装着し、歯列全体の精密印象を採得する際に、トランスファーコーピングを印象内に取り込んでくる印象法。トランスファーコーピングを使用することから、コーピング印象（coping impression）ともいう。

ピックアップ印象（有床義歯の）

部分床義歯の支台装置（維持装置）をキャストオン法で製作するための印象採得法で、口腔内の支台歯にクラウンを試適し、義歯を製作するための精密印象を採得する際に、クラウンを印象内に取り込んでくる印象法。可撤性床義歯を修理するための印象採得法で、口腔内に義歯を装着した状態で印象採得を行い、義歯を印象内に取り込んでくる印象法。

ピックアップ印象（インプラントの）

インプラントの上部構造を製作するための印象採得法で、印象用コーピング（トランスファーコーピング）や上部構造の一部を、インプラント（フィクスチャー）やアバットメントに連結した状態で精密印象を採得し、印象内に印象用コーピングや上部構造の一部を取り込んでくる印象法。

**859** HIP プレーン ひっぴー—

Hamular-notch incisive

papilla plane (HIP plane)

左右のハミュラーノッチと切歯乳頭中央点を含む平面。咬合平面に平行であるとされている。Cooperman (1975) によ

り提唱された。

**860** ビデオ嚙下造影 → 「嚙下造影検査」

参照

**861** ビデオレントゲン検査 → 「嚙下造影検査」参照

**862** 被覆冠 ひふくかん

coverage crown, veneer crown

歯冠補綴装置のなかで、歯冠の全部あるいは一部を被覆することによって歯の形態・機能・審美性を回復する補綴装置の総称。全部被覆冠と部分被覆冠とがあり、材料としては、金属、陶材、レジンなどがある。

**863** 描記針 ひょうきしん

stylus

ゴシックアーチなどの描記法において描記板上に下顎運動路を描くための突起。口内法ゴシックアーチ描記装置では、これがセントラルベアリングスクリューを兼ねている。

**864** 描記板 ひょうきばん

tracing plate

ゴシックアーチなどの描記法において描記針によって下顎運動路が描かれる板。

**865** 標示線 ひょうじせん

line of reference

前歯欠損症例における咬合採得の最終段階で、上下顎咬合堤の唇側面に記入される人工歯選択および排列の基準となる線。歯列の正中線、口角線、鼻幅線、上唇線および下唇線がある。

**866** 鼻翼幅 ひよくふく

nasal width

無歯顎患者の上顎前歯人工歯の幅径を決定する際に利用する鼻翼の幅径。鼻翼の外側からの垂線（鼻幅線）が上顎犬歯尖頭を通るとされる。

**867** ヒンジアキシスロケータ

hinge axis locator

左右の蝶番点を試行錯誤的に探索するための超軽量のフェイスボウ。クラッチに取り付けるアンテリアクロスバー (anterior cross-bar) と、指針を上下・前後に微動できるレジストレーションアーム (registration arm) から構成される。

Lauritzen (1961) によって考案された。

**868** ヒンジ型アタッチメント — がた

hinge attachment

垂直遠心回転（蝶番運動）を許容し、ほかの運動を制限している歯冠外アタッチメントの1つ。義歯に加わる咬合圧は、主に遠心部において粘膜、近心部において歯根膜で負担する。

**869** ヒンジボウ

hinge bow

左右側の蝶番点と前方基準点からなる基準平面に対する上顎歯列の位置関係を咬合器にトランスファーするためのフェイスボウ。Stuart がフェイスボウに調節機構を付与したものとして紹介した。

**870** ピンテクニック

pin technique

補綴装置の主たる維持を金属ピンとピンホールとの嵌合に求める方法。歯質削除量が少ない利点があり、欠損歯の補綴や動揺歯の固定に応用される。複数のピンホールが平行なパラレルピンテクニックと非平行なノンパラレルピンテクニックとがある。

**871** ピン陶歯 — とうし

pin porcelain tooth

〔同義語〕有釘陶歯

ピンによる維持機構を有する人工陶歯。有床義歯用とクラウンブリッジ用と

がある。有床義歯用のものは、義歯床との機械的維持力を増すために、前歯では舌側面に、白歯では基底面にピンが設けられている。クラウンブリッジ用は、ピンの長さによってショートピン陶歯とロングピン陶歯に区別されるが、いずれも現在ほとんど使われていない。

**872** **ピンレッジ**

**pinledge**

前歯舌面に形成した複数のピンホールに適合させた鑄造ピンに主たる維持を求めた部分被覆冠。ピンの基部に階段状のレッジ(ledge)とくぼみ状のニッチ(niche)を形成し、咬合力による変形に抵抗させる。歯質削除量が少ないため金属の露出がなく審美性に優れている。ブリッジの支台装置や動揺歯の固定装置に応用される。通常、有髄歯に適用される。

ぶ

**873** **ファーゾーン**

**far zone**

歯の欠損側に隣接した支台歯の非欠損側半分領域。Blatterfein (1951) によって提唱された。

→「ニアゾーン」参照

**874** **フィクスチャー**→「インプラント体」

参照

**875** **フィッシャー角** —かく

**Fischer's angle**

矢状面に投影された前方運動の顎路と側方運動時の平衡側顎路とのなす角。

**876** **フィニッシュライン**

**finish line**

- 1) 支台歯形成面の辺縁。
- 2) 金属床義歯におけるレジンとフレームワークとの接合境界線。義歯床研磨面

では外側フィニッシュライン (external finish line)、義歯床粘膜面では内側フィニッシュライン (internal finish line) と称する。物理的強度の確保や触感的、衛生的に支障のない円滑な移行面を形成するために、断面的にはステップ状 (バットジョイント) に形成される。

**877** **フィメール**

**female**

雌雄組み合わせからなるアタッチメントの雌部分。メール部の突起形態を受容するような凹状形態を有する。歯冠内アタッチメントでは固定部に、また、歯冠外あるいは根面アタッチメントでは可撤部に設定される。

**878** **フェイスボウ**

**face-bow**

頭蓋あるいは顎関節に対する上顎歯列(人工歯列を含む)の3次元的位置関係を咬合器上で再現するために用いる器具。左右の後方基準点と前方基準点を示す3本のポインターと上顎歯列や咬合堤をフェイスボウに連結するためのバイトフォーク (bite fork) を組み込むためのフレームから構成される。Snow (1899) によって創案された。

**879** **フェイスボウトランスファー**

**face-bow transfer**

フェイスボウによって、2つの後方基準点と1つの前方基準点からなる平面で位置づけられた上顎模型を咬合器に附着する一連の操作。これにより、生体の下顎頭の開閉軸と咬合器の開閉軸とが一致することになる。

**880** **フェザーエッジ型** —がた

**feather-edge type**

ショルダーレス型のうち最も菲薄に形成された支台歯歯頸部辺縁形態ならびに



修復物辺縁形態。辺縁部はナイフエッジ型よりもさらに薄く、精密鑄造加工にはあまり適さない。板金加工用（帯環金属冠用）に形成された支台歯辺縁形態に対応する伸展修復物の辺縁形態として用いられていた。

### 881 フェルール

#### ferrule

失活歯の歯冠修復において、歯冠補綴装置が支台歯フィニッシュラインの歯冠側に存在する健康な歯質に適合し、残存歯質を抱え込む部分。フィニッシュラインの上に高さ約2mm以上の健康な残存歯質があると、その周囲をクラウンの装着によりリング状に把持し、歯根破折を防止する効果（フェルール効果、帯環効果）がある。

### 882 複印象 ふくいんしょう

#### duplicate impression

変形や破損を避けたい作業用模型や補綴装置を正確に複製するための印象。

### 883 複合欠損 ふくごうけつそん

#### tooth-bounded and free-end missing

歯列の部分欠損症例において、中間欠損と遊離端欠損が混在するもの。

### 884 副歯型式模型 ふくしけいしきもけい

#### working cast with individual die

クラウンやブリッジを製作する場合に用いられる作業用模型で、歯型と歯列模型との分離・結合様式から分類したものの1つ。副歯型（individual die）と歯型固着式模型の両方を用いる模型。修復物の内面と辺縁は副歯型で、支台相互および隣接歯や対合歯との関係は固着式模型で調整するので正確なワックスアップや模型上での調整が可能である。

### 885 複製義歯 ふくせいぎし

#### duplicate denture

第一の義歯を複製した第二番目の義歯。通常、使用中の義歯などの既存の義歯を複製し、これを改造して治療用義歯や診断用義歯とすることが多い。

### 886 複製模型 ふくせいもけい

#### duplicate cast

作業用模型と同一模型を保存するためや、鑄造床などの製作過程で使用する耐火模型を製作するために、作業用模型を印象して複製した模型。

### 887 フック

#### hook

部分床義歯の安定を得る目的で支台歯間線を挟んで義歯床とは反対側の2本の切縁隅角部に設置される切縁レストのような補助支台装置の1つ。小連結子により義歯床または大連結子に結合され、単独では維持力を発揮しないが、義歯の動きに抵抗して義歯を安定させる点で間接支台装置でもある。義歯の沈下に伴ってフックが楔作用を発揮して歯間離開を起こすことがある。

### 888 不動粘膜 ふどうねんまく

#### attached mucous membrane

咀嚼・発音・嚥下などの機能時にも移動、変形しない粘膜。

### 889 船底型ポンティック ふなぞこがた

#### spheroid pontic

基底面が楕円形で歯槽頂部の粘膜と点状に接触する形態のポンティック。

### 890 部分義歯 ぶぶんぎし

#### partial denture

1) 残存歯またはインプラントを支台とする歯列の一部欠損に適用される義歯。支台歯に固着される固定性部分義歯（fixed

partial denture ; 固定性ブリッジ)と任意に着脱できる可撤性部分義歯 (removable partial denture ; 可撤性ブリッジ, 部分床義歯) とがある。

2) 部分床義歯と同義。

部分義歯の用語は定着しておらず, removable partial denture と partial denture とは歴史的にも長い間混同されてきたが, partial denture を有床義歯に限定した用語とするものは, 本来誤用である。

### 891 部分床義歯 ぶぶんしょうぎし

#### removable partial denture

〔同義語〕 局部床義歯

歯列内の部分的な歯の喪失と, それに伴って生じた歯周組織や歯槽突起の実質欠損の補綴を目的として, 残存歯またはインプラントを支台とする有床可撤方式の義歯. 少数歯欠損から1歯残存に至るあらゆる欠損の症例に適用され, 多様性に富む。

### 892 部分床義歯補綴学 ぶぶんしょうぎしほてつがく

#### removable partial prosthodontics

〔同義語〕 局部床義歯補綴学

歯科補綴学の一分科で, 歯列内の部分的な歯の喪失, 関連組織の実質欠損, また, それらによる異常を部分床義歯によって修復・整形し, 損なわれた機能と外観を回復させるとともに, 患者の健康の維持・増進を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

### 893 部分被覆冠 ぶぶんひふくかん

#### partial coverage crown, partial veneer crown

歯冠補綴装置のなかで, 歯冠の一部を人工物で被覆するもの. 主にブリッジの支台装置として用いられるが, 単冠や動揺歯の固定装置にも応用される. 通常,

有髄歯に適用され, 代表的なものに, ピンレッジ, 3/4冠, 4/5冠, 7/8冠, プロキシマルハーフクラウンがある。

### 894 ブラキシズム

#### bruxism

咀嚼筋群がなんらかの理由で異常に緊張し, 咀嚼・嚥下・発音などの機能的な運動と関係なく, 非機能的に上下顎の歯を無意識にこすり合わせたり (グライディング), くいしばったり (クレンチング), 連続的にカチカチとか (噛) み合わせる (タッピング) 習癖. 顎関節症の原因の1つとされている。

### 895 ブラックトライアングル

#### black triangle, interdental gingival void

歯周疾患, 外傷性要因, 機械的あるいは化学的要因あるいは歯冠長延長術によって生じた歯間部軟組織の喪失により生じた空隙. 前歯部では三角形の空間となり, 暗く見えるためその名がある. 審美障害の原因の1つとなる。

### 896 プラットフォーム(インプラントの) implant platform

〔同義語〕 インプラントプラットフォーム  
一般的には, ボーン・レベルのインプラント体の頂部でアバットメントとの接合面. 平面あるいは斜面形状のものがある。

### 897 プラットフォームシフティング implant platform switching

〔同義語〕 プラットフォームスイッチング, horizontal set-off

インプラント体トップの直径よりも小径のアバットメントを使用し, インプラントネック部周囲の骨吸収を防ぐテクニック。

**898 フラビーガム****flabby gum**

顎堤に発現する可動性の大きい粘膜組織。歯槽骨の吸収と粘膜の肥厚および粘膜下組織の線維性増生が見られるが、不適切な義歯の長期使用による慢性的な機械的刺激が原因とされる。上顎前歯部が好発部位である。

**899 フランクフルト平面** — へいめん**Frankfort horizontal plane**

水平基準面の1つであり、左右側いずれかの眼点 (orbitale; 眼窩点ともいい、眼窩下縁最下点を指すが、側方頭部エックス線規格写真法などの骨組織上では、両側眼窩の最下点の中央点を意味する) と両側の耳点 (porion; 耳珠上縁点を指すのが普通であるが、頭部エックス線規格写真法では、外耳孔の最上縁の点を指す) とを結んでできる平面。

フランクフルト (ドイツ) で開催された会議 (1882) で採択された。なお、フランクフルト線 (ドイツ水平線; 左右側いずれかの眼窩点と耳珠上縁点を結ぶ線) と鼻聴道線 (カンペル線; 左右側いずれかの鼻翼下縁と耳珠上縁とを結ぶ線) とは約 10° の角をなす。

**900 フランス式埋没法** — しきまいぼつほう**French flasking technique**

人工歯、支台装置、連結部の全てをフラスク下部に固定するろう (蝋) 義歯のフラスク埋没法。それらの義歯床粘膜面に対する浮き上りを防止するには有効であるが、流ろう (蝋) やレジジン填入操作がやりにくいのが欠点とされる。

**901 ブリッジ****fixed partial denture, bridge**

少数歯欠損に対し、残存歯またはイン

プラントを支台歯として連結補綴することにより、形態・機能・審美性を回復する歯根膜負担の義歯。支台装置、ポンティック、連結部とで構成される。支台装置とポンティックとの連結方法の違いにより、固定性ブリッジ、半固定性ブリッジ、可撤性ブリッジに分類される。

**902 BULLの法則** ぶる — ほうそく**BULL rule**

下顎側方滑走運動時の作業側咬頭干渉を除去する部位を示す法則。支持咬頭の機能を維持するために、上顎臼歯では頬側咬頭内斜面 (Buccal of the Upper) を、下顎臼歯では舌側咬頭内斜面 (Lingual of the Lower) を削合する。Schuyler (1935) によって提唱された。

**903 フルバランストオクルージョン****balanced articulation, bilateral balanced occlusion, full balanced occlusion (articulation)**

側方滑走運動時および前方滑走運動時に、作業側の歯だけでなく、前歯も含めた平衡側の歯も円滑に接触滑走している咬合様式。全部床義歯に望ましい咬合様式の1つとされる。

**904 フルメタルクラウン** → 「全部金属冠」参照**905 ブレードインプラント****blade implant**

顎骨内に固定される板状のブレード部、その上の軟組織を貫通するネック部、および口腔内に露出するアバットメントとしてのヘッド部から構成される口腔インプラント。

**906 ブレード人工歯** — じんこうし**bladed artificial tooth**

非解剖学的人工歯に属する咬合面に金属製の刃 (ブレード) をつけた人工臼歯。

機能面，特に咀嚼能率と義歯の安定性とを迫した機械的人工歯で，咬合接触面積を減少させるために，ブレードが対合人工歯に設置した金属テーブルに接するように製作される。

Sosin のブレードメタル臼歯や Levin のメタルインサートディースなどがある。

## 907 フレームワーク

### framework

1) 前装冠において，前装材を保持する金属の骨格部分，メタルコーピングと同義。

2) 金属床義歯において，支台装置，連結子，維持格子からなる金属の骨格部分。これらは通常，一塊鋳造される。義歯全体の強度と適合性が高まり，体積も小さく，異物感も少なくなる利点がある。

## 908 フレンジ→「床翼」参照

## 909 フレンジテクニック

### flange technique

Lott と Levin (1964) により提唱され，義歯の維持・安定を得るため，義歯床翼部（フレンジ）の形態を周囲筋の生理的な運動により形成印象し，人工歯列弓と義歯床研磨面の形態を決定する方法。

## 910 プロキシマルハーフクラウン

### proximal half crown

臼歯歯冠の隣接側のほぼ 1/2 を覆い，咬合面中心溝の部分では反対側の小窩を含む鳩尾形窩洞が設計された部分被覆冠の 1 つ，主にブリッジの支台装置として，通常下顎有髄大白歯に用いられ，近心傾斜歯や遠心部の萌出が不十分な歯などに適用される。

## 911 ブロックアウト

### block out

ワックスや石膏などを用いて模型上の

アンダーカットを塞ぐ操作。

## 912 プロビジョナルクラウン

### provisional crown

〔同義語〕 暫間被覆冠，テンポラリークラウン

プロビジョナルレストレーションの中で製作される単独冠。ブリッジとして製作される場合は，プロビジョナルブリッジという。

## 913 プロビジョナルレストレーション

### provisional restoration

歯冠補綴装置の製作に際し，形成された支台歯を暫間的に被覆するクラウンやブリッジ。診断や治療方針の確認，支台歯の保護，歯周環境の改善，咬合の保持，審美性の回復を目的とする。

## 914 分割印象 ぶんかついんしょう

### sectional impression

単一の印象が不可能，あるいは望ましくない場合に適用され，複数の部分から構成される印象。歴史的には石膏やモデリングコンパウンドなどの非弾性印象材を用いる場合には不可避な方法でもあったが，現在では特殊印象法の 1 つである。この場合用いる印象用トレーを分割トレーと呼ぶが，一般的にはそれぞれのトレーに異なる印象材を用い，撤去後，口腔外でそれらを組み合わせ一塊の印象とする。

フラビーガムと正常な顎堤部など，被圧変位量の異なる部分の印象圧を適切にコントロールすることを目的とする場合と，一塊の印象を口腔外に撤去することが不可能な症例に用いる場合がある。後者では，義歯自体も分割義歯となることが多いが，顎義歯で頻用される。

## 915 分割可撤式模型→「分割復位式模型」

参照

**916 分割義歯** ぶんかつぎし**sectional denture**

複数の部分に別れ、口腔内でそれらを組み合わせて利用される義歯。小口症、開口障害などのために、通常の補綴装置の着脱が物理的に困難な場合に分割構造としたものや、欠損部の顎堤の吸収が高度な症例に適用されたブリッジの複雑な形態のポンティック部を可撤式構造としたもの、維持のため、アンダーカットを積極的に利用する場合などに利用される。

**917 分割コア** ぶんかつこ**interlocking core**

平行でない複数の根管を利用する場合、複数部分に分割して製作する築造体。

**918 分割式模型**→「分割復位式模型」参照**919 分割歯型式模型**→「分割復位式模型」参照**920 分割トレー** ぶんかつてい**sectional impression tray**

分割印象に用いる特殊なトレー。石膏印象用には既製トレーも存在したが、現在分割トレーと呼ばれるものは基本的にすべて個人トレーである。通常は2分割であるが、通常のトレー材料で製作されたトレー本体と、それらを連結するジグ部分とから構成される。ただし、概形印象には既製の局部トレーを組み合わせて利用することもある。

**921 分割復位式模型** ぶんかつふくいしきもけい**working cast with divided die**

(同義語) 分割可撤式模型, 分割式模型, 分割歯型式模型

クラウンやブリッジを製作する場合に用いられる作業用模型で、歯型と歯列模

型の分離・結合様式から分類した可撤式模型の1つ。歯列模型から分割歯型 (divided die) の部分を分割して、着脱可能にした方法。

**922 分割腕鉤** ぶんかつわんこう**divided arm clasp**

Ney社から発表された鑄造鉤の1つ。レスト付き二腕鉤の2本の鉤腕とレストがそれぞれ独立し、脚部で連結している形態で、支台歯の咬合面、頬・舌側面に設定されるクラスプ。一腕のみが分割されるものと、二腕とも分割されるものがある。義歯の沈下および上方への脱離に対しては抵抗するが、横揺れに対する抵抗は期待できない。

**923 ヘアピンクラスプ****hairpin clasp**

欠損側に体部をおき、頬・舌側面の鉤腕を中央部付近で方向を反転させてニアゾーンのアンダーカット部に鉤尖をおいたヘアピン状のクラスプ。Roachにより提唱された。

**924 平均値咬合器** へいきんちこうごうき**average value articulator**

顎路角 (傾斜), 切歯路角 (傾斜), バルクウィル角, 顎頭間距離などの顎運動の各要素を解剖学的平均値に固定した咬合器。

**925 平均的顎頭点** へいきんてきかとうてん**arbitrary hinge position**

平均的な顎頭の位置に基づいて皮膚上に設定される顎頭点。フェイスボウトランスファー時の後方基準点として利用される。その具体的な位置に関しては、

Gysi による耳珠上縁と外眼角を結ぶ線上で外耳道の前方 13 mm の点, Lundeen によるその下方 3 mm の点, Hanau によるフランクフルト平面上で外耳道の前方 12 mm の点, など諸説がある。

**926 平行形成器** へいこうけいせいき  
**parallelometer**

ブリッジやピンレッジの支台歯形成において, 口腔内でそれらの平行関係を機械的に規制して, 形成操作を容易とする器具。支台歯以外の天然歯に固定源を求め, それに切削器具を連結して, 平行運動だけを可能とする機構のものが主であるが, タービンヘッドの先端に装着して, タービンバーの方向を視覚的に判定するだけの簡便な機構の物もある。

**927 平衡咬合** へいこうこうごう  
**balanced articulation (occlusion)**

中心位(中心咬合位)および偏心位において, 力学的に安定した状態にある咬合状態。天然歯列について用いられることもあるが, 本来は義歯の咬合を記述する用語であり, 片側性平衡咬合と両側性平衡咬合とがある。

**928 平衡咬合小面** へいこうこうごうしょうめん  
**balancing occlusal facet**

Gysi の軸学説および咬合小面学説に従って, フルバランストオクルージョンを付与する目的で人工歯咬合面に形成する咬合小面の 1 つ。平衡側への側方滑走運動時に接触する面であり, 下顎臼歯では頬側咬頭内斜面, 上顎臼歯では舌側咬頭内斜面に発現する。

**929 閉口障害** へいこうしょうがい  
**difficulty in closing mouth**

閉口動作において咬頭嵌合位あるいは本来の閉口位に閉口できない状態。外傷

などによって顎関節部に炎症が生じ, 疼痛や炎症性の浮腫などのために閉口が困難である場合や, 顎関節の脱臼や亜脱臼によって閉口が困難となる場合などがある。関節円板の後方転位が下顎頭の後方移動を妨げる一時的な閉口障害をオープンロック (open lock) というが, 亜脱臼との区別は明確ではない。

**930 平行切削器** へいこうせつさくき  
**parallelometer**

ミリングによって, テレスコープクラウンやバーなどの自家製アタッチメントを製作するために用いる精密な技工用切削器。サベイヤー部, 模型固定台, 切削用回転部, 動力部などから構成されている。コーヌスクローネ製作用の HUG パラレロメーターを始め, 数種類の製品がある。

**931 平衡接触** へいこうせつしよく  
**balancing occlusal contact**

対合する歯の均等な咬合接触。

**932 平衡側** へいこうそく  
**balancing side, nonworking side**  
(同義語) 非作業側

咀嚼運動時または側方滑走運動時に開ける下顎の外側方への移動側の反対側。

**933 平衡側咬頭接触** へいこうそくこうとうせつしよく  
**balancing contact, balancing occlusal contact**

平衡側における対合する歯の接触。従来, 平衡側臼歯部での咬合接触は歯周組織や顎関節に為害作用を及ぼすと考えられてきたが, 近年, 強く咬合したときの平衡側臼歯部の咬合接触は機能的に重要であるとの考えがある。

**934 平衡側側方顎路** へいこうそくそくほう  
うかる

**lateral condylar path on balancing  
side**

〔同義語〕 非作業側側方顎路

側方滑走運動時における平衡側下顎頭の運動経路。前下方内方に移動し、その水平面内の運動は側方顎路角やサイドシフトを形成する。

**935 平行測定** へいこうそくてい  
**parallel check**

- ブリッジの支台歯形成時に各支台歯間の平行性を確認する検査。大型ミラー、口腔内写真撮影用ミラーを用いて咬合面側、切縁側、唇・頬側、舌・口蓋側から支台歯全体を見て、すべてのマージン部にアンダーカットがなく、平行性があることを口腔内あるいは作業用模型上で確認する。専用のノギス状のインストルメント、平行測定器もある。
- 部分床義歯の製作時に、サバイヤーを用いて歯列模型上の歯および軟組織の平行性を調べる検査。

**936 平行測定器** へいこうそくていき  
**parallelometer**

クラウンやブリッジの製作に際し、支台歯の形成面のテーパの判定、複数のピンホールやポスト孔などの平行性の確認、各部のアンダーカットの診査などに用いる器具。臨床、技工いずれの現場でも利用されるが、ノギス状のものやデジタルミラーに平行線を刻印したのなどがある。

**937 平行模型** へいこうもけい  
**parallel cast**

上下顎模型の基底面を咬合平面と平行に、正中口蓋縫合線を模型の正中に一致させて製作した石膏模型。

**938 平線咬合器**→「蝶番咬合器」参照

**939 ベネット運動** — うんどう

**Bennett's movement,  
laterotrusion**

下顎側方運動における作業側下顎頭の側方移動。

Bennett (1908) により提唱された。作業側下顎頭は下顎側方運動時の回転中心となり、下顎全体は側方移動する。その際の作業側下顎頭の移動範囲は、上下前後のいずれか外方約 1 mm で約 60° の円錐形内である。

**940 ベネット角**→「側方顎路角」参照

**941 ベベル型** — がた

**bevel**

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の 1 つ。歯軸に対して外開きの斜面を与えた形態。通常、ベベル型単独で用いることは少なく、ショルダー型に幅の小さいベベルを付与したベベルドショルダー型や、ヘビーシャンファア型にベベルを付与したベベルドシャンファア型 (beveled chamfer type) として応用されることが多い。

**942 ベベルドショルダー型** — がた

**beveled shoulder type**

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の 1 つ。ショルダーの外縁に小さい幅のベベルを付与した形態。ショルダー型の欠点であるセメント合着時の浮き上がりによる辺縁部の適合不良を補正するために、前装铸造冠の唇 (頬) 側辺縁などに応用される。ただし、ジャケットクラウンのように縁端強度の弱い材料のものには応用できない。

**943 辺縁形成**→「筋圧形成」参照

**944 辺縁骨レベル** へんえんこつ—  
**marginal bone level**

天然歯を支える歯槽骨や骨結合型インプラントの周囲骨組織の骨頂部の位置。

**945** 辺縁封鎖 へんえんぷうさ

**border seal**

義歯床縁と義歯床下粘膜または義歯周囲軟組織との封鎖状態。床縁封鎖ともいう。

**946** 偏心位 [下顎の] へんしんい [かがく—]

**eccentric position [of mandible]**

中心位以外のすべての顎位。

**947** 偏心咬合位 へんしんこうごうい

**eccentric occlusal position**

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で、前方、側方、あるいは後方に滑走させたときのすべての咬合位。

**948** 偏側型ポンティック へんそくがた

—

**semihygienic pontic**

唇側または頬側の歯頸部のみが顎堤粘膜と線状に接触し、舌側に向かうに従って徐々に粘膜から離れていく形態のポンティック。

**949** 片側性咬合平衡 へんそくせいこうごうへいこう

**unilateral occlusal balance**

全部床義歯、あるいはそれに近似する義歯において、作業側に食塊が介在しても、義歯が離脱したり、回転しないで安定している状態。

**950** 片側性平衡咬合 へんそくせいへいこうごうごう

**unilateral balanced articulation**

**[occlusion]**

側方咬合位において、平衡側の咬合接触がない状態で、作業側人工歯の頬・舌側咬頭のための咬合接触により力学的な平衡状態を作りだし、義歯の転覆を防止す

ることを意図した咬合様式。Pound の lingualized occlusion も片側性平衡咬合の1つである。

**951** 片側離脱 [ブリッジの] へんそくりだつ

**partial loss of retention [of fixed partial denture (bridge)]**

固定性ブリッジの支台装置の一部が脱離した状態。ブリッジは脱落せず口腔内に残るため、脱離した支台歯のう蝕進行が促進されるなど重篤な経過をたどることが多い。

**952** 偏咀嚼 へんそしやく

**unilateral chewing**

左右のいずれか一方だけで行う咀嚼。

**953** 片麻痺 へんまひ (かたまひ)

**hemiplegia**

〔同義語〕半側麻痺

身体の片側半身の運動が障害され麻痺をきたした状態。大脳や脳幹部などの障害においてみられる。症状は運動障害、言語障害、失認などで、右片麻痺では論理や言葉などの言語をつかさどる左脳に障害が生じており、理解はあるが言葉で表せられない失語症がおきるのが特徴。左片麻痺では情緒や感覚をつかさどる右脳に障害が生じ、性格変容が生じやすいのが特徴。

## ほ

**954** ポーセレンジャケットクラウン

**porcelain jacket crown**

一般に白金や純パラジウムの箔を用いたマトリックス法で製作される陶材のみで製作された全部被覆冠。審美性、化学的安定性、耐摩耗性に優れ、金属に比べて熱伝導度が小さく、組織に対する為害



作用が少ないなどの長所を有するが、脆弱で破折しやすく、製作が煩雑であるという短所もある。

→「オールセラミッククラウン」参照

### 955 ポーセレンブリッジ

#### porcelain fixed partial denture, porcelain bridge

全部被覆冠を支台装置とし、支台装置とポンティックを同質のポーセレンで焼成したブリッジ。アルミナスポーセレンなどの強度に優れたポーセレンで焼成した全部ポーセレンブリッジと強度を補うためポーセレンのなかに金属を埋入した金属加強ポーセレンブリッジとの2種がある。

### 956 ボーンアンカーブリッジ

#### bone anchored fixed partial denture, bone anchored bridge

〔同義語〕 オッセオインテグレートッドブリッジ

複数本の骨結合型インプラントを支台とする固定性または術者可撤性の補綴装置。

### 957 補強線 ほきょうせん

#### reinforcing wire

レジン床義歯、咬合床、個人トレーなどの破折・変形を防止し、強化するための金属線。レジン床義歯では、上顎口蓋面や下顎舌側面にしばしば用いられる。

### 958 ボクシング

#### boxing on impression

棒状と板状のワックスを用いて印象の辺縁外周に沿って箱枠をつくる操作。棒状ワックスで適切な辺縁部を確保し、板状ワックスで隔壁を形成することによって模型の適切な厚みを確保する。

### 959 保持→「維持」参照

### 960 保持形態 ほじけいたい

### retention form

外力などによって歯冠補綴装置が支台歯から脱落しないよう保持するために、支台歯に付与される形態。クラウンの場合、基本的な保持形態は相対する軸面であるが、保持力をより増強するため、ピンホール、グループ、小窩、鳩尾形、これらを併用したロックなどの補助形態が追加されることがある。

### 961 補助アタッチメント ほじょ—

#### auxiliary attachment

単独では支台装置の役割を果たせないアタッチメント。ロマガノリプレソマティック、スイングロックアタッチメント、ガグリールメッティイソクリップなどがある。

その役割を大別すると次の3種類に分類できる。①分割ブロック：不平行な支台歯に固定性ブリッジを適用時の連結機構として使用。②維持用エレメント：維持の目的だけに使用。③バランサー：片側欠損症例に反対側に延長したバーの先端に支持や回転軸を求めるとの装置。

### 962 補助維持装置→「補助支台装置」参照

### 963 補助支台装置 ほじょしたいそうち

#### auxiliary retainer

〔同義語〕 補助維持装置

部分床義歯に用いられる支台装置で、限定された機能を有するもの。フック、スパーなどがこれに含まれる。

### 964 ポステリアガイダンス

#### condylar guidance, posterior guidance

顎運動を顎関節の形態学的要因によって規定する要素。前方部の歯の指導要素に対する用語。

→「アンテリアガイダンス」参照

**965** **ポスト**

**dowel, post**

支台歯に形成されたポスト孔に適合し、歯冠部鑄造体あるいは歯冠補綴装置を保持する棒状の構造体。既製ポストと自家製ポストとがあり、その材料には金属、グラスファイバー、あるいはカーボンファイバー補強プラスチックなどがある。

**966** **ポストクラウン**

**post-core crown**

〔同義語〕 継続歯

歯冠部とポスト部が一体の全部歯冠補綴装置。主に前歯部単冠に用いられる。歯冠部の前装部と舌面板、支台歯の根面に接する根面板と、歯冠部を保持するための維持部からなり、レジン前装ポストクラウン、陶歯前装ポストクラウンなどがある。

**967** **ポストコア**

**dowel, post-core**

支台歯の歯根部と歯冠部にまたがる築造体。

**968** **ポスト孔** — ちこう

**prepared root canal for dowel**

ポストを挿入、装着するために、支台歯の歯根部にポストと同形態に形成される孔。

**969** **ポストダム**

**post dam**

上顎の義歯床口蓋後縁に辺縁封鎖を確実にするために設けられる堤状の突起。ポストダムの形成には、機能印象時に該当部位を加压形成する方法と、作業用模型の同部位を削除修正する方法とがある。

**970** **補足疲労** ほそくひろう

**fatigue supplement**

ブリッジの設計指針としてポンティックに生じる負荷の大きさを示す指数のうち2歯以上の連続するポンティックや延長ポンティックを適用する場合に付加される指数。

ブリッジはポンティック部の負荷(疲労)の大きさが支台歯の負担能力(抵抗力)を越えないように設計する必要がある。支台歯の抵抗力として歯根表面積の大きさをもとにした指数が歯種ごとに決められ、ポンティックの疲労として歯種ごとに同名歯の抵抗力に相当する指数が与えられており、補足疲労の指数は欠損部位や欠損歯数などによって決定される。これら指数をもとに支台歯の抵抗力とポンティックの疲労を算出し、欠損に隣接する歯以外の歯を支台歯として加えるかどうか、加えるとすればどの歯を加えるかの判断基準とされている。

→「デュシャンジュの指数」参照

**971** **ポッセルトの図形** — ずけい

**Posselt's figure, Posselt's three dimensional representation**

Posselt (1952) が正中矢状面内の下顎運動記録と種々の高径における水平的な下顎運動記録とを組み合わせて再現した、切歯部における3次元的な下顎限界運動範囲を示す図形。その形態と Posselt の出身地に因みスウェーデンのパナナ (Swedish banana) とも呼ばれる。

**972** **補綴** ほてつ

**prosthesis**

身体器官の喪失によって損なわれた形態と機能を人工装置によって修復・整形すること。

**973** **補綴学** ほてつがく

**prosthetics**

生体の欠損部を義歯、義眼、義足など

の人工物で修復することに関する理論と技術を考究する学問。

→「歯科補綴学」参照

**974 補綴主導型インプラント治療** →  
「トップダウントリートメント」参照

**975 補綴前処置** ほてつぜんしよち  
**preprosthetic treatment**

補綴装置の製作時に、その治療の妨げとなるような口腔内環境を改善するために適用される、各種の歯科治療。抜歯、小帯切除術などの外科処置、充填や根管治療などの保存処置、口腔清掃や歯肉切除などの歯周治療、MTMなどの歯科矯正治療、レストシートやガイドプレーンの付与などの支台歯の処置、その他（歯列矯正、ティッシュコンディショナーによる処置、咬合挙上など）、多様なものが含まれる。

**976 補綴装置** ほてつそうち  
**prosthesis**

〔同義語〕補綴物

1) 身体器官の欠損や形態異常に対して、修復・整形・機能回復を目的として適用される各種人工装置の総称。

2) 歯質、歯列、顎骨などの欠損や形態異常を修復し、失われた形態・機能・審美性の回復を図る人工装置。これは慣用的なもので、厳密に口腔領域に限定した本義で表示する場合には、歯科補綴装置 (dental prosthesis) とすべきである。

**977 補綴物** →「補綴装置」参照

**978 母模型** ほもけい  
**master cast**

複製模型を製作する際の基となる模型。

**979 ポリサルファイドゴム印象** —い  
んしよち  
**polysulfide rubber impression**

ポリサルファイドゴム印象材による印象。硬化後の寸法安定性に優れているので、有歯顎から無歯顎まで精密印象として多用される。

**980 ボンウィル三角** —さんかく  
**Bonwill triangle**

切歯点と左右の下顎頭上面の中央部頂点を結んだ線で形成される一辺4インチの三角形。Bonwill (1858) によって提唱された。

**981 ポンティック**  
**pontic**

ブリッジの構成要素の1つ。支台装置と連結されることによって歯の欠損部を補う人工歯で、咀嚼や発音といった口腔の機能および形態、審美性などを回復する役割をもつ。適用部位、基底面形態、自浄性、使用材料や支台装置との位置関係の違いなどにより各種に分類される。

**982 ポンティック陶歯** —とうし  
**pontic porcelain tooth**

陶材製のポンティック専用人工歯。ポンティック粘膜面の材料としては、グレージングした陶材が優れていることから使用されていたが、メタルボンドクラウンの普及により使用頻度は少なくなった。

## ま

**983 埋没** まいぼつ  
**investing**

重合、ろう（鑛）付け、鋳造などに先立ち、対象物の全体あるいは一部を耐火材や石膏などで被覆、または包埋すること。

**984 マウンティングジグ**  
**mounting jig**

上顎模型を咬合器に装着するときを用いる用具。バイトフォークを保持するためのもの（キャストサポート）や、ボンウィル三角を基準にして平均的位置に模型を位置づける咬合平面板などがある。

**985 マウンティングプレート**

**mounting frame, mounting plate, mounting ring**

石膏模型を咬合器に装着するための用具。通常は咬合器の上弓と下弓のそれぞれ中央部分に設置されたリングまたは円形の金属またはプラスチック板。

**986 前ろう（鑲）付け法 まえー（ろう）づーほう**

**preceramic soldering method**

陶材焼付冠の固定性連結製作法の1つで、陶材を金属冠に焼き付ける前に行うろう（鑲）付け。

**987 窓開け まどあー cut-back**

前装鋳造冠補綴において、前装用材料を築盛するための領域をワックスパターンに付与する操作。いったん、歯冠形態をワックスにて完全に回復した後に行われる。

**988 マトリックス法 ーほう matrix method**

陶材を歯型上に築盛する際、受け型（マトリックス）を用いて行うポーセレンジャケットクラウンやラミネートベニアの製作法。マトリックスには金属箔マトリックス（白金や純パラジウムの箔）と耐火材マトリックス（ノンマトリックス法とも呼ばれる）とがある。またろう（鑲）付けの際、金属箔マトリックス法が応用されることもある。

**989 麻痺性嚥下障害→「機能的嚥下障害」参照**

**990 摩耗 [歯の] まもう [はー]**

**dental abrasion**

摩擦等の異常な機械的作用により生じた表在性の歯質摩滅。不適当なブラッシングによる歯頸部根面のくさび状あるいは溝状の摩耗症。職業的あるいは習慣的原因による切縁、咬合面の摩耗症、およびクラスプによるエナメル質の摩耗等がある。摩耗面は滑沢で硬くなり、古くなると黄褐色を呈する。組織学的には象牙細管の石灰化と、歯髄側面における第二象牙質の形成がみられる。

**991 マンセル表色系 ーひょうしょくけい**

**Munsell color system**

〔同義語〕マンセル色票系

色の三属性による色票配列に基づいてMunsellが考案した表色系。色相、明度、彩度の三属性によって物体色を表す。物体色の三属性は色立体という三次元空間で表すことができ、明度は高さで、色相は角度で、彩度は中心軸からの距離で表す。

**992 マンディブラーキネジオグラフ [MKG] ー [えむけーじー]**

**Mandibular Kinesiograph** (商品名)

下顎中切歯部に取り付けた小型永久磁石の動きを、頭部に固定したセンサーアレイで検出する非接触型の3次元下顎運動記録装置。Jankelson (1969) により考案された。

**み**

**993 水飲みテスト みずのー**

**water swallowing test, WST**

→「改訂水飲みテスト」参照

**994 未病 みびょう****mibyō**

病気に著しく近い心身の状態。検査を行えば異常を認めるが自覚症状のない時期で放置により病気に移行する状態と、自覚症状を有するが検査により異常を認めない状態に大別される。本来、東洋医学の概念が原点であったが、近年、QOLへの関心の高まりから現代予防医学に取り入れられた語句である。

**995 ミューチュアリープロテクトド  
オクルージョン****mutually protected occlusion**

ナソロジー学派の主張する咬合様式。咬頭嵌合位においては、臼歯部が咬合し、前歯部は僅かに離開する。前方滑走運動においては前歯部が、そして側方滑走運動においては犬歯が接触滑走し、臼歯部は離開する。

**996 ミリングテクニック [アタッチメン  
トの]****milling technique [of attachment]**

バーアタッチメントなど各種の自家製アタッチメントを用いて可撤性補綴装置を製作するときに平行切削器を用いて、補綴装置の着脱方向に一致するように作業用模型上で、ワックスパターンや鋳造体をミリング（形成、研削）整形する手法。

**997 ミリングバー****milling bar**

支台歯間を連結する角棒状の鋳造体の側面を平行切削器で平行に仕上げたバー。平行な面どうしの摩擦により維持力を発揮する。

**む****998 無圧印象 むあついんしょう****mucostatic impression,  
non-pressure impression**

可及的に印象圧を加えないで顎堤、口蓋粘膜の静止状態を採得する印象。

**999 無口蓋義歯 むこうがいぎし****roofless denture**

義歯床の口蓋部を顎堤の内側縁に沿ってU字形に除去し、全体を馬蹄形にした上顎全部床義歯。

**1000 無咬頭人工歯 むこうとうじんこう  
し****cusplless tooth, nonanatomic  
tooth, zerodegree tooth**

非解剖学的人工歯に属する咬頭傾斜角が0°の人工臼歯。咬合面が平坦であるため、機能時に顎堤への側方力は発現せず、顎堤の保存には有利であるとされている。しかし、解剖学的人工歯のように、咬合面形態を利用して顎運動との協調を図ることができないため、咬合平衡を確保するためにはバランスングランプなどを設定することもある。Sears (1922, 1938), Hardy (1942, 1950) などの人工歯が有名である。

**1001 無歯顎 むしがく****edentulous jaw**

歯をすべて喪失した、もしくは歯が存在しない顎。

**1002 MUDL の法則 むどうる — ほうそ  
く****MUDL rule**

後方滑走運動時の干渉を除去する際に用いられる法則。上顎臼歯では近心斜面 (Mesial of the Upper) を、下顎臼歯では

遠心斜面 (Distal of the Lower) を削合する。Lauritzen により提唱された。

## め

### 1003 明度 めいど

#### value

色の三属性の1つ。物体表面の相対的な明るさに関する色感覚の属性、およびそれを同一条件で照明した白色面を基準として尺度化した指標。黒を0、白を10とする間隔尺度を視感反射率の多次式で定義する。

→「マンセル表色系」参照

### 1004 メール

#### male

雌雄組み合わせからなるアタッチメントの雄部分。着脱を果たす部分が陥凹状のフィメール部に嵌合するような突起形態を有す。歯冠内アタッチメントでは可撤部、歯冠外および根面アタッチメントでは固定部に設定される。

### 1005 メジャリングデバイス

#### Measuring Device (商品名)

厚さを測定する簡易測定器の1つ。ステンレス製で、先端が鋭利な金属用と先端が球状のワックス用とがある。いずれも0.1 mm までの読み取りができ、最大10.0 mm までを測定できる。

### 1006 メタルコーピング

#### metal coping

- 1) 形成された支台歯の上に適合される鑄造体。生活歯では薄いキャップ状、失活歯ではポストを伴うこともある。後者の場合、根面板と同義。
- 2) 陶材焼付冠の陶材を焼き付けるための金属体。フレームワークと同義。

## も

### 1007 モールドガイド

#### mold guide

人工歯の形態見本。

### 1008 モダイオラス

#### modiolus

口角の遠心部に口輪筋などの表情筋が集まって形成される結節。人工歯排列位置と義歯床研磨面形態に影響する。

### 1009 モデリングコンパウンド印象

#### いんしょう

#### modeling plastic impression compound

熱可塑性のモデリングコンパウンドによる印象。顎堤弓の大きさに合わせて選択した既製トレーをトリミングした後、軟化したモデリングコンパウンドを盛り、義歯床に関連する解剖学的形態を記録する。一般的には、加圧印象に分類される。

### 1010 モリソンクラウン→「圧印金冠」参照

### 1011 モンソンカーブ

#### curve of Monson, Monson curve

篩骨鶏冠付近を中心とした半径4インチの球面の下方に凸な曲面に下顎歯の切縁や咬頭頂が接触しているとする、前後の歯列彎曲と側方歯列彎曲の双方を含む咬合彎曲。

下顎の各歯の植立方向を延長すると一点で交わるとしたモンソン球面説に基づいている。なお、咬合彎曲がモンソンカーブと逆の場合のことをアンチモンソンカーブ (anti-Monson curve) という。

### 1012 モンソン球面説

#### Monson spherical theory

Monson (1920) によって発表された幾何学的下顎運動理論。スピーの彎曲をすべての下顎運動の範囲にまで拡大すると、1つの球面が形成され、その中心は歯の長軸と下顎頭の中心から始まる垂線との交点に一致し、半径は4インチとなるとした。さらにこの中心が下顎運動の中心点でもあり、下顎はこの球面に沿って運動するというものである。

## ゆ

### 1013 有孔陶歯 ゆうこうとうし diatoric tooth

有床義歯用人工歯の機械的維持力を増すために、前歯では舌側面に、臼歯では歯槽面に穿下性の孔および側管が設けられている陶歯。

### 1014 有根型ポンティック ゆうこんがた— root extension pontic

抜去歯の歯根長 1/4~1/5 程度の根部を備えた形態のポンティック。上顎前歯部の審美性を維持する目的で抜歯前にブリッジを作製しておき抜歯直後の抜歯窩に嵌入される。表面にはグレージングを行った陶材を使用することが必須である。

### 1015 UCLA 型アバットメント ゆーしーえるえーがた— UCLA abutment

インプラント体にスクリューで直接連結される上部構造をロストワックスによる鑄造法で作製する際の技工用パーツの一般名称。カスタムアバットメントのうち鑄造により支台形態を作製するのに用いる場合と、スクリュー固定式上部構造のメタルフレームとして用いる場合があ

る。

### 1016 有歯顎 ゆうしがく dentulous jaw

歯の存在している顎。無歯顎に対する用語。

### 1017 有床型ポンティック ゆうしょうがた— plate type pontic

基底面に歯肉色の床を付けて粘膜と接触させる形態のポンティック。欠損部の歯槽骨が大きく吸収した場合に審美性を回復したり違和感を軽減したりする目的で用いる。自浄性や清掃性に劣るので可撤性ブリッジにすることが必須である。

### 1018 有床義歯 ゆうしょうぎし plate denture, removable denture

粘膜を覆う義歯床を有する義歯。部分欠損歯列において顎堤の一部を覆う形式のものを部分床義歯、無歯顎において顎堤の全部を覆う形式のものを全部床義歯という。

### 1019 有釘陶歯→「ピン陶歯」参照

### 1020 誘導面→「ガイドプレーン」参照

### 1021 遊離端義歯 ゆうりたんぎし distal extension partial denture, extension base removable partial denture

遊離端欠損部、すなわち歯列の部分的欠損のうち、欠損部遠心側に残存歯が存在しない欠損様式に適用される可撤性有床義歯。臨床的には片側性と両側性に分けられ、前者は片側性遊離端義歯 (unilateral extension base denture) と呼ばれ、ケネディーの分類ではⅡ級に相当する欠損に適用される。後者は両側性遊離端義歯 (bilateral extension base denture) と呼ばれ、ケネディーの分類ではⅠ級に相当する欠損に適用される。

本義歯は欠損部近心側のみに残存歯列が存在するので、人工歯列の維持・支持および安定は欠損部顎堤と残存歯列に求めなければならない。通常、直接支台装置および間接支台装置が設定される。

**1022 遊離端欠損** ゆうりたんけつそん

**distal extension missing, free-end missing**

歯列の部分欠損症例において、欠損部の遠心側に歯が存在しないもの。

**1023 遊離端ブリッジ**→「延長ブリッジ」

参照

よ

**1024 予後** よご

**prognosis**

本来、その病気のたどる経過についての医学上の見通し。歯科補綴学では、支台歯や顎堤などの組織や補綴装置自体および補綴治療により回復された機能や審美性のたどる経過についての見通しを意味する。

**1025 3/4冠** よんぶんのさんかん

**three quarter crown**

〔同義語〕 スリークォータークラウン

前歯歯冠の4面のうち、唇側面を残して、他の3面を被覆する部分被覆冠の1つ。Carmichael (1906) によって創案された。Carmichael 3/4冠では両隣接面と舌面が削除され、切縁溝と隣接面溝が形成されるとともに両隣接面溝を結ぶ舌側マージン部にショルダークが形成される。

Tinker型はスライスカットが小さく、金属の露出が少ないので審美性に優れる反面、マージン部が不潔域を通るため二次う蝕の危険性が高い。

スライス型はTinker型に比べてスラ

イスカットが大きいので、金属の露出が多くなるが、二次う蝕の発生は少なくなり、形成も容易である。

Vest型では唇面隅角部に半円溝が形成され、両隣接面および切縁側のマージンは唇面に設定されている。他の2型に比べ、溝形成に伴う歯髄損傷および二次う蝕の危険性は少ないものの、金属露出が最も著しく審美性に劣るが、歯冠が薄い歯にも可能である。

ら

**1026 ラミネートベニア**

**laminate veneer**

主に前歯唇側面の審美的修復を目的とした歯冠色のシェル。ポーセレンを応用したポーセレンラミネートベニアとレジンを用いたレジンラミネートベニアとの2種類がある。ともに接着性レジンを用いて歯質に接着させる。

**1027 ランナーバー**

**runner bar**

ブリッジや連結補綴装置において、各支台歯のワックスパターンに植立したスブルー部と鋳造リングの円錐台に植立したゲート部との間に設置したバー形態の湯道。溶湯の流れを調節し、湯だまり効果をもつ。

り

**1028 リジッドサポート**

**rigid support**

支台歯と義歯とを強固に連結して、歯根膜負担を主体とする部分床義歯の設計の概念。その構造様式はリジッドコネクターといわれる。連結条件として、支台



歯周組織の負担限界を越えないことが要求される。

### 1029 リッジラップ型ポンティック

がたー

#### ridge lap pontic

基底面が唇側（頬側）の歯頸部から、舌側（口蓋側）に向かって全面的あるいは部分的（T字型）に歯槽頂部をやや越えた範囲まで粘膜と接触し、その後徐々に粘膜から離れていく形態のポンティック。

### 1030 リップサポート

#### lip support

歯や人工歯が口腔内で口唇を支えていること。歯の欠損により失われたリップサポートは、義歯により回復されるが、その回復程度は、前歯の前後の排列位置や傾斜度によって異なる。老人様顔貌の特徴とされる落ちくぼんだ口元は、リップサポートの喪失が主体として生じ、これに加齢変化（老化）が加わったものである。

### 1031 離底型ポンティック

りていがたー

#### hygienic pontic

基底面が顎堤粘膜から完全に離れている形態のポンティック。

### 1032 リテンションビーズ

#### retention beads

レジン金属に接合させる際、金属との機械的維持を図るために用いるプラスチック製の細かいビーズ。ワックスパターン表面にこのビーズを付着させ、鋳造体に凹凸を付与する。

### 1033 リバースバックアクションクラスプ

#### reverse back action clasp

欠損側に近い頬側面に鉤体部をおき、

鉤腕が欠損側隣接面、辺縁隆線部を走行して、舌側面のファーゾーンのアンダーカット部に鉤尖をおくクラスプ。

### 1034 リバースピン陶歯

#### reverse pin porcelain facing tooth

裏面に平行に設定されたピンホールに適合する金属ピンによって補綴装置本体に結合させる。前装用既製陶歯、前装冠用とポンティック用とがある。

→「ピン陶歯」参照

### 1035 リベース

#### rebase

人工歯部以外の義歯床を新しい義歯床用材料に置き換え、義歯床下粘膜との再適合を図ること。人工歯の咬合関係は正しいが、義歯床粘膜面の適合が不良場合に適用される。

→「リライン」参照

### 1036 リポジショニングスプリント

#### repositioning splint

オクルーザルスプリントの1つで、下顎頭や関節円板の位置を整復するためのスプリント。通常、顎位を前方位で固定する前方整位型スプリントが用いられる。

→「スプリント」参照

### 1037 リマウンティングジグ

#### remounting jig, remount cast jig

咬合器再装着時に使われる歯列咬合面記録（例；テンチのコア）を咬合器上に正しく位置づけるための金属板。咬合器の下弓に固定して使う。

### 1038 リムーバルノブ

#### removal knob

1) 鋳造冠などを仮着したのち、合着前に支台歯から撤去する際に辺縁を損なわないようにクラウンリムーバーなどがかかるようにつけられた突起。

2) 鉤腕を変形させないために、部分床義歯に付与され、患者が日常的に利用する撤去用の突起。

**1039 両側性咬合平衡** りょうそくせいこうごうへいこう

**bilateral occlusal balance**

全部床義歯装着時の側方咬合位において、作業側人工歯に加わる義歯の回転や離脱に係わる力の発現を平衡側の咬合接触によって防止する咬合状態。

**1040 両側性平衡咬合** りょうそくせいへいこうこうごう

**bilateral balanced articulation (occlusion)**

側方咬合位において、作業側人工歯に加わる義歯の回転や離脱に係わる力の発現を平衡側の咬合接触によって相殺する目的で付与される咬合様式。全部床義歯に望ましい咬合様式の1つとされている。

**1041 両翼鉤**→「二腕鉤」参照

**1042 リライン**

**reline**

義歯床粘膜面の1層だけを新しい義歯床用材料に置き換え、義歯床下粘膜との適合を図ること。人工歯に異常所見はなく、また咬合関係に異常が認められず、義歯床粘膜面の適合が不良な場合に適用される。新しい義歯床用材料としては、咀嚼時の疼痛の緩和や顎堤のアンダーカットへの適合を図ることを目的として、軟質裏装材 (soft relining material) が使用されることもある。本方法には、直接法と間接法とがある。間接法において、模型と人工歯の位置関係を保持して、印象材の部分を用材料に置き換えるために用いられる器具をリライニングジグ (relining jig) という。

→「リベース」参照

**1043 リラクゼーションスプリント**

**relaxation splint**

オクルーザルスプリントの1つで、筋の緊張緩和やブラキシズムの治療などを目的とする前歯型スプリント。上顎前歯切縁から口蓋を被覆し、閉口時に下顎前歯のみがこれに接触する。

→「スプリント」参照

**1044 リリーフ**

**relief**

1) 義歯床粘膜面の一部を凹状として、義歯床を介して顎堤粘膜あるいは顎骨に加えられる咬合力を緩和すること。これにより、粘膜の疼痛あるいは義歯の破折を防止するとともに義歯の維持・安定を図る。その適用部位としては、粘膜が薄く被圧変位量が小さい口蓋隆起、下顎隆起、骨隆起などや、神経、血管の開口部に相当する切歯乳頭などがある。

2) 印象用トレーの内部に印象材が入るスペースを設けること。

**1045 リンガライズドオクルージョン**

**lingualized occlusion**

中心咬合位および側方滑走運動時に、上顎白歯の舌側咬頭だけが下顎白歯に接触することで咬合力を舌側へ誘導して、義歯の安定を図る咬合様式。Pound(1970)により提唱された全部床義歯の咬合様式。全部床義歯に望ましい咬合様式の1つ。

**1046 リンガルエプロン**

**lingual apron**

リンガルプレートの1つで、リンガルプレートの上縁を残存歯の舌側面に延長し、歯面の一部を覆うように設計された大連結子。義歯の沈下防止や、骨植の弱い前歯の固定に有効である。

**1047 リンガルバー****lingual bar**

下顎残存歯の舌側粘膜面に沿って設置されるパーティップの大連結子。特に、口腔底が浅い場合に前歯部の保護とバーの曲げ強度を向上させるために、舌側溝と舌の下方に設定され、断面形態がL字に近似したものをサブリングガルバー (sublingual bar) という。

**1048 リンガルプレート****lingual plate**

下顎残存歯の舌側粘膜面に設置される大連結子の1つ。下顎の舌側歯槽面を覆うように幅広く、かつ薄く設計される。

**1049 リングクラスプ****ring clasp**

欠損側隣接面に鉤体部をおき、支台歯のほぼ全周を1本のアームが取り巻き、その先端をニアゾーンの深いアンダーカットに設置するクラスプ。通常、上顎大臼歯では口蓋側から、下顎では頬側からアームが始まる。孤立した最後方臼歯を支台歯とする場合に用いる。補助アームをつける場合もある。左右対称的な適用が原則とされる。

**1050 臨床的歯冠** りんしょうてきしかん**clinical crown**

歯肉から口腔内に露出している歯の部分で、歯肉縁から咬合面または切縁までのいわゆる外見上の歯冠。解剖学的歯冠に対応する用語で、Gottliebにより提唱された。

解剖学的歯冠とは異なり、臨床的歯冠は年齢とともに変化する。萌出後高さを増し加齢に従って歯槽骨の吸収、歯肉の退縮が生じ、歯根が露出するとさらに臨床的歯冠は長くなる。歯冠修復を行う際、クラウンなどに適正な維持力を得るため

には、十分な臨床的歯冠長が必要となる。

**1051 臨床的歯根** りんしょうてきしこん**clinical root**

歯肉に覆われている歯根部。歯肉の退縮など局所環境因子により変化する。解剖学的歯根とは異なり、年齢とともに短くなる傾向にある。歯冠修復、咬合再建などの処置に際し、適正な臨床的歯冠歯根比の付与を考慮しないと咬合性外傷などを生ずることとなる。臨床的歯根が短い場合には歯冠長を短くし、コーピング処置などを行い、負担軽減を図る方法もある。

**1052 隣接面溝** りんせつめんこう**proximal groove**

3/4冠や4/5冠など部分被覆冠の支台歯の隣接面に長軸的に形成付与される維持溝(縦溝)。その方向により装着方向が制限されるが、被覆冠の唇側面や頬側面などの側面壁を取り除くことによって生じる維持力と強度の低下を補う。

**1053 隣接面鉤** りんせつめんこう**mesiodistal clasp**

〔同義語〕近遠心鉤

Roachにより提唱された鑄造鉤で、支台歯の舌面から近心面および遠心面を取り巻き、隣接面のアンダーカットに維持を求めた板(鋳)鉤(band clasp)。主として前歯部に用いられる。

**1054 隣接面板** りんせつめんばん**proximal plate**

部分床義歯の支台歯に形成されたガイドプレーンに対応する機構として義歯に設けられた金属部分。機能としては、義歯の着脱を誘導し容易にすること、支台歯への側方力を減少させること、食片圧入を防止することなどが挙げられる。

## れ

**1055 レジンキャップ****resin cap**

アクリリックレジンを用いた全部被覆冠の総称。製作法が容易なうえ、安価であり審美性にも優れるが、強度、耐摩耗性は十分ではない。色調安定性もないため長期間の使用には適さない。主として、有髄歯の歯冠形成後のプロビジョナルクラウンとして、また、暫間固定装置として使用される。

**1056 レジン歯** —し**acrylic resin tooth**

メチルメタクリレートを主成分としたアクリリックレジンによる人工歯。硬さが低いため削合しやすい、対合歯を傷つけない、義歯床との結合が強固、安価であるなどの利点はあるが、耐摩耗性が低いため容易に咬耗し咬合高径の低下を招きやすく、変色しやすいなどの欠点がある。

**1057 レジンジャケットクラウン****resin jacket crown**

レジンを用いた全部被覆冠。色調ならびに形態の付与が自由で、弾性もあり、修理が口腔内で行えるなどの長所を有する。しかし、吸水性、摩耗性、変色性、変質性があり、自然感が劣るなどの短所もある。加熱重合レジンに比べ、硬さ、圧縮強さ、耐摩耗性などに優れる硬質レジンを用いた硬質レジンジャケットクラウンもある。

**1058 レジン床** —しょう**resin denture base**

歯肉色のレジンを用いた義歯床。材料的にはアクリリックレジン、ポリサ

ルホン、ポリカーボネイトなどがあるが、アクリリックレジンが最も一般的である。加熱（水を用いる湿熱、電気ヒーターやマイクロ波による乾熱）重合、常温重合、光重合などがあり、加圧填入、加圧注入、流し込み、射出、加熱圧縮により成形する。

**1059 レジン床義歯** —しょうぎし**resin base denture**

義歯床が床用レジンで製作された有床義歯。アクリリックレジンが多用されるが、射出成形レジンが用いられることもある。

**1060 レジン前装冠** —ぜんそうかん**resin facing metal crown, resin veneer crown**

審美的修復を目的に、歯冠の唇側や頬側などの外観に触れる面を歯冠色レジンで被覆した金属冠。

**1061 レスト****rest**

部分床義歯において、クラスプの鉤体部、義歯床、バーなどから突出し、支台歯のレストシートに適合する金属製の小突起。義歯に加わる咬合力の支台歯への伝達、義歯沈下および横揺れ防止、食片圧入の防止、咬合接触の回復など多様な機能を備えている。その適用部位によって、咬合面レスト (occlusal rest)、切縁レスト (incisal rest)、基底結節レスト (舌面レスト; cingulum rest)、あるいは遠心レスト (distal rest)、近心レスト (mesial rest) に分けられる。

**1062 レストシート****rest seat**

レストを受け入れるために支台歯に形成される小窩。咬合力に耐えるだけの幅や厚さをレストに付与できると同時に、

義歯に加わる咬合力を垂直方向の力として支台歯へ伝達し、対合歯との早期接触や咬合干渉を避ける効果がある。

**1063 レスト付き二腕鉤** ー つーにわんこう

**two-arm clasp with occlusal rest**

鉤脚が1つで、咬合面レストと2つの鉤腕を有する最も基本的な環状鉤。線鉤と鑄造鉤とがあるが、鑄造によるレスト付き二腕鉤は考案者の名からエーカーズクラスプ (Akers clasp) とも呼ばれる。

**1064 レトロモラーパッド**

**retromolar pad**

下顎最後方大白歯のすぐ後方に位置する白後三角上で、顎堤遠心端に相当する位置に存在する、粘液腺 (白後腺) を含んだ軟組織からなる洋梨状の隆起。無歯顎になっても形態の変化が少ないため、下顎義歯床後縁の設定ならびに仮想咬合平面の後方基準として利用される。

**1065 連結強度** れんけつきょうど

**connecting rigidity,**

**Koppelungagrad** (独語)

遊離端義歯において義歯と支台歯との間に設定した支台装置部分に発現する変位性。Körber (1973) らによって初めて提唱された用語であるが、連結強度が小さければ粘膜負担が主となり、逆に、連結強度が大きければ、歯根膜負担が主となる。臨床的には、レストのない線鉤は連結強度の小さいもの、テレスコープクラウンは連結強度の大きいものの代表といえる。

**1066 連結固定 [歯の]** れんけつこてい [はー]

**splinting [of teeth]**

1) 歯周病に罹患した歯の消炎処置が完了しても歯の動揺が残遺した場合、接着

法やワイヤー固定法などによりこれらを連結し、個々の歯の安静を図ること。

2) 補綴装置の設計に際し、動揺の残遺した複数の支台歯を固定性または可撤性の支台装置により連結し、支台歯全体の支持能力を向上させること。

**1067 連結子** れんけつし

**connector**

〔同義語〕連結装置

部分床義歯の構成要素の1つで、大連結子と小連結子との総称。

**1068 連結装置**→「連結子」参照

**1069 連合印象** れんごういんしょう

**combination impression**

2種類以上の印象材、または流動性の異なる同種の印象材を用いて採得する印象。

→「単一印象」参照

**1070 連続鉤** れんぞくこう

**continuous clasp**

1) 鉤腕がレストから始まり複数歯の頬舌面を走行し、最も離れた歯のアンダーカットに鉤尖を置いたクラスプ。

2) 前歯舌面の基底結節上を数歯にわたって連続的に走行する金属のバンド。ケネディーパーと同義。

ろ

**1071 ろう (蠟) 型採得**→「ワックスアップ」参照

**1072 ろう (蠟) 義歯** ー (ろう) ぎし

**wax denture**

人工歯排列と歯肉形成が完了した重合前の義歯。患者の口腔内に試適して、審美性、顎間関係、発音機能などを確認し、必要に応じて修正した後に重合される。

**1073 老人様顔貌** ろうじんようがんばん

**senile appearance**

1) 加齢による変化だけでなく、歯の喪失に伴うリップサポートと咬合支持の喪失による顔貌の変化が、主として下顔面に特徴的に現れる老人様の顔貌。口裂の縮小が起り、上下の口唇は緊張を失って陥凹し、赤唇は薄くなり、放射状のシワが著明になり、老人の顔貌の特徴が強調される。補綴装置によるリップサポートと咬合支持の回復により改善される。

2) 無汗型外胚葉異形成症の小児に見られる特有な顔貌。毛髪、睫毛、眉毛などがほとんどなく、目の周縁には小皺が多く、鼻は鞍状様で、無歯症により口唇が反転突出しているために、その顔貌が一見老人様を呈している状態をいう。無歯症様顔貌 (anodontia appearance) とも呼ばれている。

**1074 ローチクラスプ**

**Roach clasp**

Roach (1929) の考案による歯肉型クラスプ。義歯床あるいは連結子から出て歯肉部を横走して支台歯部で垂直に屈曲して支台歯のアンダーカットに鉤尖が接触するパークラスプ。鉤尖部の形態がアルファベットの文字に似ていることから I, S, L, U 型など種々の呼称があるが、代表的なものは T 型クラスプ。

**1075 ろう (蠟) 堤**→「咬合堤」参照

**1076 ロングセントリックオクルージョン**

**long centric articulation**

**(occlusion)**

咬頭嵌合位と下顎最後退接触位との間に、咬合高径の変化を伴わず、しかも咬頭傾斜の影響を受けない前後的な自由域をもつ咬合。Schuyler (1963) によって

有歯顎にも導入された。

**わ**

**1077 ワイドセントリックオクルージョン**

**wide centric articulation (occlusion)**

咬頭嵌合位が一点に収斂しないで、左右的にわずかに自由域がある咬合。Schuyler (1963) や Guichet (1966) によって有歯顎にも導入された。

**1078 ワイヤークラスプ**→「線鉤」参照

**1079 ワックスアップ**

**waxing up**

〔同義語〕ろう (蠟) 型採得

インレーやクラウンなどの铸造体の原型となるワックスパターン (wax pattern) を作る過程で、歯型にワックスを付着し、その後ワックス形成器などを用いて形態を整え、最終的にワックスパターンをつくりあげる技工操作の総称。製作方法には直接法と間接法とがある。ワックス操作法は、圧接法 (wax adaptation technique)、ディッピング法 (dipping wax technique)、ろう (蠟) 盛り上げ法 (add-on technique) に大別される。

圧接法は均等に軟化した適当な大きさのワックスを歯型に圧接・圧延し、その後歯冠形態を彫刻してワックスパターンを形成する方法である。ディッピング法はあらかじめ小容器中で溶融したワックスに歯型を浸して、ワックスの薄層を付着させる方法でこれを繰り返して厚みを与え、歯冠形態をカービングによって成形する方法である。ろう (蠟) 盛り上げ法はスパチュラなどの器具を加熱して少量のワックスを溶融して、歯型に盛り上

げて全体を形づくる方法である。

歯冠形成法には彫刻法とドロップオンテクニック (drop-on technique) とがある。

#### 1080 ワックスコーンテクニック

##### wax cone technique

ワックスアップによる機能的咬合面形成法の1つ。歯型に咬頭の位置を示す円錐状のワックスを置き、隆線を盛り上げて系統的に咬合面を形成する。ワックスの盛り上げシステムにいくつかの方法があるが、Payneの方法、Thomasの方法が代表的である。

→「ワックスアップ」参照

#### 1081 ワルクホッフ小球 — しょうきゅう

##### Walkhoff palatal ball

無歯顎における水平的な顎位を決定する際に使用する小球。具体的には、上顎咬合床の口蓋後縁中央部に、ワックスなどの大豆大の小球（口蓋球）をつけ、これを舌尖で触れながら閉口させることにより下顎後退位に誘導する。

#### 1082 ワンピースキャスト法 — ほう

##### one-piece cast method

〔同義語〕一塊鋳造法

複雑な形態の補綴装置を1回の鋳造によって製作する方法。一塊として鋳造されるため強度に優れるが、鋳造収縮の影響が大きく寸法精度が低下する場合がある。金属床、クラスプなどを1種類の金属で製作する場合、また、数歯にわたるブリッジを1種類の金属で製作する場合などに有効である。





2015  
The Glossary of  
Prosthodontic Terms 4th ed.

---

# 同義語一覽

---

---

---

## 付録：同義語一覧

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
アーライン		Ah-ライン・口蓋振動線	1
圧印金冠	モリソククラウン		2
アベックス		アローポイント・エイベックス	3
安静空隙		安静位空隙・フリーウェイスペース	4
アンテリアガイダンス	前方誘導（指導）	インサイザルガイダンス・切歯誘導（指導）・前歯誘導（指導）	5
維持	保持	リテンション	6
維持腕		リテンションアーム	7
インターオクルーザルレコード		咬合面間記録	8
インプラントアナログ	インプラントレプリカ・アバットメントアナログ・ラボアナログ		9
インプラント義歯		移植義歯	10
インプラント体支持	顎骨支持		11
インプラント体・粘膜支持	顎骨-粘膜支持		12
ウィルソンの彎曲	側方咬合彎曲・側方歯牙彎曲・側方歯列彎曲		13
FGP テクニック	機能的運動路法	機能的咬頭路描記法	14
MPD 症候群		筋膜痛機能障害症候群	15
エルプレヒトクラスプ	T 字クラスプ		16
嚙下造影検査	嚙下透視検査・ビデオ嚙下造影・ビデオレントゲン検査		17
延長ブリッジ	遊離端ブリッジ		18
オーバージェット	水平被蓋	ホリゾンタルオーバーラップ	19
オーバーデンチャー	残根上義歯	オーバーレイデンチャー	20
オーバーバイト	垂直被蓋	パーティカルオーバーラップ	21

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
オーラルリハビリテーション	咬合再構成	オクルーザルリコンストラクション	22
オクルーザルスプリント	バイトスプリント	オクルーザルバイトスプリント・オクルーザルバイトプレート・バイトプレート	23
オクルーザルランプ	パラタルランプ		24
オッセオインテグレーション		オステオインテグレーション・オッセオオスインテグレーション	25
オッセオインテグレートッドインプラント	骨結合型インプラント	オステオインテグレートッドインプラント・オッセオオスインテグレートッドインプラント	26
オルタードキャスト法		アルタードキャスト法・模型改造法・模型修正法	27
概形印象		一次印象・準備印象・予備印象	28
外側バー		エクスターナルバー	29
ガイドブレーン	誘導面	ガイディングブレーン	30
解剖学的咬合器	顎路型咬合器		31
解剖学的人工歯		解剖学的人工白歯・解剖的人工白歯・解剖的人工歯・咬頭歯・咬頭人工歯	32
過蓋咬合		ディープバイト	33
下顎安静位		安静位・生理的下顎安静位	34
下顎後退接触位	下顎後退咬合位		35
下顎最後退接触位	下顎最後退咬合位		36
下顎頭	顎頭		37
下顎頭位	顎頭位		38
顎間距離		垂直顎間距離	39
顎間記録	顎間関係記録		40
顎関節雑音		顎関節音	41
顎関節内障		インターナルデランジメント・顎関節内部障害・顎内障	42
顎顔面補綴装置	顎顔面補綴物		43
顎口腔系		口腔顎系・咀嚼系	44
顎堤		歯槽堤	45
顎堤粘膜		顎粘膜・歯槽堤粘膜・歯槽粘膜	46
顎補綴装置	顎補綴物		47

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
可撤性補綴装置	可撤性補綴物		48
顎頭間軸		下顎頭間軸・顎頭軸	49
顎路指導板		顎路きょう導板	50
緩圧型支台装置	緩圧型維持装置		51
緩圧装置		緩圧性連結装置・ストレスブレイカー	52
感覚障害	感覚異常・知覚異常		53
環状鉤		閉繞鉤・サーカムファレンシャルクラスプ・取り囲み鉤	54
間接支台装置	間接維持装置		55
寒天印象		ハイドロコロイド印象	56
カンペル平面		鼻聴道平面・補綴学的平面	57
義歯床下粘膜		床下粘膜	58
義歯床下粘膜異常	義歯性口腔粘膜症		59
義歯床研磨面		義歯床筋圧面	60
義歯床粘膜面		義歯床基底面	61
義歯床負担域	義歯床支持域		62
拮抗作用	対向作用	対抗作用・レシプロケーション	63
拮抗腕	把持腕	レシプロカルアーム	64
機能的嚥下障害	動的嚥下障害・運動障害性嚥下障害		65
機能的人工歯		準解剖学的人工白歯・準解剖学的人工歯・準解剖的人工白歯・準解剖的人工歯	66
白歯離開咬合	ディスクルージョン		67
頬棚		バッカルシェルフ・頬側棚	68
筋圧形成	筋形成・辺縁形成		69
グラインディング		白磨運動	70
クラウン	冠		71
クラウンブリッジ補綴学		冠橋義歯学・冠橋義歯補綴学・歯冠補綴架橋義歯学・歯冠補綴架工義歯学・歯冠補綴橋義歯学	72
クラスプ	鉤		73
クリッキング		弾撥音	74
グレージング		グレース・艶焼き	75
クレピテーション	クレピタス	捻髪音	76
ケネディーバー		ダブルリンガルバー	77

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
研究用模型	スタディモデル	考究用模型・診査用模型・診断用模型・スタディキャスト	78
犬歯誘導咬合		カスピッドプロテクテッドオクルージョン・犬歯保護咬合	79
構音検査	調音検査		80
構音障害	発語障害		81
鉤外形線		クラスプライン	82
光学印象	デジタルインプレッション		83
口腔インプラント	デンタルインプラント	歯科インプラント	84
鉤肩		クラスプショルダー	85
咬合圧負担域		圧負担域・負担域	86
咬合器		咬交器	87
咬合器再装着		咬合器再付着・リマウンティング・リマウント	88
咬合器装着		咬合器付着・マウンティング・マウント	89
咬合小面		咬合局面	90
咬合堤	ろう（蠟）堤		91
咬合平面設定板		咬合平面測定基準板	92
交叉咬合		クロスバイト	93
交叉咬合用人工歯		交叉咬合用人工白歯・反対咬合用人工白歯・反対咬合用人工歯	94
口唇接合線	口唇閉鎖線		95
鉤尖		鉤先・鉤端	96
鉤腕		クラスプアーム	97
鼓形空隙		エンブレジャー・歯間鼓形空隙	98
ゴシックアーチ描記法		ゴシックアーチトレーシング・切歯路描記法	99
個歯トレー		歯型トレー・支台歯トレー	100
個人トレー		各個トレー	101
固定性補綴装置	固定性補綴物		102
コンタクトポイント	接点		103

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
コンビネーション シンドローム	アンテリアーハイ パーファンクショ ンシンドローム		104
根面アタッチメン ト		歯根アタッチメント・スタッドアッ チメント	105
最大開口量		最大開口距離	106
作業側		使用側・動側・働側	107
作業用模型		作業模型	108
サバイヤー		クラスプサバイヤー・サーベイヤ・ サーバイヤー・サバーヤ・サバー ヤー・サバヤー・デンタルサバイ ヤー	109
サバイライン		鉤指導線・サーバイライン・サバーラ イン	110
暫間義歯		仮義歯	111
暫間補綴装置	暫間補綴物		112
歯冠円錐	咬合円錐		113
歯冠型クラスプ	スープラバルジクラ スプ	歯冠経由型クラスプ	114
歯冠歯根比		CR 比・C/R レシオ・CR レシオ・歯 冠歯根長比	115
歯冠補綴装置	歯冠修復物・歯冠補 綴物		116
色調選択	シェードセレクショ ン	シェードテイキング・シェードマッ チング	117
歯型可撤式模型	可撤歯型式模型		118
歯型固着式模型	固着式模型・単一式 模型		119
歯頸部辺縁形態		歯頸側辺縁形態	120
歯根膜粘膜負担	歯根膜粘膜支持	混合負担（支持）・歯根膜粘膜混合負 担（支持）・歯根膜粘膜複合負担（支 持）	121
歯根膜粘膜負担義 歯	歯根膜粘膜支持義歯		122
歯根膜負担	歯根膜支持	歯牙支持・歯牙負担	123
歯根膜負担義歯	歯根膜支持義歯		124

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
支持		サポート	125
支台歯	維持歯・鉤歯		126
支台歯間線	鉤間線	楨杆線・鉤間軸・支台線・支点間線・ 支点線	127
支台歯形成		支台形成	128
支台装置	維持装置	リテーナー	129
自動削合		自働削合	130
歯肉圧排		歯齦圧排	131
歯肉円錐	歯根円錐		132
歯肉型クラスプ	インフラバルジクラ スプ	歯肉経由型クラスプ	133
ジャケットクラウン		ジャケット冠	134
習慣性咀嚼側		主咀嚼側	135
終末蝶番運動		ターミナルヒンジムーブメント	136
終末蝶番軸		ターミナルヒンジアキシス	137
床縁		床周縁・床辺縁	138
笑線		スマイリングライン・スマイルライン	139
ジルコニア	酸化ジルコニウム・ 二酸化ジルコニウム		140
シングルデンチャー		片顎義歯	141
人工歯肉付模型	ガム模型		142
診断用ワックス アップ	診断用ワクシング アップ		143
精密印象	最終印象	仕上げ印象・二次印象・本印象	144
切歯指導釘	インサイザルピン	切歯きょう導釘	145
切歯指導板	インサイザルテーパー ル	切歯きょう導板	146
切端咬合		切縁咬合	147
接着ブリッジ		アドヒージョンブリッジ・接着性ブリ ッジ・メリーランドブリッジ	148
線鉤	ワイヤークラスプ	屈曲鉤・はりがね鉤	149
前後の歯列湾曲	前後の歯牙湾曲		150

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
全部床義歯	総義歯	コンプリートデンチャー・フルデンチャー	151
全部床義歯補綴学	総義歯補綴学	全部床義歯学・総義歯学	152
全部鑄造冠		フルキャストクラウン	153
全部被覆冠		全部冠・フルカバリッジクラウン・フルクラウン	154
早期荷重	早期負荷		155
双子鉤		ダブルエーカースクラスプ	156
即時荷重	即時負荷・イミディエートローディング		157
側方顆路角	ベネット角		158
咀嚼運動路		咀嚼経路	159
咀嚼周期	咀嚼サイクル	咀嚼運動周期・チューイングサイクル	160
咀嚼側		機能側	161
咀嚼能率	咀嚼効率		162
対合関係	対咬関係		163
ダイナミック印象		動的印象	164
単純鉤		一腕鉤・単腕鉤	165
単独歯型式模型	単独歯型		166
遅延荷重	遅延負荷・待時負荷・待時荷重		167
中間義歯		間入義歯・中間欠損義歯	168
鑄造冠		キャストクラウン	169
鑄造鉤		キャストクラスプ	170
蝶番運動		ヒンジムーブメント	171
蝶番咬合器	平線咬合器		172
蝶番軸		ヒンジアキシス	173
直接支台装置	直接維持装置		174
治療用義歯		治療義歯	175
テーパー	軸面傾斜角		176
テレスコープクラウン		ダブルクラウン・二重金冠	177
テンチのコア	テンチの歯型		178
テンポラリーアバットメント	テンポラリーシリンドー		179



選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
等高点	トライポッド		180
陶材焼付冠	陶材焼付鑄造冠・セラモメタルクラウン・陶材焼付金属冠	金属焼付陶材冠・金属焼付ポーセレン冠・陶材溶着鑄造冠	181
頭部後傾法	頭部後屈法		182
トップダウントリートメント	補綴主導型インプラント治療		183
取り込み印象	ピックアップ印象		184
トレーサビリティ	追跡管理		185
遁路		溢出孔・溢出路・スピルウェイ	186
二重同時印象	積層一回印象	一回印象・ダブルミックス印象	187
二腕鉤	両翼鉤		188
粘膜負担	粘膜支持		189
粘膜負担義歯	粘膜支持義歯		190
パウンドライン	犬歯臼後隆起線		191
鉸状咬合		シザーズバイト	192
発音空隙	発音間隙		193
馬蹄形パー	ホースシューパー		194
ハミュラーノッチ		鉤状切痕・鉤切痕・上顎切痕・翼突上顎切痕	195
パラタルパー		口蓋杆	196
半固定性補綴装置	可動性補綴装置・可動性補綴物・半固定性補綴物		197
半固定性連結		可動性固定性連結・可動性固定連結・緩圧性連結	198
被圧変位量		被圧縮量	199
非解剖学的人工歯		非解剖学的人工臼歯・非解剖的人工臼歯・非解剖的人工歯・無咬頭歯	200
非緩圧型支台装置	非緩圧型維持装置		201
非機能咬頭	剪断咬頭		202
ピックアップ印象	コーピング印象・取り込み印象		203
描記針		スタイラス・描記釘	204
標示線		標準線	205

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
ヒンジ型アタッチメント		蝶番型アタッチメント	206
ピン陶歯	有釘陶歯		207
フィニッシュライン		フィニッシングライン・付線	208
フィメール		雌部・マトリックス	209
フェイスボウ		顔弓	210
部分床義歯	局部床義歯	可撤性パーシャルデンチャー・局部義歯	211
部分床義歯補綴学	局部床義歯補綴学	局部義歯学・局部床義歯学・部分床義歯学	212
部分被覆冠		一部被覆冠・パーシャルカバリッジクラウン	213
ブラキシズム		歯ぎしり	214
プラットフォームシフティング	プラットフォームスイッチング・horizontal set-off		215
フラビーガム		コンニャク状顎堤・浮動性歯肉・フラビー組織・フラビーティッシュ	216
フランクフルト平面		眼耳平面	217
ブリッジ		架橋義歯・架工義歯・橋義歯	218
フレームワーク		メタルフレーム	219
プロビジョナルクラウン	暫間被覆冠・テンポラリークラウン	仮封冠・暫間冠	220
分割復位式模型	分割可撤式模型・分割式模型・分割歯型式模型	分割模型	221
ヘアピンクラスプ		ダブルアームクラスプ・複腕鉤・リバースループクラスプ	222
平衡側	非作業側	均衡側・非機能側	223
平衡側側方顎路	非作業側側方顎路		224
片側性咬合平衡		片側性均衡・片側性咬合均衡・片側性平衡	225
片側性平衡咬合		片側性均衡咬合	226
片麻痺	半側麻痺		227

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
ポーセレンジャケットクラウン		陶材ジャケットクラウン	228
ポーセレンブリッジ		全部陶材架橋義歯・全部陶材架工義歯・全部陶材橋義歯・陶材ブリッジ	229
ポーンアンカードブリッジ	オッセオインテグレートッドブリッジ		230
補助支台装置	補助維持装置		231
ポステリアガイドランス		後方指導・後方誘導・コンダイラーガイダンス	232
ポスト		合釘・ダウエル	233
ポストクラウン	継続歯	歯冠継続歯・ダウエルクラウン	234
ポスト孔		合釘孔・合釘保持孔	235
補綴装置	補綴物	補綴修復物	236
ボンウィル三角		下顎三角	237
ポンティック		架橋歯・架工歯・橋体・ダミー	238
ミュチュアリープロテクテッドオクルージョン		相互保護咬合	239
無圧印象		最小圧印象・静止印象・静態印象・静的印象・粘膜静態印象・微圧印象	240
メール		雄部・パトリックス	241
モダイオラス		口角結節	242
モンソン球面説		8インチ球面学説・4インチ球面学説	243
3/4冠	スリークォータークラウン		244
リベース		改床・換床・床交換・リベーシング	245
両側性平衡咬合		全面均衡咬合・全面平衡咬合・両側性均衡咬合	246
リライン		裏装・リライニング	247
リリーフ		緩衝	248
リングライズドオクルージョン		舌側化咬合	249
隣接面鉤	近遠心鉤		250
隣接面板		プロキシマルプレート	251
レストシート		レスト座	252

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
レスト付き二腕鉤		三腕鉤	253
レトロモラーパッド		白後パッド・白後隆起・白歯後豊隆・白歯後隆起	254
連結子	連結装置	コネクター	255
連続鉤		コンティニューアスクラップ	256
ろう（蠟）義歯		仮床義歯	257
ワックスアップ	ろう（蠟）型採得	ろう（蠟）型形成・ろう（蠟）形成・ろう（蠟）原型採得	258
ワンピースキャスト法	一塊鑄造法		259

2015  
The Glossary of  
Prosthodontic Terms 4th ed.

---

# 日本語索引 外国語索引

---

---

---

## 【索引の利用の仕方】

1. 専門用語の用語番号はゴシック体（色数字）で表示し、他の専門用語の解説文中にも使用されている場合には、その用語番号をイタリック体（黒数字）で表示した。
2. 解説文中に使用されている専門用語以外の主要な用語は、機器の部分の名称、各種の術式、形態や材料に基づく補綴装置の名称などを含め、すべて掲載し、該当する専門用語の用語番号をイタリック体（黒数字）で表示した。
3. 【同義語】として認める用語には、自らの用語番号とともに、選定用語の用語番号もアンダーラインを付けてゴシック体（色数字）で表示した。
4. 付録番号を専門用語(【同義語】として認める用語を含む)ならびに使用が望ましくない用語すべてに表示した。

# 索引

## あ

アーライン	1				
	230, 386	付録 1			
Ah-ライン		付録 1			
RPI クラスプ	2	3			
RPA クラスプ	3				
I. R. V.	4				
Iバー	2, 3, 513, 791, 1074				
Iバークラスプ					
	513, 791, 1074				
アイヒナーの分類	5				
アクセスホール	6	699			
アクリリックレジン					
	226, 369, 1055, 1056, 1058, 1059				
アタッチメント	7				
	92, 96, 200, 221, 419, 420, 440, 453, 456, 462, 491, 581, 695, 699, 800, 830, 847, 849, 868, 877, 930, 961, 996, 1004				
アダムスクラスプ	8				
圧印金冠	9	付録 2			
圧印床	10	269			
圧縮強さ	1057				
圧接 (法) [ワックスの]					
	10, 1079				
圧接法	1079				
圧負担域	付録 86				
圧負担能力	11				
	233, 616				
アドヒージョンブリッジ					
	付録 148				
後ろう (鑑) 付け法	12				
アナライジングロッド					
	440, 748				
アバットメント	13				
	6, 52, 55, 171, 192, 253, 439, 537, 567, 606, 699, 744, 761, 812, 858, 896, 897, 905				
アバットメントアナログ					
	14	付録 9			
アバットメントスクリュー					
	15				
アバットメントポジショニングジグ	761				
アブフラクション	16				
アベックス [ゴシックアーチの]	17	付録 3			
アマルガム築造	509				
アメリカ式埋没法	18				
アメリカ・フランス併用式埋没法	19				
アルギン酸ナトリウム	21				
アルコン型咬合器	20				
	329, 534				
アルジネート印象	21				
アルジネート印象材					
	212, 216				
アルタードキャスト法					
	付録 27				
アルミナ	22, 23, 253, 955				
アルミナ系セラミックス	97, 98, 461				
アルミナスポーセレン	22				
	955				
アルミナスポーセレンジャケットクラウン	23				
アルモア社	867				
アローポイント	付録 3				
鞍状					
	24, 178, 500, 853, 1073				
鞍状型	178, 853				
鞍状型ポンティック	24				
	178, 853				
安静	25, 123, 124, 372, 765				
安静位	付録 34				
安静位空隙	付録 4				
安静空隙	25				
	124, 356	付録 4			
安静時	336, 765				
アンダーカット	26				
	8, 27, 252, 374, 395, 440, 519, 911, 916, 935, 936, 1074				
アンダーカット域					
	3, 26, 86, 374, 455, 512, 513, 791				
アンダーカットゲージ	27				
	440				
アンダーカット量	27, 440				
アンダーカントウア	214				
アンチモンソンカーブ					
	1011				
安定 [義歯の]					
	166, 225, 323, 351, 501, 505, 552, 572, 909, 927, 949, 1045				
アンテの法則	28				
アンテリアガイダンス	29				
	843	付録 5			
アンテリアクロスバー					
	867				
アンテリアーハイパーファンクションシンドローム					
	30	417	付録 104		

アンテリアリファレンスボ  
インター 31  
アンテリアリファレンスボ  
イント 31  
電法 32

## い

為害作用 954  
移行義歯 33 445  
維持 34  
35, 40, 166, 206, 225,  
252, 261, 277, 299, 374,  
387, 395, 472, 512, 638,  
870, 1032, 1052 付録 6  
維持格子 35 727, 907  
維持歯 36 504 付録 126  
維持装置 37  
508 付録 129  
囲繞鉤 付録 54  
異常音 151  
異常習癖 38 249  
移植皮膚片 573  
維持領域 457  
維持力 39  
206, 299, 387, 472, 638,  
1052  
維持腕 40  
3, 241, 374, 395 付録 7  
一次印象 付録 28  
一次固定 41  
一回印象 付録 187  
一塊鑄造 703, 907  
一塊鑄造法 42  
1082 付録 259  
1 歯対 1 歯 676  
1 歯対 2 歯 676, 737  
一部被覆冠 付録 213  
一腕鉤 付録 165

溢出孔 付録 186  
溢出路 付録 186  
イットリア部分安定化ジル  
コニア 545  
異物感 817, 819, 907  
イミディエートサイドシフ  
ト 434  
イミディエートローディン  
グ 641 付録 157  
色の三属性 433, 467, 991, 1003  
違和感 94, 265, 319  
インサイザルガイダンス 付録 5  
付録 5  
インサイザルテーブル 付録 146  
付録 145  
インサイザルテーブル 43  
インサイザルピン 44  
インジェクションタイプ  
[印象材の] 320  
印象 45  
21, 46, 47, 50, 63, 106,  
108, 110, 118, 212, 213,  
242, 304, 315, 320, 363,  
443, 522, 544, 586, 616,  
680, 686, 775, 979, 998,  
1009, 1069  
印象圧 46 63, 998  
印象域 47  
印象材 21, 50, 63, 212, 443, 544,  
680, 979, 1069  
印象採得 48  
46, 63, 511, 858  
印象用コーピング 49  
印象用トレー 50

399, 400, 1044  
インターオクルーザルレ  
コード 51 付録 8  
インターナルコネクション 52  
インターナルデランジメン  
ト 付録 42  
インフォームドコンセント 535  
インフラバルジエリア 512  
512  
インフラバルジクラスプ 53 513 付録 133  
インプラント 54  
6, 13, 15, 52, 55, 56, 57,  
58, 73, 101, 102, 403,  
439, 537, 570, 744, 759,  
890, 891, 901  
インプラントアナログ 55  
付録 9  
インプラントオーバーデン  
チャー 60  
インプラント義歯 56  
92, 537, 890, 891, 901  
付録 10  
インプラント周囲炎 57  
インプラント周囲粘膜炎 57  
57  
インプラント体 58  
13, 15, 49, 59, 60, 192,  
439, 633, 641, 643, 673,  
694, 699, 744, 896, 897,  
1015  
インプラント体支持 59  
付録 11  
インプラント体・粘膜支持 60 付録 12  
インプラントプラット



フォーム	896
インプラントレプリカ	61
	55 付録9
インプレッションコーピング	761
インレー	65, 275, 377, 603, 691, 1079
<b>う</b>	
ウィルソンの彎曲	62
	362 付録13
ウォッシュインプレッションテクニック	63
浮き上がり [クラウンの]	472, 543, 766, 942
う (齲) 蝕 (症)	267, 422, 741
右片麻痺	953
うわぐすり	282
運動軌跡	195
運動経路	72, 130, 195, 382, 436, 597, 648, 655, 661, 696, 934
運動障害	160, 573
運動障害性嚙下障害	付録65
運動論的顎頭点	64
<b>え</b>	
映画法	127
永久固定	65
永久磁石	491, 992
エイバックス	付録3
エーカースクラスプ	66
	3, 208, 1063

エクスターナルコネクション	52
エクスターナルバー	付録29
S字状隆起	67
エステティックライン	68
S発音位	69
SPA要素	70
エックス線写真	215, 459
エックス線透視装置	80
XPr機構	469
エナメル (質)	16, 23, 392, 602, 990
エピテーゼ	71
FGP テクニック	72 721
	付録14
エマージェンスプロファイル	73 171
MMA系レジンセメント	74
MPD症候群	75 付録15
L*a*b*表色系	76
エルプレヒトクラスプ	77
	付録16
嚙下	
	38, 78, 83, 115, 162, 191, 244, 249, 660, 670, 710, 802, 888, 894
嚙下位	78 83
嚙下運動	80, 244, 836
嚙下機能	80
嚙下障害	79 84, 710
嚙下造影検査	80 付録17
嚙下動作	78, 670
嚙下透視検査	81
	付録17
嚙下内視鏡検査	82

嚙下反射	593
嚙下法	83
嚙下補助装置	84
炎症	
	57, 101, 152, 156, 234, 236, 237
遠心 (面) [歯の]	757, 1002, 1021, 1022
遠心レスト	1061
円錐	387, 388, 455, 512, 734, 1080
縁端強度	942
延長ブリッジ	85 733
	付録18
延長腕鉤	86 208
円板整位	87
円板転位	88
円板復位	89
エンブレジャー	付録98
エンブレジャークラスプ	638
<b>お</b>	
OSAS 治療用口腔内装置	90
OSAS の経鼻的治療法	287
横走アーム	395
オーバーカントウア	214
オーバージェット	91
	371, 843 付録19
オーバーデンチャー	92
	60, 96, 419, 790 付録20
オーバーバイト	93
	843 付録21
オーバーレイデンチャー	付録20
オーラルアブライアンス	

90  
 オープントレー法 49  
 オーラルディスクネジア  
 94  
 オーラルリハビリテーショ  
 ン 95 771 付録 22  
 Oリングアタッチメント  
 96 419  
 オールセラミッククラウン  
 97 520  
 オールセラミックブリッジ  
 98  
 オクルーザルスプリント  
 99 569, 579, 769, 1036,  
 1043 付録 23  
 オクルーザルバイトスプリ  
 ント 付録 23  
 オクルーザルバイトプレー  
 ト 付録 23  
 オクルーザルランプ 100  
 付録 24  
 オクルーザルリコンストラ  
 クション 付録 22  
 オステオインテグレーション  
 ン 付録 25  
 オステオインテグレートッ  
 ドインプラント 付録 26  
 雄部 付録 241  
 オッセオインテグレーション  
 ン 101 641, 694  
 付録 25  
 オッセオインテグレートッ  
 ドインプラント 102  
 58, 537 付録 26  
 オッセオインテグレートッ  
 ドブリッジ 103  
 956 付録 230  
 オッセオオスインテグラー

ション 付録 25  
 オッセオオスインテグラー  
 テッドインプラント  
 付録 26  
 オトガイ 68, 104, 649, 846  
 オトガイ唇溝 104  
 オトガイ部 104, 649, 846  
 オペイト型ポンティック  
 105  
 オルタードキャスト法 106  
 443 付録 27  
 オルトンクラウン 107  
 オルビタルロケーター  
 534  
 温審法 32  
  
**か**  
 窩 [歯の]  
 243, 365, 380, 488, 850  
 加圧印象 108  
 46, 522, 1009  
 カービング 1079  
 カーボランダムグリセリン  
 泥 510  
 カーボランダムポイント  
 615  
 カーボンファイバー 965  
 カーボンマーカ 440  
 外冠 109  
 4, 388, 734, 767  
 外眼角 925  
 概形印象 110  
 63, 920 付録 28  
 外形線 532  
 開咬 92  
 開口運動 111  
 開口障害 111  
 153, 429, 916

開口相 661, 665  
 開口量 111, 685, 713  
 外耳孔 899  
 外耳道 215, 925  
 外斜線 112 257, 768  
 改床 付録 245  
 外傷  
 32, 152, 156, 218, 236,  
 446, 929  
 外傷性咬合 113  
 外側韌帯 553  
 外側バー 114  
 788 付録 29  
 外側フィニッシュライン  
 876  
 ガイディングプレーン  
 付録 30  
 改訂水飲みテスト 115  
 回転軸 505, 608, 961  
 回転中心 462, 529, 715  
 ガイド 256, 570, 657  
 ガイドグループ 116  
 ガイドプレーン 117  
 975, 1054 付録 30  
 開閉運動 [下顎の]  
 187, 524, 714  
 開閉軸 879  
 解剖学的  
 112, 118, 711, 924  
 解剖学的印象 118 106  
 解剖学的形態 118, 246  
 解剖学的咬合器 119  
 711 付録 31  
 解剖学的歯冠 120 1050  
 解剖学的指標 112  
 解剖学的人工臼歯  
 付録 32  
 解剖学的人工歯 121

1000 付録 32	134, 135, 1081	627, 639, 645, 702, 946
解剖学的平均値 924	下顎後退咬合位 133 <u>134</u>	顎運動 144
解剖的人工臼齒 付録 32	付録 35	145, 175, 190, 195, 249,
解剖的人工齒 付録 32	下顎後退接觸位 134	329, 398, 524, 528, 592,
界面 101	376, 469, 628, 646 付録	597, 608, 640, 660, 685,
過蓋咬合 122 付録 33	35	693, 696, 835, 924, 964
下顎安靜位 123	下顎最後退位 135 529	顎運動検査 145
25, 124, 272, 356, 765	下顎最後退咬合位 136	顎間關係 146
付録 34	<u>137</u> 付録 36	83, 145, 338, 343, 348,
下顎安靜位利用法 124	下顎最後退接觸位 137	692, 756
下顎位 125	1076 付録 36	顎間關係記錄 147 <u>149</u>
69, 123, 132, 135, 143,	下顎三角 付録 237	付録 40
398, 553, 627, 639, 645,	下顎前突 832	顎間距離 148
701, 702, 946	下顎前方保持装置 138	591, 701 付録 39
下顎運動 126	下顎側方運動 648, 939	顎間記錄 149
64, 127, 128, 129, 130,	化学的安定性 954	331, 338 付録 40
144, 145, 195, 249, 278,	下顎頭 139	顎關節
301, 385, 523, 597, 608,	64, 88, 137, 140, 183,	150, 151, 152, 153, 154,
640, 660, 685, 711, 924,	187, 190, 195, 434, 527,	155, 160, 280, 284, 579,
964, 971, 1012	528, 701, 702, 713, 715,	710, 754, 894, 964
下顎運動記錄 127	925, 934 付録 37	顎關節エックス線撮影
278, 301, 385, 971, 992	下顎頭位 140	150
下顎運動記錄装置	183, 469 付録 38	顎關節音 付録 41
301, 385, 992	下顎頭間軸 付録 49	顎關節強直症 152
下顎運動障害 128	下顎反復小開閉口運動	顎關節雜音 151
下顎運動分析記錄装置	685	160, 280, 284, 349 付録
129	下顎法 552	41
下顎運動要素 130 438	下顎隆起 141	顎關節疾患 152 150
下顎運動(理)論	下弓 [咬合器の] 142	顎關節症 153
608, 640, 971, 1012	20, 187, 329, 331, 413,	75, 151, 152, 155, 160,
下顎窩	591, 985, 1037	349, 392, 579, 710, 894
88, 137, 140, 183, 701,	架橋義齒 付録 218	顎關節痛 154
702, 713	架橋齒 付録 238	顎關節内障 155 付録 42
下顎近心咬合 832	顎位 143	顎關節内部障害 付録 42
下顎頸 139	69, 78, 123, 124, 125,	顎顔面補綴 156
下顎限界運動 [路] 131	132, 135, 265, 329, 333,	顎顔面補綴装置 157
17, 834, 971	336, 338, 356, 361, 381,	付録 43
下顎後退位 132	398, 427, 428, 527, 553,	顎顔面補綴物 158 <u>157</u>

	付録 43		付録 47	可撤歯型式模型	176 474
顎義歯	159 614, 700, 735, 914	顎補綴物	170 169		付録 118
顎機能	160, 329, 360		付録 47	可撤性[アタッチメントの]	4, 7, 109, 177, 179, 224, 405, 734, 774, 890
顎機能障害	160	架工義歯	付録 218	可撤性義歯	177
顎欠損	161	架工歯	付録 238		7, 92, 109, 224, 767, 858, 890
顎口腔機能	127, 145, 271, 349, 430	下口唇	372, 649	可撤性パーシャルデンチャー	付録 211
顎口腔系	162	荷重	633, 641	可撤性ブリッジ	178
	95, 157, 276, 350, 357, 670, 771 付録 44	仮床義歯	付録 257	177, 179, 734, 853, 890, 901	
顎骨	56, 112, 156, 157, 159, 165, 168, 169, 223, 257, 533, 549, 905	下唇	68, 104, 309, 536, 854, 865	可撤性補綴装置	179
顎骨支持	163 付録 11	下唇小帯	309	109, 774, 996 付録 48	
顎骨-粘膜支持	付録 12	下唇線	865	可撤性補綴物	180 179
顎舌骨筋	164, 310, 768	ガス抜き	107		付録 48
顎舌骨筋線	164 768	カスタムアバットメント	171 1015	可撤性連結	181
顎堤	165	カスピッドプロテクテッド	付録 79	可撤部 [アタッチメント	の]
	24, 108, 167, 365, 417, 500, 501, 502, 582, 831, 853, 898, 948, 1031 付録 45	オクルージョン	付録 79	877, 1004	
顎堤弓	165, 365, 502, 1009	仮想円錐角度	387	顎頭	182 139
顎堤吸収	166 92	仮想咬合平面	172		20, 83, 183, 185, 186, 190, 195, 197, 390, 413, 534, 561, 702, 800, 924
顎堤粘膜	167		215, 353, 365, 372, 747, 1064	付録 37	
	108, 165, 166, 233, 482, 616, 784, 831, 853, 948, 1031 付録 46	仮着	174 1038	窩洞	377, 910
角度	383, 384, 387, 494, 496, 655, 730, 855	仮着セメント	606	顎頭安定位	183 83, 183, 702
顎内障	付録 42	各個トレー	付録 101	顎頭位	184 140
顎粘膜	付録 46	滑走運動	175		付録 38
顎補綴	168		293, 351, 510, 757, 903, 995, 1002	顎頭間距離	185
	156, 157, 161	カッピングナイフ	440	534, 924	
顎補綴装置	169 157	カップーバンド	399	顎頭間軸	186 185
		可撤式固定法	65		付録 49
		可撤式歯型	474	顎頭球	187
		可撤式模型	474, 921		20, 197, 413, 534, 800
				顎頭軸	付録 49
				可動性[アタッチメントの]	

419, 456, 789, 827, 828, 830	顆路型咬合器	196	119	冠橋義歯補綴学	付録 72
可動性固定性連結		329	付録 31	嵌合効力	206 377
付録 198	顆路きょう導板	付録 50		嵌合力	602
可動性固定連結	顆路指導板	197	187	眼耳平面	付録 217
付録 198		付録 50		患者可撤式	56
可動性補綴装置	顆路指導部	20, 198, 413, 534		換床	付録 245
188 828				緩衝	付録 248
付録 197	顆路調節機構	198	329	緩衝腔	207
可動性補綴物	下腕	395		環状鉤	208
189 828	冠	199	275	66, 77, 277, 311, 375, 395, 416, 689, 779, 793, 1063	付録 54
付録 197	緩圧型	203, 419, 456, 577, 789	付録 71	緩衝能	683
可動組織	緩圧型アタッチメント	200		嵌植義歯	付録 10
顆頭点	緩圧型維持装置	201	202	間接維持装置	209 210
185, 186, 195, 390, 561, 925		付録 51		付録 55	
可動粘膜	緩圧型支台装置	202		関節円板	
191		203	付録 51	87, 88, 89, 150, 153, 155, 701, 929, 1036	
229, 514, 517	緩圧機構	200		関節結節	88, 426, 640, 701
可動部[アタッチメントの]	緩圧作用	203		間接支台装置	210
1	緩圧性連結	付録 198		572, 638, 681, 887, 1021	付録 55
加熱重合	緩圧性連結装置	付録 52		関節頭	139
1057	緩圧装置	203	付録 52	関節突起	139
加熱重合レジン	陥凹	26, 1004, 1073		関節部	
1057	眼窩	204, 323, 469, 561, 574, 629, 899		119, 197, 329, 534, 696, 800	
仮封冠	眼窩下縁	204, 899		間接法	
付録 220	眼窩下点	204		331, 550, 551, 1042, 1079	
下部構造(体) [インプラントの]	眼窩骨縁	204		関節包	135, 153, 154
192	眼窩点	204, 899		完全自浄型ポンティック	211
58, 102, 403	槓杆線	付録 127		眼点	204, 899
窩壁	感覚異常	付録 53		寒天アルジネート連合印象	212
206	間隔尺度	433, 1003		寒天印象	
か(嚙)みしめ	感覚障害	205	付録 53	213 212	付録 56
285, 430, 754	顔弓	付録 210			
ガム模型	冠橋義歯学	付録 72			
193 551					
付録 142					
カラーレスマージン					
194					
ガラスセラミック					
250					
Gariot 咬合器					
714					
仮義歯					
付録 111					
加齢					
325, 392, 1030, 1050, 1073					
加齢の変化					
325, 1030					
顆路					
195					
198, 434, 493, 494, 647, 692, 875, 934					

寒天印象材	212, 213	207, 228, 234, 236, 242,	既製ポスト	509, 965
カントウア [歯の]	214	315, 522, 726, 1035, 1042	基礎床	239 343, 348
	73, 551	付録 58	拮抗	2, 40, 395
間入義歯	付録 168	義歯床下粘膜異常	拮抗作用 [義歯の]	240
カンベル平面	215	234, 236 付録 59		付録 63
	353, 561 付録 57	義歯床基底面	拮抗腕	241 395
顔面印象	216	義歯床筋圧面		付録 64
顔面インプラント	217	義歯床研磨面	基底結節	1061, 1070
顔面欠損	218	222, 515, 876, 909, 1008	基底結節レスト	1061
顔面補綴	219 156, 157	付録 60	基底面	
		義歯床後縁	24, 707, 831, 853, 871,	
			889, 937, 948, 981, 1014,	
			1017, 1029, 1031	
		義歯床支持域	機能圧	
		231 233	200, 202, 229, 316, 446	
		付録 62	機能異常	75, 150, 248, 349
		義歯床粘膜面	機能印象	242
		18, 19, 207, 233, 269, 726,		106, 315, 969
		876, 900, 1035, 1042, 1044	機能運動	72, 382
		付録 61	機能回復	67, 71, 174, 219, 267,
		義歯床負担域	454, 976	
		56, 257, 316 付録 62	機能咬頭	243 676, 850
		義歯性潰瘍	機能障害	
		234	75, 155, 160, 161, 218,	
		義歯性口腔粘膜症	350, 498, 594, 595, 637	
		235	機能性嚥下障害	244
		228 付録 59		付録 65
		義歯性口内炎	機能側	付録 161
		236	機能的運動路法	245 72
		義歯性線維腫		付録 14
		237	機能的咬合面	1080
		義歯性線維症	機能的咬頭路描記法	
		237		付録 14
		義歯洗浄剤	機能的人工歯	246
		498		付録 66
		義歯用ブラシ	機能的正常咬合	247
		494	機能的な不正咬合	248
		基準水平面		
		494		
		基準点		
		190, 204, 390, 530, 561,		
		592, 629, 716, 795, 878,		
		879, 925		
		基準平面		
		130, 693, 869		
		既製人工歯		
		268, 418, 438		
		既製トレー		
		50, 797, 920, 1009		
		既製ピン		
		509		

## き

キーアンドキーウェイ

220 830

ギージー法 365

キーパー 221 499

キール 222

機械的刺激

228, 234, 236, 237, 898

義顎 223

起始 [筋の] 856

義歯 224

10, 33, 35, 56, 92, 159,

177, 270, 410, 424, 445,

483, 485, 575, 623, 642,

697, 705, 719, 785, 790,

885, 890, 891, 901, 999,

1018, 1021, 1058, 1059,

1072

義歯安定剤 225

疑似歯肉 550

義歯床 226

1, 10, 35, 112, 229, 234,

236, 257, 269, 379, 386,

410, 515, 531, 533, 538,

705, 768, 816, 999, 1018,

1058, 1059, 1064

義歯床下粘膜 227

機能的模型	72	白磨	243, 660	金合金	10, 622, 781
基本的下顎運動	249	白磨運動	付録 70	均衡側	付録 223
キャストابلセラミックス	250	橋義歯	付録 218	筋触診法	265
キャストオン法	858	頬骨	322, 323, 324, 856	近心(面) [歯の]	592
キャストクラウン	付録 169	頬舌的	383, 397, 501, 596, 674, 832	近心咬合	832
キャストクラスプ	付録 170	頬側の	383, 397, 501, 596, 674, 832	近心レスト	2, 1061
キャストサポート	251	頬側(面) [歯の]	383, 397, 501, 596, 674, 832	金属アレルギー	266
	984		114, 257, 516, 1033	金属加強ポーセレンブリッジ	955
キャップ	252, 491, 761, 1006	頬側棚	付録 68	金属冠	267
キャップ型	491	頬側バー	114	9, 109, 703, 734, 1060	
キャップクラスプ	252	橋体	付録 238	金属歯	268 548
CAD/CAM	97, 98, 171, 254, 267, 546, 622, 750	頬棚	257 付録 68	金属床	269
CAD/CAM アバットメント	253	頬粘膜	222, 258, 309, 514, 541	226, 705, 707, 814, 876, 907, 1082	
CAD/CAM クラウン	254	頬粘膜圧痕	258	金属床義歯	270
旧義歯	33, 680	局部義歯	付録 211	707, 814, 876, 907	
白後三角	255	局部義歯学	付録 212	金属箔	207, 750, 988
	112, 768, 1064	局部床義歯	259 891	金属焼付陶材冠	付録 181
白後腺	1064		付録 211	金属焼付ポーセレン冠	付録 181
白後パッド	付録 254	局部床義歯学	付録 212		
白後隆起	付録 254	局部床義歯補綴学	260	筋電図	271
白歯後豊隆	付録 254		892 付録 212	筋電図検査	271
白歯後隆起	付録 254	局部トレー	920	均等色空間	76
吸収 [顎骨の]	92, 165, 533, 582, 898, 916, 1050	筋	94, 111, 131, 160, 191, 265, 271, 272, 361, 768, 894, 1008, 1043	筋突起	112, 768
白歯離開咬合	256	筋圧	261, 532	筋肉	94, 131, 191
	95, 843 付録 67	筋圧維持	261	筋肉位 [下顎の]	272
吸水性	1057	筋圧形成	262 532	筋把握法	265
吸着	221, 499		付録 69	筋膜痛機能障害症候群	付録 15
吸着力	499	近遠心鈎	263 1053		
鳩尾形	910, 960		付録 250	隅角 [歯面の, 窩洞の]	352, 592, 779, 887
		近遠心的	383	空口状態	274
		金銀パラジウム合金	622	くさび効果	109, 388, 734
		筋形成	264 262	屈曲鈎	付録 149
			付録 69	屈曲バー	273 788

グラインディング 274  
     38, 894 付録 70  
 クラウン 275  
     9, 23, 109, 254, 405, 472,  
     613, 626, 703, 729, 734,  
     745, 753, 767, 794, 893,  
     966, 1055, 1057 付録 71  
 クラウンブリッジ補綴学  
     276 付録 72  
 クラウンリムーバー 1038  
 クラスプ 277  
     3, 8, 86, 208, 395, 416,  
     457, 513, 519, 609, 638,  
     704, 781, 791, 793, 810,  
     826, 922, 923, 1033, 1049,  
     1070, 1074 付録 73  
 クラスプアーム 付録 97  
 グラスファイバー 965  
 クラスプサバイヤー  
     付録 109  
 クラスプショルダー  
     付録 85  
 クラスプライン 付録 82  
 クラッチ 620, 834, 867  
 グラフィック法 [下顎運動  
     の] 278 301  
 クリステンセン現象 279  
     712  
 クリッキング 280  
     付録 74  
 グループ 960  
 グループファンクション  
     281  
 グレージング 282  
     982 付録 75  
 グレーズ 付録 75  
 クレピタス 283 284  
     付録 76

クレピテーション 284  
     付録 76  
 クレンチング 285  
     38, 258, 588, 894  
 クローズドトレイ法 49  
 クロスバイト 付録 93  
  
**け**  
 傾斜 [歯の]  
     62, 456, 910, 1030  
 傾斜角 383, 494, 496, 734  
 傾斜歯 910  
 形成 [支台歯の]  
     420, 472, 506, 515, 543,  
     605, 730, 770, 777, 880,  
     926, 936  
 形成外科手術 570  
 継続歯 286 966  
     付録 234  
 形態異常  
     150, 155, 276, 302, 976  
 形態見本 1007  
 経鼻の持続陽圧呼吸療法  
     (CPAP 療法) 287  
 外科的処置 (切除)  
     87, 218, 237, 303, 533,  
     570, 975  
 結紮法 446  
 結晶化 250  
 欠損  
     5, 166, 218, 288, 308,  
     698, 883, 973, 976, 1022  
 欠損歯列 288 289  
 欠損部  
     159, 161, 223, 308, 573,  
     697, 698, 718, 970, 973,  
     981, 1022  
 ケネディーの分類 289

    1021  
 ケネディーバー 290  
     1070 付録 77  
 ゲル 21  
 限界運動  
     17, 131, 195, 317, 398,  
     640, 834, 971  
 限界運動路 17, 131, 195  
 研究用模型 291 110, 532  
     付録 78  
 犬歯臼後隆起線 292 801  
     付録 191  
 犬歯保護咬合 付録 79  
 犬歯誘導 95  
 犬歯誘導咬合 293 95  
     付録 79  
 犬歯尖頭 866  
 研磨  
     515, 531, 876, 909, 1008  
  
**こ**  
 コア 330, 509, 1037  
 鉤 294 277 付録 73  
 構音 295  
     67, 296, 297, 808, 809  
 構音検査 296 付録 80  
 構音障害 297  
     218, 303, 573, 772, 817  
     付録 81  
 口蓋  
     1, 67, 100, 303, 379, 386,  
     411, 573, 765, 818, 819,  
     821, 840, 969, 999, 1081  
 口蓋杆 付録 196  
 鉤外形線 298 付録 82  
 口蓋後縁封鎖 299 379  
 口外ゴシックアーチ描記装  
     置 398, 620



口外ゴシックアーチ描記法		咬交	312	1035, 1042
	301, 398	咬合	313	
口蓋床	300 772, 825		5, 72, 95, 99, 113, 122,	
口蓋小窩	386		134, 137, 175, 247, 248,	
口蓋振動線	付録 1		256, 281, 293, 312, 314,	
口蓋帆拳筋	1		317, 318, 320, 323, 325,	
口蓋帆張筋	1		327, 328, 329, 332, 333,	
口外描記装置	398		334, 335, 338, 340, 343,	
口外描記法	301		344, 349, 360, 582	
	278, 398	咬合圧	314	
口外法	620		11, 108, 203, 233, 242,	
口蓋補綴	302		462, 623, 733, 868	
口蓋隆起	303 815, 1044	咬合圧印象	315 108	
口蓋裂	92, 297, 573	咬合圧負担	11, 316	
口角	305, 856, 865, 1008	咬合圧負担域	316	
光学印象	304 付録 83		11, 203 付録 86	
口角結節	付録 242	咬合位	317	
口角線	305 865		124, 134, 137, 148, 272,	
硬化膨張	776		318, 335, 427, 501, 601,	
鉤間線	306 505		615, 630, 650, 947, 950,	
	付録 127		1039, 1040, 1045	
鉤間軸	付録 127	咬合異常	318	
鉤脚	307		94, 95, 710	
	8, 77, 208, 375, 519, 539,	咬合違和感症候群	319	
	727, 1063	咬合印象	320 797	
考究用模型	付録 78	咬合円錐	321 455	
咬筋前縁部	265		付録 113	
咬筋把握法	265	咬合音	322	
口腔インプラント	308		323, 710, 752	
	833 付録 84	咬合音検査	323	
口腔外補綴装置	157		710	
口腔顎系	付録 44	咬合音分析装置	324	
口腔前庭	309	硬口蓋	296, 386, 417, 740	
	114, 514, 517	咬合学	325	
口腔底	310 740, 1047	咬合滑面板	326	
口腔内補綴装置	157	咬合関係	327	
口腔粘膜	234		5, 110, 122, 258, 320,	
鉤肩	311 375 付録 85		347, 350, 541, 685, 691,	
				咬合干渉 328
				323, 382, 636
				咬交器 付録 87
				咬合器 329
				20, 119, 142, 187, 197,
				198, 330, 331, 354, 413,
				523, 534, 590, 591, 598,
				618, 711, 714, 721, 800,
				833, 924 付録 87
				咬合器再装着 330 1037
				付録 88
				咬合器再付着 付録 88
				咬合器装着 331 985
				付録 89
				咬合器付着 付録 89
				咬合局面 付録 90
				咬合拳上 332 975
				咬合記録 333
				咬合検査 334
				咬合高径 335
				25, 104, 124, 148, 332,
				336, 361, 371, 392, 649,
				722, 795, 809, 845, 846,
				1076
				咬合高径測定法 336
				咬合再構成 337 95
				556 付録 22
				咬合採得 338
				83, 124, 265, 335, 353,
				361, 692, 742, 756, 797,
				809, 865
				咬合採得材 692
				咬合紙 339
				334, 615
				咬合支持 340
				5, 83, 222, 1073
				咬合支持域 341 5

咬合斜面板	342	咬合面	9, 72, 268, 344, 356, 357, 391, 510, 631, 928	硬質レジン歯	369
咬合床	343	咬合面間距離	356	硬質レジンジャケットクラ ウン	370 798 1057
215, 279, 315, 353, 372, 552, 693, 756, 957, 1081		咬合面間記録	付録 8	鉤指導線	付録 110
咬合状態		咬合面形態	72, 175, 268, 438, 510, 834, 1000	咬傷	371
5, 122, 323, 536, 722, 927, 1039		咬合面再形成 [義歯の]	357	鉤状切痕	付録 195
咬合小面	344	咬合面部	8, 314, 360, 519, 659, 738	口唇	68, 94, 261, 262, 296, 309, 371, 372, 517, 649, 740, 809, 1030, 1073
391, 631, 928 付録 90		咬合面レスト	66, 1061, 1063	口唇接合線	372 付録 95
咬合小面学説	344, 391, 631, 928	咬合様式	358	口唇粘膜	517
咬合性外傷	345 1051	咬合様式	175, 256, 281, 293, 600, 721, 823, 903, 950, 995, 1040, 1045	口唇閉鎖線	373 372 付録 95
咬合接触	346	咬合力	359	更生用装具	637
175, 281, 293, 318, 328, 341, 347, 358, 415, 540, 636, 712, 931, 1040		咬合力	203, 257, 316, 360, 361, 486, 490, 1045, 1061	鉤切痕	付録 195
咬合接触面積	670, 906	咬合力計	360	鉤尖	374
咬合相	661, 665	咬合力検査	360	40, 77, 395, 440, 791, 810, 923, 1033, 1070, 1074	付録 96
咬合調整	347 121, 175	咬合力測定装置	361	鉤先	付録 96
咬合堤	348	咬合力測定法	361	硬組織	463, 578, 579
172, 239, 279, 343, 693, 742, 865, 878 付録 91		咬合彎曲	362	鉤体	375
咬合の不調和	349	355, 657, 712, 743, 1011		77, 208, 311, 395, 638, 810, 1033, 1049, 1061	付録 96
咬合病	349	咬座印象	363	後退位 [下顎の]	135, 529, 1081
咬合分析	350	交叉咬合	364	後退運動 [下顎の]	376
咬合平衡	351	366, 832 付録 93		後退接触位	376, 469, 628, 646, 1076
438, 501, 712, 823, 1000		交叉咬合排列	365 366	鉤端	付録 96
咬合平面	352	交叉咬合用人工臼歯	付録 94	咬断	243, 660
62, 172, 215, 258, 353, 354, 371, 561, 592, 612, 657, 747, 824, 859, 937, 1064		交叉咬合用人工歯	366	合着	377
咬合平面設定板	353	付録 94		206, 404, 543, 602, 766	
付録 92		鉤歯	367 504	合着材	206
咬合平面測定基準板	付録 92	付録 126		合着用セメント	378
付録 92		硬質レジン	368 1057	合釘	付録 233
咬合平面板	354 984			合釘孔	付録 235
咬合平面分析板	355				

後堤法	379	コーピング印象	389	<u>858</u>	ゴシックアーチ描記	
合釘保持孔	付録 235			付録 203	301, 385, 620, 685, 863	
後天的欠損	454	後方位 [下顎の]		135, 528, 701	ゴシックアーチ描記装置	620, 863
咬頭 [歯の]						
91, 93, 121, 243, 246,		後方滑走運動	175, 1002		ゴシックアーチ描記法	
355, 365, 366, 380, 382,		後方基準点	390		398 301, 385 付録 99	
383, 384, 488, 574, 676,		530, 561, 629, 716, 878,			個歯トレー	399 475
757, 843, 844, 850, 1000,		879, 925			付録 100	
1011, 1045, 1080		後方咬合小面	391		個人トレー	400
咬頭嵌合	380	後方指導	付録 232		110, 475, 920, 957 付録	
525, 676, 702, 1076, 1077		後方誘導	付録 232		101	
咬頭嵌合位	381	咬耗	392		固着式固定法	65
78, 132, 183, 326, 340,		9, 332, 349, 752, 754, 1056			固着式模型	401
342, 376, 488, 525, 630,		口輪筋	856		475 884 付録 119	
650, 676, 702, 714, 947,		高齢化社会	393		骨改造	500
1076, 1077		高齢化率	393, 394		骨結合型インプラント	
咬頭干渉	382	高齢社会	394		402 <u>102</u> 944, 956 付	
328, 347, 754, 902		口裂	309, 846, 1073		録 26	
咬頭傾斜角	383	鉤腕	395		骨植	419, 758, 1046
121, 246, 438, 558, 1000,		3, 40, 66, 208, 241, 277,			骨膜	403
1076		290, 311, 374, 375, 416,			骨膜下インプラント	403
咬頭歯	付録 32	689, 779, 791, 922, 1063,			537	
咬頭人工歯	付録 32	1070 付録 97			骨面	233, 255, 403
咬頭展開角	384	誤嚥	80, 82		骨隆起	141, 303, 1044
口内法ゴシックアーチ描記		語音明瞭度検査	396		固定 [歯の]	
装置	398, 863		296		41, 65, 252, 446, 570,	
口内ゴシックアーチ描記法		呼気流	67		578, 579, 774, 830, 872,	
385, 398		国際照明委員会	76		1066	
口内描記装置	398	鼓形空隙	397		固定式	56
口内描記法	385 398	8, 541, 638 付録 98			固定性ブリッジ	404
硬軟口蓋境界部	386	ゴシックアーチ			28, 890, 961	
コーヌス角	387	17, 131, 135, 301, 385,			固定性補綴装置	405
388, 408		398, 620, 640, 654, 655,			41, 95, 508 付録 102	
コーヌステレスコープクラ		685, 863, 864			固定性補綴物	406 <u>405</u>
ウン	388 734	ゴシックアーチトレーサー			付録 102	
後パラタルバー	818	398			固定性連結	407
コーピング		ゴシックアーチトレーシ			12, 405, 986	
49, 194, 858, 907, 1051		グ			固定装置	

409, 579, 872, 893, 1055  
 固定部[アタッチメントの]  
 456, 462, 877, 1004  
 コネクター 付録 255  
 コノメータ 408  
 4/5冠 409 893, 1052  
 ゴム床 410  
 ゴムリング 96  
 固有口腔 411  
 孤立歯 793  
 コルベン状形態 [床緑の]  
 412  
 根管 917  
 根管治療 975  
 混合型 434  
 混合負担 (支持) 付録 121  
 根尖 487  
 コンダイラーガイダンス  
 付録 232  
 コンダイラー型咬合器  
 413 329, 534, 640  
 コンダイル 20, 413, 800  
 コンタクトゲージ 414  
 465, 466  
 コンタクトポイント 415  
 付録 103  
 コンディショナー 213  
 コンティニューアスクラスプ  
 付録 256  
 コンデンス (法) 749  
 コンヤク状顎堤  
 付録 216  
 コンビネーションクラスプ  
 416 781  
 コンビネーションシンド  
 ローム 417 付録 104  
 コンプリートデンチャー  
 付録 151

棍棒 412  
 コンポーネント 13, 49  
 コンポジットレジン  
 418 461, 602  
 根面 [歯の]  
 92, 419, 420, 421, 422,  
 1006  
 根面アタッチメント 419  
 92, 96, 420, 877, 1004  
 付録 105  
 根面形成 420  
 根面形態 421  
 根面板 422  
 421, 966

## さ

サーカムファレンシャルク  
 ラスプ 付録 54  
 サーベイヤ 付録 109  
 サーベイヤー 付録 109  
 サーベイライン 付録 110  
 最終印象 423 586  
 付録 144  
 最終義歯 424  
 172, 445, 680, 719  
 最終補綴装置 425  
 174, 759  
 最小圧印象 付録 240  
 最小発音空隙 69, 807  
 最前方咬合位 426  
 最側方咬合位 427  
 最大開口位 428 429  
 最大開口距離 付録 106  
 最大開口量 429 111  
 付録 106  
 最大筋力点 361  
 最大咬合力 430  
 360, 361, 670

最大豊隆線 431  
 455, 512  
 最大豊隆部 432  
 26, 441, 457, 458  
 最大面積 702  
 彩度 433  
 サイドシフト 434 934  
 作業側 435  
 281, 293, 351, 391, 436,  
 618, 647, 661, 902, 903,  
 949, 950, 1039, 1040  
 付録 107  
 作業側顎頭運動経路 436  
 作業側側方顎路 436  
 647  
 作業側側方顎路角 436  
 作業側側方顎路傾斜 (度)  
 436  
 作業模型 付録 108  
 作業用模型 437  
 49, 55, 474, 475, 551,  
 576, 691, 884, 886, 921,  
 996 付録 108  
 削合 [人工歯の] 438  
 347, 510, 615, 752, 902,  
 1002, 1056  
 サドル 763, 792  
 サブストラクチャー 439  
 サプリングルバー 1047  
 サベイヤー 440  
 27, 431, 441, 442, 748,  
 930, 935 付録 109  
 サベイライン 441  
 3, 26, 298, 395, 431, 440,  
 826 付録 110  
 サベイング 442  
 サベヤー 付録 109  
 サベヤー 付録 109

サベライン 付録 110  
 サベヤー 付録 109  
 左片麻痺 953  
 サポート 付録 125  
 酸化亜鉛ユージノール印象 443  
 酸化亜鉛ユージノール印象材 443  
 酸化亜鉛ユージノールペー  
 スト 693  
 酸化剤 238  
 酸化ジルコニウム 545  
 付録 140  
 酸化物層 444  
 酸化膜 444  
 酸化膜形成 723  
 暫間冠 付録 220  
 暫間義歯 445  
 424, 448, 575 付録 111  
 暫間固定 446 1055  
 暫間上部構造 643  
 暫間の 73, 554, 719  
 暫間被覆冠 447  
 912 付録 220  
 暫間補綴装置 448 744  
 付録 112  
 暫間補綴物 449 448  
 付録 112  
 残根上義歯 450 92  
 付録 20  
 漸進型 434  
 残存歯 92, 114, 224, 441, 492,  
 582, 697, 890, 891, 901,  
 1046, 1047, 1048  
 残存歯列 1021  
 サンドイッチ型 491  
 三腕鉤 付録 253

## し

仕上げ印象 付録 144  
 CR比 付録 115  
 C/R レシオ 付録 115  
 CR レシオ 付録 115  
 シーカーアキシアルアタッ  
 チメント 419  
 シーカーアタッチメント 456  
 シェードガイド 451 468  
 シェードセクション 452 468 付録 117  
 シェードテイキング 付録 117  
 シェードマッチング 付録 117  
 シェル 1026  
 歯科医学 325, 454  
 歯科インプラント 付録 84  
 歯牙支持 付録 123  
 自家製アタッチメント 453 695, 930, 996  
 耳下腺乳頭 309  
 歯牙負担 付録 123  
 歯科補綴学 454  
 276, 624, 842, 892, 973  
 歯科補綴装置 976  
 歯冠 214, 275, 276, 455, 456,  
 458, 459, 463, 512  
 歯冠円錐 455 付録 113  
 歯冠外アタッチメント 456 868  
 歯冠外形 109  
 歯冠型クラスプ 457

付録 114  
 歯冠継続歯 付録 234  
 歯冠形態 107, 214, 462, 744, 987,  
 1079  
 歯冠経由型クラスプ 付録 114  
 歯間鼓形空隙 付録 98  
 歯冠軸 458  
 歯冠歯根長比 付録 115  
 歯冠歯根比 459 92, 1051  
 付録 115  
 歯冠修復物 460 463  
 付録 116  
 歯冠色材料 461  
 歯冠色陶材 23  
 歯冠内アタッチメント 462 877, 1004  
 歯冠補綴架橋義歯学 付録 72  
 歯冠補綴架工義歯学 付録 72  
 歯冠補綴橋義歯学 付録 72  
 歯冠補綴装置 463  
 267, 275, 520, 567, 606,  
 626, 862, 893, 966 付録  
 116  
 歯冠補綴物 464 463  
 付録 116  
 歯間離開 676, 887  
 歯間離開度 465  
 414, 466, 541  
 歯間離開度検査 466  
 色相 467  
 色相環 467  
 色調安定性 1055  
 色調選択 468 644

	付録 117		付録 132	872
色調見本	451	歯根膜		支持粘膜 489
磁気力	491	316, 482, 483, 484, 485,		支持能力 490 252, 1066
歯齧圧排	付録 131	1028, 1065		磁石 221, 491, 992
軸学説	344, 631, 928	歯根膜感覚	92	磁石構造体 491
軸眼窩平面	469	歯根膜支持	478 484	221, 499, 800
軸面	470		付録 123	耳珠 215, 899, 925
26, 214, 388, 408, 472,		歯根膜支持義歯	479 485	歯周疾患
730, 777			付録 124	446, 466, 492, 541
軸面傾斜角	471 730	歯根膜粘膜混合負担(支持)		歯周組織
	付録 176		付録 121	113, 345, 417, 492, 758
軸面形成	472 777	歯根膜粘膜支持	480	歯周病 683, 1066
歯型	473	482 付録 121		歯周補綴 492
474, 475, 551, 691, 884,		歯根膜粘膜支持義歯	481	矢状顎路 493
921		483 付録 122		195, 197, 494, 618, 833
歯型可撤式模型	474	歯根膜粘膜複合負担(支持)		矢状顎路傾斜角(度) 494
682 付録 118			付録 121	197, 618
歯型固着式模型	475	歯根膜粘膜負担	482	矢状クリステンセン現象
884 付録 119		492 付録 121		279
歯頸線	536	歯根膜粘膜負担義歯	483	矢状推進現象 558
歯頸側辺縁形態	付録 120	492 付録 122		自浄性
歯型トレー	付録 100	歯根膜負担	484	211, 831, 853, 981, 1017
歯頸部		901, 1028, 1065 付録 123		矢状切歯路 495
476, 521, 543, 770, 880,		歯根膜負担義歯	485	矢状切歯路傾斜角(度)
941, 942, 990			付録 124	496
歯頸部辺縁	476	シザーズバイト	付録 192	矢状前方顎路 493, 494
歯頸部辺縁形態	476	支持	486	矢状前方顎路傾斜 494
521, 543, 770, 880, 941,		11, 227, 233 付録 125		矢状側方顎路 493, 494
942 付録 120		支持域	5	矢状側方顎路傾斜 494
自己グレージング効果		歯軸 487 383, 455, 512		矢状面 497
282		支持咬頭 488 902		195, 493, 494, 495, 496,
篩骨鶏冠	1011	支持装置 203		574, 608, 612, 619, 835,
歯根		支持組織 [歯の] 233		875
28, 308, 419, 422, 459,		歯質		自助具 498
733, 968, 1014, 1051		422, 509, 521, 603, 976,		視診 386
歯根アタッチメント		990, 1026		歯髄 990, 1025
付録 105		歯質削除量		磁性アタッチメント 499
歯根円錐	477 512	456, 462, 520, 543, 870,		92, 221, 419, 491, 800

磁性材料	491	付録 129		歯肉退縮	550, 1050, 1051
磁性ステンレス鋼	221	支台築造	509	歯肉粘膜	514, 517, 841
歯槽	791, 1013, 1048	支台部	56, 403	篩分法 [咀嚼能率の]	518 669
歯槽骨	165, 166, 459, 533, 898, 1017, 1050	支柱	440, 620	社会生活行為 (ASL)	498
歯槽頂	500	実角	130	ジャクソンクリプクラスプ	519 208
	365, 501, 502, 889, 1029	実距離	130	嚙面充実金冠	9
歯槽頂間線	501 365	実質欠損	71, 219, 276, 891, 892	嚙面鑄造冠	9
歯槽頂間線角度	365	湿熱重合 (法)	1058	ジャケット冠	付録 134
歯槽頂線	502	試適	742, 1072	ジャケットクラウン	520
歯槽堤	付録 45	耳点	899	250, 418, 543, 626, 728, 942, 988, 1057	付録 134
歯槽堤粘膜	付録 46	支点間線	付録 127	射出成形レジン	226, 1059
歯槽突起	500, 891	支点線	付録 127	写真法	127, 899
歯槽粘膜	付録 46	自動削合	510 615	シャンファー型	521
持続時間	324	自働削合	付録 130		476, 941
支台	503	指導要素	964	手圧印象	522
	13, 403, 509, 537, 549	歯肉	511, 512, 513, 514, 515, 517, 550, 551, 1074	自由運動咬合器	523
支台形成	付録 128	歯肉圧排	511 付録 131	習慣性開閉口運動	524
支台歯	504	歯肉縁	511, 551, 1050	習慣性咬合位	525
	3, 28, 399, 459, 473, 505, 506, 507, 509, 733, 758, 970	歯肉縁下	421, 511	習慣性咀嚼側	526
支台歯間線	505 210	歯肉縁上	421		付録 135
	付録 127	歯肉円錐	512 付録 132	習慣性閉口路	540
支台歯形成	506	歯肉型クラスプ	513	重合	544, 776, 983, 1058, 1072
	116, 420, 472, 876, 926		1074	充填物	275
付録 128		歯肉頬移行部	514	充填用材料	451
支台歯形態	507		417, 517	周波数	324, 758
	473, 506, 509, 605	歯肉形成	515	修復	71, 156, 168, 219, 276, 454, 463, 624, 892, 972, 973, 976
支台歯トレー	付録 100		67, 809, 1072	修復物	206, 377, 463, 543, 602, 814, 884
支台線	付録 127	歯肉經由型クラスプ	付録 133	修復物辺縁	476, 521, 543, 770, 880,
支台装置	508	歯肉鉤	516		
	2, 3, 7, 8, 96, 202, 203, 210, 252, 277, 388, 422, 499, 572, 638, 718, 734, 750, 849, 872, 887, 900, 901, 955, 961, 963, 1065	歯肉色	557, 1058		
		歯肉唇移行部	517 237		
		歯肉切除	975		

941, 942			
終末位	525, 685	上弓 [咬合器の]	534
終末蝶番位	527 553	20, 187, 329, 331, 413,	
終末蝶番運動	528	590, 985	
469, 527 付録 136		症型分類 [補綴治療におけ	
終末蝶番軸	529	る]	535
190, 530 付録 137		焼結法	267
終末蝶番点	530	床交換	付録 245
縮重合型 [シリコーン印象		症候群	
材の]	544	75, 160, 349, 417, 842	
縮図器	834	上口唇	372
樹脂含浸層	602	床周縁	付録 138
主咀嚼側	付録 135	上唇	
術者可撤式		68, 309, 536, 845, 855,	
56, 177, 178, 179, 224,		856, 865	
567, 606, 744		上唇小帯	309
準解剖学的人工臼歯		上唇線	865
付録 66		少数歯欠損	575, 891, 901
準解剖学的人工歯	付録 66	少数残存歯症例	92, 785
準解剖的人工臼歯	付録 66	焼成	282, 955
準解剖的人工歯	付録 66	笑線	536 854 付録 139
準備印象	付録 28	小線源	570
床縁	531	使用側	付録 107
110, 112, 164, 230, 262,		小帯	3, 309, 310, 975
299, 310, 412, 514, 517,		小帯切除術	975
532, 538, 768, 855, 945		上部構造 (体) [インプラ	
付録 138		ントの]	537 56, 308
常温重合レジン		床辺縁	付録 138
399, 400, 761		床用材料	752, 1035, 1042
小窩	386, 910, 960, 1062	床用人工歯	268
床外形線	532	床用レジン	451, 516, 1059
上顎結節	533	床翼	538 104, 855, 909
417, 516, 816		小連結子	539
上顎切痕	付録 195	35, 572, 887, 1067	
上顎法	552, 737	上腕	395
上下口唇	649	ショートピン陶歯	871
床下粘膜	付録 58	初期接触	540
上気道閉塞	90	食塊	526, 670, 949
		触診	204, 265, 386
		食片圧入	541
		465, 466, 676, 1054, 1061	
		食物残渣	4
		食物摂取	411, 658, 660
		食物粉砕度	542 669
		植立 [インプラント]	
		549, 570	
		ショルダー	
		695, 814, 1025	
		ショルダー型	543
		476, 941, 942	
		ショルダーレス型	
		476, 770, 880	
		シラノール結合	602
		シリコーンゴム	731
		シリコーンゴム印象	
		544 775	
		シリコーンゴム印象材	
		320, 339	
		シリンジ [印象用の]	
		212, 213	
		シリンドertypeタイプ	58
		シリンドertypeテレスコープク	
		ラウン	734
		ジルコニア	
		545 171, 253 付録 140	
		ジルコニア系セラミックス	
		461	
		ジルコニアブロック	546
		歯列	62, 288, 362, 612, 1011
		歯列印象	761
		歯列弓	122, 309, 364, 909
		歯列接触癖	780
		磁路	221, 491
		シロナソグラフ	129
		シングルデンチャー	547
		付録 141	
		神経麻痺	573



人工材料 509  
人工歯 548  
70, 100, 121, 246, 268,  
366, 369, 552, 707, 752,  
844, 906, 982, 1007, 1013,  
1056  
人工歯根 549 308  
人工歯選択 865  
人工歯肉 550 551  
人工歯肉付模型 551  
付録 142  
人工歯排列 552  
104, 222, 305, 343, 365,  
371, 501, 502, 712, 737,  
1072  
人工装置  
224, 454, 972, 976  
人工皮膚 451  
診査用模型 付録 78  
唇側 (面)  
114, 516, 777, 1025, 1026,  
1060  
唇側バー 114  
靱帯 131, 553  
靱帯位 [下顎の] 553  
靱帯障害 153  
診断用義歯 554  
445, 885  
診断用模型 付録 78  
診断用ワックスアップ  
555 556 付録 143  
診断用ワックスアップ  
556 付録 143  
伸展修復物 880  
振動音 322  
振動法 749  
審美障害 557 895  
審美性

250, 520, 613, 729, 753,  
872, 954, 1014, 1024  
審美的修復 1026, 1060

## す

随意運動 526, 593  
推進現象 [義歯の] 558  
水素ガス 723  
水素結合 602  
垂直顎間距離 付録 39  
垂直的顎位 559  
131, 361  
垂直的距離 93, 335  
垂直的咬合力 257  
垂直被蓋 560 93  
付録 21  
水平アーム 440  
水平基準面 561  
215, 390, 469, 494, 496,  
629, 899  
水平平台 440  
水平的顎位 562  
78, 265, 398  
水平被蓋 563 91  
付録 19  
水平面 564  
434, 436, 647, 648, 654,  
655  
睡眠時無呼吸症候群 (SAS)  
565 138  
シングロックアタッチメ  
ント 961  
スウェーデンのパナナ 971  
スーパervalジエリア 455  
スーパervalジクラスプ  
566 457 付録 114

スクリュー固定式  
567 812, 1015  
スクリュータイプ 58  
スターン G/L 462  
スタイラス 付録 204  
スタッドアタッチメント  
付録 105  
スタディキャスト  
付録 78  
スタディモデル 568  
291 付録 78  
スタビライゼーションスプ  
リント 569 99  
スチール板 414  
ステント 570 579  
ストラップ 571  
403, 681  
ストレス 285, 349  
ストレスブレイカー  
付録 52  
スパー 572 963  
スパチュラ 742, 749, 1079  
スピーチエイド 573  
8, 802  
スピーの彎曲 574  
362, 612, 1012  
スピルウェイ 付録 186  
スピンドル 440  
スプーンデンチャー 575  
スプリット 203, 576, 577  
スプリットキャスト 576  
330  
スプリットバー 577  
203  
スプリットマウンティング  
プレート 576  
スプリンティング 578  
スプリント 579

99, 569, 570, 1036, 1043  
 スプリント療法 87  
 スペーサー [トレーの] 616  
 スマイリングライン 付録 139  
 スマイルライン 付録 139  
 スライスカット 1025  
 スライド型アタッチメント 581  
 スリークォータークラウン 580 1025 付録 244  
 スリーブ 581 789  
 スリーポイントバランス 823  
 スリット 577  
 すれ違い咬合 582  
 スロット型 197, 329  
 寸法精度 586, 1082

## せ

清音 322  
 性格 552  
 生活歯 1006  
 生活不活発病 799  
 成形充填材 509  
 静止印象 付録 240  
 清掃性 211, 492, 831, 853  
 静態印象 付録 240  
 生体材料 54  
 正中口蓋縫合線 937  
 正中矢状面 648, 971  
 正中線 583  
 310, 584, 619, 865  
 正中パラタルバー 818  
 正中面 584 497, 564  
 静的印象 付録 240  
 静的パラトグラム 821

生物学的幅径 585  
 性別 70, 552  
 正放線投影法 459  
 精密印象 586  
 399, 544, 979 付録 144  
 精密铸造 880  
 生理学 127, 771  
 生理学的運動 327  
 生理学的下顎安静位 付録 34  
 赤唇 1073  
 積層一回印象 587 775 付録 187  
 舌 38, 262, 371, 588, 765, 778, 1081  
 舌圧痕 588  
 切縁 69, 429, 600, 601, 854, 1011, 1061  
 切縁咬合 付録 147  
 切縁レスト 1061  
 設計 110, 254, 270, 298, 440, 505, 733, 970, 1028  
 石膏 589, 738  
 石膏印象 920  
 石膏系埋没材 173  
 石膏コア 589  
 石膏模型 291, 937, 985  
 切削加工(法) 254, 267, 613  
 切削器具 506, 926  
 切歯きょう導釘 付録 145  
 切歯きょう導板 付録 146  
 切歯指導機構 534  
 切歯指導釘 590  
 510, 591, 598 付録 145  
 切歯指導板 591 590

付録 146  
 切歯指導部 329  
 切歯点 592  
 131, 352, 426, 427, 597, 655, 661, 980  
 切歯乳頭 859, 1044  
 切歯誘導(指導) 付録 5  
 摂取可能食品 670  
 舌小帯 310  
 摂食・嚥下 593  
 摂食・嚥下障害 594 79, 80, 82, 115, 595  
 摂食・嚥下リハビリテーション ション 595  
 接触滑走 312, 376, 628, 646, 661, 903, 995  
 接触関係 101, 312, 691, 889, 948, 1017  
 接触点 596 415 397, 466 付録 103  
 切歯路 597  
 195, 329, 495, 496, 590, 591, 598, 654, 711, 924  
 切歯路調節機構 598  
 329  
 切歯路描記法 付録 99  
 舌接触補助床 599  
 舌尖 588, 1081  
 舌側(面) 605, 1046, 1047, 1048  
 舌側縁 588  
 舌側化咬合 付録 249  
 切断 18, 670  
 切端咬合 600 付録 147  
 切端咬合位 601  
 接着 [修復物の] 602

	377, 603, 1066	前歯欠損	865	付録 153
接着性材料	602, 603	前歯中間欠損	289	全部陶材架橋義歯
接着性ブリッジ	付録 148	前歯誘導 (指導)	付録 5	付録 229
接着性レジン	446, 1026	全歯列型スプリント	569	全部陶材架工義歯
接着性レジンセメント		全身性疾患	152	付録 229
	602	前装冠	613	全部陶材橋義歯
接着ブリッジ	603		418, 543, 626, 907, 1034	付録 229
	付録 148	前装鑄造冠	942, 987	全部被覆冠
接着用セメント	604	前装用材料		626
舌背	371, 765		451, 543, 613, 987	97, 107, 275, 520, 625,
舌房	371	栓塞子	614 700, 735	862, 954, 955, 1057 付
舌面形成	605	選択割合	615 510	録 154
舌面レスト	1061	選択的加圧印象	616	全部ポーセレンブリッジ
セメント [合着材の]		剪断咬頭	617 850	955
	206, 377, 602		付録 202	前方位 [下顎の]
セメント-エナメル境	120	全調節性咬合器	618	627
セメント合着			329, 711, 834, 835	692, 1036
	404, 472, 543, 729, 730,	先天奇形		前方運動 [下顎の]
	753, 942		71, 156, 157, 159, 161,	628
セメント固定式	606		168, 169, 219, 223	875
セメント築造	509	先天性欠如	454	前方滑走運動
セラミックス	602	前頭面	619 62, 195, 501	175, 279, 351, 493, 494,
セラミング	250	セントラルベアリングスク		495, 496, 510, 757, 903,
セラモメタルクラウン	607	リュウ	620 621, 863	995
	750 付録 181	セントラルベアリングプ		前方基準点
線維腫	237	レート	621	629
線維性増生	898	前パラタルバー	818	31, 204, 390, 561, 869,
線維部	230	全部冠	付録 150	878, 879
全運動軸	608 190	全部金属冠	622	前方咬合位
線鈎	609	全部床義歯	623	630 601
	277, 416, 826, 1063, 1065		179, 299, 351, 510, 547,	前方咬合小面
	付録 149		624, 712, 737, 778, 903,	631
前後調節彎曲	610 712		1018, 1039, 1040, 1045	前方指導要素
前後の歯牙彎曲	611 612		付録 151	29
	付録 150	全部床義歯学	付録 152	前方整位型スプリント
前後の歯列彎曲	612	全部床義歯補綴学	624	1036
	付録 150		付録 152	前方チェックバイト
センサーアレイ	992	全部鑄造冠	625	692
				前方誘導 (指導)
				付録 5
				全面均衡咬合
				付録 246
				全面平衡咬合
				付録 246

## そ

早期荷重	633	付録 155
早期型		434
総義歯	634	623

	付録 151	661, 692	側方バラタルバー	818
総義歯学	付録 152	側方移動	側方分力	246
総義歯補綴学	635 624	側方運動 [下顎の]	側方力	86, 241, 804, 1000, 1054
	付録 152	187, 434, 701, 823, 875,	側方彎曲基準板	657
早期接触	636	939	咀嚼	658
322, 323, 324, 328, 347,		側方滑走運動	162, 243, 518, 526, 542,	
349, 685, 710, 1062		175, 279, 281, 293, 351,	659, 660, 661, 665, 668,	
早期負荷	633 付録 155	434, 436, 493, 494, 647,	669, 670, 671, 672, 857,	
装具	637	654, 655, 902, 903, 928,	932, 952	
象牙質		995, 1045	咀嚼圧	659
16, 392, 602, 786, 990		側方顆路	咀嚼運動	660
造語	16, 20	195, 197, 198, 434, 494,	175, 243, 435, 526, 665,	
相互保護咬合	付録 239	618, 833, 934	671, 850, 932	
増歯	33	側方顆路角	咀嚼運動周期	付録 160
双子鉤	638 208	197 付録 158	咀嚼運動路	661 付録 159
	付録 156	側方顆路傾斜	咀嚼機能	392, 552, 670
装着材料	378	側貌記録	咀嚼機能検査	662 670
装着方向	1052	側方クリステンセン現象	咀嚼筋	
相補運動論の顆頭点	64	279	75, 153, 160, 272, 670,	
相補下顎位	639	側方限界運動	894	
相補下顎運動	640	側方咬合位	咀嚼筋活動	670
	144, 145	427, 950, 1039, 1040	咀嚼系	付録 44
即時荷重	641 643	側方咬合彎曲	咀嚼経路	付録 159
	付録 157	651 62	咀嚼効率	663 668
即時義歯	642 445, 743	付録 13	付録 162	
即時暫間修復	643	側方歯牙彎曲	咀嚼サイクル	664 665
即時重合レジン	744	652 62	付録 160	
即時負荷	641, 643	付録 13	咀嚼周期	665 661
	付録 157	側方歯群	付録 160	
即時離開咬合	256	364	咀嚼試料	662
測定法 [歯冠色の]	644	側方歯列彎曲	咀嚼障害	666
測定杆	440	653 62	咀嚼スコア	670
側頭下顎靱帯	553	付録 13	咀嚼側	667 526, 857
側頭筋	265	側方推進現象	付録 161	
側頭筋前部	265	558	咀嚼能率	668
側頭筋把握法	265	側方切歯路	121, 246, 542, 669, 670,	
側貌	68, 215, 649, 855	654	906 付録 162	
側方位 [下顎の]	645	590, 591		
		側方切歯路角		
		側方チェックバイト		
		側方調節彎曲		
		側方頭部エックス線規格写		
		真		
		側貌エックス線写真		
		215		

咀嚼能率測定 669 662  
咀嚼能力 670  
518, 662, 668  
咀嚼能力検査 670  
咀嚼リズム 671  
咀嚼力 672 360, 505  
ゾル 21, 213

## た

タービンバー 926  
タービンヘッド 926  
ターミナルヒンジアキシス  
付録 137  
ターミナルヒンジムーブメ  
ント 付録 136  
耐火材 983  
耐火材マトリックス 988  
耐火模型 173, 886  
帯環金属冠 703, 880  
待機荷重 673  
対合  
5, 346, 380, 596, 676,  
678, 931, 933  
対向関係 [顎堤の] 674  
318, 327, 501, 737  
対咬関係 675 676  
付録 163  
対合関係 676 付録 163  
対向作用 677 240  
付録 63  
対抗作用 付録 63  
対合歯 678  
72, 243, 320, 488, 850,  
1062  
退行性関節疾患 152  
待時荷重 679 694  
付録 167  
待時負荷 694 付録 167

退縮 [歯肉の]  
550, 1050, 1051  
耐衝撃性 369, 520  
ダイナミック印象 680  
108 付録 164  
ダイナミックパラトグラム  
821  
体部 50, 142, 329, 534, 793  
耐摩耗性  
268, 369, 752, 954, 1055,  
1056, 1057  
ダイヤモンドポイント  
615  
大連結子 681  
35, 114, 273, 290, 571,  
577, 788, 790, 817, 818,  
819, 1046, 1047, 1048, 1067  
ダウエル 付録 233  
ダウエルクラウン  
付録 234  
ダウエルピン 682 474  
唾液嚥下 836  
唾液検査 683  
楕円型ポンティック 831  
多官能性メタクリレート  
418  
濁音 322  
タッピング 684  
38, 324, 685, 894  
タッピング運動 685  
タッピングポイント 685  
タッピング法 685  
ダブルアームクラスプ  
付録 222  
ダブルエーカークラスプ  
付録 156  
ダブルクラウン 付録 177  
ダブルミックス印象

付録 187  
ダブルリンガルバー  
290 付録 77  
ダミー 付録 238  
単一印象 686  
単一式模型 687 475  
付録 119  
単位面積 314, 659, 839  
単冠 409, 893, 966  
短縮歯列 688  
単斜面形態 421  
単純鉤 689 208  
付録 165  
炭素棒 440  
単歯型 690 691  
付録 166  
単歯型式模型 691  
付録 166  
単歯冠補綴 750  
弾撥音 付録 74  
弾筆 278  
単腕鉤 付録 165  
ち  
チェックバイト 692  
330  
チェックバイト法 693  
遅延荷重 694 付録 167  
遅延負荷 694 付録 167  
遅延離開咬合 256  
知覚異常 205 付録 53  
築盛 23, 551, 723, 749,  
987, 988  
築造 509  
築造体 509, 917, 967  
チタン合金 10, 171, 622  
着脱方向  
26, 117, 440, 441, 455,

512, 996			
チャンネル	695		
チャンネルショルダーピン	695 453		
チューイングサイクル	付録 160		
チューイン法	696		
	385, 620		
中間義歯	697 付録 168		
中間欠損	698 289, 883		
中間欠損義歯	付録 168		
中間構造 (体) (インプラントの)	699		
中空型栓塞子	700 735		
中心位	701		
	553, 627, 645, 702, 927, 946		
中心窩	365		
中心咬合位	702		
	124, 148, 335, 501, 615, 1045		
鋳造	173, 509, 750, 781, 983, 1079, 1082		
鋳造冠	703		
	521, 753, 942 付録 169		
鋳造鉤	704		
	66, 277, 416, 781, 922, 1053, 1063 付録 170		
鋳造収縮	107, 1082		
鋳造床	705 269, 886		
鋳造バー	706 788		
鋳造法	267, 625, 703, 704, 706, 729		
鋳造ポスト	509		
中パラタルバー	818		
チューブ陶歯	707		
調音	296, 821		
調音検査	708 296		
	付録 80		
蝶形骨翼状突起内側板	816		
超高齢社会	709		
聴診	322, 323, 710		
聴診法	710 323		
長石系陶材	461		
長石-石英系陶材	22, 23		
調節 [咬合器の]	127, 198, 329, 534, 576, 598, 618, 693, 711, 833		
調節性咬合器	711		
	198, 329, 576, 598, 618, 693, 833, 834, 835		
調節彎曲	712 362, 737		
蝶番	200, 527, 528, 529, 530, 553, 714, 867		
蝶番運動	713		
	469, 527, 528, 529, 868 付録 171		
蝶番型アタッチメント	付録 206		
蝶番咬合器	714		
	付録 172		
蝶番軸	715		
	95, 190, 469, 529, 530, 716 付録 173		
蝶番点	716		
	190, 390, 561, 867, 869		
直後型	434		
直接維持装置	717 718		
	付録 174		
直接支台装置	718 1021		
	付録 174		
直接法	1042, 1079		
治療義歯	付録 175		
治療用義歯	719		
	445, 885 付録 175		
治療用器具	637		
沈下	3, 486, 490, 887, 922, 1061		
	つ		
追跡管理	720 764		
	付録 185		
ツインステージ咬合器	721		
継ぎ手接合	543		
坪根式バイトゲージ	795		
艶焼き	付録 75		
	て		
低位咬合	722 83		
低位歯	92		
ディギャッシング	723		
T字クラスプ	724 77		
	付録 16		
ディーブシャンファー	521		
ディーブバイト	付録 33		
停止 [筋の]	856		
ディスクルージョン	725		
	256 付録 67		
ティッシュコンデイションナー	726 975		
ティッシュストップ	727		
ディッピング法	1079		
ティナージョイント	728		
ディヴィスクラウン	729		
テーパー	730		
	388, 472, 474, 936 付録 176		
テーパーツール	440		

適応反応	526	天然歯列	62, 362, 547, 676, 927	陶歯前装鑄造冠	753
適合 [補綴装置の]	225, 731, 1035, 1042	転覆	505, 950	陶歯前装ポストクラウン	966
適合試験	731	転覆試験	742	動側	付録 107
適合試験材	731	テンプレート	743	働側	付録 107
適合状態	551, 731	テンポラリーアバットメント	744 付録 179	動的嚙下障害	付録 65
適合性	625, 703, 730	テンポラリークラウン	745 912 付録 220	疼痛	75, 94, 153, 154, 265, 754, 1044
デジタルインプレッション	732 304 付録 83	テンポラリーシリンダー	746 744 付録 179	疼痛誘発テスト	754
デュシャンジュの指数	733	と		動的印象	付録 164
テレスコープクラウン	734	ドイツ水平線	899	銅板	399
4, 109, 388, 453, 767, 849, 930, 1065 付録 177		頭位	685	頭部エックス線規格写真	842, 899
転位 [歯の]	87, 89, 579, 832, 929	投影距離	130	頭部後屈法	755 756 付録 182
天蓋開放型栓塞子	735	頭蓋	329, 331, 561, 619, 878	頭部後傾法	756 付録 182
展開角	655	頭頸部	265	DUMLの法則	757
電氣的測定法	127	瞳孔線	747	動揺	117, 446, 758, 1066
電気メス	511	等高点	748 付録 180	動揺歯	65, 409, 579, 870, 872, 893
電極	271, 821	陶材	12, 22, 23, 282, 520, 613, 723, 749, 752, 954, 986, 988, 1006	動揺度	758
Dentatus 咬合器	350, 833	陶材ジャケットクラウン	付録 228	動揺度検査 [歯の]	758
デンタルインプラント	736 308 付録 84	陶材築盛法	749	トップダウントリートメント	759 付録 183
デンタルサバイヤー	付録 109	陶材ブリッジ	付録 229	トライポッドマーク	760 748 付録 180
デンタルフロス	466	陶材焼付冠	750 12, 750, 986, 1006 付録 181	トランスファー	530, 716, 869
デンタルミラー	936	陶材焼付金属冠	付録 181	トランスファーインデックス	761
テンチの間隙	737	陶材焼付鑄造冠	751 750 付録 181	トランスファーキャップ	761
テンチのコア	738 330, 1037 付録 178	陶材溶着鑄造冠	付録 181	トランスファーコーピング	761 858
テンチの歯型	739 738 付録 178	陶歯	752 548, 753, 871, 1013, 1034	トランスファージグ	761
デンチャースペース	740			取り囲み鉤	付録 54
デンチャーブラーク	741 238			取り込み印象	762 858
天然歯	62, 121, 362, 612				

付録 184, 203  
トリミング [歯型の] 1009  
ドルダーバー 763 789  
ドルダーバーアタッチメン  
ト 763, 789  
トレー  
213, 315, 320, 363, 399,  
400, 680, 797, 920  
トレーサビリティ 764  
付録 185  
ドロップオンテクニク  
1079  
ドンダースの空隙 765  
遁路 766 616 付録 186

## な

内冠 767  
4, 109, 387, 388, 408, 734  
内斜線 768 112  
内斜面 384, 501, 902, 928  
内側フィニッシュライン  
876  
ナイトガード 769  
ナイフエッジ型 770  
476, 880  
流し込み 1058  
ナソヘキサグラフ 129  
ナソロジー 771  
ナソロジー学派 95, 995  
軟口蓋  
1, 296, 386, 411, 573,  
740, 765, 772, 825  
軟口蓋挙上型 573  
軟口蓋挙上装置 772  
573 573  
軟質裏装材 1042  
軟性樹脂 551  
軟性レジン 516

軟組織 118, 570, 837

## に

ニアゾーン 773  
3, 923, 1049  
2 ケイ酸リチウムガラス  
461  
二酸化ジルコニウム 545  
付録 140  
二次印象 付録 144  
二次う (齲) 蝕 422  
二次固定 774 252, 638  
二重金冠 付録 177  
二重同時印象 775  
付録 187  
二重埋没法 776  
日常生活動作 (ADL) 498  
ニッチ 872  
二面形成 777  
ニュートラルゾーン  
778 222  
二腕鉤 779  
66, 86, 208, 241, 638,  
781, 922, 1063 付録 188  
認知行動療法 780

## ね

ネイシェイズ 462  
Ney 社 781, 922  
ネイのクラスプ 781  
熱可塑性 1009  
ネック部 905  
熱処理 723  
熱伝導度 954  
粘液腺 1064  
粘着力 [義歯の] 225  
捻髪音 付録 76  
粘膜下組織 167, 898

粘膜支持 782 784  
付録 189  
粘膜支持義歯 783 785  
付録 190  
粘膜上皮 310  
粘膜静態印象 付録 240  
粘膜負担 784  
819, 1065 付録 189  
粘膜負担義歯 785  
492, 623 付録 190

## の

ノギス 935, 936  
ノンパラレルピンテクニク  
ク 786 870  
ノンクラスプデンチャー  
787  
ノンメタルクラスプデン  
チャー 787

## は

バー 788  
114, 273, 277, 571, 681,  
706, 815, 817, 818, 819,  
997, 1047  
バーアタッチメント 789  
581, 763, 790, 792, 996  
バー義歯 790  
パークラスプ 791  
277, 395, 416, 513, 1074  
パーシャルカバリッジクラ  
ウン 付録 213  
バージョイント 789  
ハーダーパーアタッチメン  
ト 792 789  
パーティカルオーバーラッ  
プ 付録 21  
ハーフアンドハーフクラス



プ	793	7/8冠	893	付録 196
ハーフクラウン	794	発音異常	152	バラタルプレート 819
ハーフバンド	421	発音		681
バーユニット	789	1, 69, 162, 396, 448, 515,		バラタルランプ 820 <u>100</u>
バー用線	273	599, 809, 821		付録 24
排出路	766	発音間隙	806 <u>807</u>	バラトグラム 821 808
バイトゲージ	795		付録 193	バラレルテレスコープクラ ウン 734
バイトスプリント 796 <u>99</u>		発音機能		バラレルピンテクニック 822 870
付録 23		411, 552, 831, 853, 1072		バラシングランプ [義歯 の] 823 1000
バイトトレイ 797 320		発音空隙 807 付録 193		はりがね鉤 付録 149
バイトフォーク		発音時 69, 336, 821		バルクウィル角 824 924
251, 878, 984		発音試験 808		バルブ型鼻咽腔補綴装置 825
バイトプレート 付録 23		発音利用法 809		板金加工 267, 703, 880
ハイドロコロイド印象		バックルシェルフ 付録 68		半径 4 インチの球面 657, 1011, 1012
付録 56		白金箔 988		板 (鋳) 鉤 826 1053
ハイドロコロイド印象材		バックアクションクラスプ 810 781		半固定性ブリッジ 827 220, 901
21		発語 71, 219		半固定性補綴装置 828
ハイブリッド型コンポジツ トレジックラウン 798		発語障害 811 <u>297</u>		付録 197
廃用症候群 799		抜歯 33, 92, 642, 743, 975, 1014		半固定性補綴物 829 <u>828</u>
廃用 (性) 萎縮 799		パンプフィット 812		付録 197
ハウジング 800		発声 813 802		半固定性連結 830
パウンドライン 801		バットジョイント 814 876		付録 198
付録 191		馬蹄型 815		半自浄型ポンティック 831
歯ぎしり 付録 214		馬蹄形バー 815 付録 194		反射 94, 524, 526
パサバント隆起 802		パテタイプ [印象材の] 320, 775		反射運動 593
鉄状咬合 803 92		パトリックス 付録 241		反射性嚥下障害 79
付録 192		ハミュラーノッチ 816 859 付録 195		半側麻痺 <u>953</u> 付録 227
把持 804		パラジウム箔 988		反対咬合 832 364
2, 7, 66, 277, 298, 311, 375, 395, 503, 504, 789, 881		バラタルストラップ 817 571, 681		反対咬合用人工白歯 付録 94
把持腕 805 <u>241</u> 付録 64		バラタルパー 818		反対咬合用人工歯 付録 94
破折 (損) 9, 422, 954, 957, 1044		7/8冠 893		
8 インチ球面学説 付録 243		発音異常 152		
8 インチ球面板 355		発音 1, 69, 162, 396, 448, 515, 599, 809, 821		

半調節性咬合器	833	鼻下点・オトガイ間距離	861	付録 17
329, 576, 693, 711		846		
パントグラフ	834	光重合	1058	
620, 835		光照射	418	
パントグラフ法	835	非緩圧型アタッチメント	107, 275, 409, 520, 625,	
反復唾液嚥下テスト	836	847 419, 462, 789, 849	872, 910, 954, 1025, 1055,	
		非緩圧型維持装置	1057	
		849	付録 201	
		非緩圧型支台装置	849	
		付録 201		
		非機能咬頭	850	付録 202
		非機能側	付録 223	
		非結晶質	250	
		肥厚	898	
		非作業側	851 932	
		付録 223		
		非作業側側方顎路	852	
		934	付録 224	
		非自浄型ポンティック	853 178	
		微小機械の結合	602	
		微笑線	854 536	
		微小動揺	641	
		鼻唇角	855	
		鼻唇溝	856	
		非生体材料	54	
		微生物	238	
		非接触型	992	
		鼻尖	68, 649	
		非咀嚼側	857	
		鼻聴道線	215, 899	
		鼻聴道平面	付録 57	
		ピックアップ印象	858	
		762	付録 203	
		HIP プレーン	859	
		ビデオ嚥下造影	860	
		付録 17		
		ビデオレントゲン検査	861	付録 17
		鼻背	649	
		鼻幅線	865, 866	
		被覆冠	862	
		被膜厚さ	731	
		描記針	863	
		301, 385, 696, 834, 864		
		付録 204		
		描記図	398	
		描記装置	398, 620, 863	
		描記釘	付録 204	
		描記板	864	
		301, 385, 640, 685, 834,		
		863		
		描記法	127, 145, 278, 301, 385,	
		398, 863, 864		
		標示線	865	付録 205
		標準線	付録 205	
		表情筋	1008	
		表面着色剤	250	
		病理学	771	
		鼻翼	856, 866	
		鼻翼下縁	215, 561, 629	
		鼻翼幅	866	
		疲労	349, 733, 970	
		ピン	453, 590, 695, 786, 822,	
		870, 871, 872, 960, 1034		
		ヒンジアキシス	付録 173	
		ヒンジアキシスロケーター	867	
		ヒンジ型アタッチメント	868	付録 206

ヒンジボウ	869	不可逆性ハイドロコロイド		ブランク	238
ヒンジムーブメント		印象材	21	ブラキシズム	894
	付録 171	複印象	882	38, 274, 285, 349, 392,	
ピントクニック	870	複合欠損	883	769, 1043	付録 214
ピン陶歯	871 1034	副歯型	475, 884	フラスク	776
	付録 207	副歯型式模型	884	フラスク埋没法	
ピンホール		複製義歯	885		18, 19, 900
822, 870, 872, 936, 960,		複製模型	886 978	プラスチックトレー	50
1034		複腕鉤	付録 222	ブラックトライアングル	
ピンレッジ	872	不随意運動	94		895
	893, 926	不正咬合	364, 832	ブラッシュ法	749
		付線	付録 208	ブラッシング	990
		負担域	付録 86	ブラットフォーム (インプ	
		負担軽減 [支台歯の]	1051	ラントの)	896
		負担能力		ブラットフォームシフティ	
		92, 233, 360, 459, 616,		ング	897 付録 215
		970		ブラットフォームスイッチ	
		負担様式	60, 623	ング	付録 215
		フック	887 963	ブラットフォームスウィッ	
		浮動性歯肉	付録 216	チング	897
		不動粘膜	888 514, 517	フラビーガム	898 417,
		船底型ポンティック	889	914	付録 216
			831	フラビー組織	付録 216
		部分義歯	890	フラビーティッシュ	
		部分欠損		付録 216	
		547, 698, 883, 1022		フランクフルト線	899
		部分床義歯	891	フランクフルト平面	899
		179, 210, 277, 440, 505,		561, 925	付録 217
		572, 697, 718, 788, 790,		フランス式埋没法	900
		887, 890, 892, 935, 963,		フリーウェイスぺース	
		1018, 1054, 1061, 1067		付録 4	
		付録 211		ブリッジ	901
		部分床義歯学	付録 212	28, 85, 178, 220, 276,	
		部分床義歯補綴学	892	404, 405, 448, 505, 733,	
		付録 212		750, 827, 830, 890, 926,	
		部分被覆冠	893	936, 955, 970, 981, 1027	
		275, 409, 862, 910, 1025,		付録 218	
		1052	付録 213		

不良補綴装置	557, 666				
フルカバリッジクラウン		分割義歯	916	平衡接触	931
	付録 154	分割コア	917	閉口相	661, 665
フルキャストクラウン		分割式模型	918 <u>921</u>	平衡側	932
	付録 153		付録 221	281, 351, 434, 618, 647,	
フルクラウン	付録 154	分割歯型	921	648, 833, 857, 875, 903,	
フルデンチャー	付録 151	分割歯型式模型	919 <u>921</u>	928, 933, 934, 950, 1039,	
BULL の法則	902		付録 221	1040 付録 223	
フルバランストオクルー		分割トレー	920	平衡側咬頭接触	933
ジョン	903		914, 920	平衡側側方顆路	934
	344, 391, 631, 928	分割復位式模型	921	647 付録 224	
フルメタルクラウン	904		682 付録 221	平行測定	935 440
ブレード	905, 906	分割模型	付録 221	平行測定器	936 935
ブレードインプラント	905	分割腕鉤	922 781	平行模型	934
ブレード人工歯	906	粉碎	243, 518, 542, 660,	平斜面形態	421
	844		670, 766	閉磁路	221
ブレードメタル臼歯	906	粉碎度	668, 669	平線咬合器	938 <u>714</u>
フレーム	308	分散型	434		付録 172
フレームワーク	907	分子間引力	602	併用トレー	399
	35, 603, 727, 876, 1006			ペースト	21, 693, 731
付録 219				ヘッド部	905
フレキシブルデンチャー		ヘアピンクラスプ	923	ベネット運動	939 436
	787		208 付録 222	ベネット角	940 <u>648</u>
フレンジ	908 909	平均値咬合器	924		付録 158
フレンジテクニク	909		329, 354, 598	ヘビーシャンファー	
	222	平均的顆頭点	925		521, 941
プロキシマルハーフクラウン			190, 390, 561	ベベル	476, 941, 942
ン	910 893	閉口運動		ベベル型	941 476
プロキシマルプレート			249, 525, 685, 713	ベベルドシャンファー型	
	付録 251	平行運動	926		941
ブロックアウト	911 3	平行形成器	926 822	ベベルドショルダー型	
プロビジョナルクラウン		平衡咬合	927 312, 950		942 476, 941
	912 448, 475, 1055 付	平衡咬合小面	928	辺縁形成	943 <u>262</u>
録 220		閉口障害	929		付録 69
プロビジョナルレストレー		平衡状態	950	辺縁形態	
ション	913	平行性		476, 521, 543, 770, 880,	
分割印象	914 920		178, 440, 830, 935, 936	941, 942	
分割可撤式模型	915 <u>921</u>	付録 221		453, 996, 997	
		平行切削器	930	辺縁骨レベル	944

辺縁部

50, 770, 880, 942, 958

辺縁封鎖 945

225, 412, 969

辺縁隆線

243, 488, 638, 676, 810,

1033

片顎義歯 付録 141

変形性関節症 152, 153

変質性 1057

変色 1056, 1057

変色性 1057

偏心位 [下顎の] 946

121, 334, 351, 358, 438,

639, 712, 927

偏心運動

256, 312, 523, 843

偏心咬合位 947 615

偏側型ポンティック 948

831

片側性均衡 付録 225

片側性均衡咬合 付録 226

片側性欠損 289

片側性咬合均衡 付録 225

片側性咬合平衡 949

501 付録 225

片側性中間義歯 697

片側性平衡 付録 225

片側性平衡咬合 950

付録 226

片側性遊離端義歯 1021

片側性遊離端欠損 289

片側離脱 [ブリッジの]

951

偏咀嚼 952

片麻痺 953 付録 227

ほ

放射線照射治療 570

萌出 910, 1050

棒状ワックス 958

包埋 983

豊隆 26, 104, 214, 252,

309, 431, 432, 441, 455,

457, 512, 856

膨隆 [口唇部の] 533

ホースシューバー 815

付録 194

ポーセレンジャケットクラ

ウン 954 728

付録 228

ポーセレンブリッジ 955

付録 229

ポーセレンラミネートベニ

ア 1026

ポーンアンカードブリッジ

956 付録 230

ポーンレベル 896

補強鞘 440

補強線 957

ボクシング 958

保持 959 34 付録 6

保持機構 377

保持形態 960

保磁子 221

保持装置 763

補助アーム 1049

補助アタッチメント 961

補助維持装置 962 963

付録 231

補助形態 960

補助支台装置 963

572, 887 付録 231

補助装置 570

保持力 39, 730, 960

ポステリアガイドランス

964 29 付録 232

ポスト 965

509, 966, 968, 1006 付

録 233

ポストクラウン 966

275, 421, 422, 729 付録

234

ポストコア 967

ポスト孔 968 936, 965

付録 235

ポストダム 969

299, 379

補足疲労 970 733

ボックス型 197, 329, 800

ポッセルトの図形 971

131

補綴 972

156, 219, 492, 973, 975,

976

補綴学 973

276, 624, 892

補綴学的平面 付録 57

補綴修復物 付録 236

補綴主導型インプラント治

療 974 759 付録 183

補綴処置 448, 492, 657

補綴前処置 975

補綴装置 976

60, 84, 157, 179, 405,

415, 425, 448, 463, 567,

606, 828 付録 236

補綴物 977 976

付録 236

母模型 978 173

ポリサルファイドゴム印象

979

ポリサルファイドゴム印象  
材 979  
ホリゾンタルオーバーラッ  
プ 付録 19  
ホリゾンタルスクリュール  
699  
horizontal set-off  
付録 215  
ホリゾンタルピン 786  
本印象 付録 144  
ボンウィル三角 980  
185, 824, 984 付録 237  
ポンティック 981  
24, 85, 105, 178, 211,  
404, 407, 733, 827, 831,  
853, 889, 901, 916, 948,  
955, 970, 982, 1014, 1017,  
1029, 1031, 1034 付録  
238  
ポンティック陶歯 982

**ま**

マージン  
194, 475, 935, 1025  
埋没 983  
18, 19, 173, 776, 900  
埋没材 173, 776  
埋没法 [義歯の]  
18, 19, 776, 900  
マウンティング 付録 89  
マウンティングジグ 984  
マウンティングプレート  
985 576  
マウント 付録 89  
前ろう (鑑) 付け法 986  
曲げ強度 1047  
摩擦抵抗要素 695  
摩擦力

109, 388, 734, 767, 826  
マッカラム T アタッチメ  
ント 462  
末梢入力 94  
窓開け 987  
マトリックス 付録 209  
マトリックス法 988  
954  
麻痺性嚥下障害 989  
摩耗 [歯の] 990  
268, 344, 369, 392, 752,  
954, 1055, 1056, 1057

マンセル色票系 991  
マンセル表色系 991  
マンディプラーキネジオグ  
ラフ [MKG] 992 129

## み

水飲みテスト 993 115  
溝 104, 116, 840, 856, 1052  
ミニダルボ 456  
未病 994  
ミュチュアリープロテク  
テッドオクルージョン  
995 付録 239  
ミューラー法 365  
ミリング 453, 546, 930, 996  
ミリングテクニック [ア  
タッチメントの] 996  
ミリングパー 997

## む

無圧印象 998 46, 118  
付録 240  
無機質フィラー 418  
無口蓋義歯 999  
無咬頭歯 付録 200  
無咬頭人工歯 1000 844

無歯顎 1001  
78, 83, 165, 279, 309,  
361, 417, 443, 547, 649,  
778, 785, 856, 866, 1016,  
1064, 1081  
無歯顎者 78  
無歯症 1075  
MUDL の法則 1002

## め

明度 1003  
メール 1004  
7, 96, 220, 581, 695, 877  
付録 241  
メジャリングデバイス  
(商品名) 1005  
雌部 付録 209  
メタルインサーテッド  
ティース 906  
メタルコア 509  
メタルコーピング 1006  
750  
メタルフレーム 付録 219  
メタルボンドクラウン  
613, 723, 753, 982  
メチルメタクリレート  
74, 1056  
メリーランドブリッジ  
付録 148  
免荷期間 673

**も**

モールドガイド 1007  
模型改造法 付録 27  
模型固定台 930  
模型修正法 付録 27  
模型台 440  
モダイオラス 1008

付録 242  
 モデリングコンパウンド 262, 1009  
 モデリングコンパウンド印  
 象 1009  
 モリソクラウン 1010 9  
 付録 2  
 モンソンカーブ 1011  
 362  
 モンソン球面説 1012  
 657, 1011 付録 243

**や**

焼き付け  
 12, 250, 986, 1006

**ゆ**

有孔陶歯 1013  
 有根型ポンティック 1014  
 UCLA 型アバットメント  
 1015 171  
 有歯顎 1016  
 649, 657, 1076, 1077  
 有歯顎者  
 78, 215, 281, 429, 525, 702  
 U 字形 763, 815, 999  
 有床型ポンティック 1017  
 24, 178, 853  
 有床義歯 1018  
 63, 108, 164, 177, 262,  
 316, 623, 785, 890, 1021,  
 1059  
 有髓歯 872, 893, 1055  
 有釘陶歯 1019 871  
 付録 207  
 誘導面 1020 117 696  
 付録 30  
 遊離端義歯 1021

2, 697, 1065  
 遊離端欠損 1022  
 289, 417, 688, 815, 883,  
 1021  
 遊離端ブリッジ 1023 85  
 付録 18

**よ**

ヨーク 491  
 翼突鉤 816  
 翼突上顎切痕 付録 195  
 予後 1024  
 予備印象 付録 28  
 4 インチ球面学説  
 付録 243  
 3/4 冠 1025 893, 1052  
 付録 244

**ら**

ライトボディ 775  
 ラボアナログ 付録 9  
 ラミネートベニア 1026  
 988  
 ランナーバー 1027

**り**

力学的安定性 365, 505  
 リジッドコネクタ 1028  
 リジッドサポート 1028  
 388  
 リズムジェネレータ 671  
 裏装 付録 247  
 リジッド型ポンティッ  
 ク 1029 831  
 リップサポート 1030  
 68, 855, 1030, 1073  
 離底型ポンティック 1031  
 211

リテイナー 付録 129  
 リテンション 付録 6  
 リテンションアーム  
 付録 7  
 リテンションピース 1032  
 リバースバックアクション  
 クラスプ 1033 781  
 リバースピン陶歯 1034  
 リバースループクラスプ  
 付録 222  
 リベージング 付録 245  
 リベース 1035 付録 245  
 リポジショニングスプリ  
 ング 1036 99  
 リマウンティング 付録 88  
 リマウンティングジグ  
 1037  
 リマウント 付録 88  
 リムーバルノブ 1038  
 リモデリング 101  
 隆線  
 112, 164, 431, 455, 512,  
 768  
 流動性  
 21, 363, 680, 775, 1069  
 両側性均衡咬合 付録 246  
 両側性中間義歯 697  
 両側性咬合平衡 1039  
 両側性平衡咬合 1040  
 927 付録 246  
 両側性遊離端義歯 1021  
 両側性遊離端欠損  
 289, 417  
 両端支持 85  
 両翼鉤 1041 779  
 付録 188  
 リライニング 付録 247  
 リライニングジグ 1042

リライン 1042 付録 247  
 リラクセーションスプリ  
 ン ト 1043 99  
 リリーフ 1044  
 164, 207, 233, 533 付録  
 248  
 リンガライズドオクルー  
 ジョン 1045 付録 249  
 リンガルエプロン 1046  
 681  
 リンガルバー 1047  
 290, 681, 788  
 リンガルプレート 1048  
 681, 1046  
 リングクラスプ 1049  
 208, 781  
 隣在歯 446  
 リン酸亜鉛セメント  
 206, 377  
 リン酸塩系埋没材 173  
 臨床歯科医学 454  
 臨床システム 834  
 臨床の歯冠 1050  
 臨床の歯根 1051  
 隣接歯 86, 466, 884  
 隣接面 [歯の]  
 8, 77, 220, 397, 409, 415,  
 475, 519, 810, 1025, 1033,  
 1049, 1052, 1053  
 隣接面溝 1052 1025  
 隣接面鉤 1053 付録 250  
 隣接面板 1054 2, 117  
 付録 251

## る

涙骨 574

## れ

冷電法 32  
 レイヤリングセラミックス  
 97, 98  
 レギュラーボディタイプ  
 [印象材の] 775  
 レジストレーションアーム  
 867  
 レシプロカルアーム  
 付録 64  
 レシプロケーション  
 付録 63  
 レジン  
 226, 369, 418, 461, 548,  
 613, 862, 966, 1026, 1055,  
 1056, 1057, 1059, 1060  
 レジンキャップ 1055  
 レジン歯 1056  
 268, 369, 548  
 レジンジャケットクラウン  
 1057  
 レジン床 1058  
 226, 763, 957  
 レジン床義歯 1059 957  
 レジン前装冠 1060 613  
 レジン前装ポストクラウン  
 966  
 レジン築造 509  
 レジン填入  
 18, 19, 727, 766, 900  
 レジントレー 399  
 レジンラミネートベニア  
 1026  
 レスト 1061  
 2, 66, 77, 505, 539, 638,  
 781, 785, 793, 922, 1062,  
 1063, 1065, 1070

レスト座 付録 252  
 レストシート 1062  
 975, 1061 付録 252  
 レスト付き二腕鉤 1063  
 66, 638, 781 付録 253  
 レッジ 872  
 レトロモラーパッド 1064  
 230, 255, 801 付録 254  
 連結  
 12, 35, 41, 65, 181, 307,  
 404, 407, 446, 539, 579,  
 774, 788, 827, 828, 830,  
 847, 849, 986, 1028, 1065,  
 1066  
 連結機構 828, 961  
 連結強度 1065 462  
 連結固定 [歯の] 1066  
 41, 579, 774, 789  
 連結子 1067  
 114, 203, 273, 539, 571,  
 577, 681, 788, 790, 817,  
 818, 819, 1046, 1047, 1048  
 付録 255  
 連結装置 1068 1067  
 822, 830, 1027 付録 255  
 連結部  
 12, 537, 827, 830, 901  
 連結様式 52, 181  
 連合印象 1069  
 63, 212, 775  
 連続鉤 1070 208, 290  
 付録 256  
 練和 21, 775

## ろ

ろう (蠟) 型形成  
 付録 258  
 ろう (蠟) 型採得 1071



1079 付録 258	1079	ワックス
ろう (蠟) 義歯 1072	ロサーマンエンセントリックロジン 419	72, 348, 515, 693, 911,
315, 363, 515, 742, 776,	ロストワックス 1015	958, 987, 1005, 1079, 1081
809 付録 257	ロック [支台形態の] 960	ワックスアップ 1079
ろう (蠟) 形成 付録 258	ロマグノリプレソマテック 961	72, 107, 171, 173, 440,
ろう (蠟) 原型採得 付録 258	ロングセントリックオクルージョン 1076	474, 475, 884, 1080 付録 258
老人様顔貌 1073	ロングピン陶歯 871	ワックスアップ用ヘラ 440
104, 1030		ワックス形成器 1079
ローチエーカーコンピネーション 416	<b>わ</b>	ワックスコーンテック 1080
ローチクラスプ 1074	ワイドセントリックオクルージョン 1077	ワックスパターン
513	ワイヤーキャストコンピネーションクラスプ 416	173, 776, 987, 996, 1027, 1032, 1079
ろう (鑲) 付け	ワイヤークラスプ 1078	ワルクホッフ小球 1081
9, 12, 107, 407, 519, 983, 986, 988	609 付録 149	彎曲板 657
ろう (蠟) 堤 1075 348 付録 91	ワイヤー固定法 1066	ワンピースキャスト法
ろう (蠟) 盛り上げ法		1082 407 付録 259

## 外国語索引

#1-#2 combination clasp		Akers clasp	66 1063	anterior guide pin	590
	781	ala-tragus line	215	anterior hyperfunction	
#1 clasp	781	alginate impression	21	syndrome	417
#2 clasp	781	all ceramic crown	97	anterior reference point	629
		all ceramic fixed partial		anterior reference pointer	
		denture	98		31
		altered cast technique	106	anterior mandibular	
abfraction	16	aluminous porcelain	22	positioner [or positioning	
ability of mastication	670	aluminous porcelain jacket		device]	138
abnormality of basal seat		crown	23	anteroposterior curve	612
mucosa	228	alveolar arch	165	anteroposterior curving	
abutment	13, 503	alveolar ridge line	502		610
abutment analogue		American flasking technique		anteroposterior occlusal	
(analog)	14		18	curve	612
abutment build up	509	American-French flasking		anti-Monson curve	1011
abutment positioning jig	761	technique	19	apex [of gothic arch	
abutment screw	15	amount of tissue		tracing]	17
abutment tooth	504	displacement	839	arbitrary hinge position	925
abutment tooth form	507	analyzing rod	440	arcon articulator	20
access hole	6	anatomic artificial teeth	121	arrangement of artificial	
acrylic resin tooth	1056	anatomic crown	120	teeth	552
Adams clasp	8	anatomic impression	118	arrangement of reverse	
add-on technique	1079	anatomic teeth	121	articulation	365
adhesion bridge	603	anatomical articulator	119	articulating paper	339
adjustable anterior guidance		angle between buccal and		articulation	
	598	lingual internal			295, 312, 313
adjustable articulator	711	cusp slope	384	articulation test	296
adjustable posterior		angle of lateral condylar path		articulation test in	
guidance	198		648	pronunciation	396
ADL	498	angle of lateral incisal path		articulator	329 20
agar alginate combined			655	artificial gum	550
impression	212	anodontia appearance	1073	artificial tooth	548
agar impression	213	antagonist	678	artificial tooth root	549
age	70	Ante's Law	28	ASL	498
aged society	394	anterior cross-bar	867	Atlas of Occlusal Analysis	
aging society	393	anterior guidance	29		350
Ah-line	1				

attached mucous membrane	888	939 436	denture	956	
attachment	7	bevel	941	Bonwill triangle	980
attrition	392	beveled chamfer type	941	border molding	262
auscultation	710	beveled shoulder type	942 941	border seal	945
auxiliary attachment	961	bilateral balanced		bounded saddle denture	697
auxiliary retainer	963	articulation (occlusion)	1040	boxing on impression	958
average value articulator	924	bilateral balanced occlusion	903	bracing	804
axial reduction for tooth		bilateral bounded saddle		bridge	901
preparation	472	denture	697	bruxism	894
axial surface	470	bilateral extension base		buccal bar	114
axis orbital plane	469	denture	1021	buccal flange obturator	735
		bilateral occlusal balance	1039	Buccal of the Upper	902
<b>b</b>		Bimeter	361	buccal shelf	257
back action clasp	810 781	biologic width	585	BULL rule	902
balanced articulation		bite fork	878	butt joint	814 543
(occlusion)	927	bite gauge	795		
balanced articulation	903	bite impression	320	<b>C</b>	
balancing contact	933	bite pressure impression	315	CAD/CAM	97, 171, 267, 546, 750
balancing occlusal contact	931, 933	bite raising	332	CAD/CAM abutment	253
balancing occlusal facet	928	bite splint	99	CAD/CAM crown	254
balancing ramp [of		bite-seating impression	363	Camper's plane	215
denture]	823	bite tray	797	<i>Candida albicans</i>	236, 741
balancing side	932	bite wound	371	cantilever (extention)	
Balkwill angle	824	biting pressure	314	bridge	85
band clasp	826 1053	black triangle	895	cantilever (extention)	
bar	788	blade implant	905	fixed partial denture	85
bar attachment	789	bladed artificial tooth	906	cap clasp	252
bar clasp	791	block out	911	carbon marker	440
bar denture	790	bonding [of restoration]	602	carbon sheath	440
bar joint type	789	bone anchored bridge	956	cast bar	706 788
bar unit type	789	bone anchored fixed partial		cast clasp	704
basal seat mucosa	227			cast crown	703
basal surface of denture	232			cast plate	705 269
beading	840			cast support	251
Bennett's movement				castable ceramics	250
				cementation	377

cement retaining system		69, 807	condylar guidance	197, 964
	606		condylar path	195
central bearing plate	621	closure of the interdental space (C. I. S.)	4	condylar path articulator
central bearing point	620	collarless margin	194	119
central bearing screw	620	cognitive behavioral therapy	780	condylar point
centric occlusion	702			190
centric relation	701	cold pack	32	condylar position
cervical margin form	476	combination clasp	416 781	140
chamfer type	521	combination impression		condyle
channel	695		1069	20
channel shoulder pin		combination syndrome	417	cone angle
(C. S. P.)	695	Commission Internationale		387
check bite	692	de l'Eclairage 1976 (L*,		cone crown telescope
check bite method	693	a*, b*) color space		388 387, 408
cheek bite	371	(CIELAB)	76	connecting rigidity
chew-in technique	696	communication disorders		1065
chewing cycle	665		297	connector
Christensen's phenomenon		compensating curve	712	1067
	279	complementary kinematic		Contact Gauge (商品名)
chroma	433	condylar point	64	414
CIE (1976) L* a* b*	76	complementary mandibular		contact point
cingulum rest	1061	movement	640	596
circumferential clasp	208	complementary mandibular		contact surface
circumferential line	431	position	639	596
clasp	277	complete crown	626	continuous clasp
clasp arm	395	complete denture	623	1070
clasp body	375	complete denture		Continuous Positive Airway
clasp shoulder	311	prosthodontics	624	Pressure
clasp tang	307	complete metal crown	622	287
clasp tip	374	composite resin	418	contour [of tooth]
classification system [for		composite resin tooth	369	214
prosthodontic treatment]		compress	32	coping impression
	535	computer-aided design		858
clenching	285		254	coping
clicking	280	computer-aided		422, 767
clinical crown	1050	manufacturing	254	cosmetic disturbance
clinical root	1051	condylar articulator	413	557
closest speaking space		condylar ball	187	coverage crown
				862
				CPAP
				90
				crepitation
				284
				crepitus
				284
				cross bite
				364
				cross bite artificial tooth
				366
				crown
				275
				crown and bridge
				prosthodontics
				276
				crown restoration
				463
				crown-root ratio
				459
				curve of Monson
				1011
				curve of Spee
				574 612
				curve of Wilson
				62

cuspal angle	383	denture fibrosis	237	Distal of the Upper	757
cuspal to fossa	676	denture flange	538	distal rest	1061
cuspal to ridge	676	denture for defected jaw	159	distance between subnasal	846
cuspal interference	382			and gnathion	846
cuspid line	305	denture foundation area	233	distributed type	434
cuspid protected articulation				disuse syndrome	799
(occlusion)	293	denture plaque	741	divided arm clasp	922
cusplless tooth	1000	denture propulsion	558	divided die	921
custom made abutment	171	denture space	740	Dolder U-Bar	763
cut-back	987	denture stabilizer	225	double Akers clasp	638
cutting knife	440	denture stomatitis	236	double investing method	776
		denture ulcer	234		
<b>d</b>		determination of		double mix impression	775
Davis crown	729	masticatory efficiency	669	dowel	965, 967
deep bite	122			dowel pin	682
deep chamfer type	521	diagnostic denture	554	drop-on technique	1079
definitive denture	424	diagnostic waxing up	556	Duchange's index	733
definitive prosthesis	425	diagnostic cast	291	DUML rule	757
degassing	723	diatoric tooth	1013	duplicate cast	886
degree of food pulverization	542	die	473 474, 884, 921	duplicate denture	885
		die investing method	173	duplicate impression	882
delayed disocclusion	256	difficulty in closing mouth	929	dynamic impression	680
delayed loading	694, 673			dysarthria	297
Denar SE articulator (商品名)	618	dipping wax technique	1079	dysesthesia	205
dental abrasion	990	direct retainer	718	dysmasesis	666
dental antagonist	678	disc derangement	88	dysphagia	79, 594
dental implant	308 54	disc reduction	89	dysphagia rehabilitation	595
dental prosthesis	976	disc repositioning	87		
Dentatus	350, 833	disocclusion	256	<b>e</b>	
dentulous jaw	1016	disorders of articulation	297	early loading	633
denture	224 697, 890, 1021	disorders of mandibular		early type	434
denture base	226	movement	128	eating and swallowing	593
denture base outline	532	distal extension missing	1022	eating problem	594
denture-bearing area	233			eccentric occlusal position	947
denture border	531	distal extension partial			
denture cleanser	238	denture	1021	eccentric position [of	
denture fibroma	237	Distal of the Lower	1002	mandible]	946

edentulous jaw	1001		
edge to edge occlusal position	601		
edge to edge occlusion	600		
Eichner classification	5		
Elbrecht clasp	77		
electromyographic examination	271		
elements of mandibular movement	130		
embrasure	397		
embrasure clasp	638		
emergence profile	73		
Epithese (独語)	71		
epulis fissuratum	237		
esthetic dissatisfaction	557		
esthetic line	68		
examination of jaw movement	145		
examination of interdental separation	466		
examination of mandibular movement	145		
examination of velopharyngeal function	842		
extended arm clasp	86		
extension base removable partial denture	1021		
external bar	114 788		
external finish line	876		
external oblique ridge	112		
extracoronal attachment	456		
extraoral prosthesis	157		
extraoral tracing method	301		
		<b>f</b>	
		face-bow	878
		face-bow transfer	879
		facial defect	218
		facial implant	217
		facial impression	216
		facial prosthesis	71
		facial prosthetics	219
		facing crown	613
		far zone	873
		fatigue	733
		fatigue supplement	970 733
		feather-edge type	880
		female	877
		ferrule	881
		festoon	515
		FGP	721
		final impression	586
		finger pressure impression	522
		finish line	876
		Fischer's angle	875
		fitness test	731
		fitness test material	731
		fixed bridge	404
		fixed bridge with rigid and nonrigid connectors	827
		fixed connection	407
		fixed partial denture	901 890
		fixed prosthesis	405
		flabby gum	898
		flange technique	909
		floor of mouth	310
		floor of oral cavity	310
		food impaction	541
		form of root surface	421
		forward propulsion	558
		foundation restoration	509
		four fifth crown	409
		framework	907
		Frankfort horizontal plane	899
		free joint articulator	523
		free-end missing	1022
		free-way space	25
		French flasking technique	900
		frontal plane	619
		fulcrum line	505
		full balanced occlusion (articulation)	903
		full cast crown	625
		full coverage crown	626
		full denture	623
		full veneer crown	626
		fully adjustable articulator	618
		functional artificial tooth	246
		functional cusp	243
		functional dysphagia	244
		functional impression	242
		functional malocclusion	248
		functionally generated path technique (FGP technique)	72
		fundamental mandibular movement	249
			<b>g</b>
		gingival clasp	516
		gingival cone	512
		gingival retraction	511
		glazing	282

Glossary of Prosthodontic Terms	701	hemiplegia	953	implant	54
Gnathodynamometer (商品名)	361	hinge articulator	714	implant analogue (analogue)	55
gnathology	771	hinge attachment	868	Implant and tissue-supported	60
gothic arch tracing method	398	hinge axis	715	Implant-assisted and tissue-supported	60
GPT	701	hinge axis locator	867	implant body	58
graphic record	278	hinge axis point	716	implant prosthesis	56
grinding	274	hinge bow	869	Implant-supported	59
group function	281	hinge movement	713	implant platform	896
guidance ramp	342	HIP plane	859	implant platform switching	897
guide flange	326	hollow obturator	700	impression	45
guiding groove	116	hook	887	impression area	47
guiding plane	117	horizontal mandibular position	562	impression coping	49
<b>h</b>		horizontal overlap	91	impression pressure	46
habitual masticatory side	526	horizontal plane	564	impression surface of denture	232
habitual occlusal position	525	horizontal plane of reference	561	impression taking	48
habitual opening and closing movement	524	horizontal set-off	897	impression tray	50
Hader Plastic rider	792	horseshoe bar	815	incisal guidance	597
hairpin clasp	923	hot pack	32	incisal guide pin	590
half and half clasp	793	housing	800	incisal guide table	591
half crown	794	hue	467	incisal path	597
hamular notch	816	HUG	930	incisal point	592
Hamular-notch incisive papilla plane (HIP plane)	859	hybrid composite resin crown	798	incisal rest	1061
Hanau H2 (商品名)	833	hygienic pontic	211, 1031	inclination of sagittal condylar path	494
Hanau Twin-Stage Occluder (商品名)	721	<b>i</b>		inclination of sagittal incisal path	496
head tilt method [of vertical relation]	756	immediate denture	642	indentation of tongue	588
healing abutment	841	immediate disocclusion	256	indirect retainer	210
heavy chamfer type	521	immediate loading	641	individual die	884
		immediate provisional restoration	643	individual tray	400
		immediate side shift	434	individual tray for abutment impression	399
		immediate type	434	infrabulge area	26, 512
		impaction of food debris	541		

infrabulge clasp	513	intraoral tracing method		
infraocclusion	722		385	
infraorbital point	204	investing	983	
initial occlusal contact	540	irreversible hydrocolloid		
inner cap	767	impression	21	
inner crown	767	I. R. V.	4 453	
interalveolar crest line	501	isometric point	748	
interalveolar ridge line	501		<b>j</b>	
intercondylar axis	186	jacket crown	520	
intercondylar distance	185	Jackson crib clasp	519	
intercuspal position	381	jaw defect	161	
intercuspatation	380	jaw movement	144	
interdental gingival void		jaw position	143	
	895	Jelenko	721	
Interdentalraumverschluss		junction of hard and soft		
(独語)	4	palate	386	
interdental separation	465		<b>k</b>	
interim denture	445 448	Keel	222	
interim prosthesis	448	keeper	221	
interlocking core	917	Kennedy bar	290	
interlocking force	206	Kennedy classification	289	
intermediary defect	698	key and keyway	220	
internal connection	52	kinematic axis	608	
internal derangement of		kinematic condylar point	64	
temporomandibular joint		knife edge type	770	
	155	Kolben (独語)	412	
internal finish line	876	Kolbenähnlich Form (独語)	412	
internal oblique line	768	Konometer (商品名)	408	
interocclusal distance	356	Konuskronen Teleskop (独語)	388 387, 408	
interocclusal record		Konuswinkel (独語)	387	
	51, 333	Koppelungagrad (独語)	1065	
interocclusal relation	676			
interocclusal rest space				
(freeway space)	25			
interproximal (proximal)				
contact	415			
intra-coronal attachment	462			
intraoral prosthesis	157			
			<b>l</b>	
			labial bar	114
			laboratory fabrication	
			attachment	453
			laminate veneer	1026
			lateral check bite	692
			lateral condylar path	647
			lateral condylar path on	
			balancing side	934
			lateral condylar path on	
			working side	436
			lateral incisal path	654
			lateral movement [of	
			mandible]	646
			lateral occlusal curve	62
			lateral occlusal position	650
			lateral position [of	
			mandible]	645
			latero-propulsion	558
			laterotrusion	939
			ledge	872
			ligamentous position [of	
			mandible]	553
			limitation of mouth opening	
				111
			limited mouth opening	111
			line of reference	865
			lingual apron	1046
			lingual bar	1047 788
			Lingual of the Lower	902
			lingual plate	1048
			lingualized occlusion	
				1045 950
			lip support	1030
			long centric articulation	
			(occlusion)	1076
			low lip line	372



lower bow [of articulator]	142	masticatory movement	660	occlusal vertical dimension	336
luting agent	378	masticatory movement path	661	median line	583
luting cement	378	masticatory pressure	659	median plane	584
<b>m</b>		masticatory rhythm	671	mediolateral curving	656
magnetic assembly	491	masticatory side	667	mentolabial sulcus	104
magnetic attachment	499	matrix method	988	Mesial of the Lower	757
major connector	681	maxillary tubercle	533	Mesial of the Upper	1002
male	1004	maxillofacial prosthesis	157	mesial rest	1061
malocclusion	318	maxillofacial prosthetics	156	mesiodistal clasp	1053
mandibular advancement device	138	maxillomandibular registration	338	Mesostructure	699
mandibular border movement [path]	131	maxillomandibular registration by measuring	361	metal allergy	266
mandibular condyle	139	maximal occlusal force	361	metal base	269 226
mandibular advancement splint	90	maxillomandibular registration using	124	metal base denture	270
Mandibular Kinesiograph (商品名)	992	physiologic rest position	124	metal coping	1006
mandibular movement	126	maxillomandibular relationship	146	metal core	509
mandibular movement analyzing device	129	maxillomandibular relationship record	149	metal crown	267
mandibular movement record	127	maxillomandibular residual ridge relationship	674	metal crown with swaged cusp	9
mandibular position	125, 143	maximal mouth opening	429	metal occlusal surface	268
mandibular retruded position	132	maximal occlusal force	430	metal plate denture	270
mandibular translation	175	maximal opening position	428	metal tooth	268
marginal bone level	944	maximum convexity	432	method of color measur ement [of tooth color]	644
master cast	978	Measuring Device (商品名)	1005	mibyou	994
masticating cycle	665	measuring method of		micromovement	641
mastication	658			milling bar	997
masticatory disturbance	666			milling in	510
masticatory efficiency	668			milling technique [of attachment]	996
masticatory force	672			minor connector	539
				MKG (商品名)	992 129
				MMA-based luting agent	74
				MM-JI-E (商品名)	129
				modeling plastic impression compound	1009

modified water swallowing  
   test (MWST) 115  
 modiolus 1008  
 mold guide 1007  
 Monson curve 1011  
 Monson spherical theory  
   1012  
 most anterior (occlusal)  
   position 426  
 most lateral occlusal  
   position 427  
 most protrusive occlusal  
   position 426  
 most retruded contact  
   position 137  
 mounting frame 985  
 mounting jig 984  
 mounting on articulator 331  
 mounting plate 985  
 mounting ring 985  
 mouth floor 310  
 movable fixed bridge 827  
 MTM 975  
 mucobuccal fold 514  
 mucolabial fold 517  
 mucostatic impression 998  
 MUDL rule 1002  
 Munsell color system 991  
 muscle palpating method  
   265  
 muscle trimming 262  
 muscular position [of  
   mandible] 272  
 muscular retention 261  
 mutually protected  
   occlusion 995  
 mylohyoid ridge 164  
 myofascial pain dysfunction

syndrome (MPD  
 syndrome) 75

## n

nasal width 866  
 nasolabial angle 855  
 nasolabial groove 856  
 nasolabial sulcus 856  
 near zone 773  
 neutral zone 778  
 Ney 781, 922  
 Ney clasp 781  
 NEY-ORO G-3 casting gold  
   781  
 Ney Surveyor System 781  
 niche 872  
 night guard 769  
 nonanatomic tooth  
   844, 1000  
 nonfunctional cusp 850  
 nonhygienic pontic 853  
 nonmasticatory side 857  
 non-metal clasp denture  
   787  
 non parallel pin technique  
   786  
 non-pressure impression  
   998  
 nonrigid connection 830  
 nonundercut area 26  
 non-vertical stop occlusion  
   582  
 nonworking side 932  
 normal contour 214  
 normal functioning  
   occlusion 247

## O

obturator prosthesis 614  
 occlusal adjustment 347  
 occlusal analysis 350  
 occlusal balance 351  
 occlusal cone 455  
 occlusal contact 415, 346  
 occlusal curvature 362  
 Occlusal discomfort  
   syndrome 319  
 occlusal disease 349  
 occlusal dysesthesia 319  
 occlusal equilibration 347  
 occlusal examination 334  
 occlusal facet 344  
 occlusal facet of protrusion  
   631  
 occlusal force 359  
 occlusal force test 360  
 occlusal interference 328  
 occlusal plane 352  
 occlusal plane analyzer 355  
 occlusal plane guide 353  
 occlusal plane table 354  
 occlusal position 317  
 occlusal prematurity 636  
 occlusal pressure 314  
 occlusal ramp 100  
 occlusal reconstruction 95  
 occlusal reconstruction of  
   denture 357  
 occlusal relationship 327  
 occlusal reshaping [of  
   artificial teeth] 438  
 occlusal rest 1061  
 occlusal scheme 358  
 occlusal sound 322

occlusal sound test	323	overlay prosthesis	92	Passavant's ridge	802
occlusal splint	99	oxide film	444	passive fit	812
occlusal support	340			peri-implantitis	57
occlusal-supporting area	341	<b>p</b>		peri-implant mucositis	57
		palatal augmentation		periodontal prosthesis	492
occlusal trauma	345	prosthesis	599	permanent splinting	65
Occlusal Unit	688	palatal bar	818 788	personality	70
occlusal vertical dimension	335	palatal lift prosthesis	772 573	pharyngeal bulb type	573
				phonetic method of	
occlusion	313	palatal lift type	573	measuring occlusal	
occlusion rim	348	palatal plate	300, 819	vertical dimension	809
one-piece cast method	1082	palatal prosthetics	302	phonetic test	808
				physiologic rest position	
open lock	929	palatal ramp	100		123
optical impression	304	palatal strap	817	pickup impression	
oral cavity proper	411	palatal torus	303		762, 858
oral dyskinesia	94	palatine torus	303	pin	695
oral rehabilitation	95	palatogram	821	pin porcelain tooth	871
oral vestibule	309	pantograph	834	pin technique	870
orbitale	204, 899	pantographic recordings	835	pinledge	872
orientation groove	116			plane line articulator	714
orientation plate for		PAP	599	plane of occlusion	352
compensating curve	657	parafunctional habits	38	plaster core	589
O-ring attachment	96	parallel cast	937	plaster index	589
Orthotics	637	parallel check	935	plate denture	1018
Orton crown	107	parallelometer	936	plate type pontic	1017
OSAS	90, 287	parallelometer	926, 930	PLP	772, 573
osseointegrated implant	102	parallel pin technique	822	polished surface of denture	
osseointegration	101	paresthesia	205		229
outer cap	109	partial coverage crown	893	polysulfide rubber	
outer crown	109	partial denture	890	impression	979
outline of clasp	298	partial loss of retention [of		pontic	981
ovate pontic	105	fixed partial denture		pontic porcelain tooth	982
overbite	93	(bridge)]	951	porcelain bridge	955
over contour	214	partial veneer crown	893	porcelain build up	749
overdenture	92	partially edentulous arch		porcelain-faced cast crown	
overjet	91		288		753
overlap	843	Passavant's pad	802	porcelain fixed partial	

denture	955	pressure impression	108	r	rebase	1035
porcelain fused to metal crown	750	pressure mark on cheek mucosa	258		reciprocal arm	241
porcelain jacket crown	954	primary splinting	41		reciprocation	240
porcelain tooth	752	Prognosis	1024		record base	239
porion	899	profile	649		record base with occlusion rim	343
Posselt's figure	971	profile record	649		record rim	348
Posselt's three dimensional representation	971	progressive and distributed type	434		registration arm	867
post	965	progressive side shift	434		reinforcing wire	957
post ceramic soldering method	12	progressive type	434		relaxation splint	1043 99
post-core	967	prosthesis	972, 976		relief	1044
post-core crown	966	prosthesis and/or appliance for defected jaw	169		relief area	207
post dam	969	prosthetic appliance for swallowing disorder	84		reline	1042
post damming	379	prosthetic dentistry	454		relining jig	1042
posterior border position of mandible	135	prosthetics	973		remount cast jig	1037
posterior denture border	230	prosthetics for defected jaw	168		remounting jig	1037
posterior guidance	964	prosthodontics	454		remounting on articulator	330
posterior palatal seal	299	protrusive check bite	692		removable bridge	178
posterior reference points	390	protrusive movement [of mandible]	628		removable connection	181
Pound's line	801	protrusive occlusal position	630		removable denture	177, 1018
preceramic soldering method	986	protrusive position [of mandible]	627		removable die	474
precise impression	586	provisional bridge	448		removable partial denture	891 890
preliminary impression	110	provisional crown	912 448		removable partial prosthodontics	892
premature contact	636	provisional denture	445	removable prosthesis	179	
preparation for abutment tooth	506	provisional restoration	913	removal knob	1038	
preparation of lingual wall	605	proximal groove	1052	repetitive saliva swallowing test (RSST)	836	
preparation of root	420	proximal half crown	910	repositioning splint	1036 99	
prepared root canal for dowel	968	proximal plate	1054	residual mucous membrane	167	
preprosthetic treatment		pupillary line	747	residual ridge	165	
				residual ridge arch	165	

residual ridge crest	500	reversible hydrocolloid		semiadjustable articulator	
residual ridge resorption	166	impression	213		833
resin base	226	ridge lap pontic	1029	semifixed bridge	827
resin base denture	1059	rigid attachment	847	semifixed connection	830
resin-bonded prosthesis	603	rigid connection	407	semifixed prosthesis	828
resin cap	1055	rigid retainer	849	semihygienic pontic	831, 948
resin denture base	1058	rigid support	1028	senile appearance	1073
resin facing metal crown	1060	ring clasp	1049 781	sensory disturbance	205
resin jacket crown	1057	Roach clasp	1074	sex	70
resin veneer crown	1060	roofless denture	999	shade guide	451
resistance	733	root extension pontic	1014	shade selection	468
rest	1061	RPA clasp	3	shearing cusp	850
rest seat	1062	RPI clasp	2	shortened dental arch	688
restoration driven implant		runner bar	1027	shoulder	695
treatment	759			shoulder type	543
retainer	508	<b>S</b>		side shift	434
retention	34	“s” position	69	sieving test [of masticatory efficiency]	518
retention beads	1032	S-curve	67	silicone rubber impression	544
retention form	960	saddle type pontic	24	single-arm clasp	689
retentive arm	40	sagittal condylar path	493	single denture	547
retentive force	39	sagittal incisal path	495	single die	691
retentive latticework	35	sagittal plane	497	single impression	686
retromolar pad	1064	saliva test	683	sleep apnea syndrome	565
retromolar triangle	255	SAS	565	sleeve	581
retruded contact position	134	science of occlusion	325	smile line	536
		scissors bite	803	smiling line	854
retrusion facet	391	screw retaining system	567	soft relining material	1042
retrusive movement [of mandible]	376	SDA	688	solid working cast	475
reverse articulation	364, 832	secondary splinting	774	space of Donders	765
		sectional denture	916	SPA factor	70
reverse back action clasp	1033 781	sectional impression	914	speaking space	807
		sectional impression tray	920	speech	295
reverse pin porcelain facing tooth	1034	selective grinding	615	speech aid	573
		selective pressure	616	speech bulb	825
		impression	616	speech disorders	297
		self-help device	498		

spheroid pontic	889	superstructure [of implant	temporomandibular joint
spillway	766	prosthesis]	noise
splint	579.99	support	temporomandibular joint
splinting	578	supporting ability	radiography
splinting [of teeth]	1066	supporting cusp	Tench's core
split bar	577	supporting tissue	Tench's space
split cast	576	suprabulge area	tentative occlusal plane
spoon denture	575	suprabulge clasp	terminal hinge axis
spur	572	survey line	terminal hinge axis point
stabilization splint	569.99	surveying	
stabilized condylar position	183	surveyor	530
stent	570	swaged plate	terminal hinge movement
stethoscopy	710	swallowing disorder	
stomatognathic system	162	swallowing method [of	528
strap	571	vertical relation]	terminal hinge position
stress-bearing ability	11	swallowing position	527
stress-bearing region	316	Swedish banana	test for chewing ability
stress breaker	203	symptom provoking test	662
stress-breaking attachment	200		three quarter crown
			1025
stress-breaking retainer	202		tilting test
			742
stress-supporting region	316		tinner's joint
			728
Stuart articulator (商品名)	618		tissue borne
			784
stud attachment	419		tissue borne denture
study cast	291		785
stylus	863		tissue conditioner
sublingual bar	1047		726
subnasal point	845		tissue displaceability
subnasion	845		837
subperiosteal implant	403		tissue displacement
substructure	439		838
substructure [of implant			tissue stop
prosthesis]	192		727
super-aged society	709		TMJ articulator (商品名)
			618
			tongue bite
			371
			tongue retaining device
			138
			tooth and tissue-support
			482
			tooth and tissue-supported
			denture
			483
			tooth axis
			487
			tooth borne denture
			697
			tooth-bounded and
			free-end missing
			883
			tooth-colored material
			461
			tooth crown axis
			458
			tooth mobility test
			758

t

taper	730
tapping	684
tapping movement	685
telescopic crown	734
template	743
template for defected jaw	223
temporary abutment	744
temporary cementation	174
temporary denture	445
temporary splinting	446
temporomandibular	
arthralgia	154
temporomandibular	
disorders	153, 160
temporomandibular joint	
disease	152

tooth preparation in two planes	777	unilateral bounded saddle denture	697	wax adaptation technique	1079
tooth-support	484	unilateral chewing	952	wax cone technique	1080
tooth-supported denture	485	unilateral extension base denture	1021	wax denture	1072
top down treatment	759	unilateral occlusal balance	949	wax pattern	1079
torus mandibularis	141	unloaded period	673	wax rim	348
torus palatinus	303	upper bow [of articulator]	534	wax trimmer	440
traceability	764	utterance	813	waxing up	1079
tracing plate	864			Whip-Mix (商品名)	833
transfer cap	761	<b>V</b>		wide centric articulation (occlusion)	1077
transfer coping	761	valcanized rubber denture base	410	wire clasp	609
transfer index	761	VE	82	working cast	437
transfer jig	761	value	1003	working cast with artificial gum	551
transitional denture	33	veneer crown	862	working cast with divided die	921
traumatic occlusion	113	vertical dimension	148	working cast with individual die	884
treatment denture	719	vertical dimension increase	332	working cast with removable die	474
tube tooth	707	vertical mandibular position	559	working side	435
Twin Hoby articulator (商品名)	721	vertical overlap	93	wrought bar	273 788
twin-stage articulator	721	Verticulator (商品名)	721	wrought wire clasp	609
two-arm clasp	779	videoendoscopic evaluation of swallowing	82	WST	993
two-arm clasp with occlusal rest	1063	videoendoscopic examination of swallowing	82	<b>Z</b>	
		videofluorography (VF)	80	zerodegree tooth	1000
<b>U</b>				zinc oxide eugenol impression	443
UCLA abutment	1015	<b>W</b>		zirconia	545
unattached mucosa membrane	191	Walkhoff palatal ball	1081	zirconia block	546
under contour	214	wash impression technique	63	zirconium oxide	545
undercut	26	water swallowing test		ZrO <sub>2</sub>	545
undercut area	26				
undercut gauge	27 440				
unilateral balanced articulation (occlusion)	950				

## 人名索引

### 【日本人名】

石原寿郎	518
大石忠雄	183
尾花甚一	582
草刈 玄	465
河野正司	608
坪根政治	795
藤田恒太郎	487
保母須弥也	721
矢崎正方	363

### 【外国人名】

Adams	8
Akers	66
Amsterdam	492
Ante	28
Ash	701
Bennett	939
Blatterfein	773, 873
Bonwill	185, 980
Boos	361
Boucher	701
Brill	272
Camper	215
Carmichael	1025
Christensen	279, 693
Clark	319
Cooperman	859
Davis	729
Denar	834

Dolder	763	Lundeen	925
Donders	765	Manly	518
Duchange	733	McCollum	771
Eichner	5	Monson	355, 1011, 1012
Elbrecht	77	Munsell	991
Fisher	70	Müller	365
Frush	70	Orton	107
Gaerny	4	Payne	1080
Gariot	714	Posselt	135, 971
Gottlieb	1050	Pound	950, 1045
Green	265	Romfjord	701
Grippo	16	Roach	923, 1053, 1074
Guichet	349, 434, 1077	Sadrin	505
Gysi	265, 344, 365, 391, 398, 631, 925, 928	Schuyler	902, 1076, 1077
Hanau	721, 833, 925	Sears	823, 1000
Hardy	1000	Simmons	319
Heartwell	547	Snow	878
Jackson	519	Solberg	429
Jankelson	992	Sosin	906
Käyser	688	Spee	574, 612
Kelly	417	Stallard	771
Kennedy	289, 290	Steiger	695
Körber	387, 388, 1065	Stuart	834, 869
Kratochvil	2	Tench	737
Krogh-Poulsen	265	Thomas	1080
Krol	2	Tinker	1025
Lauritzen	350, 867, 1002	Vest	1025
Levin	906, 909	Walkhoff	1081
Lott	909	Watt	323
Luce	696	Willis	795
		Wilson	62





歯科補綴学専門用語集 第4版

ISBN978-4-263-45785-6

2001年2月20日 第1版第1刷発行  
2003年8月20日 第1版第3刷発行  
2004年10月25日 第2版第1刷発行  
2007年6月20日 第2版第2刷発行  
2009年3月10日 第3版第1刷発行  
2013年6月20日 第3版第6刷発行  
2015年2月10日 第4版第1刷発行  
2018年1月20日 第4版第2刷発行

公益社団法人  
編者 日本補綴歯科学会

発行者 白石泰夫

発行所 医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

TEL. (03) 5395-7638(編集)・7630(販売)

FAX. (03) 5395-7639(編集)・7633(販売)

<https://www.ishiyaku.co.jp/>

郵便振替番号 00190-5-13816

乱丁、落丁の際はお取り替えいたします

印刷・三報社印刷/製本・榎本製本

© Ishiyaku Publishers, Inc., 2001, 2015. Printed in Japan

本書の複製権・翻訳権・翻案権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)・口述権は、医歯薬出版(株)が保有します。

本書を無断で複製する行為(コピー、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」などの著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。また私的使用に該当する場合であっても、請負業者等の第三者に依頼し上記の行為を行うことは違法となります。

**JCOPY** <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書をコピーやスキャン等により複製される場合は、そのつど事前に(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。